

一般国道 313 号（倉吉関金道路）の道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 I

鳥取県倉吉市

山ノ下遺跡
平ノ前遺跡

2018

公益財団法人 鳥取県教育文化財団

山ノ下・平ノ前遺跡



1 山ノ下・平ノ前遺跡周辺の地形(南西から)



2 山ノ下遺跡周辺の地形(南東から)



山ノ下遺跡出土貿易陶磁(平安時代後期から鎌倉時代前期)

山ノ下・平ノ前遺跡



1 山ノ下遺跡出土土器(平安時代後期から鎌倉時代前期)



2 平ノ前遺跡周辺の地形(南東から)

平ノ前遺跡



1 平ノ前遺跡周辺の地形(俯瞰)



2 平ノ前遺跡 P 4 区発掘状況(俯瞰)

序

地域高規格道路「北条湯原道路」は、一般国道313号のバイパス道路として鳥取県東伯郡北栄町と岡山県真庭市を結び、山陰自動車道及び米子自動車道と一体となって、広域交通ネットワークを構成する延長約50キロメートルの自動車専用道路として計画され、このうち、倉吉市内を事業区間とする「倉吉関金道路」は、倉吉市小鴨から同市関金町大鳥居を結ぶ延長約7.0キロメートルの区間です。

公益財団法人鳥取県教育文化財団は、この道路改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査、出土遺物等の整理作業及び報告書作成を鳥取県から委託を受け、平成28年度から実施いたしました。

平成28年度は、山ノ下遺跡において縄文時代から室町時代の遺構や遺物が見つかり、特に平安時代の終わり頃から鎌倉時代にかけては、大型の建物を含む集落が形成されていましたことを確認することができました。また、平成29年度には、平ノ前遺跡において古墳時代から鎌倉時代の遺構や遺物を確認することができました。これらは、この地域の歴史を解明する上で欠くことのできない成果となりました。本書は、その発掘調査成果をまとめたもので、郷土の歴史を解き明かしていく一助として活用され、埋蔵文化財が郷土の誇りとなることを期待します。

本書をまとめるに当たり、鳥取県中部総合事務所県土整備局並びに地元関係者の皆様をはじめ、多くの方々に多大なる御協力・御助言をいただきました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成30年3月

公益財団法人 鳥取県教育文化財団

理事長 野村 勇二

例　　言

- 1 本書は、一般国道313号(倉吉閻金道路)道路改良工事に伴い、平成28年度に発掘調査を実施した山ノ下遺跡、平成29年度に発掘調査を実施した平ノ前遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 山ノ下遺跡は、倉吉市小鴨字戸塚、小鴨字山ノ下、上古川字北田に跨がって所在する。調査地の調査面積は7000m²で、現地調査は平成28年6月1日から同年11月30日まで行った。調査記録と出土遺物の整理作業、報告書の作成は、平成30年3月まで行った。
- 3 平ノ前遺跡は、倉吉市上古川字平ノ前に所在する。調査地の調査面積は306.38m²で、現地調査は平成29年5月23日から同年7月13日まで行った。調査記録と出土遺物の整理作業、報告書の作成は、平成30年3月まで行った。
- 4 山ノ下遺跡の出土品などの注記には「山ノ下16」の略号を用いた。「16」は2016年度に調査を実施したことを示す。
- 5 平ノ前遺跡の出土品などの注記には「平ノ前17」の略号を用いた。「17」は2017年度に調査を実施したことを示す。
- 6 山ノ下遺跡の発掘調査に際し、島田組・アイコンヤマト共同企業体の支援を受けた。遺跡での掘削作業と記録作成は、公益財団法人鳥取県教育文化財団(以下、財団)の指示のもとで発掘調査支援業者が実施した。
- 7 平ノ前遺跡の調査・記録作業は財団職員が行った。
- 8 山ノ下遺跡・平ノ前遺跡の出土遺物の整理作業や記録作業は、財団職員が行った。
- 9 本書の作成は財団職員が協議して行い、牧本、西川、森本、門脇が執筆した。文責は目次に記載した。編集は森本が行った。
- 10 山ノ下遺跡の出土遺物を整理・評価するにあたり、早稲田大学理工学術院 客員主任研究員 山本信夫氏に貿易陶器の同定をお願いし、玉稿を賜った。記して深謝いたします。なお、第6章第2節の執筆は山本氏によるものである。また、第176~181図、第57~61表、図版97~106は山本氏より提供を受けたものである。
- 11 自然科学分析として、層相解析、花粉分析、植物珪酸体分析、放射性炭素年代測定、樹種同定をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。なお、第5章の執筆は委託先によるものである。
- 12 本調査に係る図面・写真等の記録及び出土遺物は、全て台帳等に登録して収納しており、今後活用できるように隨時検索できる状態で鳥取県埋蔵文化財センターに移管する。
- 13 現地調査、報告書の作成にあたって、以下の方々、機関から、様々な御指導、御助言、ご支援を賜った。記して感謝申し上げます。(敬称略、順不同)
大鴨土地改良区、倉吉市小鴨公民館、倉吉市上小鴨公民館、倉吉市教育委員会、倉吉博物館、天神野土地改良区、八峰 興(鳥取県埋蔵文化財センター)

凡　例

- 1 本書に記載された測量成果については、世界測地系に基づいています。図中のX・Y座標は国土座標第V系によるものであり、m単位で表記している。また、平面図の方位は座標北を示しています。標高は、海拔標高で示した。
- 2 本報告書で使用した地図は、国土地理院発行地形図(1/50,000)、倉吉市作成都市計画図(1/2,500)を縮小、加筆して使用したものである。
- 3 本遺跡の土層に示した土色は、小山正忠、竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に基づき、土の色相、明度及び彩度を判定したものである。また、地層の粒度の記載に関しては、地質学で標準的に用いられるWentworthの区分を使用した。
- 5 遺構平面図・断面図の縮尺は統一しておらず、挿図ごとにスケールバーと縮尺を掲載している。
- 6 遺構図に用いたスクリーントーンはそれぞれ以下のものを表す。

 柱痕跡  柱抜き取り痕跡  土器  石器・石  柱根
 炭化物  焼土塊  粘土塊

- 7 遺物実測図の縮尺については、土器・土製品を1/2、1/4、石器を1/3、2/3で示した。
- 8 遺物実測図の断面は、須恵器を黒塗り、それ以外のものは白抜きで示した。また、◎は平安時代から中世の土器底面に残る回転糸切りによる切り離し痕跡、●は手づくね成形された土器を示す。
- 9 遺物観察表の法量記載における※は推定復元値、△は残存値を示す。
- 10 遺構の評価については以下の文献を参考にしている。

中山敏史ほか 2003『古代の官衙遺跡 I 遺構編』独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所
中山敏史ほか 2004『古代の官衙遺跡 II 遺物・遺跡編』独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所

- 11 本書における遺構・遺物の時期決定は以下の文献を参考にしている。

愛知県史編纂委員会 2007『愛知県史 別冊 窯業2』

上田秀夫 1982「14~16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究No.2』日本貿易陶磁研究会
岡田裕之・八嶋興 2014「鳥取における古代から中世前期の土器編年 -須恵器と回転台土器を基に-」『鳥取県埋蔵文化財センター調査研究紀要5』鳥取県埋蔵文化財センター

小野正敏 1982「15~16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究No.2』日本貿易陶磁研究会

片岡宏二 1999「弥生時代 渡来人と土器・青銅器」雄山閣

清水真一 1992「因幡・伯耆地域」『弥生土器の様式と編年-山陽・山陰編-』木耳社

田辺昭三 1981「須恵器大成」角川書店

濱田竜彦 2005「山陰地方における縄文時代晩期土器について-鳥取県、島根県東部を中心に-」
『第16回 中四国縄文研究会 縄文時代晩期の山陰地方』第16回中四国縄文研究会鳥取実行委員会

藤沢良祐 2001「瀬戸・美濃大釜製品の生産と流通-研究の現状と課題-」『戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大釜製品-東アジア的視野から-資料集』(財)瀬戸市文化財センター

牧本哲雄 1999「古墳時代の土器について」『長瀬高浜遺跡Ⅷ・園第6遺跡』財團法人鳥取県教育文化財団

森田 勉 1982「14~16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究No.2』日本貿易陶磁研究会

山本信夫ほか 2000「太宰府条坊跡XV 陶磁器分類編」『太宰府の文化財第29集』太宰府市教育委員会

目 次

巻頭図版

序、例言、凡例

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯	(西川・森本)	1
第2節 調査の経過		2
第1項 平成28年度	(西川・森本)	2
第2項 平成29年度	(森本)	3
第3節 調査体制	(西川・森本)	4
第4節 調査の方法	(西川・森本)	6
第1項 調査地の地区割		6
第2項 発掘調査と記録の対象		10
第3項 出土遺物の整理		12

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の立地と地理的環境	(西川・牧本)	13
第2節 歴史的環境	(西川・牧本)	14

第3章 山ノ下遺跡の調査成果

第1節 概要	(森本)	19
第2節 基本層序	(西川・森本)	19
第3節 検出した遺構と遺物		27
第1項 第1面の調査	(西川・森本・門脇)	27
第2項 第2面の調査	(西川・森本・門脇)	35
第3項 第3面の調査	(西川・森本・門脇)	52
第4項 第4面の調査	(西川・森本・門脇)	58
第5項 第5面の調査	(西川・森本・門脇)	156
第6項 第6面の調査	(西川・森本・門脇)	168
第7項 遺構外出土遺物	(門脇)	177
第4節 遺物観察表	(門脇)	183

第4章 平ノ前遺跡の調査成果

第1節 概要	(門脇)	193
第2節 A1区の調査	(門脇)	193
第1項 概要と基本層序		193
第2項 検出した遺構と遺物		196

第3節 P4区の調査	(門脇)	198
第1項 概要と基本層序		198
第2項 検出した遺構と遺物		199
第4節 遺物観察表	(門脇)	206

第5章 自然科学分析

第1節 山ノ下遺跡自然科学分析	(パリノ・サーヴェイ(株))	207
第1項 柱材の年代と樹種		207
第2項 古環境に関する調査		211
第2節 平ノ前遺跡自然科学分析	(パリノ・サーヴェイ(株))	220

第6章 山ノ下遺跡・平ノ前遺跡の総括

第1節 遺構の変遷	(森本)	229
第1項 山ノ下遺跡の遺構		229
第2項 平ノ前遺跡の遺構		231
第3項 まとめ－山ノ下遺跡・平ノ前遺跡の掘立柱建物－		232
第2節 山ノ下遺跡出土貿易陶磁の分析	(山本信夫)	233
第1項 陶磁分類の前提		233
第2項 山ノ下遺跡出土貿易陶磁の分類		234
第3項 山ノ下遺跡出土貿易陶磁の類例		244
第4項 分析結果		244
第5項 越州窯系青磁Ⅲ類と広東産白磁・龍泉窯青磁		252
第6項 総括		262
第3節 京都系土師器からみた山ノ下遺跡	(門脇)	267
第1項 倉吉地域における京都系土師器について		267
第2項 山ノ下遺跡出土資料の類型化と京都産土師器との比較		267
第3項 山ノ下遺跡資料の出土状況と年代		267
第4項 倉吉地域における京都産土師器導入の様相		268
第5項 まとめ－山ノ下遺跡と小鴨氏について－		269

図版

報告書抄録、奥付

挿図目次

第1図 一般国道313号線予定地と調査地の位置	1	第37図 657・678・682ピット	46
第2図 島取県と国土座標系	6	第38図 670・676・677ピット	47
第3図 山ノ下・平ノ前遺跡の地区割図	7	第39図 5溝出土石器	48
第4図 山ノ下遺跡の地区割図	8	第40図 5溝、7田出土土器	48
第5図 平ノ前遺跡A1区の地区割図	9	第41図 5溝、6畦畔、7田	49
第6図 平ノ前遺跡P4区の地区割図	9	第42図 9溝遺構図・出土土器	51
第7図 島取県と遺跡の所在地	13	第43図 第3面全体図	53
第8図 遺跡周辺の地質環境	14	第44図 10田、11畦畔、12・13溝	54
第9図 周辺の遺跡	15	第45図 10田、13溝出土土器	55
第10図 調査区周辺の地形図	19	第46図 747溝群、794溝	56
第11図 東西トレント土層断面図(1/2)	20	第47図 747溝群、794溝土層断面図・出土土器	57
第12図 東西トレント土層断面図(2/2)	21	第48図 第4面全体図	59
第13図 南北トレント1土層断面図(1/2)	23	第49図 第4面全体図(北東部)	60
第14図 南北トレント1土層断面図(2/2)	24	第50図 第4面全体図(南西部)	61
第15図 南北トレント2土層断面図	25	第51図 掘立柱建物1	62
第16図 T45-6j-9E-7h・T45-6j-10F-2f サブトレント土層断面図	26	第52図 掘立柱建物2	64
第17図 第1面全体図	28	第53図 掘立柱建物3	66
第18図 645溝遺構図・出土土器	29	第54図 掘立柱建物3	
第19図 668溝	30	54・59・61・78・115・165ピット	67
第20図 699溝	31	第55図 掘立柱建物4	69
第21図 1田	32	第56図 掘立柱建物4	
第22図 2田	33	44・45・47~49・70・103ピット	70
第23図 1~3田出土土器	33	第57図 掘立柱建物4 50~53・64・113ピット	71
第24図 3田	34	第58図 掘立柱建物4	
第25図 第2面全体図	36	90・97・170・618ピット	72
第26図 掘立柱建物12 666溝	37	第59図 掘立柱建物5	74
第27図 掘立柱建物12 663~665・671・679ピット	38	第60図 掘立柱建物5	
第28図 掘立柱建物12 655・656・661・746ピット	39	89・114・119・123・124・167ピット	75
第29図 掘立柱建物12出土土器	40	第61図 掘立柱建物5 112・125・126・128・171・ 173・174・490ピット	76
第30図 667溝出土土器	40	第62図 掘立柱建物6	78
第31図 666・667溝(1)	42	第63図 掘立柱建物6 39溝	79
第32図 666・667溝(2)	43	第64図 掘立柱建物6 43・305ピット	79
第33図 674土坑遺構図・出土土器	43	第65図 掘立柱建物6 出土土器	79
第34図 第2面ピット出土土器	44	第66図 掘立柱建物6 277・278ピット	80
第35図 653・669・752・753ピット	44	第67図 掘立柱建物6	
第36図 654・686・999ピット	45	286・290・291・300・303・304ピット	81
		第68図 掘立柱建物7	83
		第69図 掘立柱建物8	85

第70図	掘立柱建物8 遺物出土状況	86	ピット	119
第71図	掘立柱建物9	87	第101図 掘立柱建物16	120
第72図	掘立柱建物9 132ピット遺構図・出土土器	88	第102図 掘立柱建物16 758~760・957 ・958・960~962ピット	121
第73図	掘立柱建物9 135・538・541・545ピット	89	第103図 掘立柱建物16 761・762・884・951~956ピット	122
第74図	掘立柱建物10	90	第104図 掘立柱建物17	124
第75図	掘立柱建物11	92	第105図 掘立柱建物17 783・812・923ピット	125
第76図	掘立柱建物11 471ピット遺構図・出土土器	94	第106図 掘立柱建物17 819・820・845・851・911ピット	126
第77図	掘立柱建物13(1)	96	第107図 掘立柱建物17 823・863・948ピット	127
第78図	掘立柱建物13(2)	97	第108図 掘立柱建物17出土土器	128
第79図	掘立柱建物13 700・703・726・728 ピット遺構図・出土石器	98	第109図 掘立柱建物18	129
第80図	掘立柱建物13 701・702・727ピット	99	第110図 掘立柱建物18 2043・2044・ 2049~2052ピット	130
第81図	掘立柱建物13 704・711・716・729・ 736・740ピット	100	第111図 掘立柱建物18 2045~2048・ 2053~2056ピット	131
第82図	掘立柱建物13 705・720・723・730・ 742・744ピット	101	第112図 914土器溜まり	132
第83図	掘立柱建物13 706・724・902ピット	102	第113図 947土器溜まり	133
第84図	掘立柱建物13 707・732ピット	103	第114図 914・947土器溜まり出土土器	134
第85図	掘立柱建物13 708・733ピット	104	第115図 14・22~25土坑	135
第86図	掘立柱建物13 709・710・734・735ピット	105	第116図 62・129・134・220土坑	137
		106	第117図 349・350・620・633土坑	139
第87図	掘立柱建物13 712・737ピット	107	第118図 697土坑	140
第88図	掘立柱建物13 713・738ピット	108	第119図 950・2002・2028・2096土坑	142
第89図	掘立柱建物13 714・715・739ピット	109	第120図 120・915・2014溝	143
第90図	掘立柱建物13 717・718・861ピット	110	第121図 14・23・697・950・2096土坑、 120溝出土土器	144
第91図	掘立柱建物13 722・743・795ピット	111	第122図 2019溝	145
第92図	掘立柱建物13 719・721・741ピット	112	第123図 26ピット	146
第93図	掘立柱建物13 725ピット	113	第124図 55・69・82・314ピット	147
第94図	掘立柱建物13出土土器	114	第125図 75・100・110・790・810・897ピット	148
第95図	掘立柱建物14	115	第126図 236・237・692・789ピット遺構図・ 出土土製品	149
第96図	掘立柱建物14 205~208・2001・2030ピット	116	第127図 817・828・882・883・887・1037ピット	150
第97図	掘立柱建物14 2003・2004・2015 ピット遺構図・出土土器	117	第128図 913・922・977・978ピット	151
第98図	掘立柱建物15	118	第129図 60・118・848・996・997ピット	152
第99図	掘立柱建物15 809・938・939 ピット遺構図・出土土器	119	第130図 第4面ピット出土土器	153
第100図	掘立柱建物15 936・937・940~943	120	第131図 第5面全体図	157
		121	第132図 288土坑遺構図・出土土器	158
		122	第133図 289・1020土坑	159

第134図	1003土坑遺構図・出土土器	161	第161図	A 1 区出土遺物	197
第135図	1004土坑出土遺物	161	第162図	P 4 区平面図	198
第136図	1004土坑	162	第163図	P 4 区北東壁土層断面図	199
第137図	2087土坑遺構図・出土土器	162	第164図	P 4 区21溝	201
第138図	8・1015・1016・1028・2057土坑	163	第165図	P 4 区21溝変遷模式図	202
第139図	250溝遺構図・出土遺物	165	第166図	掘立柱建物 1	203
第140図	1010ピット遺構図・出土土器	166	第167図	掘立柱建物 2	204
第141図	第 6 面全体図	169	第168図	P 4 区出土遺物	205
第142図	4・600土坑	170	第169図	曆年較正結果の比較	209
第143図	210・631・1027・1043土坑	171	第170図	調査地点の層序・資料採取位置	212
第144図	1042・1044・1045土坑	173	第171図	各地点の花粉化石群集の層位分布	216
第145図	1050・1076・1077・2016・2079土坑	174	第172図	植物珪酸体含量密度の層位分布	219
第146図	355溝	176	第173図	A 1 区 中央ベルト土層断面および 資料採取位置	221
第147図	Ⅲ層出土遺物(1)	177	第174図	主要珪藻化石群集	224
第148図	Ⅲ層出土遺物(2)	178	第175図	掘立柱建物配置図	230
第149図	Ⅲ層出土遺物(3)	178	第176図	Po102越州窯系青磁・残存胴部径と 施文位置図	235
第150図	Ⅲ-1 層出土遺物	178	第177図	出土陶磁問連図(1)	239
第151図	Ⅲ-2 層出土土器	178	第178図	出土陶磁問連図(2)	240
第152図	IV層出土土器	179	第179図	出土陶磁問連図(3)	241
第153図	調査区内出土土器	179	第180図	出土陶磁問連図(4)	242
第154図	調査区内出土陶磁器	181	第181図	出土陶磁問連図(5)	243
第155図	調査区内出土土製品	182	第182図	倉吉地域出土京都系土師器と左京内膳町遺 跡出土京都産土師器	268
第156図	調査区内出土石器	182	第183図	小鴨氏関連年表(10世紀から14世紀)	269
第157図	A 1 区中央トレーンチ土層断面図	194			
第158図	A 1・P 4 区周辺地形図と試掘トレーンチ	195			
第159図	A 1 区平面図	196			
第160図	A 1 区 2 偶蹄目足跡検出状況	196			

挿表目次

第1表 第1面遺構計測表	30	第32表 土器観察表(3)	185
第2表 挖立柱建物12遺構計測表	40	第33表 土器観察表(4)	186
第3表 第2面遺構計測表	50	第34表 土器観察表(5)	187
第4表 第3面遺構計測表	57	第35表 土器観察表(6)	188
第5表 挖立柱建物計測表	58	第36表 土器観察表(7)	189
第6表 挖立柱建物1遺構計測表	63	第37表 土器観察表(8)	190
第7表 挖立柱建物2遺構計測表	64	第38表 土器観察表(9)	191
第8表 挖立柱建物3遺構計測表	68	第39表 土器製品観察表	191
第9表 挖立柱建物4遺構計測表	73	第40表 石器観察表	192
第10表 挖立柱建物5遺構計測表	73	第41表 鉄器観察表	192
第11表 挖立柱建物6遺構計測表	82	第42表 挖立柱建物計測表	205
第12表 挖立柱建物7遺構計測表	84	第43表 挖立柱建物1遺構計測表	205
第13表 挖立柱建物8遺構計測表	84	第44表 挖立柱建物2遺構計測表	206
第14表 挖立柱建物9遺構計測表	88	第45表 P4区遺構計測表	206
第15表 挖立柱建物10遺構計測表	91	第46表 土器観察表	206
第16表 挖立柱建物11遺構計測表	93	第47表 石器観察表	206
第17表 挖立柱建物13遺構計測表(1)	94	第48表 鉄器観察表	206
第18表 挖立柱建物13遺構計測表(2)	95	第49表 放射性炭素年代測定及び暦年較正結果	209
第19表 挖立柱建物14遺構計測表	114	第50表 樹種同定結果	210
第20表 挖立柱建物15遺構計測表	116	第51表 花粉分析結果	215
第21表 挖立柱建物16遺構計測表	123	第52表 植物珪酸体分析結果	218
第22表 挖立柱建物17遺構計測表	124	第53表 珪藻分析結果	223
第23表 挖立柱建物18遺構計測表	132	第54表 花粉分析結果	225
第24表 第4面遺構計測表(1)	153	第55表 植物珪酸体含量	225
第25表 第4面遺構計測表(2)	154	第56表 挖立柱建物帰属時期	231
第26表 第4面遺構計測表(3)	155	第57表 山ノ下遺跡出土貿易陶磁と年代	247
第27表 第4面遺構計測表(4)	156	第58表 山ノ下遺跡出土貿易陶磁の分類別器種数	247
第28表 第5面遺構計測表	167	第59表 山ノ下遺跡出土貿易陶磁一覧表	248
第29表 第6面遺構計測表	176	第60表 山ノ下遺跡出土貿易陶磁量の比較	249
第30表 土器観察表(1)	183	第61表 貿易陶磁器編年	266
第31表 土器観察表(2)	184		

巻頭図版目次

- 卷頭図版1 1 山ノ下・平ノ前遺跡周辺の地形(南西から)
 2 山ノ下遺跡周辺の地形(南東から)
- 卷頭図版2 1 山ノ下遺跡出土貿易陶磁(平安時代後期から鎌倉時代前期)

- 卷頭図版3 1 山ノ下遺跡出土土器(平安時代後期から鎌倉時代前期)
 2 平ノ前遺跡周辺の地形(南東から)
- 卷頭図版4 1 平ノ前遺跡周辺の地形(俯瞰)
 2 平ノ前遺跡P4区全掘状況(俯瞰)

文中写真目次

写真1 山ノ下遺跡 表土剥ぎ風景	3	写真6 707ピット根石出土状況(東から)	103
写真2 山ノ下遺跡 現地説明会風景	3	写真7 733ピット根石出土状況(西から)	104
写真3 平ノ前遺跡P4区 表土剥ぎ風景	5	写真8 795ピット礎盤石出土状況(東から)	110
写真4 平ノ前遺跡P4区 調査風景	5	写真9 823ピット根巻き石出土状況(東から)	128
写真5 703ピットS2出土状況(北西から)	98	写真10 783ピット粘土塊出土状況(南東から)	128

卷末図版目次

〈山ノ下遺跡〉

図版1 1 調査地遠景(南西から)	2	調査地遠景(南東から)
2 調査地遠景(北東から)	3	調査地遠景(北西から)
図版2 1 調査地遠景(北東から)	4	北東部東西トレンチ(北東端) 土層断面(東から)
2 調査地遠景(北西から)	5	北東部東西トレンチ (南北ベルト交点付近)土層断面(東から)
図版3 1 北東部東西トレンチ(北東端) 土層断面(東から)	6	3 南西部東西トレンチ土層断面(南から)
2 北東部東西トレンチ (南北ベルト交点付近)土層断面(東から)	7	3 北東部南北トレンチ1(北西端付近) 土層断面(北西から)
図版4 1 南西部東西トレンチ(9E-10d杭付近) 土層断面(北東から)	8	4 北東部南北トレンチ1(南東端付近) 土層断面(西から)
2 南西部東西トレンチ(南東端付近) 土層断面(北東から)	9	5 南西部南北トレンチ2(東端付近) 土層断面(南東から)
3 北東部南北トレンチ1(北西端付近) 土層断面(北西から)	10	6 T45-6j-10F-2fサブトレンチ(VII層) 土層断面(北から)
図版5 1 北東部南北トレンチ1(南東端付近) 土層断面(西から)	11	7 645溝 完掘状況(北東から)
2 南西部南北トレンチ2(東端付近) 土層断面(南東から)	12	8 645溝 土層断面(A-A'断面)(北東から)
3 645溝 土層断面(B-B'断面)(北東から)	13	9 645溝 土層断面(北東から)
図版6 1 1～3田 検出状況(西から)	14	10 645溝 遺物(Po26他)出土状況(南から)
2 1田 完掘状況(南から)	15	11 666溝 遺物(Po13・41)出土状況 (東から)
3 1田 土層断面(北東から)	16	12 666溝 遺物(Po14・40)出土状況 (南から)
4 2田 土層断面(南から)	17	13 667溝 土層断面(南から)
5 3田 土層断面(南から)	18	14 674土坑 完掘状況(南から)
図版8 1 3田 偶蹄目足跡検出状況(北から)	19	15 674土坑 土層断面(南から)

2 3田 偶蹄目足跡完掘状況(北から)	20	16 670ピット 遺物出土状況(南西から)
3 3田 偶蹄目足跡土層断面(西から)	21	17 670ピット 碓出土状況(南から)
図版9 1 掘立柱建物12、666溝 完掘状況 (西から)	22	18 670ピット 碓出土状況(南から)
2 671ピット 土層断面(南から)	23	19 678ピット 土層断面(南から)
3 671ピット 碇盤石出土状況(南から)	24	
4 679ピット 土層断面(南から)	25	
5 746ピット 土層断面(南西から)	26	
図版10 1 656ピット 土層断面(南から)	27	
2 656ピット 土層断面(南から)	28	
3 656ピット 遺物出土状況(南から)	29	
4 656ピット 碇盤石出土状況(南から)	30	
5 663ピット 土層断面(南から)	31	
6 663ピット 土層断面(南から)	32	
7 663ピット 碓出土状況(南から)	33	
8 663ピット 碓出土状況(南西から)	34	
図版11 1 666溝 土層断面(東から)	35	
2 666溝 遺物(Po26他)出土状況(南から)	36	
3 666溝 遺物(Po13・41)出土状況 (東から)	37	
4 666溝 遺物(Po14・40)出土状況 (南から)	38	
5 667溝 土層断面(南から)	39	
6 667溝 遺物出土状況(東から)	40	
7 674土坑 完掘状況(南から)	41	
8 674土坑 土層断面(南から)	42	
図版12 1 670ピット 遺物出土状況(南西から)	43	
2 670ピット 碓出土状況(南から)	44	
3 670ピット 碓出土状況(南から)	45	
4 670ピット 碓出土状況(南から)	46	
5 678ピット 土層断面(南から)	47	

	6	678ピット 碠出土状況(南から)	4	173ピット 土層断面(南から)
	7	678ピット 碠出土状況(南から)	5	174ピット 土層断面(南から)
図版13	1	5溝、6畦畔、7田 検出状況(南から)	6	128ピット 土層断面(南から)
	2	5溝、6畦畔、7田 土層断面(南から)	7	119ピット 土層断面(西から)
	3	5溝、6畦畔、7田 完掘状況(南から)	8	89ピット 土層断面(西から)
図版14	1	第3面 検出状況(西から)	図版22	1 44・70ピット 土層断面(北東から)
	2	10田、11畦畔、12・13溝 完掘状況 (西から)	2	47・103ピット 土層断面(南から)
図版15	1	10田、11畦畔、12・13溝 土層断面 (A-A'断面)(南から)	3	49ピット 土層断面(南から)
	2	10田、11畦畔、12・13溝 土層断面 (B-B'断面)(南西から)	4	90ピット 碇盤石出土状況(南から)
	3	10田、11畦畔、12・13溝 土層断面 (C-C'断面)(西から)	5	53ピット 土層断面(北から)
図版16	1	9溝 完掘状況(南から)	6	90ピット 碇盤石上面アップ(南から)
	2	9溝 土層断面(南西から)	7	170ピット 検出状況(東から)
	3	747溝群 完掘状況(西から)	8	170ピット 土層断面(東から)
図版17	1	掘立柱建物 1～5 完掘状況(北東から)	図版23	1 掘立柱建物 6(39溝含む) 完掘状況 (南西から)
	2	掘立柱建物13～15・17 完掘状況 (俯瞰)	2	303ピット 土層断面(南東から)
図版18	1	掘立柱建物 1 完掘状況(東から)	3	286ピット 土層断面(南西から)
	2	15ピット 土層断面(北から)	4	305ピット 土層断面(南西から)
	3	21・17ピット 土層断面(北から)	5	305ピット 柱のあたり検出状況 (南西から)
	4	20ピット 土層断面(南から)	図版24	1 278ピット 遺物出土状況(北東から)
	5	18ピット 土層断面(南から)	2	278ピット 遺物(Po86・88・92) 出土状況(南から)
図版19	1	掘立柱建物 2 完掘状況(南から)	3	278ピット 遺物(Po88・92) 出土状況(南東から)
	2	掘立柱建物 2 検出状況(南から)	4	277ピット 土層断面(南から)
	3	36ピット 土層断面(東から)	5	277ピット 遺物(Po89・90・93) 出土状況(東から)
図版20	4	29ピット 土層断面(北から)	6	277ピット 遺物(Po87)出土状況(南から)
	5	29ピット 完掘状況(南から)	7	39溝 完掘状況(南西から)
	1	35ピット 土層断面(南から)	8	39溝 土層断面(南東から)
図版21	2	34ピット 土層断面(南から)	図版25	1 掘立柱建物 7 完掘状況(南西から)
	3	33ピット 土層断面(南から)	2	316ピット 土層断面(東から)
	4	32ピット 土層断面(西から)	3	317ピット 土層断面(東から)
	5	30ピット 土層断面(北から)	4	318・632・323ピット 土層断面(南西から)
	6	31ピット 土層断面(北から)	5	319ピット 土層断面(南東から)
	7	30ピット 完掘状況(南から)	6	315・634ピット 土層断面(北東から)
	8	37ピット 土層断面(南から)	7	321ピット 土層断面(北西から)
図版22	1	78ピット 碠出土状況(西から)	図版26	1 掘立柱建物 8 完掘状況(北西から)
	2	165ピット 土層断面(南から)	2	427ピット 土層断面(北西から)
	3	115・58ピット 土層断面(西から)	3	428・432ピット 土層断面(北西から)

4	429・435ピット	土層断面(北西から)	6	713ピット	礫出土状況(東から)	
5	422ピット	土層断面(北西から)	7	713ピット	遺物(Po111)出土状況 (東から)	
図版27	1	掘立柱建物9 完掘状況(南西から)	8	715ピット	礫出土状況(東から)	
2	132ピット	遺物(Po94・95) 出土状況(西から)	図版33	1	718・861ピット	土層断面(東から)
3	132ピット	遺物(Po95)出土状況 (西から)	2	718ピット	遺物(Po102)出土状況 (南から)	
4	538ピット	土層断面(南東から)	3	719・741ピット	土層断面(南から)	
5	545ピット	土層断面(東から)	4	719・741ピット	遺物(Po108・123) 出土状況(南から)	
図版28	1	掘立柱建物10 完掘状況(南西から)	5	717ピット	礎盤石出土状況(南から)	
2	621ピット	土層断面(南東から)	6	722・795ピット	切り合い状況 (南東から)	
3	624・630ピット	土層断面(南東から)	7	744・723ピット	土層断面(東から)	
4	626ピット	土層断面(北西から)	8	725ピット	土層断面(北西から)	
5	627ピット	土層断面(北西から)	図版34	1	掘立柱建物14 完掘状況(北西から)	
図版29	1	掘立柱建物11 完掘状況(南西から)	2	2001ピット	土層断面(南から)	
2	471ピット	遺物(Po98)出土状況 (南西から)	3	205ピット	土層断面(東から)	
3	471ピット	遺物(Po100) 出土状況(南西から)	4	207ピット	土層断面(南東から)	
4	519ピット	土層断面(南西から)	5	2004ピット	土層断面(南から)	
5	516ピット	土層断面(南東から)	図版35	1	掘立柱建物18 完掘状況(西から)	
図版30	1	掘立柱建物13(北から)	2	2049ピット	土層断面(北から)	
2	掘立柱建物13(鉢)		3	2051ピット	土層断面(北から)	
図版31	1	700・726ピット 土層断面(東から)	4	2043ピット	土層断面(南から)	
2	701・924・923ピット	土層断面 (南から)	5	2045・2046ピット	土層断面(西から)	
3	702ピット	焼土検出状況 (北西から)	図版36	1	2048ピット 土層断面(西から)	
4	706ピット	遺物(Po106・126他) 出土状況(東から)	2	2055・2056ピット	土層断面(北から)	
5	705ピット	柱根出土状況(南から)	3	2053・2054ピット	土層断面(北から)	
6	705ピット	根巻き石出土状況(南から)	4	2052ピット	土層断面(東から)	
7	708・733ピット	土層断面(南から)	5	943ピット	土層断面(東から)	
8	708ピット	根巻き石出土状況(南から)	6	939ピット	遺物(Po131)出土状況 (西から)	
図版32	1	709ピット 遺物(Po104・105・124) 出土状況(南東から)	7	938ピット	土層断面(西から)	
2	710・735ピット	土層断面(東から)	8	942ピット	土層断面(南から)	
3	736・711ピット	土層断面(南から)	図版37	1	952ピット 土層断面(東から)	
4	712ピット	根石出土状況(東から)	2	954ピット	土層断面(東から)	
5	713ピット	遺物(Po129)出土状況 (東から)	3	956ピット	土層断面(南から)	
			4	958ピット	土層断面(北から)	
			5	758・759ピット	土層断面(東から)	
			6	962ピット	土層断面(東から)	
			図版38	1	948ピット 土層断面(南東から)	

	2	948ピット	遺物出土状況(東から)		7	350土坑	完掘状況(南西から)
	3	823・863ピット	土層断面(南東から)		8	350土坑	土層断面(南西から)
	4	783・812ピット	土層断面(南東から)	図版44	1	633土坑	完掘状況(南から)
	5	783ピット	遺物出土状況(南から)		2	633土坑	検出状況(東から)
	6	783ピット	疊出土状況(東から)		3	633土坑	土層断面(南から)
	7	923ピット	遺物(Po132)出土状況 (南から)		4	650ピット	土層断面(北西から)
	8	911ピット	遺物(Po139)出土状況 (北から)		5	697土坑	遺物(Po146・147) 出土状況(北から)
図版39	1	914土器溜まり	検出状況(北から)		6	2002土坑	土層断面(南から)
	2	914土器溜まり	遺物出土状況 (南東から)		7	950土坑	遺物出土状況(南から)
	3	914土器溜まり	完掘状況(南東から)		8	950土坑	土層断面(南から)
図版40	1	947土器溜まり	遺物出土状況(北から)	図版45	1	2096土坑	完掘状況(南西から)
	2	947土器溜まり	遺物出土状況(西から)		2	2096土坑	疊出土状況(南西から)
	3	947土器溜まり	完掘状況(北から)		3	2028土坑	完掘状況(南から)
	4	947土器溜まり	土層断面(B-B'断面) (東から)		4	2028土坑	土層断面(南から)
	5	947土器溜まり	検出状況(東から)		5	2028土坑	疊出土状況(南から)
図版41	1	14土坑	完掘状況(南から)	図版46	1	120溝	土層断面(南から)
	2	14土坑	土層断面(南から)		2	120溝	遺物(Po154・155)出土状況 (西から)
	3	22~25土坑	完掘状況(東から)		3	915溝	検出状況(北から)
	4	22土坑	土層断面(西から)		4	915溝	土層断面(A-A'断面)(西から)
	5	24土坑	土層断面(西から)		5	915溝	土層断面(B-B'断面)(西から)
	6	23土坑	土層断面(南から)		6	2019溝	土層断面(A-A'断面)(南から)
	7	25土坑	土層断面(南から)		7	2019溝	土層断面(B-B'断面)(南から)
図版42	1	129土坑	完掘状況(南東から)		8	2019溝	土層断面(C-C'断面)(南から)
	2	129土坑	土層断面(南東から)	図版47	1	55ピット	土層断面(西から)
	3	220土坑	完掘状況(南西から)		2	55ピット	遺物(Po179)出土状況 (西から)
	4	220土坑	検出状況(南西から)		3	69ピット	土層断面(南から)
	5	220土坑	土層断面(南西から)		4	77ピット	疊出土状況(南から)
	6	220土坑	掘削痕跡検出状況 (南西から)		5	314ピット	遺物(Po163・164・170) 出土状況(南東から)
	7	620土坑	完掘状況(北東から)		6	314ピット	遺物(Po163・164) 出土状況(南東から)
	8	620土坑	土層断面(南西から)		7	352・353ピット	遺物出土状況 (南東から)
図版43	1	134土坑	完掘状況(南東から)	図版48	1	748ピット	疊出土状況(南東から)
	2	134土坑	土層断面(南東から)		2	748ピット	疊出土状況(北から)
	3	349土坑	完掘状況(南西から)		3	789ピット	土層断面(東から)
	4	349土坑	検出状況(南西から)				
	5	349土坑	土層断面(南西から)				
	6	349土坑	疊出土状況(南西から)				

	4	789ピット	遺物(Po159・177) 出土状況(南から)		5	1016土坑	完掘状況(南東から)	
	5	793ピット	礫出土状況(北東から)		6	2087土坑	遺物(Po187)出土状況 (南から)	
	6	793ピット	礫出土状況(北東から)		7	1028土坑	完掘状況(南から)	
	7	862ピット	土層断面(東から)		8	1028土坑	検出状況(南から)	
	8	862ピット	礫出土状況(東から)		図版54	1	1004土坑	完掘状況(南から)
図版49	1	848ピット	礫出土状況(西から)		2	1004土坑	土層断面(南から)	
	2	848ピット	柱根出土状況(東から)		3	1004土坑	検出状況(南から)	
	3	887ピット	遺物(Po174)出土状況 (南から)		4	1004土坑	遺物出土状況(南から)	
	4	924ピット	礫出土状況(西から)		5	1004土坑	遺物出土状況(北から)	
	5	949ピット	礫出土状況(北東から)		6	1004土坑	遺物出土状況(南から)	
	6	949ピット	礫出土状況(南東から)		図版55	1	250溝	完掘状況(南西から)
	7	996ピット	土層断面(東から)		2	250溝	土層断面(A-A'断面)(南西から)	
	8	996ピット	柱根出土状況(東から)		3	250溝	土層断面(B-B'断面)(南西から)	
図版50	1	997ピット	土層断面(東から)		4	250溝	遺物(S4)出土状況(南西から)	
	2	997ピット	柱根出土状況(南東から)		5	250溝	土層断面(C-C'断面)(南西から)	
	3	1000ピット	礫出土状況(南から)		6	250溝	遺物(S4)出土状況アップ (南西から)	
	4	1000ピット	礫出土状況(南から)		図版56	1	南西部(北側)	第5面完掘状況(西から)
	5	1037ピット	遺物(Po158)出土状況 (南から)		2	南西部(北端)	第5面完掘状況(西から)	
	6	1037ピット	遺物(Po157)出土状況 (南から)		図版57	1	1010ピット	遺物(Po189)出土状況 (南から)
	7	1047ピット	遺物出土状況(南から)		2	1010ピット	遺物出土状況(南から)	
	8	1037ピット	遺物(Po157)出土状況 (南から)		3	1031ピット	土層断面(南から)	
図版51	1	288・289土坑	完掘状況(北東から)		図版58	1	4土坑	完掘状況(南東から)
	2	288・289土坑	検出状況(南から)		2	4土坑	検出状況(南東から)	
図版52	1	288土坑	完掘状況(南から)		3	4土坑	土層断面(南東から)	
	2	288土坑	1～3層除去後状況(南から)		4	4土坑	礫出土状況(南東から)	
	3	288土坑	遺物出土状況(南西から)		5	600土坑	完掘状況(南東から)	
	4	288土坑	土層断面(南から)		6	600土坑	土層断面(南東から)	
	5	289土坑	完掘状況(東から)		7	600土坑	礫出土状況(南東から)	
	6	289土坑	黒色土除去後(東から)		8	600土坑	底面ピット断ち割り状況 (南東から)	
	7	289土坑	遺物出土状況(東から)		図版59	1	210土坑	完掘状況(南東から)
	8	289土坑	土層断面(東から)		2	210土坑	検出状況(南東から)	
図版53	1	1020土坑	完掘状況(南から)		3	210土坑	土層断面(南東から)	
	2	1020土坑	土層断面(南から)		4	210土坑	底面ピット土層断面 (南東から)	
	3	1003土坑	遺物(Po181・182他) 出土状況(北から)		5	631土坑	完掘状況(南東から)	
	4	1003土坑	検出状況(北から)		6	631土坑	断ち割り状況(東から)	

	7	631土坑 底面ピット検出状況 (南東から)	2	掘立柱建物14・15出土土器
	8	631土坑 底面ピット断ち割り状況 (南東から)	1	掘立柱建物17出土土器(1)
図版60	1	1027土坑 完掘状況(南東から)	2	掘立柱建物17出土土器(2)
	2	1027土坑 底面構造検出状況 (南東から)	3	第4面遺構出土土器(1)
	3	1027土坑 土層断面(南東から)	図版72	第4面遺構出土土器(2)
	4	1027土坑 底面構造完掘状況(南東から)	図版73	第4面遺構出土土器(3)
	5	1043土坑 完掘状況(南東から)	図版74	1 914・947土器満まり出土土器
	6	1043土坑 土層断面(南東から)	2	IV層出土土器
	7	1050土坑 完掘状況(南東から)	3	1004土坑出土土器
	8	1050土坑 土層断面(南東から)	図版75	1 1003土坑、250溝、1010ピット 出土土器
図版61	1	1076土坑 完掘状況(南東から)	2	288土坑出土土器
	2	1076土坑 土層断面(南東から)	3	2087土坑出土土器
	3	1077土坑 完掘状況(南東から)	4	692ピット出土輪羽口
	4	1077土坑 土層断面(南東から)	5	調査区内出土土鍤
	5	2016土坑 完掘状況(北西から)	図版76	調査区内出土土器
	6	2016土坑 土層断面(北西から)	図版77	調査区内出土青磁
	7	2079土坑 土層断面(西から)	図版78	1 調査区内出土青磁(実測図非掲載) 2 掘立柱建物13出土白磁・青磁
	8	2079土坑 確出土状況(西から)	3	調査区内出土白磁(1)
図版62	1	1・2田、645溝出土土器	4	667溝出土白磁
	2	5溝、7田出土土器	5	調査区内出土白磁(2)
	3	第2面遺構出土土器(1)	図版79	調査区内出土白磁(3)
図版63	1	掘立柱建物12出土土器(1)	図版80	1 調査区内出土白磁(実測図非掲載) 2 調査区内出土青白磁・白磁
	2	掘立柱建物12出土土器(2)	3	調査区内出土中国陶器
図版64	掘立柱建物12出土土器(3)	4	678ピット出土不明陶器	
図版65	1	7田出土土器	図版81	1 調査区内出土国産陶器・輸入磁器 2 調査区内出土近世陶磁器
	2	682ピット出土土器	図版82	1 調査区内出土石器 2 調査区内出土紡錘車(左:上面、右:下面)
	3	第2面遺構出土土器(2)	3	調査区内出土紡錘車(側面)
	4	Ⅲ・Ⅲ-1・Ⅲ-2層出土土器	4	掘立柱建物12 666溝・掘立柱建物13 719ピット出土鉄器
図版66	Ⅲ層出土土器	5	掘立柱建物12 666溝・掘立柱建物13 719ピット出土鉄器X線写真	
図版67	1	Ⅲ・Ⅲ-2層出土土器		
	2	第3面遺構出土土器		
図版68	1	掘立柱建物6出土土器(1)		
	2	掘立柱建物6出土土器(2)		
	3	掘立柱建物9出土土器		
	4	掘立柱建物11出土土器(1)		
	5	掘立柱建物11出土土器(2)		
図版69	掘立柱建物13出土土器(1)			
図版70	1	掘立柱建物13出土土器(2)		
〈平ノ前遺跡〉				
図版83	1	A1区 完掘状況(東から)		
	2	A1区 中央ベルト土層断面(西から)		
図版84	1	A1区 中央ベルト土層断面(東から)		

- 2 A 1区 中央ベルト土層断面(南から)
 3 A 1区 偶蹄目足跡検出状況(南から)
 4 A 1区 遺物出土状況(北から)
 5 A 1区 遺物(Po 5)出土状況(南から)
 圖版85 1 P 4区 遺構検出状況(北東から)
 2 P 4区 掘立柱建物1 完掘状況(北から)
 圖版86 1 P 4区 掘立柱建物2 完掘状況
 (北東から)
 2 P 4区 13ピット 土層断面(南西から)
 3 P 4区 14ピット 土層断面(南西から)
 4 P 4区 16ピット 土層断面(南西から)
 5 P 4区 16ピット 碇盤石出土状況
 (南西から)
 圖版87 1 P 4区 21溝 完掘状況(北東から)
 2 P 4区 21溝 遺物出土状況(東から)
 3 P 4区 21溝 土層断面(南西から)
 4 P 4区 南西壁土層断面(北東から)
 5 P 4区 北東壁土層断面(西から)
 圖版88 1 P 4区 南西壁土層断面(南から)
 2 P 4区 完掘状況(北東から)
 圖版89 1 A 1区 出土土器
 2 P 4区 出土土器
 3 A 1区 1流路、P 4区 21溝出土石器
 4 P 4区 21溝出土鉄器(左)・X線写真(右)

〈自然科学分析〉

- 図版90 山ノ下遺跡 出土木材顕微鏡写真
 図版91 山ノ下遺跡
 北東部地点の試料・X線写真
 図版92 山ノ下遺跡
 南西部地点の試料・X線写真
 図版93 山ノ下遺跡 花粉化石顕微鏡写真
 図版94 山ノ下遺跡 植物珪酸体顕微鏡写真
 図版95 平ノ前遺跡 珪藻化石顕微鏡写真
 図版96 平ノ前遺跡 花粉化石・植物珪酸体顕微鏡写真

 〈貿易陶磁の類例〉
 圖版97 大宰府条坊跡出土 越州窯系青磁壺・水注III類
 圖版98 博多遺跡群出土 越州窯系青磁壺・水注III類
 圖版99 越州窯系青磁壺・水注III類 龍泉窯青磁
 圖版100 越州窯系青磁壺・水注(中国)
 圖版101 北宋龍泉窯青磁および関連窯壺・水注
 圖版102 北宋龍泉窯青磁・越州窯系青磁壺・水注
 圖版103 越州窯系青磁壺・水注
 圖版104 大宰府条坊跡出土 白磁壺・水注II類
 圖版105 白磁・陶器水注
 圖版106 広東系白磁の胴部縦筋文・柳目文

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

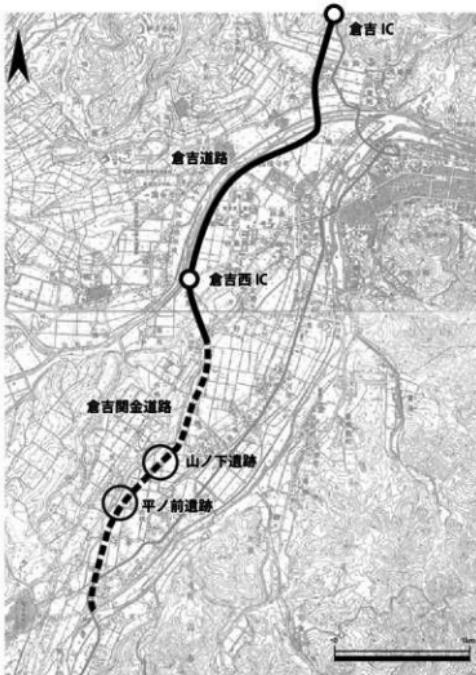
本調査は、平成28年度及び平成29年度に実施した、一般国道313号(倉吉関金道路)道路改良工事に伴う、倉吉市小鶴及び上古川に所在する山ノ下遺跡の発掘調査、倉吉市上古川に所在する平ノ前遺跡の発掘調査である。

山陰地方では、観光、物流などの地域活性化をめざした幹線道路ネットワークの形成、交通渋滞の緩和および解消やそれに伴う安全性の向上、災害時の緊急輸送路確保などを目的として、中国横断自動車道姫路鳥取線や山陰自動車道などの高規格幹線道路の整備が進められている。このうち、鳥取県東伯郡北栄町から倉吉市福山までの延長約17.2kmの一般国道313号(北条倉吉道路・倉吉道路・倉吉関金道路)道路改良工事もその一環で、将来的には山陰自動車道から岡山県真庭市に至る延長約50kmの地域高規格道路「北条湯原道路」の一部となる事業である。

このうち、延長約7.0kmの倉吉関金道路計画地周辺には、石塚廃寺跡や市場城跡などの周知の埋蔵文化財包蔵地が存在している。そのため、道路の建設に先立って、鳥取県県土整備局(以下、鳥取県)、鳥取県教育委員会(以下、県教委)、倉吉市教育委員会(以下、市教委)により埋蔵文化財の取扱いについての協議が行われ、計画地内に存在する遺跡の状況を把握する必要性が確認された。これを受け、市教委によって埋蔵文化財包蔵地の有無、範囲、内容などの概要を確認するための試掘・確認調査が、平成26~29年度に国(文化庁)及び県の補助金を受けて倉吉市教育委員会によって実施された(註1・2)。

その結果、山ノ下遺跡をはじめ複数の遺跡の存在が明らかとなり、鳥取県は再度県教委と協議・調整を行い、平成28年度から、路線内に存在する遺跡の発掘調査並びに報告書作成を公益財団法人鳥取県教育文化財団(以下、財団)に委託することとなった。

平成28年度は、鳥取県が山ノ下遺跡の調査対象面積12,000m²のうち7,000m²分について文化財保護法第94条による手続き



第1図 一般国道313号線予定地と調査地の位置

第1章 調査の経緯と経過

を踏まえるとともに、平成28年4月1日に山ノ下遺跡の発掘調査(記録保存)について財団に委託し、財団は島田組・アイコンヤマト共同企業体の調査支援を受け、発掘調査を実施した。山ノ下遺跡の発掘調査は、平成28年6月1日から同年11月30日まで行った。

平成29年度は、鳥取県が平ノ前遺跡の橋脚部分(P 4区)152.20m²、橋台部分(A 1区)154.18m²分について文化財保護法に基づく同様の手続きを踏まえるとともに、平成29年3月30日に平ノ前遺跡の発掘調査(記録保存)について財団に委託し、財団は平成29年6月1日から同年7月13日にかけて発掘調査を実施した。

註

- 1) 岡平拓也ほか 2015『倉吉市内遺跡分布調査報告書18』倉吉市教育委員会
- 2) 斎田拓郎ほか 2017『倉吉市内遺跡分布調査報告書19』倉吉市教育委員会

第2節 調査の経過

第1項 平成28年度

山ノ下遺跡の調査は平成28年6月1日に開始したが、この時点では調査地内に存在する水路が使用されており撤去できていなかった。そのため、当初は水路を残して調査を進め、水路撤去が可能になった時点で水路部分の調査を行うことにした。そこで、水路によって分けられた北側を北東部、南側を南西部と便宜上命名した。

まず北東部から着手し、6月1日に基準点測量や重機による表土剥ぎ実施に必要な丁張りを設置し、翌2日に北東部の表土掘削に先立つ段階確認を実施、3日から重機による表土剥ぎを開始し、9日には北東部の一部で表土剥ぎ後の段階確認を実施した。

北東部第1面の発掘作業員による人力掘削は、6月10日から着手し、並行して6月14日に南西部の表土掘削に先立つ段階確認を実施し、6月17日からは南西部で重機による表土剥ぎに着手した。7月1日には北東部第1面で検出した遺構の掘削を開始した。7月5日からは土層堆積状況の確認に着手した。7月6日には南西部の表土剥ぎが終了し、7日には南西部の表土剥ぎ後の段階確認を実施して調査着手できる状況になり、南西部南端の搅乱が埴層としたローム層まで及んでいる場所を調査して、北東部の調査を優先して実施するために南西部の調査を中断した。

7月11日には北東部第1面の全景完掘写真を撮影し、北東部第2面の調査では7月21日に北東部第2面の全景完掘写真を撮影した。北東部第3面の調査では、7月29日に全景完掘写真を撮影した。北東部第4面の調査では、8月10日には高所作業車を用いて全景完掘写真を撮影した。北東部第5面の調査では、8月26日に全景完掘写真を撮影した。北東部第6面の調査では、10月4日にラジコンヘリコプターを用いて北東部第6面の全景完掘写真を撮影した。その後、補足調査を行い、14日で北東部の調査は終了し、県土整備局への管理引き渡しを行った。

南西部第1面では、9月13日から東西トレンドの継続部分の掘削に着手し、9月30日に完掘写真を撮影した。9月中旬には北東部の調査も目処が立ったため、北東部の調査に並行して南西部の調査を再開し、9月12日には第2面の完掘写真及び第3面の検出状況写真を撮影した。9月21日に第3面の

完撮写真を撮影し、11月5日に第4面の全景完撮写真を撮影した。第5面の調査は11月10日から行い、11月25日にラジコンヘリコプターを用いて南西部第6面の全景完撮写真を撮影した。

11月26日には地元の方々を対象として現地説明会を開催し、42名の見学者があった。その後、補足調査や土壤サンプルの採取などを行い、11月30日で調査を終了した。

採取した土壤サンプルとピット内より出土した柱根については、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、層相解析、花粉分析、植物珪酸体分析、放射性炭素年代測定、樹種同定を行った。その成果については、第5章に掲載している。

整理作業員の稼働は平成28年7月11日から翌年3月24日まで行い、遺物の洗浄、注記、接合、実測図作成等の作業を実施した。



写真1 山ノ下遺跡 表土剥ぎ風景



写真2 山ノ下遺跡 現地説明会風景

第2項 平成29年度

平ノ前遺跡の調査は平成29年5月23日、P 4区の表土剥ぎから着手した。翌24日にはA 1区の表土剥ぎを実施した。両区とも5月29・30日には基準点および方眼測量を実施し、6月1日より発掘作業員による人力掘削に着手した。遺構の調査、土壤サンプルの採取、測量等の記録作業を随時実施し、7月13日のラジコンヘリコプターを用いた全景写真の撮影をもって、すべての作業を終了した。

採取した土壤サンプルについては、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、花粉分析、珪藻分析、植物珪酸体分析を行った。その成果については、第5章に掲載している。

整理作業員の稼働は平成29年6月12日から翌年3月9日まで行い、遺物の洗浄、注記、接合、実測図作成、実測図のトレース等の作業を実施した。

また、平成28年度に調査を実施した山ノ下遺跡と平成29年度に調査をした平ノ前遺跡の成果を発掘調査報告書にまとめ、平成30年3月に刊行した。

第3節 調査体制

発掘調査および報告書作成は、以下の体制で実施した。

平成28年度 山ノ下遺跡

○公益財団法人鳥取県教育文化財団

理事長	野村 勇二
事務局長	畠中 弘子
副主幹	岡田 美津子
事務職員	水根 幸子

調査室

室長	牧本 哲雄(美和調査事務所所長を兼務)※1
次長	民木 一美
主事	岡 梓 ※1
	西村 あかね ※1
事務職員	田中 純里子
調査企画設計係長	茶谷 満 ※1

中部調査事務所

主幹	西川 徹(中部調査事務所所長を兼務)※1
文化財主事	森本 優弘 ※1

※1 鳥取県教育委員会から派遣

○発掘調査支援業者

島田組・アイコンヤマト共同企業体	
現場代理人	中川 健二
副現場代理人	中尾 君則
支援調査員	野津 旭、島田 裕弘
調査補助員	結城 香
測量士等	平井 利尚

○調査協力

鳥取県中部総合事務所県土整備局、倉吉市教育委員会、倉吉博物館

平成29年度 平ノ前遺跡

○公益財団法人鳥取県教育文化財団

理事長	野村 勇二
事務局長	畠中 弘子
副主幹	岡田 美津子
事務職員	水根 幸子

調査室

室長	牧本 哲雄(美和調査事務所所長を兼務)※1
次長	民木 一美
係長	河村 淳 ※1
主事	岡 梢 ※1
調査企画設計係長	大野 哲二 ※1
中部調査事務所	
副主幹	森本 優弘(中部調査事務所所長を兼務)※1
文化財主事	門脇 隆志 ※1

※1 烏取県教育委員会から派遣

○調査協力

鳥取県中部総合事務所国土整備局、倉吉市教育委員会、倉吉博物館



写真3 平ノ前遺跡P4区 表土剥ぎ風景



写真4 平ノ前遺跡P4区 調査風景

第4節 調査の方法

第1項 調査地の地区割

1 地区割の方法と名称

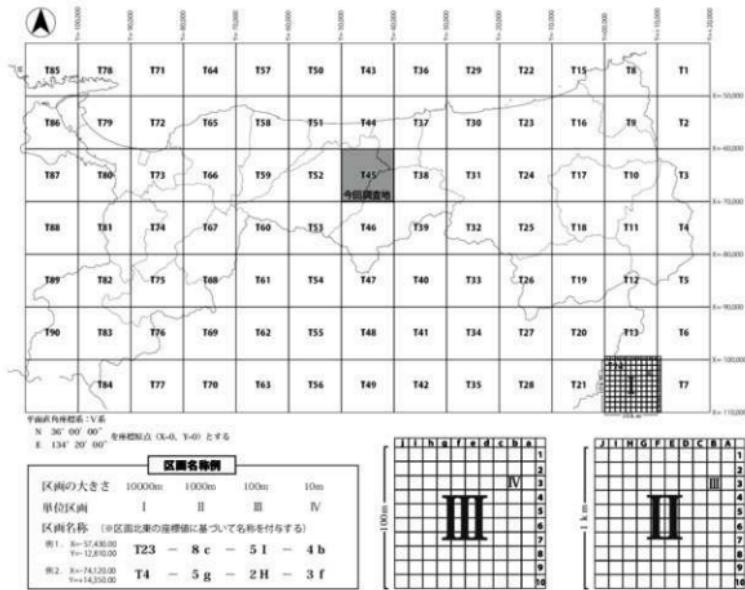
公益財団法人鳥取県教育文化財団(以下、財団)が受託した一般国道313号(倉吉岡金道路)の発掘調査では、調査成果の標準化を目的として、遺跡や遺構の位置表示や遺物の取上げ等に利用する地区割に、平面直角座標系の第V系(世界測地系)を使用している。地区割については、10m×10m(100m²)の区画を基本的な最小単位とし、その名称(記号)については、以下のように設定した(第2図)。

第I区画 鳥取県の全域に設定した大区画である。10,000m×10,000mで、1～91の区画を設け、北東隅からT 1～T 91の記号を付した。

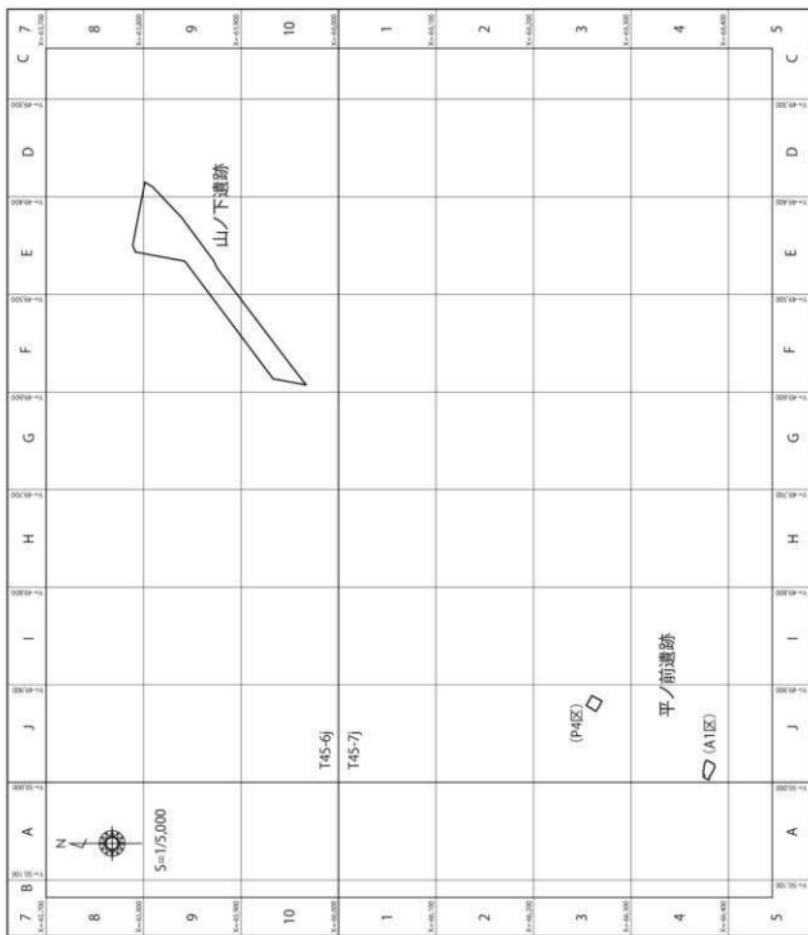
第II区画 第I区画の1区画内を、1,000m×1,000mに100分割した区画である。第II区画については、1区画の南北軸に1～10、東西軸にa～jを付し、1 a～10 jの記号を付した。

第III区画 第II区画の1区画内を、100m×100mに100分割した区画である。第III区画については、1区画の南北軸に1～10、東西軸にA～Jを付し、1 A～10 Jの記号を付した。

第IV区画 第III区画の1区画内を、10m×10mに100分割した区画である。第IV区画については、1区画の南北軸に1～10、東西軸にa～jを付し、1 a～10 jの記号を付した。



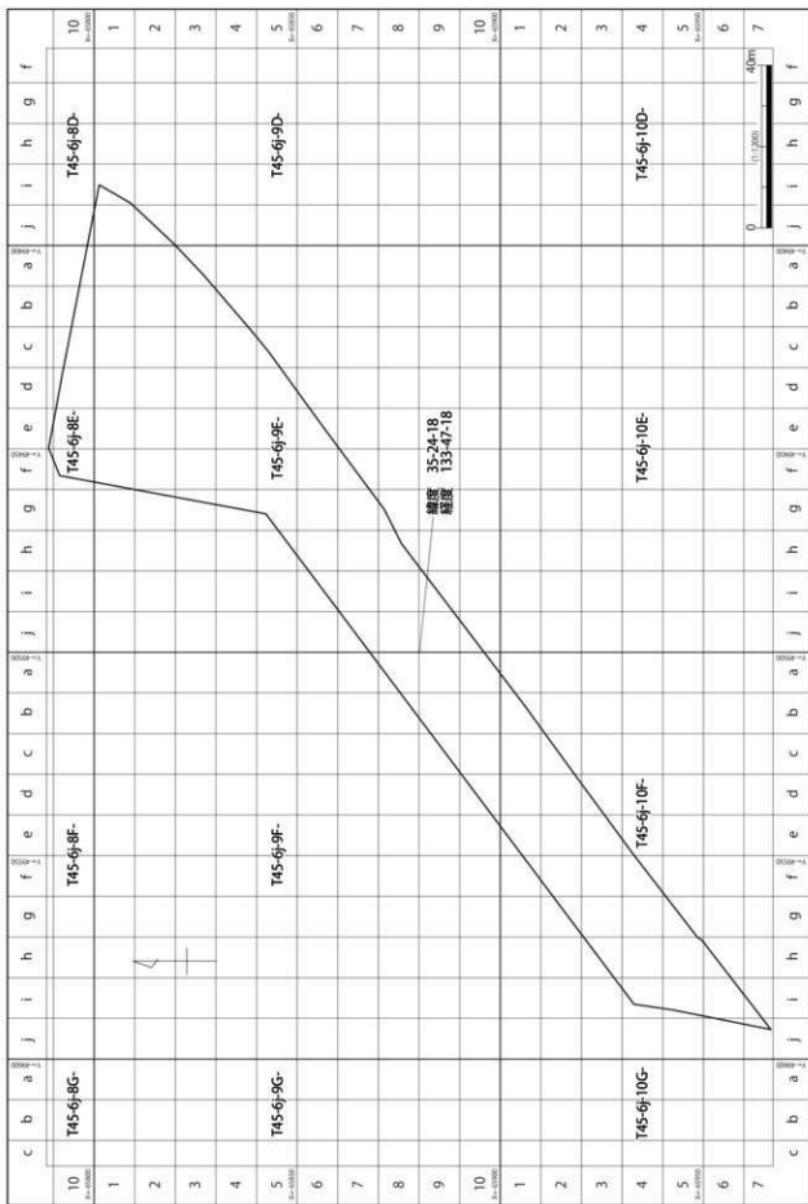
第2図 鳥取県と国土座標系



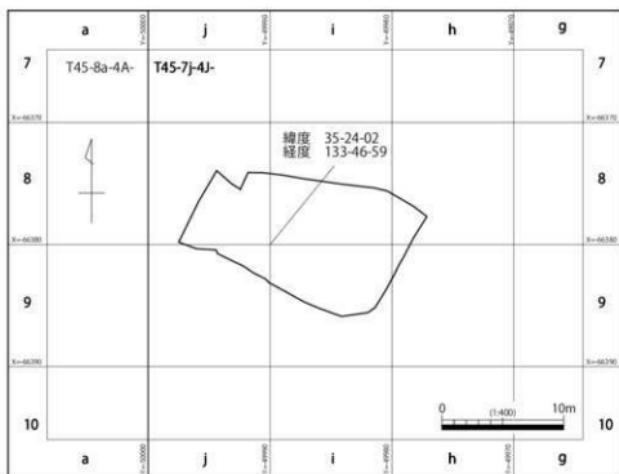
第3図 山ノ下・平ノ前遺跡の地区割図

2 山ノ下・平ノ前遺跡における地区割

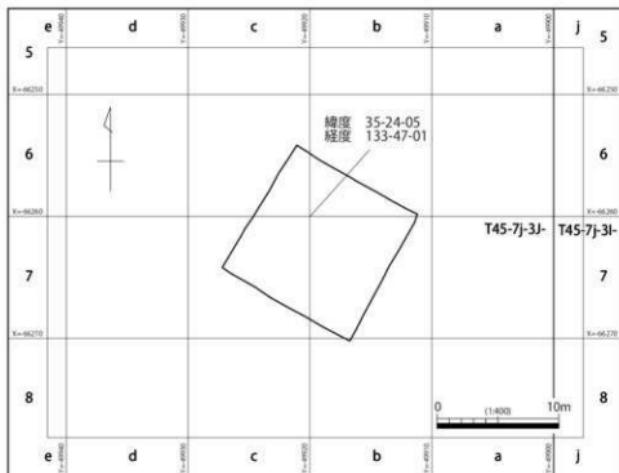
調査区に前述した地区割を設定したものが第3～6図である。本書で報告する平成28・29年度調査範囲は、T45(第I区画)内に位置しており、文中で遺構・遺物位置について地区割を用いながら記載する際には、第II、第III、第IV区画の記号を用いて6j-9F-1eのように記す。



第4図 山ノ下遺跡の地区割図



第5図 平ノ前遺跡A 1区の地区割図



第6図 平ノ前遺跡P 4区の地区割図

第2項 発掘調査と記録の対象

1 発掘調査と記録の対象

調査では、表土掘削を重機、包含層および遺構の検出・掘削は人力で行い、調査の記録作業は表土除去後からを対象として行った。

2 遺構名称の設定

財团が受託した一般国道313号(倉吉関金道路)の発掘調査では、検出順に遺構番号を付与することを基本方針としている。遺構名称は、遺構番号の後ろに検出された遺構の種別を組み合わせることで「1土坑」、「2溝」のようになるが、種別については、調査が進む中で変更されることもあった。一方で、一度付与された遺構番号については不变であり、本書においても調査時に付与した遺構番号を用いて報告を行っている。ただし、現地調査時に遺構番号を付したものについても、調査の結果、搅乱や自然地形であることが明らかとなった場合は欠番とした。

1) 山ノ下遺跡

上記のとおり遺構番号は検出順に付与することを基本方針としたが、南西部の調査においては北寄りと中央付近の2箇所に遺構の分布域が分かれていたため、近接する遺構には近い遺構番号を付与した方が遺構のまとまりを把握しやすいと考え、北寄りに存在する遺構については中央付近に存在する遺構と区別するために2001番からの遺構番号を付与した。その結果、1092番から2000番が欠番となった。

2) 平ノ前遺跡

平ノ前遺跡は調査区が2地区(A1区・P4区)に分かれ、かつ両地区が直線距離で約120m離れていることも鑑み、遺構名称は各地区ごとに付与することとした。

3 図面記録および写真撮影

山ノ下遺跡の現地での記録作業は、発掘調査支援業者の支援調査員と測量士等が発掘調査監理者の指示、確認を受けながら行った。

図面記録に関しては、断面図はトータルステーションを用いた測量と写真計測を、対象遺構や壁面の状況によって使い分けた。作成した図面は、発掘調査監理者の確認後に、現地での一次記録である〈素図〉として管理し、最終的には情報をデジタルデータとして整理、統合し、〈編集図〉を作成した。成果品としての編集図は、主にベクトルデータで構成され、イラストレーターCS5以上での再編集が可能な形(ai形式)で保存している。

写真的撮影は、撮影対象、範囲、アングル、使用機材等に関する発掘調査監理者の指示をもとに支援調査員が行った。撮影用機材としては、中型(6×7判)一眼レフカメラ、小型(35mm判)一眼レフカメラ、デジタル一眼レフカメラ(センサーサイズAPS-C以上、有効画素数1220万画素以上)を併用し、対象によって機材を適宜選択しながら行った。また、中判、小型一眼レフカメラに使用したフィルムは、富士フィルム社プロビア100F(カラーリバーサルフィルム)、富士フィルム社ネオパン100ACROS(黑白フィルム)である。

デジタル一眼レフカメラによる撮影はRAW・JPEG形式の同時保存により行った。また、デジタル

一眼レフカメラによる撮影は、写真撮影を行う全ての対象に対して行うとともに、撮影対象や日付などの撮影内容を記載した写真ラベルも合わせて撮影している。これにより、撮影した画像データを他のフィルムカメラの整理、検索用資料として使用できるようになり、写真記録管理用の〈写真台帳〉の作成時に有用なだけでなく、効率的な写真の管理と活用が可能となっている。

なお、平ノ前遺跡の記録・編集作業については、山ノ下遺跡と同様の方法で財団職員が行った。

4 出土遺物の取り上げ

遺物の取り上げには、財団調査室が用意した遺物取上カードを使用した。取上番号は通し番号とし、遺物取上カードに記載された項目に基づいて遺物取上台帳を作成し、出土した遺物を取り上げ、管理した。遺物カードの記載項目・内容は以下のとおりである。

遺跡名 「山ノ下遺跡16」と記載。「16」は2016年度に調査を実施したことと示す。平ノ前遺跡は「平ノ前遺跡17」と記載。

地区名 遺物の取り上げは、10m×10mのグリッドを基本とし、第Ⅰ～Ⅳ区画で構成される地区割を記載した(本節第1項参照)。

層位名 遺物が帰属する包含層や遺構内に堆積した層位の番号ないし名称を記載した。

遺構名 遺物が帰属する遺構の名称を記載した。

取上No. 取り上げ順に通し番号を記載した。

出土年月日 検出日ではなく、取り上げ日を記載した。

図面 遺物の出土状況が記録された図面の有無と図面のスケールを記載した。

備考 特記事項を記載した。

時代・時期 取り上げた遺物の帰属時期を記載するが、この度の調査では記載を省略した。

種別 土器や石器など素材によって大別される遺物の種別を記載した。

その他 上記の記載項目とは別に、取上時に座標値が記録されたものについては、遺物取上カードのメモ欄に座標値を記載した。

第3項 出土遺物の整理

出土遺物については、現地での取上げ後、財団中部調査事務所に持ち帰って以下のような整理作業を行った。

土器、土製品 調査終了後に洗浄、接合、注記、復元及び実測を行った。器種及び形状が判明ないし復元できる個体を実測の対象とした。

石器 調査終了後に洗浄、接合、注記、実測を行った。本調査の出土品は、器種や用途が判明できるもののほか、使用痕が明瞭な個体を実測の対象とした。

木製品 調査終了後に洗浄を行った。出土した木製品はすべて柱根であり、一部について自然科學分析(放射性炭素年代測定・樹種同定)を実施した。

金属製品 土壌等の付着物(汚れ)を除去した。

写真撮影 デジタル一眼レフカメラ(センサーサイズフルサイズ)で撮影を行った。また、金属器については、X線撮影を行った。

保管 図面及び写真的記録類、出土遺物はすべて台帳に登録して収納作業を行った。

第1節 遺跡の立地と地理的環境

鳥取県は中国地方の北東部に位置し、東は兵庫県、西は島根県と広島県、南は岡山県に接している。県域は東西約125km、南北約62kmと東西に長い形状をなし、面積は約3,507km²を測る。倉吉市は鳥取県の中北部にあり、周囲は東伯郡と日野郡に接するとともに、南側は岡山県と直接県境を接している。平成17年に旧閑金町と合併し面積約272km²、人口約4万8千人を有す県中部の中心市である。

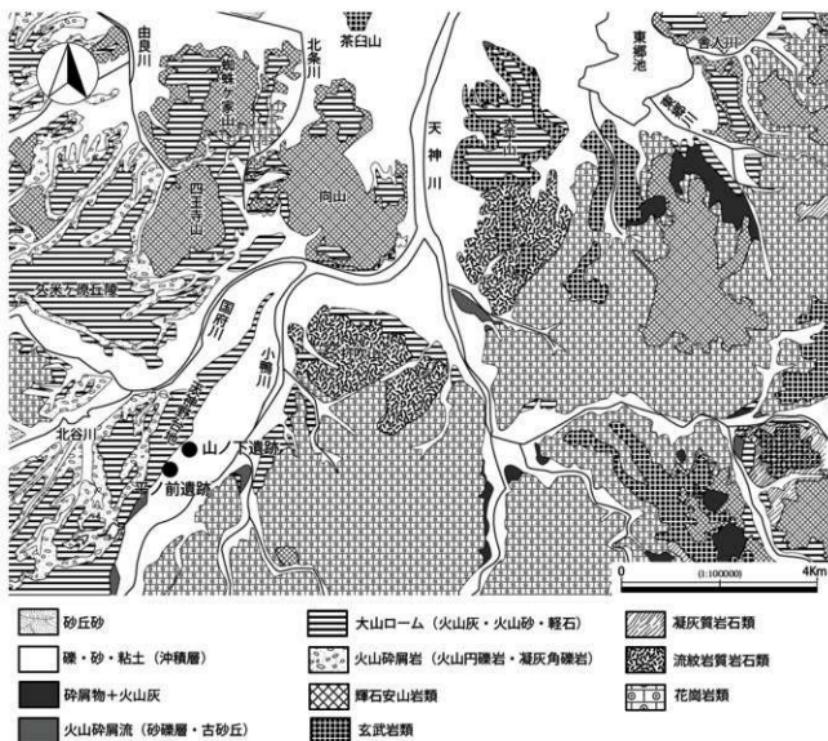
倉吉市東部には、東伯郡三朝町の津黒山(標高1,118m)に源を発する一級河川である天神川が流れおり、三徳川や小鴨川などの支流と合流しながら北流し、日本海に注いでいる。小鴨川は鳥ヶ山(標高1,448m)に源を発し、北東側に流れながら国府川と合流しその後東流して天神川と合流する。これら河川の流域には平野が形成され、市街地などが広がっている。

山ノ下遺跡は倉吉市小鴨字戸塚・山ノ下及び上古川字北田に、平ノ前遺跡は同市上古川字平ノ前に所在する。いずれも、天神川の支流である小鴨川中流域左岸の河岸段丘上にあり、天神野台地と通称される丘陵裾部付近に位置している。

遺跡西側に広がる天神野台地は、大山噴出物によって大山の東側に形成されたなだらかな丘陵台地で、表層はクロボクが発達している。明治から昭和にかけての開墾により、水田や果樹園の広がる農地へと変貌を遂げた丘陵である。小鴨川中流域の河岸段丘上では、古くから水田耕作が行われ、昭和39~45年にかけて圃場整備が行われ、周辺は水田などの耕地に利用されている。



第7図 鳥取県と遺跡の所在地



第8図 遺跡周辺の地質環境

第2節 歴史的環境

【旧石器時代】

倉吉市域では旧石器時代の様相がわかる遺跡はほとんど無いが、中尾遺跡(96)で黒曜石製と安山岩製のナイフ型石器が各1点、長谷遺跡(58)で安山岩製ナイフ型石器が1点、野津三第1遺跡からは黒曜石製のナイフ形石器と錐が各1点、安山岩製のナイフ形石器2点と彫器と搔器各1点を含む石器群、上神51号墳の下層から黒曜石製の細石刃石核がいずれも原位置から遊離した状態で見つかっている。なお、今回調査を行った山ノ下遺跡(1)からも旧石器の可能性がある玉髓製の剥片が2点遊離した状態で出土している。

【縄文時代】

倉吉市に限らず鳥取県内において縄文時代草創期の土器は見つかっていないが、尖頭器あるいは有



1山ノ下道路	2平ノ前道路	3市場城跡	4石塚廢寺跡	5宮ノ前道路	6大平道路A地区	7大平道路B地区	8尾田小耕物跡跡
9津田田野跡	10福富古墳群	11三江向谷古墳群	12後川野古墳群	13三江小坂ノ上古墳群	14曾ヶ谷口たら	15沢谷兜山道路	
16後中尾遺跡	17三江道路	18上野道路	19三江城跡	20阿布大寺道路	埴丘墓群	21下福田古墳群	22下米精船冲道路
23下米精乳ヶ谷道路	24下米精・1号墳	25国府路西側道路群	26福寺道路	27横矢道路	28今倉道路		
29今倉城跡	30小鶴道祖神道路	31下ウカ平道路	32北の城跡	33鶴内古墳群	34家ノ後口1号墳	35大宮古墳群	36大宮古墳
37東鶴古墳群	38下大江古墳群	39下西野道路	40山原1号墳	41富海古墳群	42赤磐城跡	43芸才寺1号墳	44四十二丸城跡
45高畔古墳群	46曾吉古墳群	47打吹城跡	48湊谷古墳群	49駿經寺古墳群	50大御堂庵寺跡	51松ヶ坪道路	52海又1号墳
54養水古墳群	55向山古墳群	56三明寺古墳	57向山142号墳	58長谷道路	59向山6号墳	60宮ノ峰	61宮ノ峰21号墳
62小田鋼脚出土地	63下張坪道路	64夏谷道路	65定光寺古墳群	66和田城跡	67中峰1号墳	68平ル林道路	69若林道路
70若林3号墳	71大平ヲ道路	72クズマ道路	73西山路跡	74谷郷道路	75桜木道路	76上神宮ノ前道路	77上神古墳群
78原谷古墳群	79鶴山道路	80上神大将塙古墳	81柴榮塙丘墓	82西南道路	83大谷茶屋古墳群	84寺谷古墳群	85屋喜山9号墳
86三度舞大将塙丘墓	87小林古墳群	88イザワ原古墳群	89沢ベリ道路	古墳群	90沢ベリ5・7号墳	91茅林道路	92東前道路
93不入岡道路	94大谷古墳群	95大谷大将塙古墳	96中尾遺跡	97擇羅遺跡	98打塙道路	99国分寺古跡	100宮ノ下道路
102法華寺道跡	103国分寺北道路	104河原木道路	105伯耆國行跡	106向野道路	107大谷後口谷塙丘墓	108中峯道路	109白市道路
110達藤谷塙跡	111國府大沢前道路	112國府大沢道路	113向山谷道路	114コザンコウ道路	115大谷城跡	116四王寺跡	117北面古墳群
118イキ道路	119取木道路	120一反田道路	121尾原宮ノ峰道路	122伯尾山窑跡	123跡大山道路	124勝負谷古墳群	125郊家平古墳群
126二子塚古墳群	127駄道東古墳群	128須根後谷道路	古墳群				

第9図 周辺の遺跡

舌尖頭器と呼ばれる石器が大山北麓を中心に約50点見つかっており、倉吉市内でも長谷遺跡と笹ヶ平遺跡で安山岩製の尖頭器が各1点見つかっている。

早期になると徐々に土器も見つかり始め、取木遺跡(119)で堅穴建物と平地建物などと共に押型文土器が、野口遺跡からも疊群と押型文土器が見つかっている。

後期には津田峰遺跡(9)から石圓炉を持つ堅穴建物が、横峯遺跡から地床炉を持つ堅穴建物が見つかっている。

晩期には松ヶ坪遺跡(51)から大量の土器とともに配石造構と甕棺墓が見つかっている。

また、時期の特定は困難ではあるが、落とし穴と考えられる土坑が中尾遺跡で127基、長谷遺跡で61基、横谷遺跡群で47基、夏谷遺跡(64)で28基、下西野遺跡(39)で27基見つかっており、鋤大山遺跡(123)、頭根後谷遺跡(128)、イキス遺跡(118)、向野遺跡(106)などからも各10基以下であるが見つかっている。山ノ下遺跡からも8基見つかった。

【弥生時代】

前期では、中尾遺跡で屋内貯藏穴を4基伴った平地式建物や堅穴建物が、イキス遺跡や尾原宮ノ峰遺跡(121)で土壙墓群が見つかった。

中期になると徐々に遺跡数も増し、後中尾遺跡(16)、東前遺跡(92)、国府跡西側遺跡群(福田寺遺跡25)、遠藤谷峯遺跡(110)などの集落が形成されている。後中尾遺跡では、環濠が形成されている。東前遺跡では、玉作工房である堅穴建物3棟内から碧玉製管玉の未成品や石針・砥石などの工具類が多数見つかっている。

また、市内小田で中期から後期にかけてと考えられる袈裟襟文銅鐸2口が出土している。

後期になると、集落遺跡が丘陵上に増加し、服部遺跡、夏谷遺跡、觀音堂遺跡、大沢前遺跡(111)、中峯遺跡(108)、白市遺跡(109)、中尾遺跡、沢ベリ遺跡(89)、コザンコウ遺跡(114)、鋤大山遺跡などが知られている。中でも、中峯遺跡からは全国的に珍しい鳥形スタンプ文が施された土器が出土している他、阿弥大寺遺跡(20)などで分銅形土製品が出土しており、山陽地方との交流が窺われる。

また、後期以降阿弥大寺四隅突出型墳丘墓群、柴栗墳丘墓(81)、三度舞大将塚墳丘墓(86)、大谷後口谷墳丘墓(107)などの墳丘墓が造られており、古墳時代への胎動が窺われる。

【古墳時代】

倉吉市内の前期古墳には、菱鳳鏡や三角縁神獸鏡を含む3面の舶載鏡や鉄製農耕具などが出土した全長約60mの前方後方(円)墳で東伯耆最古級の首長墳である国分寺古墳(99)、仿製三角縁神獸鏡を含む2面の鏡や鍬形石・琴柱型石製品などが出土した径約30mの円墳である上神大将塚古墳(80)、全長50mと推定されている前方後円墳の大谷大将塚古墳(95)や、1辺27mの方墳である宮ノ峰19号墳(60)、径約30mの円墳である宮ノ峰21号墳(61)、堅穴式石棺を内包する中峰1号墳(67)などがある。

この時期の集落には、夏谷遺跡、西山遺跡(73)、桜木遺跡(75)、猫山遺跡(79)、西前遺跡(82)、櫛塚遺跡(97)などがある。

中期後半には中小規模の古墳が古墳群を形成するようになり、下張坪古墳群(63)、夏谷古墳群、沢ベリ古墳群、イザ原古墳群(88)、西山古墳群(73)、頭根後谷古墳群(128)などが知られている。また、中期から後期初頭にかけて、形象埴輪や器財形埴輪が出土しており、不入岡3号墳から家形埴輪、沢

ペリ5・7・8・9号墳(90)から男女各1体の人物埴輪や家形埴輪など、向山142号墳(57)から鶏や鹿形埴輪、西山2・8号墳から人物・馬形埴輪が出土している。

この時期の集落には、夏谷遺跡、不入岡遺跡(93)、頭根後谷遺跡などがあり、このうち、不入岡遺跡では作り付け竈を持つ中期の堅穴建物跡や渡来系軟質土器が出土し、夏谷遺跡では大壁建物が見つかるなど、国府川下流左岸域で渡来系文物が注目される。

後期には横穴式石室が盛んに造られるようになる。小鴨川中流域右岸に位置する径約30mの円墳の大宮古墳(36)は、倉吉市域で最も早く横穴式石室を導入したもので、中北部九州の影響が窺われる。その後この流域では、家ノ後口1号墳(34)、山際1号墳(40)、堀2号墳など形骸化した同様の石室を持つ古墳が造られる。首長墳にも横穴式石室が採用され、床面に仕切石によってコ字形の屍床が設けられている全長約40mの前方後円墳である向山6号墳(59)、切石を用いた大型の横穴式石室に石屋形を設けている三明寺古墳(56)、奥壁・両側壁・天井とも精良な切石を組み合わせた横穴式石室を持つ福庭古墳がある。横穴式石室を内包する古墳群には、郊家平古墳群(125)、向山古墳群(55)、養水古墳群(54)、上神古墳群(77)などがある。

この時期の集落には、西山遺跡、桜木遺跡などがあるが、調査例は少ない。

また、野口1号墳からは、装飾子持壺付装飾器台や七連坏付装飾器台を含む多量の須恵器、上野遺跡(18)では25個体の子持壺形須恵器、脚付子持壺形須恵器、谷畠遺跡(74)からは人形・動物形・鏡形土製品などの多様な祭祀遺物が大量に出土しており、いずれの出土遺物も国指定文化財となっている。

【飛鳥・奈良時代】

古代の倉吉地域は、「延喜式」によれば6郡からなる伯耆国に属し、そのうち河村郡・久米郡の一部がその領域となる。奈良時代になると久米郡に伯耆国守(105)や伯耆国分寺(101)、伯耆国分尼寺(法華寺畠遺跡)(102)が相次いで造られ、伯耆国の中核地であったことがわかる。伯耆国守はこれまでの発掘調査によって四時期の変遷が認められている。伯耆国分尼寺(法華寺畠遺跡)は、国守に付属する官衙の可能性も指摘されており議論となっている。また、近接して位置する不入岡遺跡からは大規模な掘立柱建物群が発見されており、官衙から倉庫群へ転換されたものとみられ、伯耆国直轄の税の集積施設と考えられている。

倉吉市域には、伯耆国分寺や国分尼寺以外にも古代寺院が建立されている。白鳳時代に創建された大御堂廃寺跡(50)は、觀世音寺式の伽藍配置をもつ山陰最大級の寺院跡で、瓦類や土器類をはじめ金属製品、木製祭祀具など豊富な遺物が出土している。出土した墨書き土器から「久米寺」と呼称されたものと推定される。大原廃寺跡は変則的な法起寺式の伽藍配置で、白鳳期の寺院跡では山陰最大級の塔心礎が出土している。奈良時代の寺院跡では、塔心礎と金堂跡と思われる基壇が残る四天王寺式の伽藍配置と推定される石塚廃寺跡(4)、礎石建物等が見つかった藤井谷廃寺跡が存在する。

この時期の集落には国分寺北遺跡(103)、鷦ノ掛遺跡(27)、向野遺跡、国府跡西側遺跡群(矢戸遺跡)、平ル林遺跡(68)、西前遺跡、小鴨道祖神遺跡(30)、觀音堂遺跡などがあり、堅穴建物と掘立柱建物から構成されている。このうち、国分寺北遺跡・鷦ノ掛遺跡では、規則的な建物配置が認められることから、国守に関連する施設の可能性が指摘されている。また、河原毛田遺跡(104)では約15mの間隔で平行する溝が見つかっており、古代山陰道の可能性が指摘されている他、向野遺跡でも道路遺構が検出されている。

この他、長谷遺跡では横穴式石室を模した石槨内に土器器製藏骨器2基に男女の火葬骨を納めた火葬墓が見つかっており、律令官人との関連が想定されている。

【平安時代】

平安時代には、小鴨川支流の広瀬川上流域に広瀬廃寺が建立される。池の周間に礎石建物を配置した「臨池伽藍」で、極楽浄土を表現したものと考えられている。その他、四王寺山山頂には貞觀9(867)年新羅海賊調伏のために建立されたと伝わる四王寺跡(116)が存在する。また、大日寺の裏山から出土したと伝えられる瓦経があり、延久3(1071)年と刻まれたものが存在する。

集落遺跡には、向野遺跡、擲塚遺跡、ドウ々平遺跡(31)などがあり、掘立柱建物などが見つかっている。打塚遺跡(98)からは11~12世紀と考えられる墳丘を持つ墳墓が見つかっている。山ノ下遺跡では平安時代終わり頃から鎌倉時代にかけての大型の掘立柱建物などが検出された。

【鎌倉時代】

鎌倉時代には、伯耆国守の在守官人と考えられる小鴨氏が、岩倉城を居城として一帯に勢力を拡げ、後に尼子氏や毛利氏の侵攻をうけて城の争奪戦を繰り広げた。岩倉城の出城で小鴨氏の家臣である岡田氏が拠ったとされるのが市場城(3)で、空堀や土塁がよく残っている。

【室町時代】

室町時代初期には、伯耆守護職にあった石橋氏から代わった山名氏が、田内城(53)・打吹城(47)を居城としながら守護大名へ発展していった。その後尼子氏・南条氏が台頭するまで山名氏が隆盛を誇り、倉吉市内では、山名寺、大岳院など山名氏に関わる旧跡が現在も残っている。また、小鴨道祖神遺跡などで、火葬骨を埋納した中世墓や溝で区画した墓も見つかっている。

【安土桃山時代】

安土桃山時代でも、戦乱に関わる遺跡が知られている。今倉城(29)は、天正7年(1579)吉川元春によって築城された小鴨城に対する向城といわれ、土塁・堀跡がよく残っている。近接して今倉遺跡(28)があり、15・16世紀ごろと考えられる掘立柱建物が27棟確認された。

参考文献

倉吉市 1956『倉吉市誌』

倉吉市史編集委員会編 1973『倉吉市史』

新編倉吉市史編集委員会編 1995『新編倉吉市史』

鳥取県 1975『表層地質図 青谷・倉吉』

各報告書は削除した。

第3章 山ノ下遺跡の調査成果

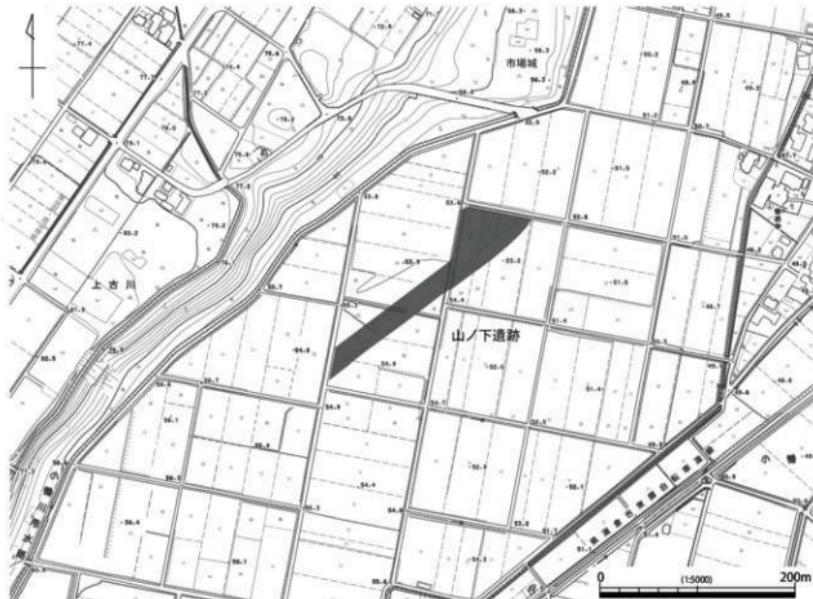
第1節 概要

山ノ下遺跡は、小鴨川西岸の河岸段丘上に位置する。遺跡の西側には天神野台地(通称)が近接する。現況は水田または畠が営まれており、調査地内は圃場整備等による削平により比較的平坦である。また、調査地東側には重機によるものと考えられる連続土坑状の掘削痕跡が認められる。この掘削深度はローム層である埴層(本章第2節)以下におよび、遺構面が破壊されている。

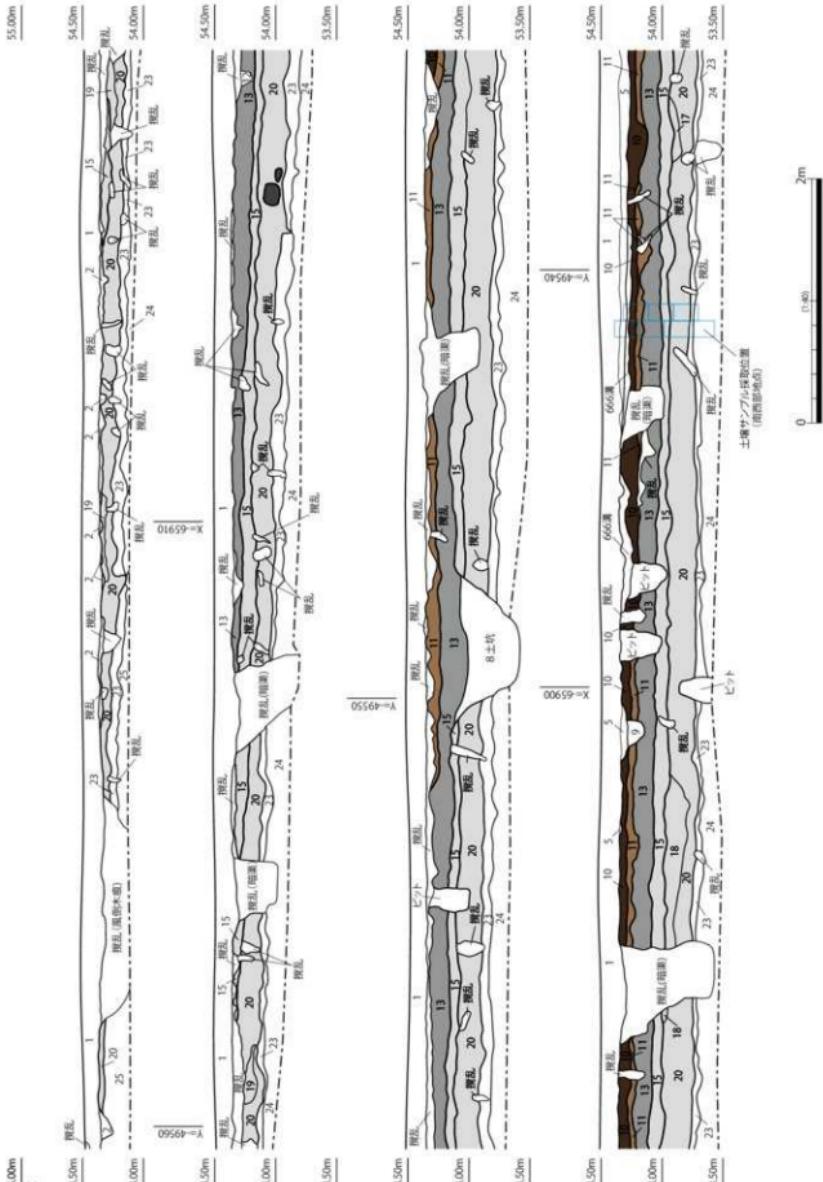
調査では、遺構検出面を5面(第1～5面)確認した。また、遺構の検出漏れを防ぐためにⅦ層(漸移層:本章第2節)下面を第6面とし、最終的な遺構確認面とした。遺構は中世後期以降の耕作関連遺構、平安後期から鎌倉時代前期に帰属する掘立柱建物18棟、弥生時代中期前葉の土坑等を検出している。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、中世須恵器、貿易陶磁器、国産陶器のほか、石器、土製品、鉄関連遺物などが出土している。

第2節 基本層序

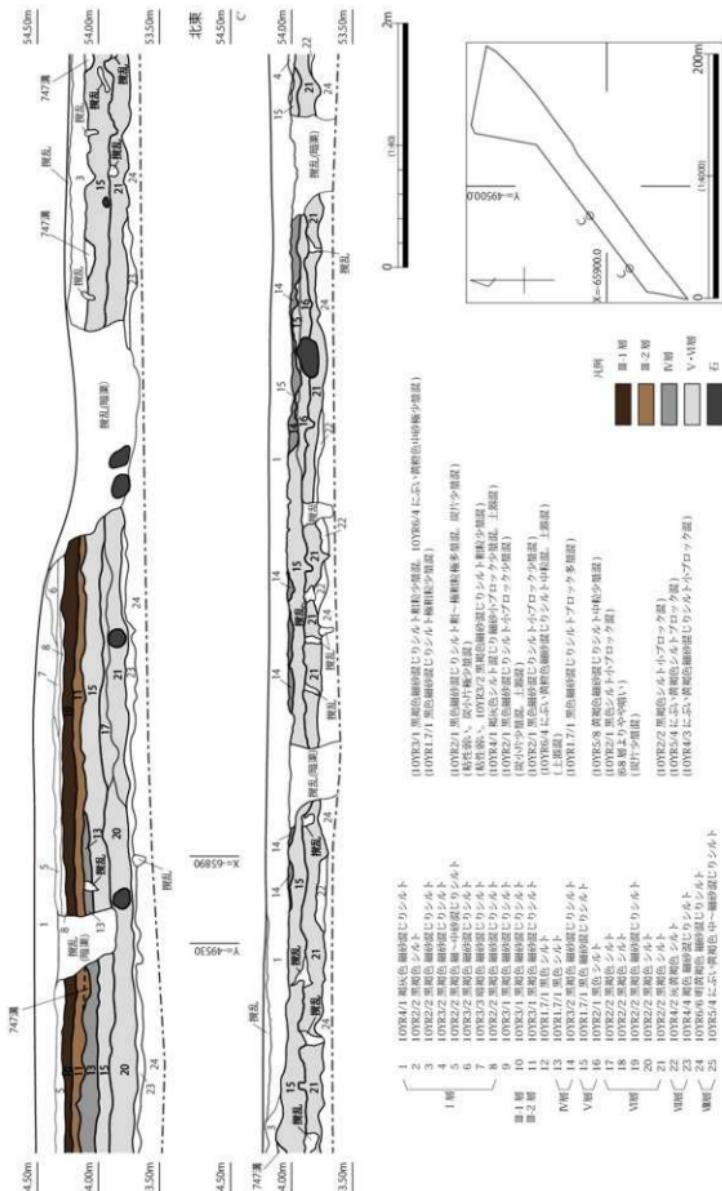
基本層序として8層を設定した。基本層序の把握にあたっては、表土掘削後に調査区南西部の西側



第10図 調査区周辺の地形図



第11図 東西トレンチ土層断面図 (1/2)



第12図 東西トレンチ土層断面図 (2/2)

壁面と、それを北東方向に延長した部分にトレンチを設けて東西トレンチとした。さらに、北東部で東西トレンチに直交するトレンチを設定して南北トレンチ1とし、南西部では圃場整備時に設置された東西方向にのびる暗渠を利用した南北トレンチ2を設定した。これらのトレンチを利用して土層観察を行い、地形及び土層の堆積状況を確認して写真記録並びに断面図作成を行った(第11~15図、図版3~5)。

なお、南北トレンチ2については、当初は東西トレンチに直交させ、南北トレンチ1と平行するよう配置する計画であったが、調査の進捗に伴って南北トレンチ2の設置想定地が暗渠等による搅乱が顕著であることが判明したためトレンチ設定位置を変更して暗渠を利用したものである。

当該調査区は南から北に向けて緩やかに傾斜する地形であるが、圃場整備等の削平により地表付近は大きな改変を受けており、調査地内には地山であるローム層(VII層)まで削平が及び、現在の耕作土を除去するとローム層が露出する場所も存在していたため、調査区を通じた堆積状況の把握はできなかった。

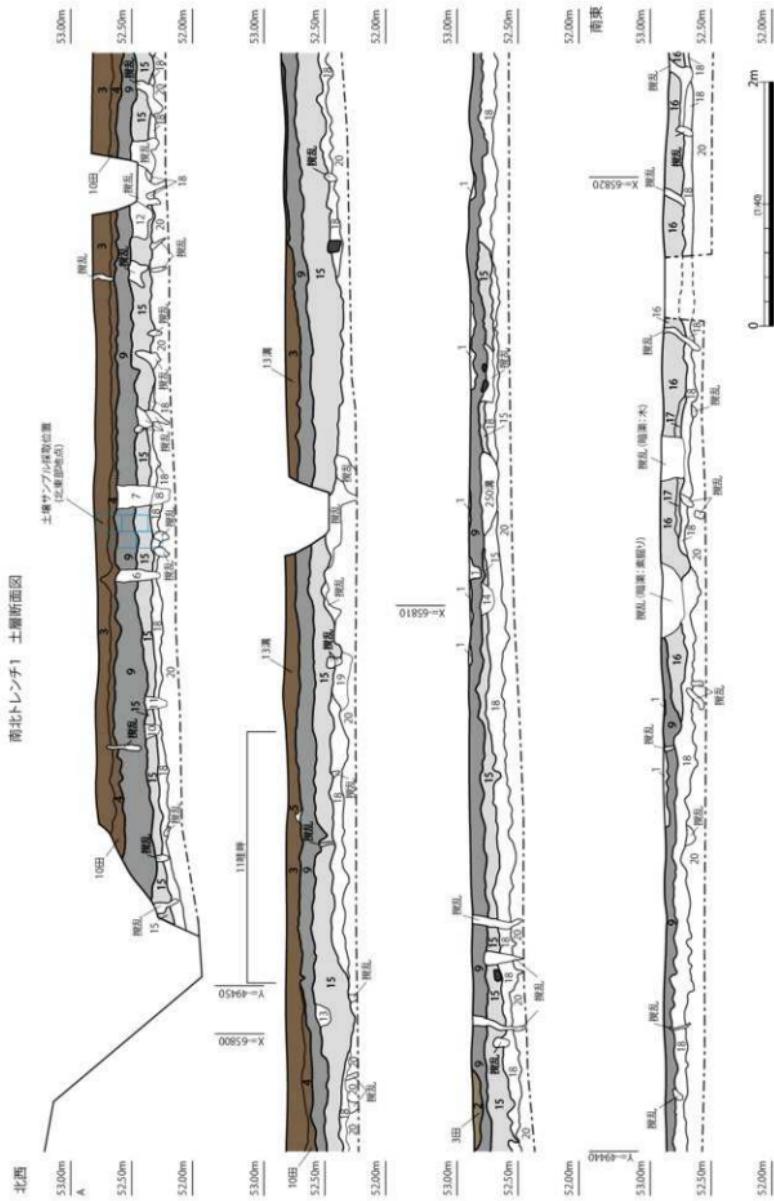
以下、その結果について報告する。

I層 現在の耕作土およびその床土である。圃場整備時に造成されたものであり、発掘調査着手に先立ち、重機による除去を行った。調査では、本層の下面を第1面とした。

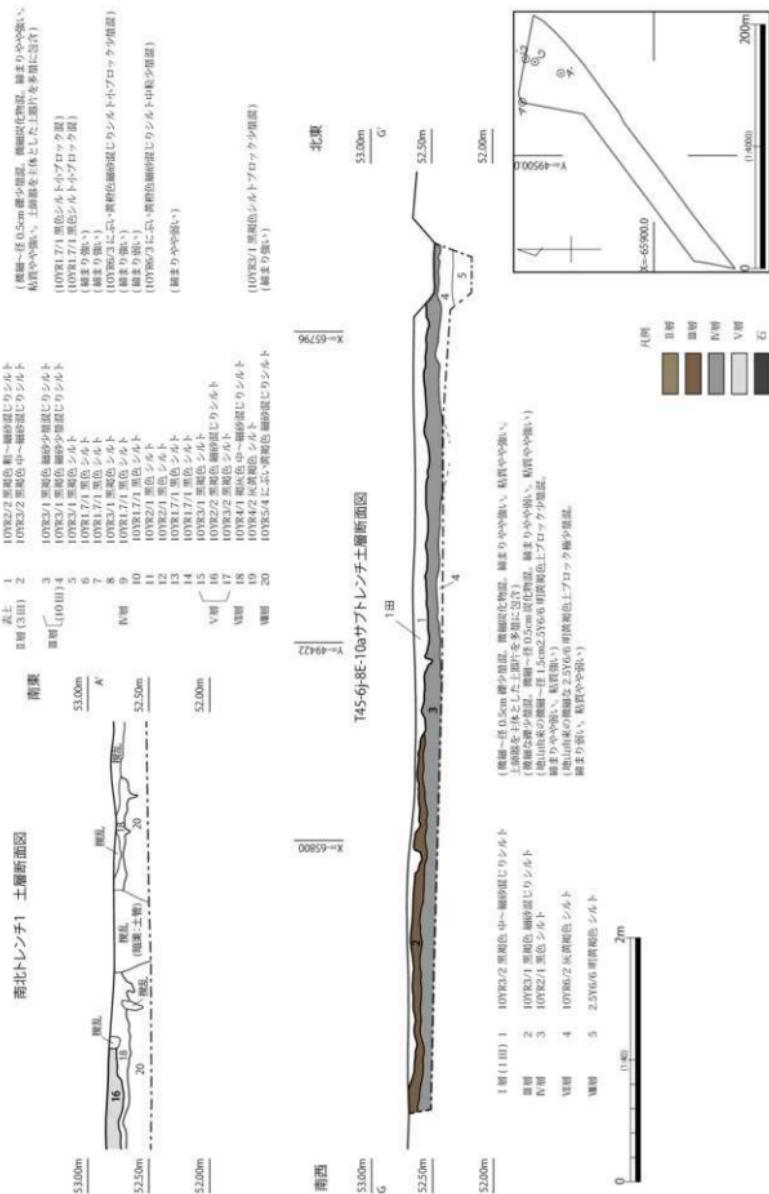
II層 匠場整備実施以前に存在した旧耕作土及びその直下に堆積した鉤床層と考えられる層である。ただし、削平により堆積状況を明瞭に確認できるところはなく、III層を切り込む遺構埋土として確認した(1~3田等)。微細な礫を比較的多く含み、淡い黒褐色で中砂~細砂が混じるシルト層を基本とする。微細な炭化物を含み、中世に帰属する土師器を主体とした土器の細片が多量に出土した。北東部では、本層の下面を第2面とした。

III層 本層は調査区北東部北側と南西部中央付近に堆積し、黒褐色を呈する細砂混じりのシルト層を基本とする。北東部に堆積するIII層は搅拌された土壤であり、III層の下位はIV層を切り込む耕作関連遺構(10田等)の埋土となる。南西部ではIII層が細分でき、上層をIII-1層、下層をIII-2層とした。III-1層は土器の小片や炭化物ブロックが混入する締まりが強い堆積であり、人為的な堆積と考える。III-2層は北東部で検出したIII層と色調が類似するが、後世の削平によりIII層との繋がりは確認できない。III層からは陶磁器、瓦質土器、土師器、須恵器の細片が出土しており、中世前期以降に堆積したものと考える。III-1層、III-2層からは、11世紀後半から12世紀に帰属する土師器皿・壺のほか、柱状高台が一定量出土している。包含する出土遺物を観察する限り、北東部に堆積するIII層と南西部に堆積するIII-1層、III-2層とは堆積時期に隔たりがあるものと考える。北東部の調査では、III層の下面を第3面および第4面とした。また、南西部の調査では、III-1層上面を第2面、III-2層の下面を第3面および第4面とした。

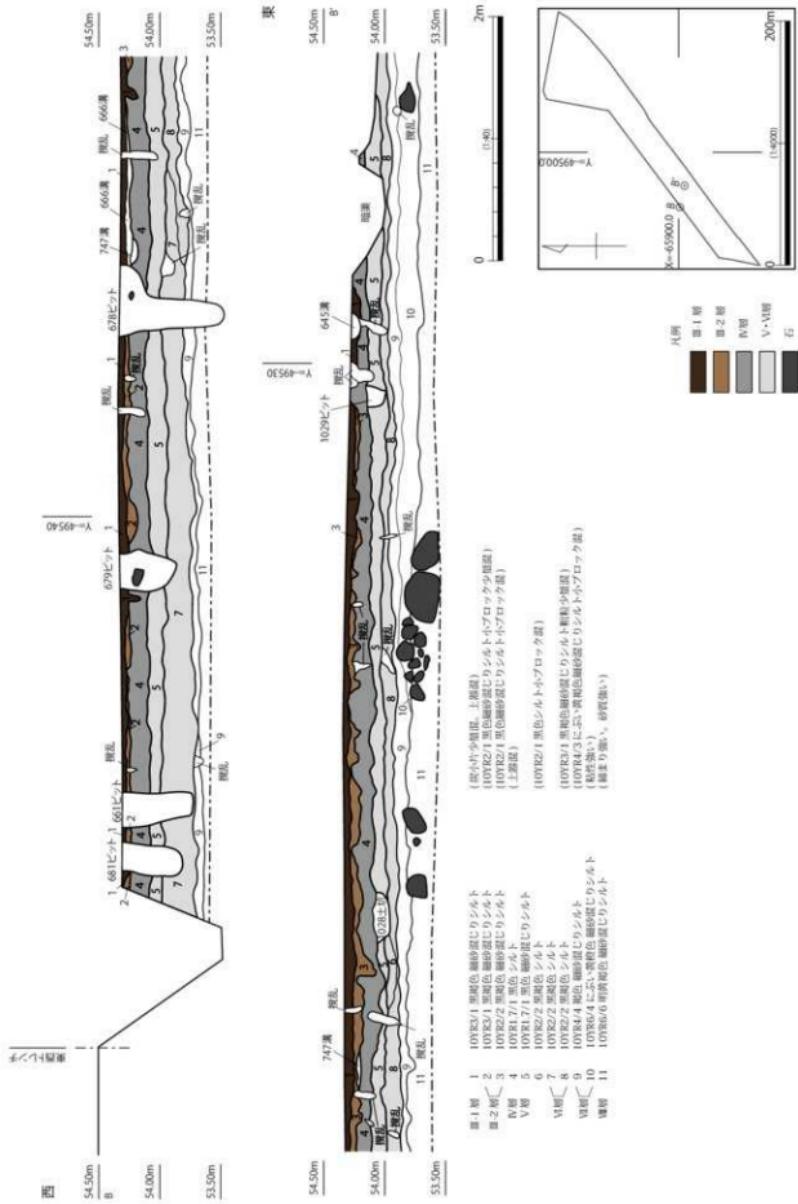
IV層 黒色を呈するシルト層である。本来は調査区全面に存在していた可能性が高いが、後世の削平や地形改変を受けているため、IV層が遺存していたのは調査区の半分程度であった。当層から弥生土器が出土しており、本層上面にて平安後期の遺構を検出していることから、弥生時代から平安後期ま



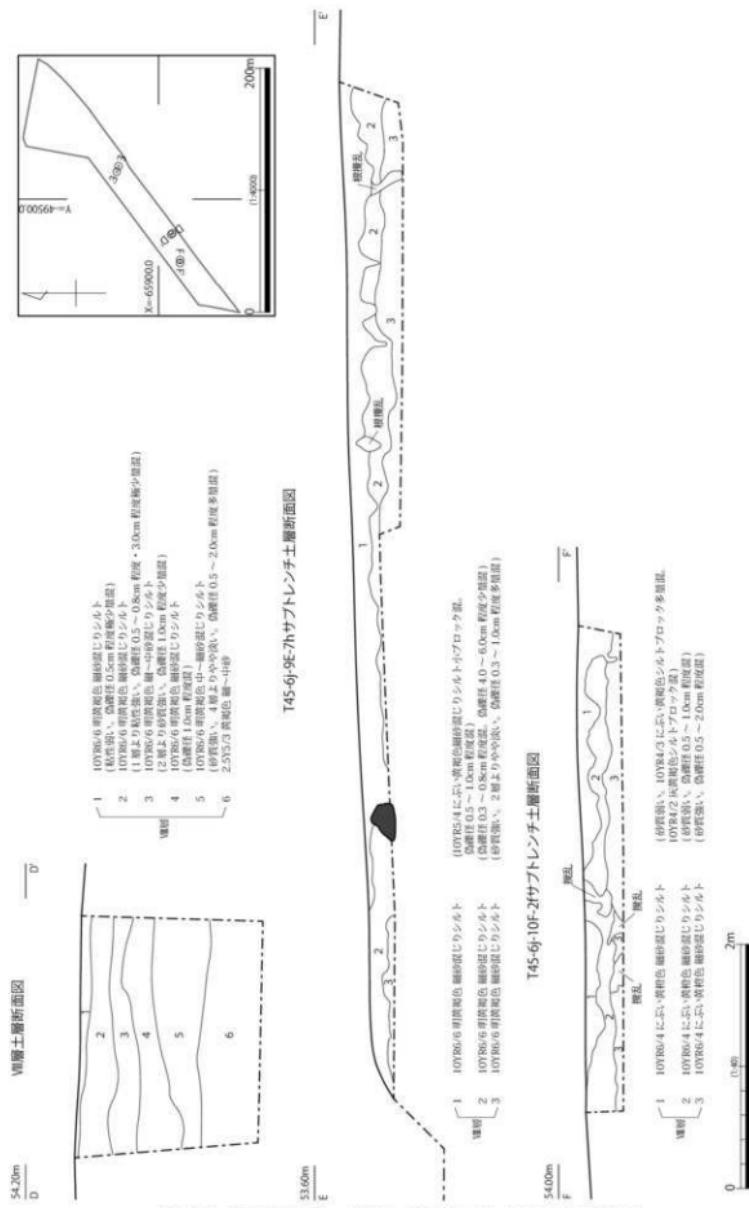
第13図 南北トレンチ1土層断面図 (1/2)



第14図 南北トレンチ1土層断面図（2/2）



第15図 南北トレンチ2土層断面図



第16図 T45-6j-9E-7h・T45-6j-10F-2fサブレンチ土層断面図

でに形成されたものと考える。調査では、本層の下面を第5面とした。

V層 黒色で細砂混じりのシルト層を基本とする。色調はIV層と比べてやや濃く、細砂が混じる点と土の縮まりが弱い点で区別した。V層は調査区全面には遺存していなかった層で、北東部西側と南西部中央付近の地形がやや窪む場所でのみ検出した。本層上面(第5面)では弥生時代中期前葉に帰属する遺構を検出しておらず、本層はそれ以前に形成されたものと考える。遺物は出土しておらず、本層以下、無遺物層となる。

VI層 黒褐色を呈するシルト層を基本とする。南西部のV層下面で検出したが、V層とVI層は色調が異なるがその変化は漸移的であり、層界は明確ではない。なお、北東部のV層についても下部は色調が淡く黒褐色に近くなっていたためVI層とすべきであったが、調査時には明確な層界を認識できなかつたため分層していない。

VII層 褐色で細砂混じりのシルト層を基本とし、VII層に由来する細砂混じりシルトの小ブロックが混じる漸移層である。そのため、堆積的にはV層の一部であるが、便宜的にVII層として分離した。なお、遺構の認識漏れを防ぐため、本層下面を最終の遺構確認面とし、第6面とした。そのため、第6面に帰属させて報告している遺構も本来は第1面から第5面のいずれかに帰属する遺構である。

VIII層 ぶい黄橙色の細砂混じりシルト層を基本とするローム層であり、二次的な堆積と考える。本遺跡では旧石器と考えられる剥片が出土していることから(S2・9)、確認のために旧石器出土グリッドにトレッチを設定しVII層の掘削を行ったが、遺構・遺物は検出していない(第16図)。

第3節 検出した遺構と遺物

第1項 第1面の調査

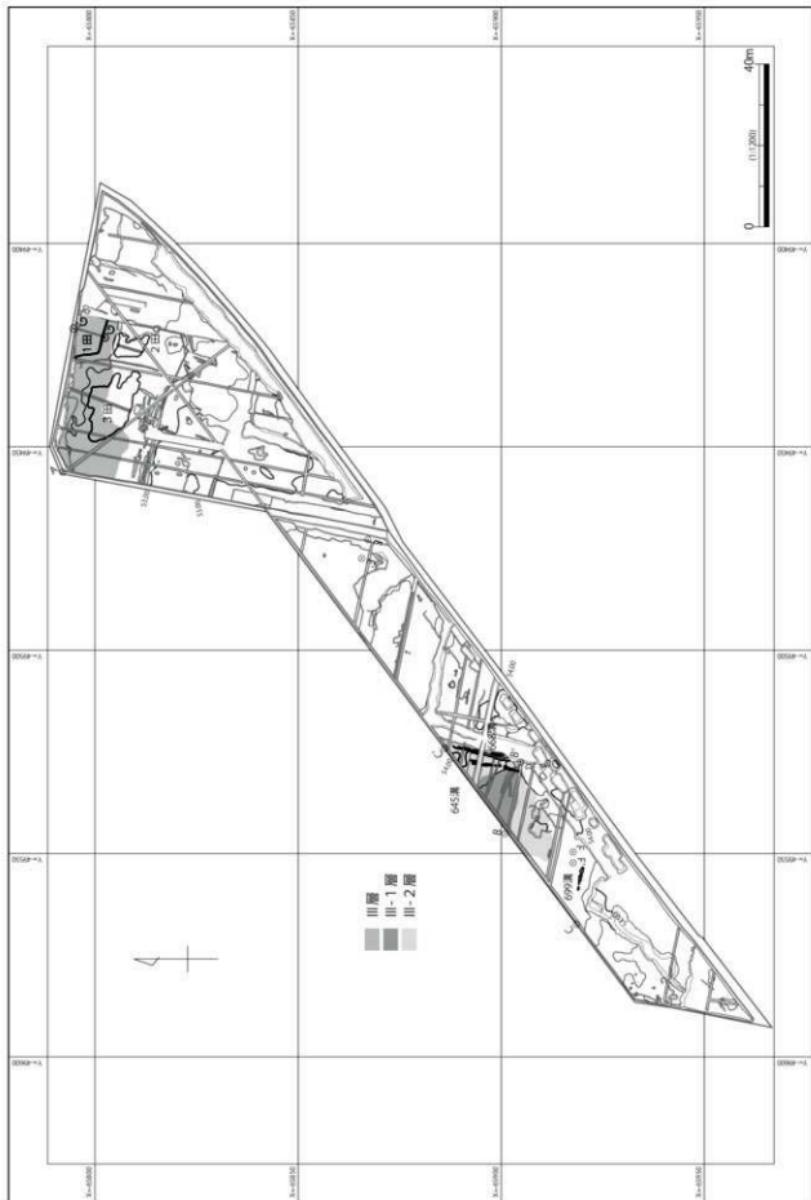
1 概要

調査区北東部北側において、I層(表土)直下でII層の堆積範囲を確認した。当初はII層を包含層として考えていたが、調査の結果、II層は田んぼ(1~3田)の耕作土であることが確認でき、第1面の遺構とした。また、北東部、南西部のI層直下で検出した遺構のうち、II層に近似した埋土が堆積する遺構についても合わせて第1面の遺構として掲載する。検出した溝についても、645溝と668溝がほぼ平行し、699溝がこれらに直交する走向を示すことから、耕作に関連する遺構群である可能性が高いと考える。

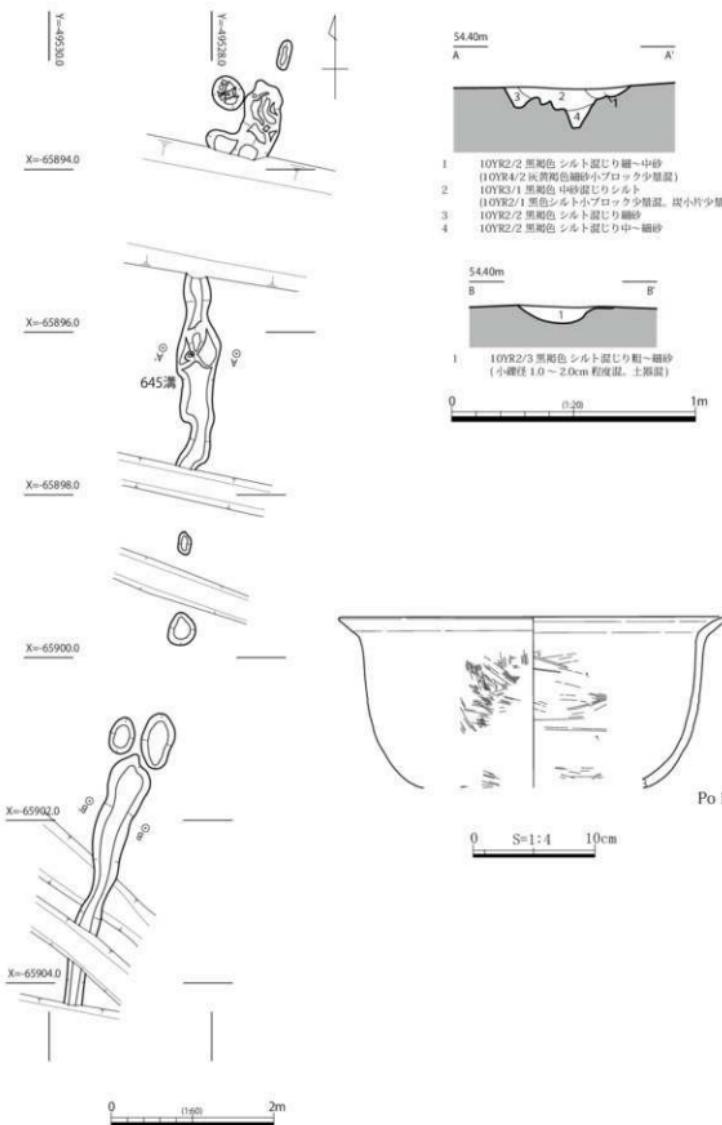
2 検出した遺構と遺物

645溝 (第18図、図版6・62)

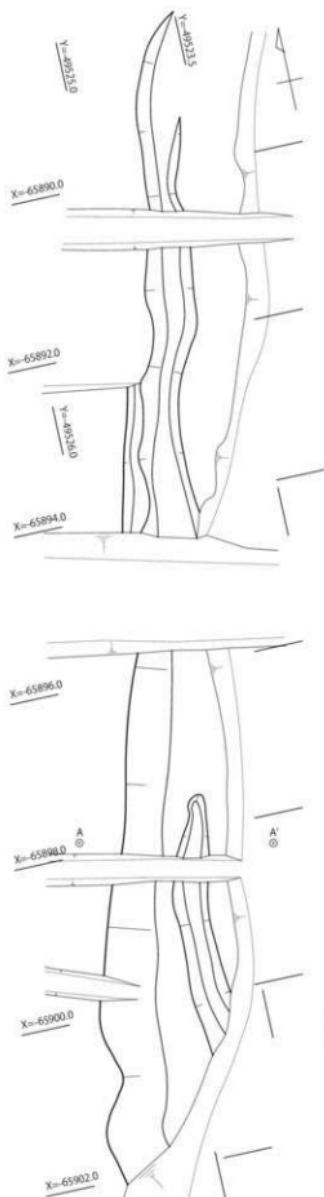
南西部中央付近に位置し、I層除去後にIII-2層上面で検出した溝である。削平を受けているため遺存状態は悪いが、形状はほぼ直線状であり、主軸はN-13°-Eである。検出した長さ約12.2m、幅0.2~0.5



第17図 第1面全体図



第18図 645溝遺構図・出土土器



mを測り、検出面からの深さは7~16cmである。埋土は黒褐色でシルト混じりの細砂から粗砂を主体としており、流水環境のもとで堆積したことが想定される。

遺物は、埋土中よりPo1土師器鍋が出土している。Po1は直線的に外傾する口縁をもち、外面はハケ、内面はケズリの後ハケおよび工具によるナデによって調整されている。

本遺構の帰属時期は、出土遺物より判断し、12世紀から13世紀前半頃と考えられる。

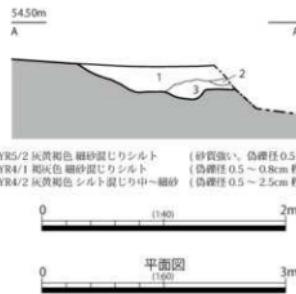
668溝（第19図）

南西部中央付近、645溝の約1.5mにはほぼ平行する溝で、主軸はN-12°-Eである。I層除去後にIII-2層上面で検出した。東側に存在していた圃場整備前の現代水路により、

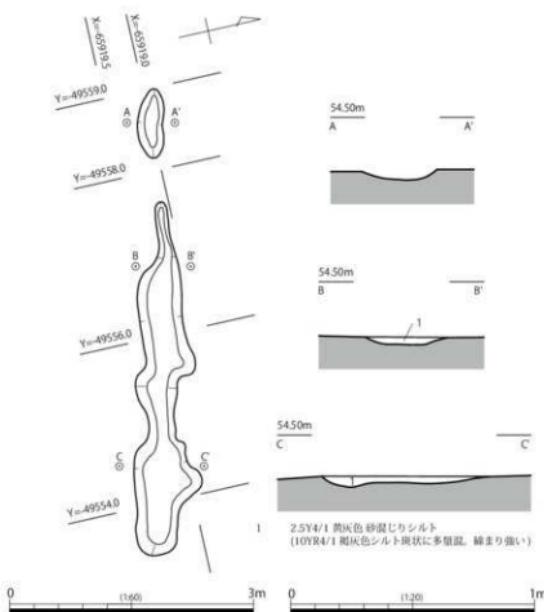
第1表 第1面遺構計測表

No.	地区 T-45-4p	断面			北面の標高 (m)	主軸方位	備考
		底面 (m)	幅 (m)	厚さ (m)			
645	W'-E' 10m, W'-E' 12m	12.2 11.1	0.2~0.5	7~16	北端: 54.10 南端: 54.20	N-12°-E	
668	W'-E' 9~10m, W'-E' 12m	14.3 11.1	0.4~1.3	7~27	北端: 53.89 南端: 53.94	N-12°-E	
689	10F-2・3	5.7	0.3~0.7	4	東端: 54.29 西端: 54.24	N-28°-W	

No.	地区 T-45-4p	断面			北面の標高 (m)	主軸方位	備考
		底面 (m)	幅 (m)	厚さ (m)			
1	SE-10m・e, SE-12m・e	11.0 11.1	6.6±1.1	10	東端: 52.56 西端: 52.57	N-24°-W	
2	SE-1-2c, SE-4-2d	17.8 11.1	5.6±1.1	5	北端: 52.75 南端: 52.74	N-24°-W	ウシとみられる埋 込み標出
3	SE-10d・e, SE-4-2d	10.8 11.1	7.0±1.1	7	東端: 52.80 西端: 52.78	N-27°-W	ウシとみられる埋 込み標出



第19図 668溝



第20図 699溝

東側部分が削平されていたため本来の規模は不明であるが、検出した範囲で長さ約14.3m、幅0.4~1.5m以上を測り、検出面からの深さは7~27cmである。

埋土は灰黄褐色または褐灰色で細砂混じりシルトを主体とするが、砂質の強い層や径0.5~2.5cm程度の偽蹕を多く含む層があり、流水環境のもとで堆積したことが想定される。

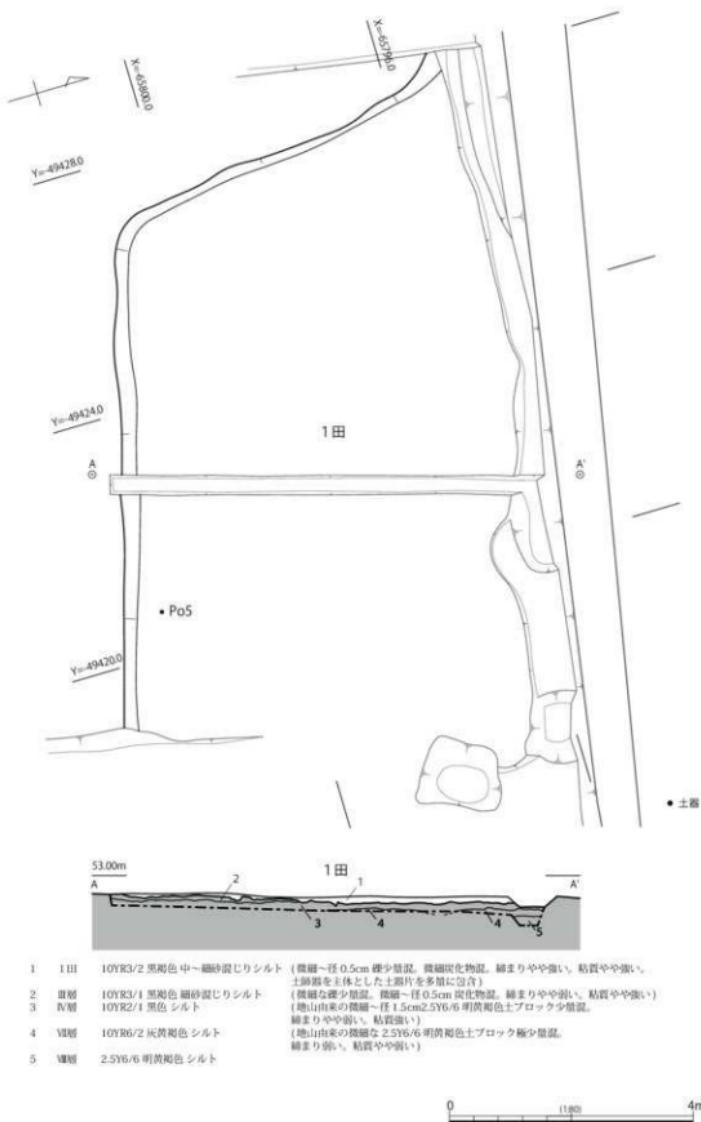
遺物は土師器細片のみで時期の判断できるものはないが、埋土の状況から第1面に帰属する遺構と判断した。

699溝（第20図）

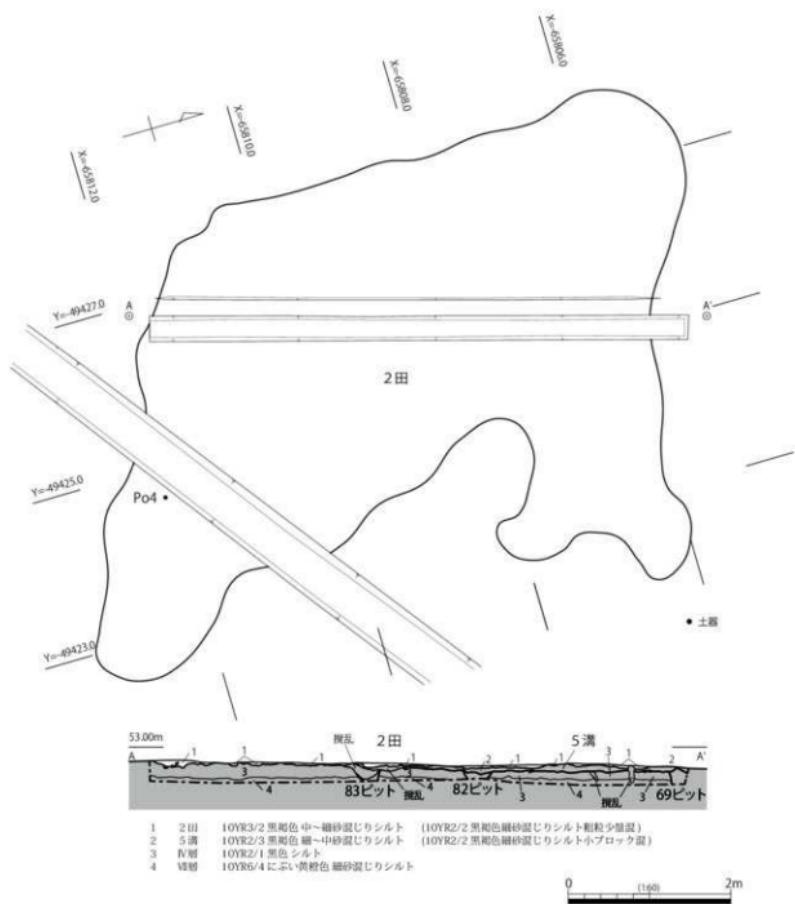
南西部やや南寄りに位置し、I層除去後にV層上面で検出した溝である。削平を受けているため遺存状態が悪く途切れた部分があるが、ほぼ直線状に延びており、主軸はN-78°-Wである。検出した長さ約5.7m、幅0.3~0.7mを測り、検出面からの深さは4cmである。

埋土は黄灰色で砂混じりシルトを主体とする単層である。

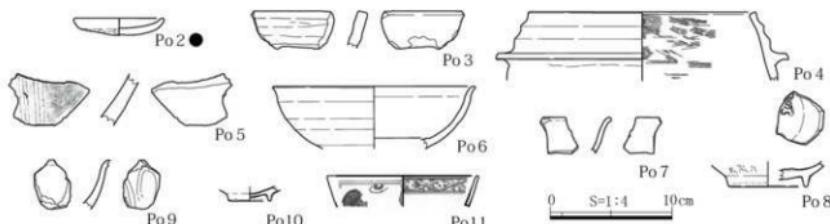
遺物は土師器細片のみで時期の判断できるものはないが、埋土の状況から第1面に帰属する遺構と判断した。



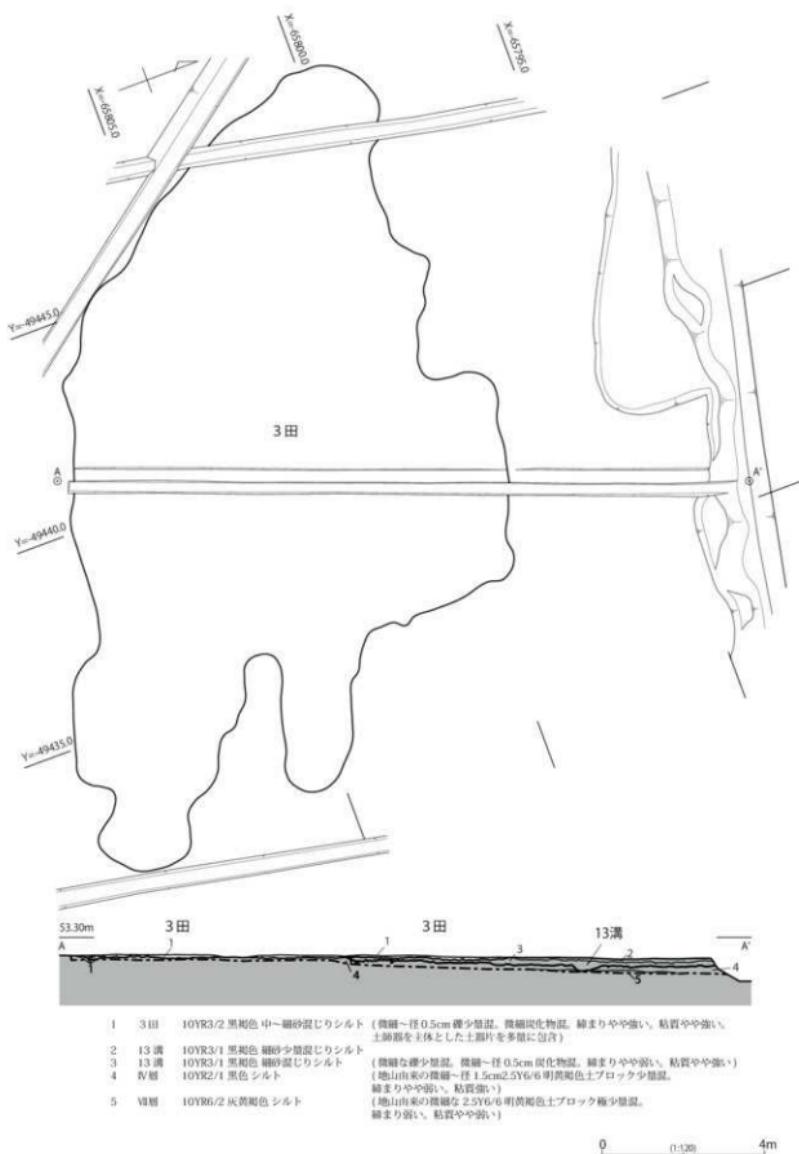
第21図 1田



第22図 2田



第23図 1～3田出土土器



第24図 3田

1～3田（第21～24図、図版7・8・62・77～81）

調査区北東部のⅠ層直下・Ⅲ層上面において検出した。相互の位置関係から関連性の高い遺構群であり、同時期の水田域を形成していたものとみられる。圃場整備により、これらに伴う畦畔等は削平されており、僅かに田んぼの基底部のみが遺存したものである。なお、1～3田の埋土は、基本増序のⅡ層に該当する。

1田の北側は調査区外となり、現代の用水路により削平されている。検出した範囲の平面形は長方形を呈し、検出面の規模は長辺11.0m×短辺6.6m、検出面からの深さは10cmを測る。埋土は黒褐色を呈する砂混じりシルトであり、微細な礫や炭化物が混じる（第21図1層）。

2田の平面形は不定形を呈し、検出面の規模は長軸17.8m×短軸5.0mを測る。明確な掘方は認められず、黒褐色を呈する砂混じりシルトが（第22図1層）が最大5cmの厚さで堆積する範囲を確認した。2田1層下面には、ウシと思われる偶蹄目の足跡を多数検出した。足跡の形状は不明瞭なものが多く、足跡の方向に規則性は認められない。

3田の平面形は不定形を呈し、検出面の規模は長軸17.8m×短軸10.8mを測る。明確な掘方は認められず、黒褐色を呈する砂混じりシルト（第24図1層）が最大7cmの厚さで堆積する範囲を確認した。3田1層下面には、ウシと思われる偶蹄目の足跡を多数検出した。足跡の形状は不明瞭なものが多く、足跡の方向に規則性は認められない。

遺物は、Po2・3・5が1田、Po4・7が2田、Po6・8～11が3田より出土している。Po2は手づくね成形の土師器皿で、底部から緩やかに立ち上がる口縁部をもつ。Po3は瓦質土器の鍋、Po4は羽釜である。Po4は口径の小さい羽釜であり、口縁部外面には強いヨコナデによって陵が形成され、内面はハケにより調整される。Po5は備前焼の可能性がある陶器の擂鉢である。Po6・7は白磁であり、Po6が椀V2a類、Po7の椀が森田E群に該当する。Po8～10は龍泉窯系青磁である。Po8は坏Ⅲ4b類、Po9は椀Ⅳ類または上田BII類、Po10は小椀Ⅲ類に該当する。Po11は染付碗で小野E群に該当する。

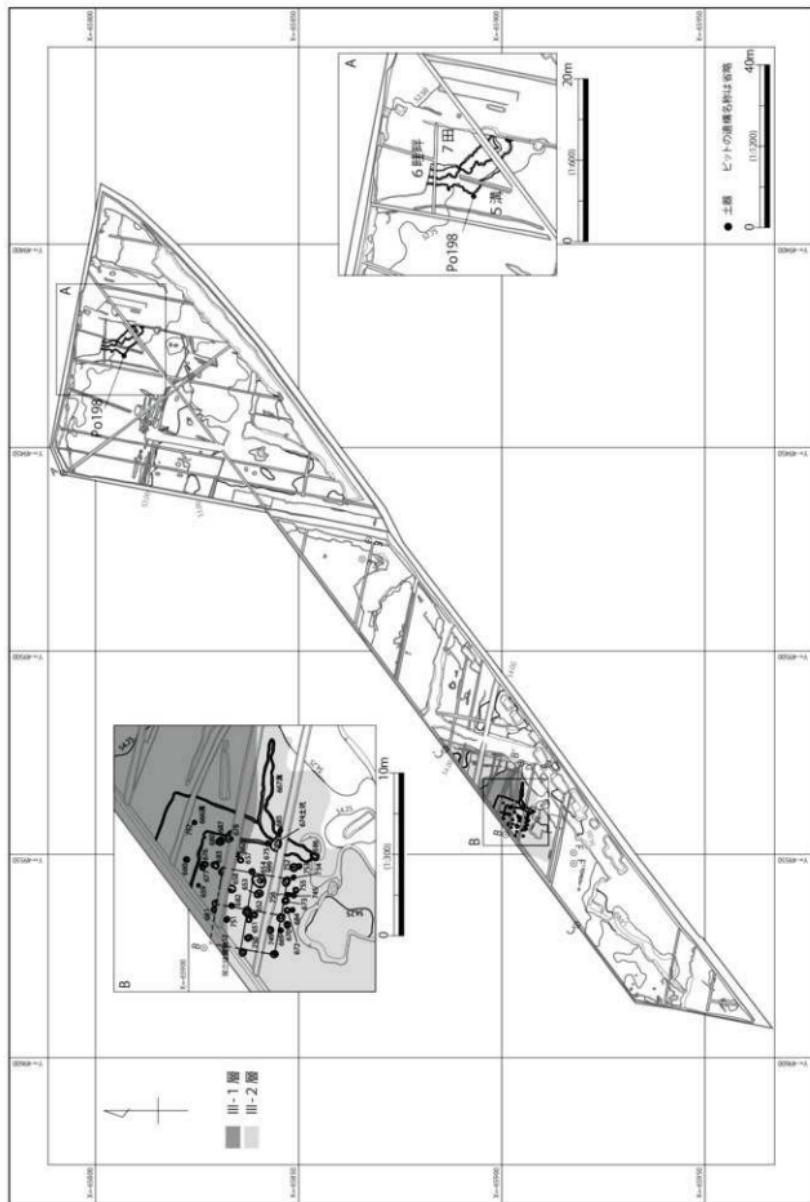
1～3田の機能時期は、出土遺物（Po11）より判断し、16世紀中頃以降と考えられる。

第2項 第2面の調査**1 概要**

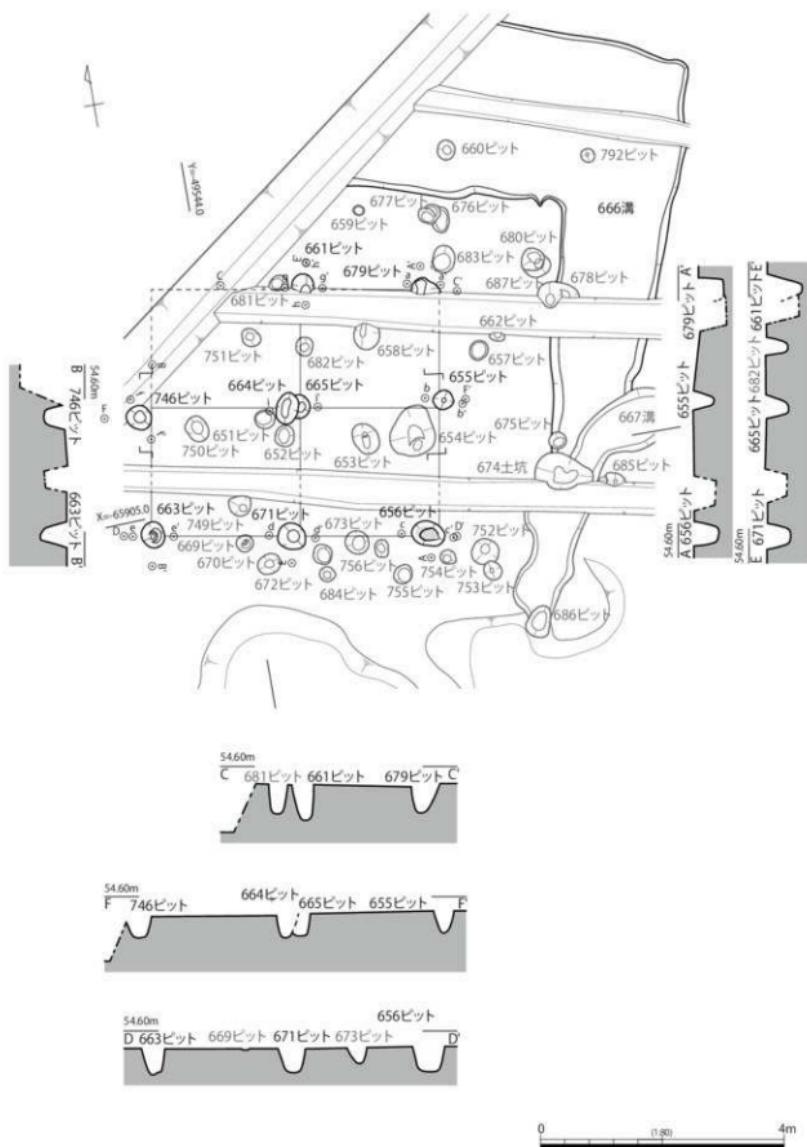
I・II層を掘削したのち、北東部ではⅢ層上面、南西部ではⅢ-1層上面で検出した遺構群である。また南西部において、Ⅲ-1層以下で検出した遺構についても、Ⅲ-1層上面で検出した遺構の埋土と類似するものについては第2面の遺構として扱うこととした。掘立柱建物のほか、土坑や耕作関連遺構等を検出している。

2 検出した遺構と遺物**掘立柱建物12（第26～29図、図版9～11・63・64・79・82）**

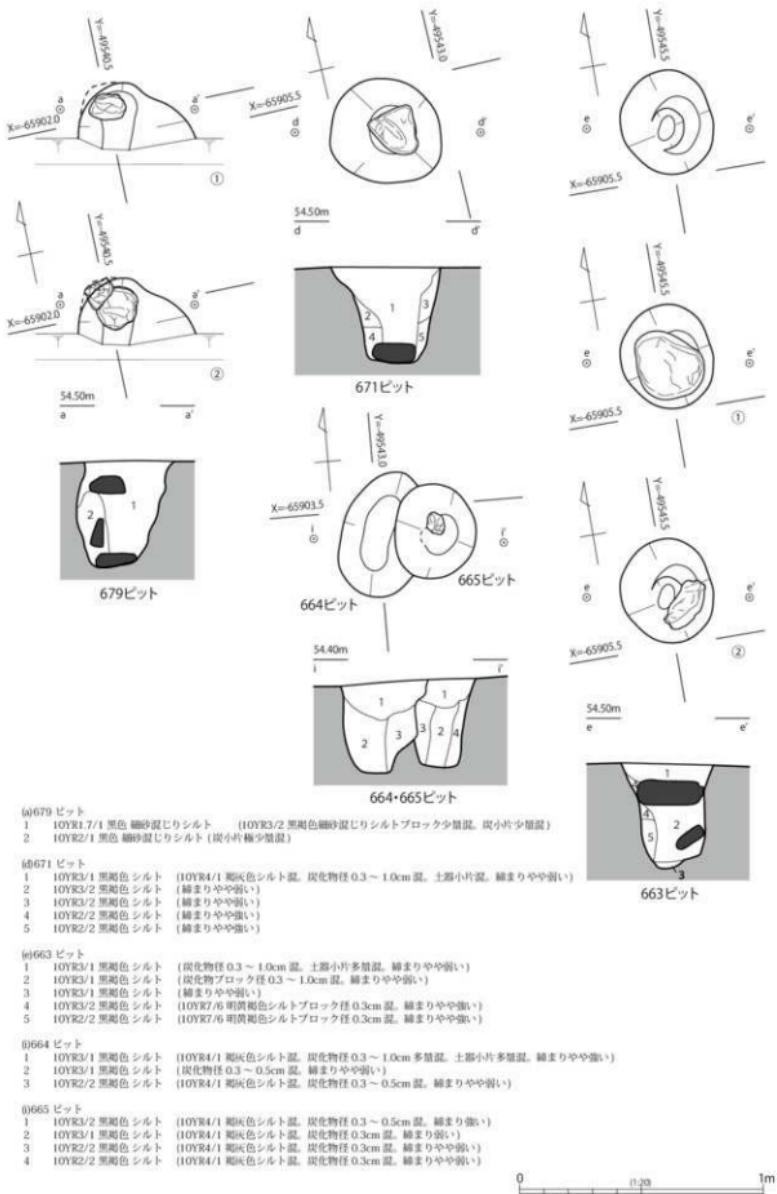
掘立柱建物12は、655・656・661・663～665・671・679・746ピットと666溝によって構成されている。本建物は調査区南西部西側の調査区に位置し、桁行2間（4.5m）以上、梁行2間（4.1m）の総柱建物であり、主軸はN-80°-Wである。666溝は建物北側桁行と東側梁行に沿うような「L字状」の平面形



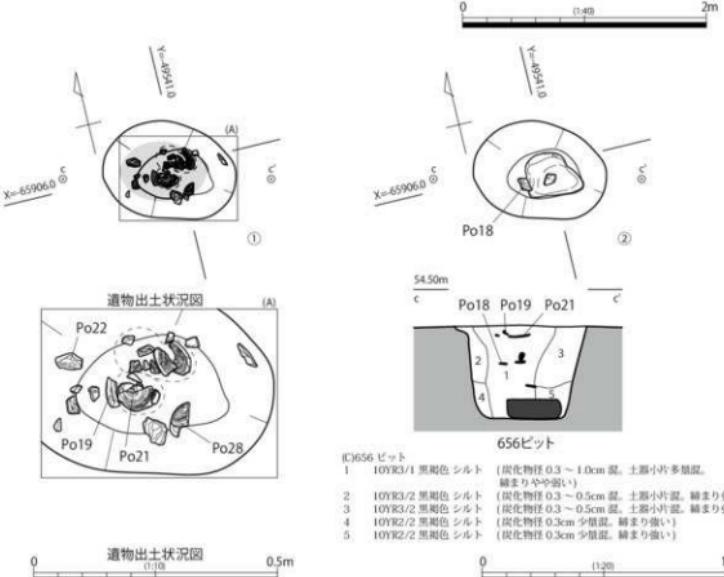
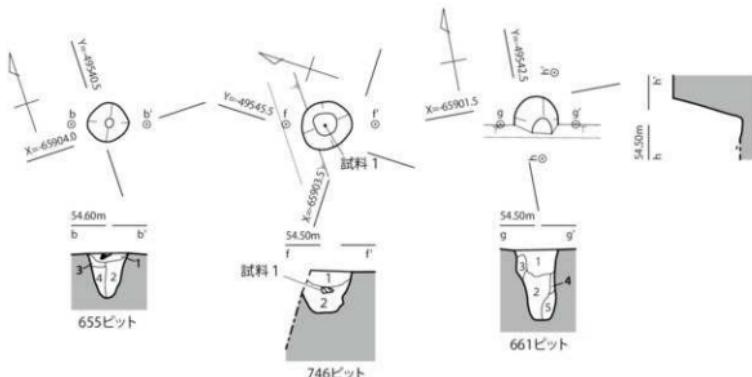
第25図 第2面全体図



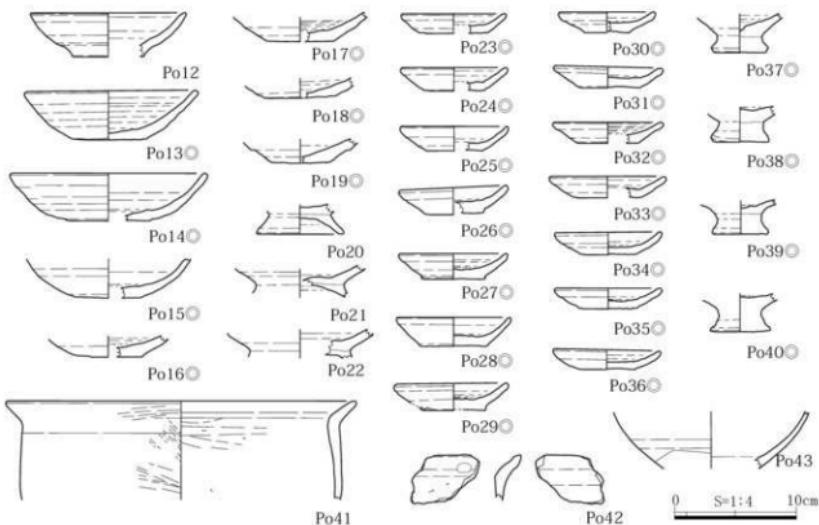
第26図 掘立柱建物12 666溝



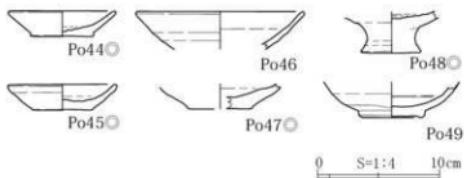
第27図 掘立柱建物12 663~665・671・679ピット



第28図 堀立柱建物12 655・656・661・746ピット



第29図 捜立柱建物12出土土器



第30図 667溝出土土器

第2表 捜立柱建物12遺構計測表

No.	施設 (m)	高さ (m)	底面の標高 (m)	柱根脚直径 (m)	柱のあたり 直径 (m)	備考
655	35	35	50	54.30	—	—
656	34	40	49	53.07	—	壁堅石
661	37	30.1	57	54.11	—	—
663	42	37	42	51.69	12	—
664	32	35	37	53.94	—	663「東側」
665	32	33	36	54.06	—	664「東側」
671	47	43	39	53.92	—	壁堅石
679	48	27.1	43	53.84	—	壁堅石
746	41	37	34	54.22	—	柱脚(試料)

No.	施設	長さ (m)	幅 (m)	高さ (m)	底面の標高 (m)	主軸方位	備考
666	48m D.L.	13~2.6m	2~6m	西端: 54.19 東端: 54.25	西端: N 30° W 東端: N 32° E	北に向かって直線的に伸び、西に傾斜を有する	—

柱脚寸法(施行範囲)

No.	柱脚寸法 (m)
746-655	5.0
663-656	4.5

柱脚寸法(施行範囲)

No.	柱脚寸法 (m)
679-606	4.1
661-671	4.1

柱脚寸法(施行方向)

No.	柱脚寸法 (m)
661-679	2.0

柱脚寸法(施行方向)

No.	柱脚寸法 (m)
679-606	2.2

柱脚寸法(施行方向)

No.	柱脚寸法 (m)
746-664	2.4

柱脚寸法(施行方向)

No.	柱脚寸法 (m)
663-664	2.0

柱脚寸法(施行方向)

No.	柱脚寸法 (m)
664-655	2.6

柱脚寸法(施行方向)

No.	柱脚寸法 (m)
663-671	2.1

No.	柱脚寸法 (m)
746-691	2.0

を呈していることから、建物と一連の遺構と判断した。

なお、本遺構の周辺にのみ分布するⅢ-1層は締まりが強く、弥生土器や土師器片、炭化物を多量に包含する人為的な堆積で、本建物造営時の造成土の可能性が考えられる。

掘立柱建物12を構成する柱穴（第27・28図、図版9・10）

次に、建物を構成する柱穴について記述する。655・656・661・663～665・671・679ピットはⅠ層下面・Ⅲ-1層上面において検出し、746ピットはⅢ-1層掘削中に検出している。ピットの平面形は円形を呈す。検出面での規模は長軸35～54cm、短軸32～43cmを測る。検出面からの深さは34～57cmを測り、底面の標高は53.73～54.06mである。柱間寸法は桁行方向が1.96～2.64m、梁行方向が1.95～2.22mである。柱は抜き取られているものが多く、抜き取り痕跡中より土器や拳大から人頭大の礫が出土している。また、656・671・679ピット底面には礎盤石が出土している。746ピットからは柱材とみられる木材（試料1）が埋土2層上面に横転するような状態で出土している。試料1について樹種同定を行った結果、スギと同定されている（第5章第1節）。

666溝（第31・32図、図版11）

掘立柱建物12の北辺・東辺に沿う666溝は、建物からは約1.8～1.9mの距離をおいて位置する。Ⅰ層下面・Ⅲ-1層上面において検出し、検出面での幅は1.3～2.8m、検出面からの深さは3～6cmを測り、逆台形の断面形状を呈す。埋土は黒褐色を呈する細砂混じりシルトであり、ラミナ構造は確認できず、流水の環境下とは認められない。

溝内からは比較的遺存状態のよい土器が出土しており、ほぼ完存する土師器Po26・29～31・34・36は重ねられたような出土状況を示す（第31図A）。

掘立柱建物12出土遺物（第29図、図版63・64・79・82）

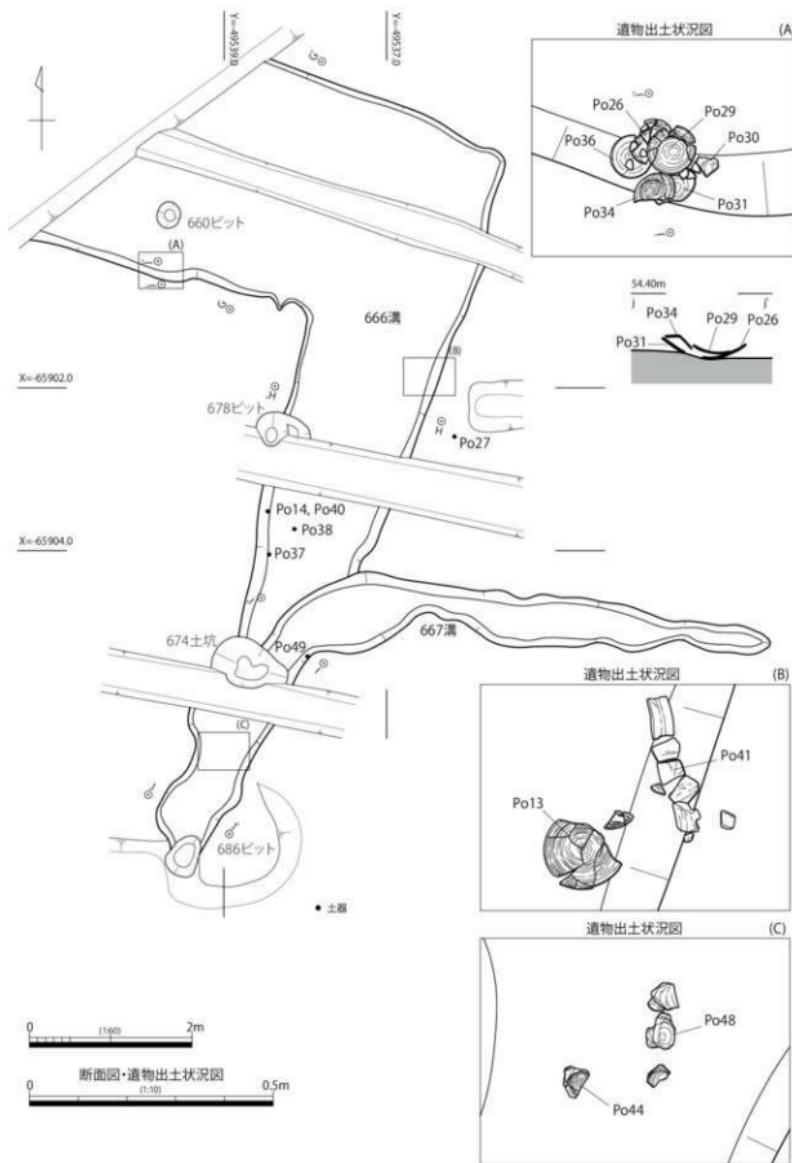
出土遺物はPo12～43を図化した。Po15・18～23・28・35は656ピット、Po25は665ピット、Po42は679ピット、Po12～14・16・17・24・26・27・29～34・36～41・43は666溝より出土している。

Po12～19は回転台土師器の坏である。器形には、口縁部が内湾するPo12～16、直線的なPo17～19がある。Po12～14は器高に大きな差はないが、口径はPo12が12.6cm、Po13が13.8cm、Po14が15.7cmを測り、バリエーションが認められる。Po20～22は高台付坏である。大きさには幅があるが、いずれも外方に張り出す高台をもつ。Po23～36は皿である。Po23～29・31～33は直線的に立ち上がる口縁部をもち、口径8.4～9.3cm、底径4.7～5.6cm、器高1.6～2.4cmを測る。Po34～36は、内湾する口縁部をもち、8.4～8.6cmの口径に対し、器高は1.7～1.9cmを測る浅い器形である。Po30は、7.6cmの口径に対して、底径は3.6cmと小さい。Po26・27・29～32・35は、口縁外面の端部やや下に、回転ナデによつて形成される稜が顕著に認められる。Po37～40は柱状高台である。底径に大きな差はないが、Po37は受け部の立ち上がりが他のものと比べ急である。

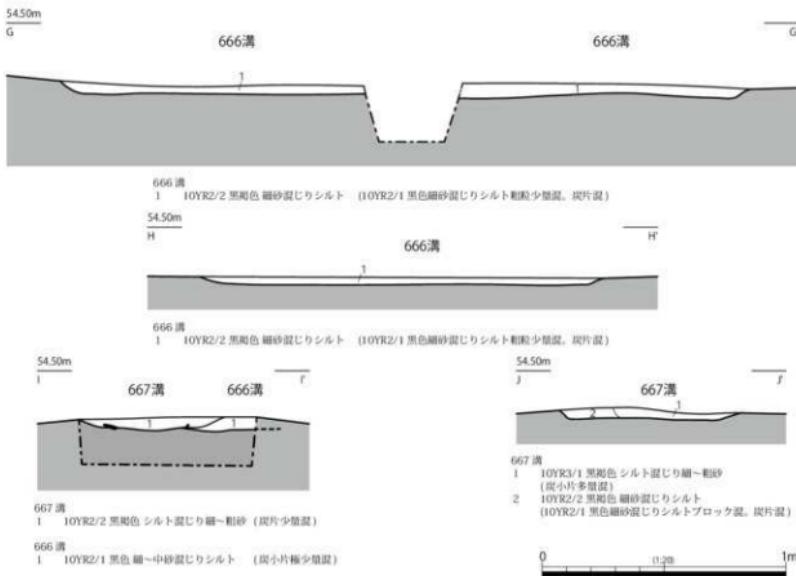
Po41・42は直線的に外傾する口縁をもつ土師器鍋であり、内面はケズリの後ナデで調整されている。Po43は白磁で碗II4類に該当する。

この他、図化はしなかったが鉄製品F1が出土している。

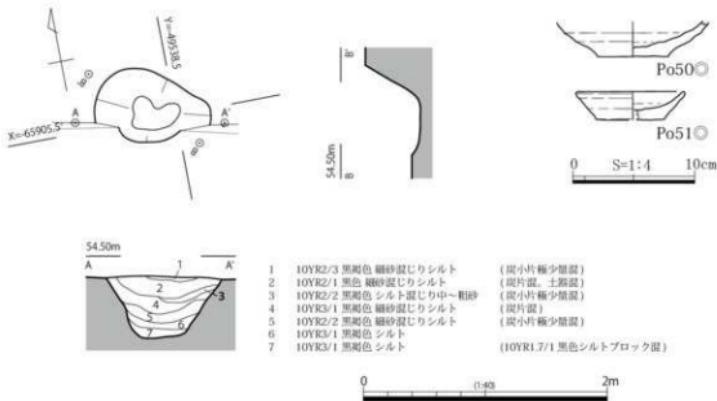
掘立柱建物12の機能時期は、出土遺物から判断し、11世紀後葉から12世紀中葉と考えられる。



第31図 666・667溝 (1)



第32図 666・667溝 (2)



第33図 674土坑遺構図・出土土器

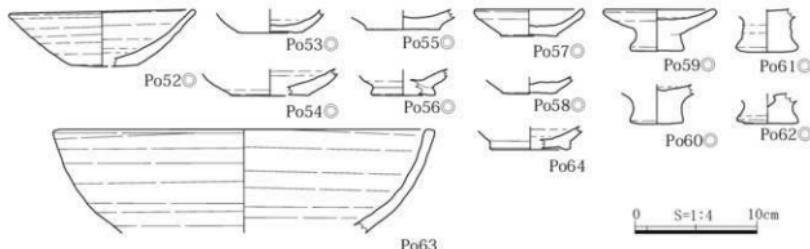
667溝 (第30～32図、図版11・62・65・78)

本遺構は調査区北西部において、I層下面・III-1層上面で検出した。西側は666溝を掘り込む。「L字状」の平面形を呈し、検出面での幅は40～90cm、検出面からの深さは5cmを測り、浅い皿状の断面形状を呈す。埋土は黒褐色を呈する砂混じりシルトが主体をなし、ラミナ構造は認められない。

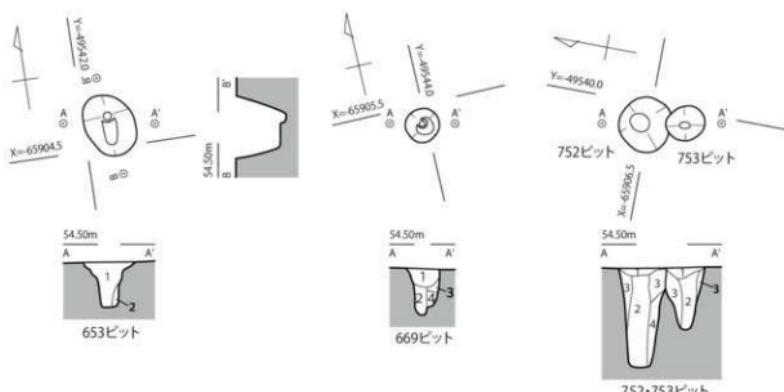
第3章 山ノ下遺跡の調査成果

遺物はPo44~49を図化した。Po44・45は回転台土師器の皿、Po46・47は壺、Po48は柱状高台である。Po49は白磁で皿II類に該当する。

本遺構の機能時期は、出土遺物から、11世紀後葉から12世紀中葉と考えられる。



第34図 第2面ピット出土土器



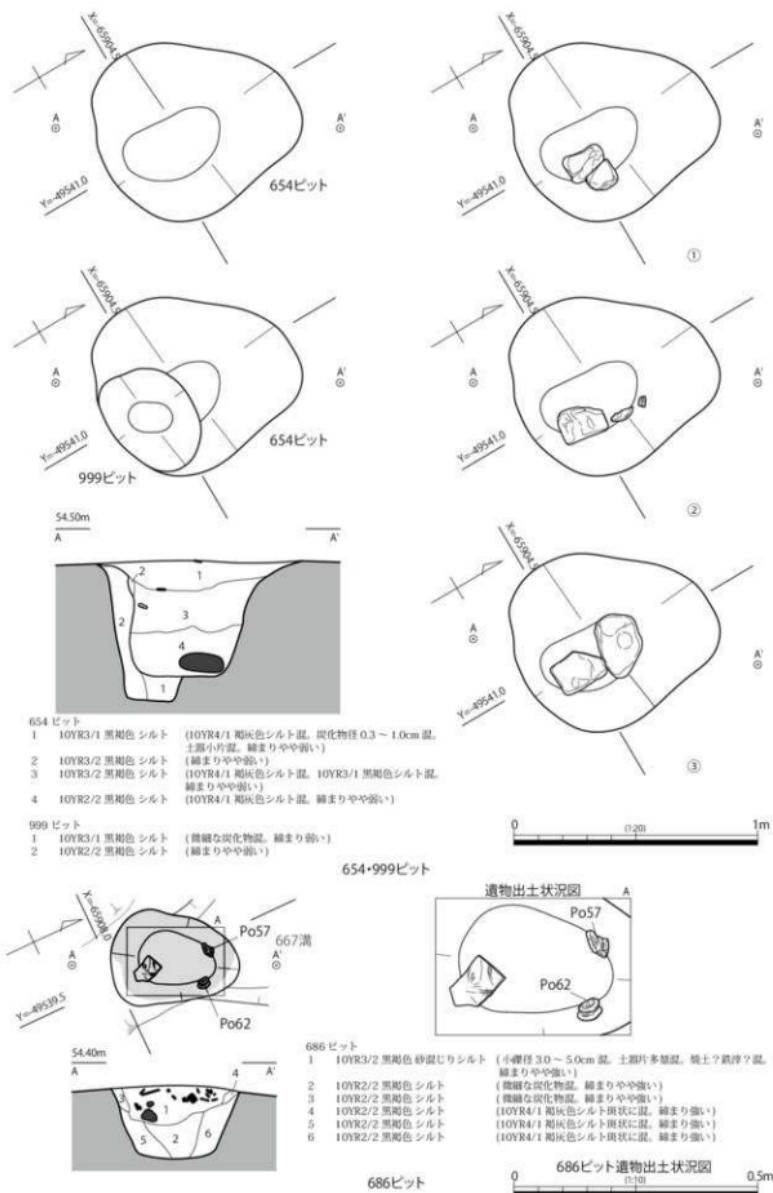
653ピット
1 10YR3/2 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒褐色シルト混。炭化物径 0.3cm 直。土器小片少量混。締まりやや弱い)
2 10YR3/1 黒褐色 シルト (炭化物径 0.3cm 混。締まりやや強い)

669ピット
1 10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR4/1 黒褐色シルト少量混。炭化物径 0.3 ~ 0.5cm 混。土器小片混。締まりやや弱い)
2 10YR2/2 黒褐色 シルト (締まり弱い)
3 10YR3/2 黒褐色 シルト (炭化物径 0.3 ~ 0.5cm 混。締まりやや弱い)
4 10YR2/2 黒褐色 シルト (炭化物径 0.3cm 混。締まりやや弱い)

752ピット
1 10YR3/2 黒褐色 細砂混じりシルト (土源片・岩・細砂ブロック径 1.0cm 以下多量混)
2 10YR2/2 黒褐色 シルト (地山土ブロック径 1.0cm 以下混)
3 10YR2/1 黒色 シルト (黒色シルトブロック・地山土ブロック 2.0cm 以下多量混)
4 10YR3/1 黒褐色 シルト

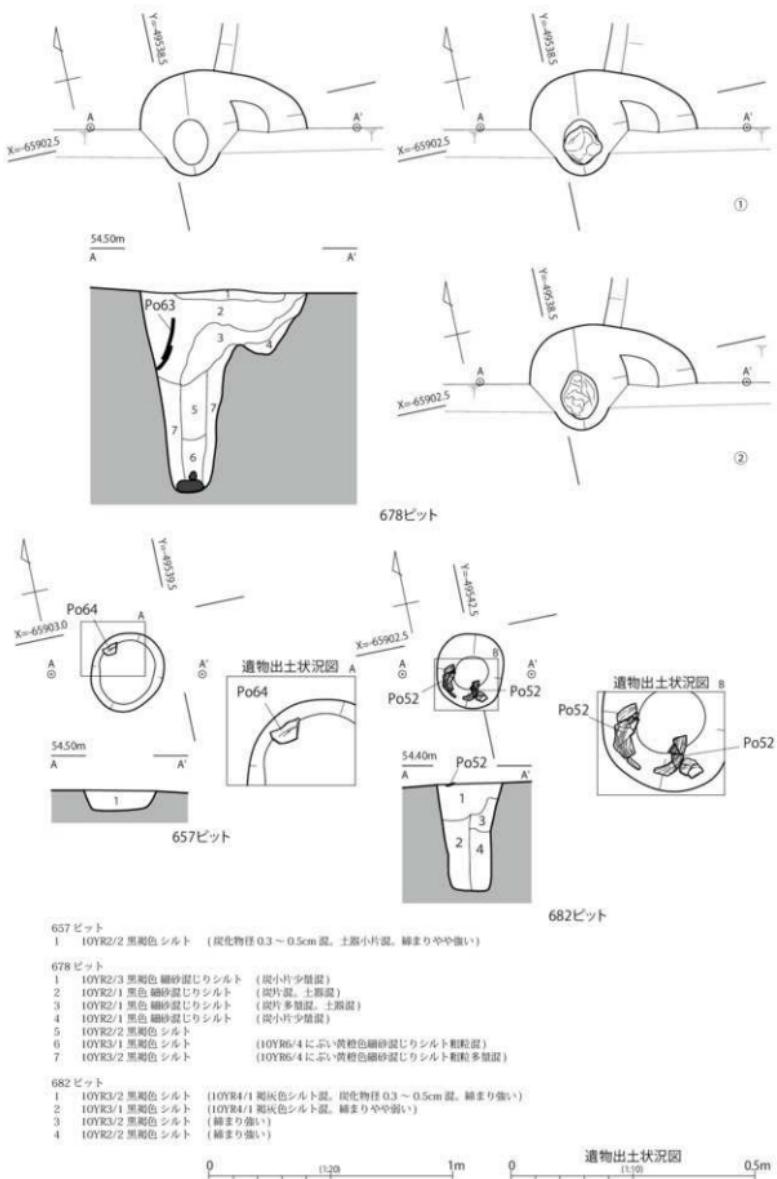
753ピット
1 10YR3/2 黒褐色 シルト (土源片・黒色シルトブロック多量混)
2 10YR3/1 黒褐色 シルト (地山土ブロック径 0.5cm 以下極少量混。締まり弱い)
3 10YR2/1 黒色 シルト (地山土ブロック径 0.5cm 以下極少量混)

第35図 653・669・752・753ピット

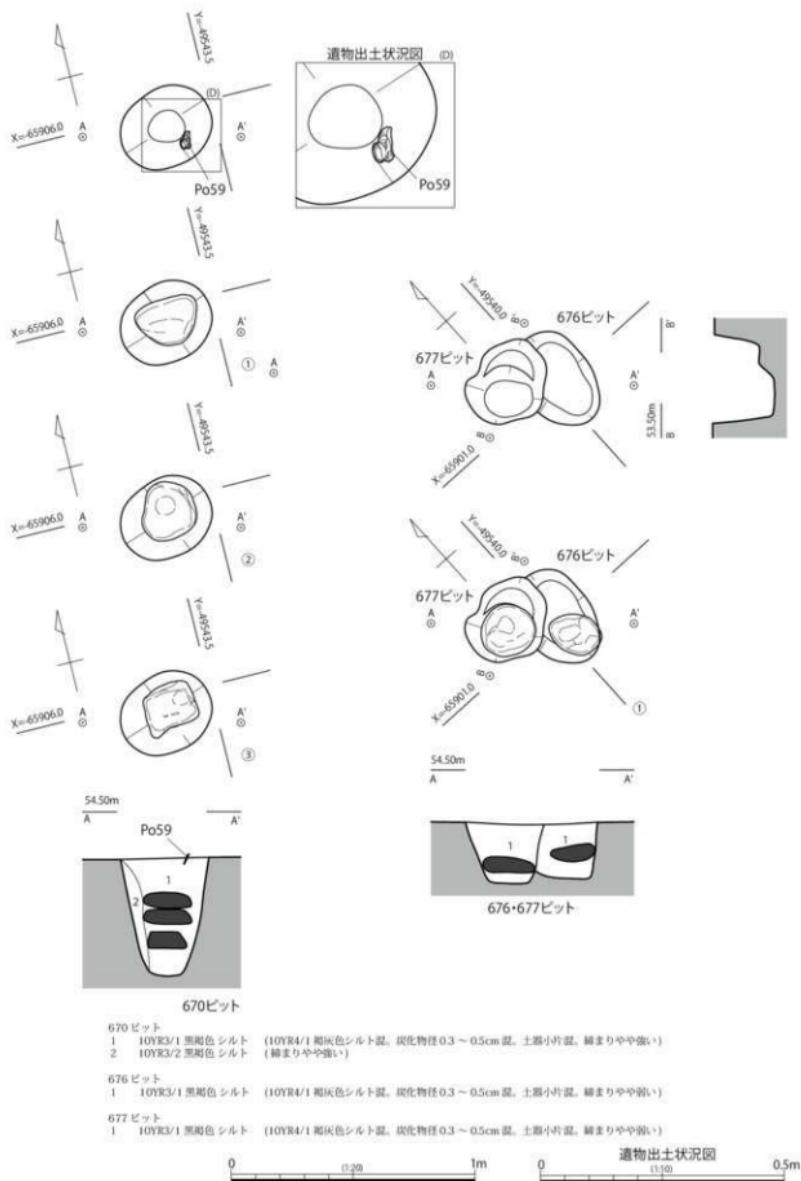


第36図 654・686・999ピット

第3章 山ノ下遺跡の調査成果



第37図 657・678・682ピット



第38図 670・676・677ピット

674土坑（第33図、図版11・62）

本遺構は調査区北西部において、I層下面・III-2層上面で検出した。南側は暗渠掘削時に削られ、失われているが、本来の平面形は円形を呈すとみられる。検出面での規模は長軸96cm、短軸57cm、検出面からの深さは50cmを測る。埋土は7層に分層でき、黒褐色を呈する砂混じりシルトが主体をなす。

遺物は、Po50土師器壺、Po51土師器皿を図化した。いずれも底部に回転糸切りの痕跡を残す土師器である。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から判断し、11世紀後葉から12世紀中葉と考えられる。

第2面ピット（第34～38図、図版12・62・65・79・80）

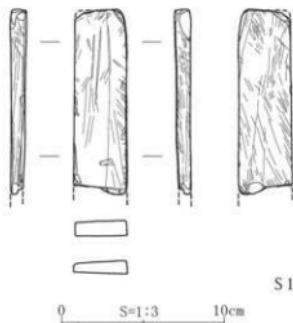
第2面で検出したピット、または埋土の特徴から第2面に帰属すると判断したピットの内、出土遺物を掲載したピットについて、記載する（653・654・657・669・670・676・678・682・686・752ピット）。これらのピットは、いずれも調査区南西部で検出した掘立柱建物12周辺に位置しており、I層下面・III-1層またはIII-2層上面で検出した。埋土上層には、III-1層に由来するとみられる土器の小片や炭化物ブロックを含む黒褐色シルトが堆積し、柱は抜き取られたと考えられるものが多い。

670ピットは抜き取り痕跡中より人頭大の礫が3つ重ねられるような状態で出土していることが特筆される。また、678ピットでは、根石と考えられる人頭大

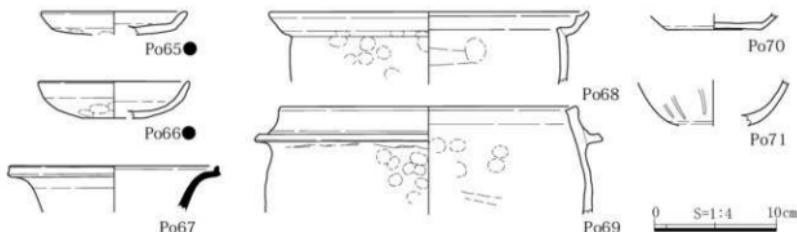
の礫がピット底面に2つ重ねられたような状態で出土し、抜き取り痕跡からは陶器鉢Po63が出土している。

なお、第2面に帰属するその他のピットの特徴については、第3表 第2面遺構計測表に記した。

遺物は、Po52～64を図化した。各資料の出土遺構は第35～38図を参照されたい。Po52～Po56は回転台土師器の壺である。Po52～54は内湾する口縁部をもつ。Po56は粘土板の張り付けによる高台状の底部をもつ。Po57・58は皿であり、Po57には口縁部外面の端部やや下に回転ナデによって棱がつけられている。Po59～62は柱状高台であり、Po59では緩やかに立ち上がる皿状の受け部が確認できる。Po63は大型の鉢である。内外面とも回転ナデで成形されており、にぶい

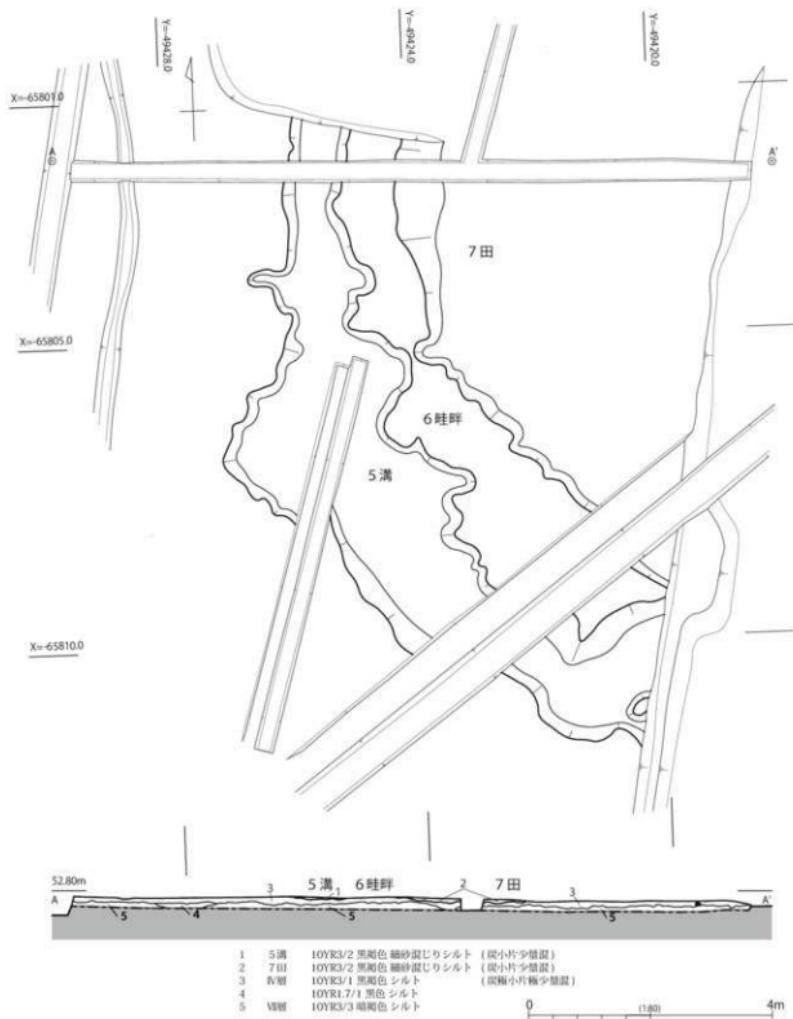


第39図 5溝出土石器



第40図 5溝、7田出土土器

赤褐色から暗灰色を呈す陶器であるが詳細は不明である。Po64は白磁で椀IVla類に該当する。これらの出土遺物から、第2面ピットの時期は11世紀後葉から12世紀中葉と考えられる。



第41図 5溝、6畦畔、7田

第3章 山ノ下遺跡の調査成果

5溝、6畦畔、7田 (第39~41図、図版13・62・65・77・79・82)

5溝・6畦畔・7田は北東部北寄りに位置する一連の耕作関連遺構である。5溝及び7田の埋土は微細な炭片を含んだ黒褐色砂混シルトが攪拌された状況が認められる堆積土であり、それらを除去して残された部分を擬似畦畔(6畦畔)とした。

5溝 (第39~41図、図版13・62・82)

2田を除去した後にV層上面で検出した溝である。主軸はN-6°-Wであり、後述する第3面遺構の9溝(本節第3項)と重複し、これを切る5溝が後出する。6畦畔の西側に沿うように掘削されている。北側は1田に切られており、検出できた長さ約12.2m、幅0.8~2.8mを測る。深さは約5cmを測る。

6畦畔 (第41図、図版13)

2田を除去した後にV層上面で検出した疑似畦畔である。主軸は5溝と同様N-6°-Wである。北側を1田に切られ、東側を後世の圃場整備によって削平されているため、本来の形状を推測することは困難であるが、検出できた長さ約9.2m、幅0.7~1.8mを測る。西側に5溝、東側に7田が存在する。

7田 (第40・41図、図版13・62・65・77・79)

I層を除去した後にV層上面で検出した6畦畔の西側の田である。北側を1田に切られており、東側を後世の圃場整備によって削平されているため、全体の形状は不明である。検出できた範囲は長軸7.4m、短軸5.5mである。

第3表 第2面遺構計測表

表(1)

No.	地区 T45-6	規格 (cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
501	10P-1d	33	21	29	
502	10P-1e	34	21	43	標準
503	10P-1e	52	41	38	Pu53出土
504	10P-1e	80	25	47	999(東側) Pu53・56・60出土
505	10P-1d	32	29	8	Pu64出土
506	10P-1e	44±1.1	42	51	標準に近づける
509	10P-1e	20	18	8	
600	9P-1d	33	28	43	666(東側)
601	10P-1d	24	13±1.1	32	標準、表面に削られた
602	10P-1d	28	26	38	Pu65出土
603	10P-1d	30	22	48	Pu69S出土
604	10P-1e	34	25	41	
605	10P-1d	29	27	25	
607	10P-1d	26	27	33	666(東側)
608	10P-1d	42	29	23	677(東側) Pu64出土

表(2)

No.	地区 T45-6	規格 (cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
624	10P-1d	96	57	50	666-667(東側)

表(3)

No.	地区 T45-6	規格			表面の標高 (m)	主軸方位	備考
		長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)			
5	9E-1・2c	12.2 13.1	0.8~2.8	.5	北側: 32.66 南側: 32.61	N-6°-W N-53°-W	
607	10P-1d	9.13±1.1	0.4~0.9	.5	東側: 54.25 南側: 54.29	N-6°-W N-25°-E	東は北に向かって 伸び、東に90度傾 曲する。

表(4)

No.	地区 T45-6	規格			表面の標高 (m)	主軸方位	備考
		長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)			
677	10P-1d	7.4	3.1	5.5±1.1	3	N-E-70° N-E-71°	北側: 52.90 南側: 52.65
700	10P-1d	27	23	56			
701	10P-1d	32	28	20			
702	10P-1d	29	22	49			
703	10P-1d	23	22	52	666(東側)		
999	10P-1d	45	34	57	654(東側)		

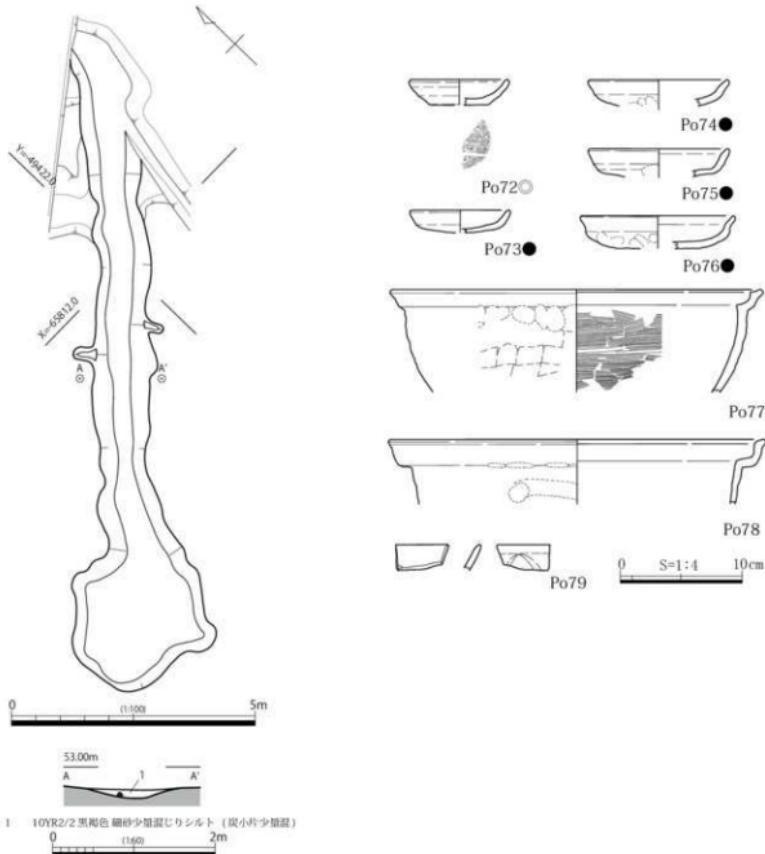
表(5)

No.	地区 T45-6	規格			表面の標高 (m)	主軸方位	備考
		長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)			
6	9E-1	9.2	3.1	0.7~1.8	3	N-22°-W N-23°-W	北側: 52.00 南側: 52.20

5溝、7田 出土遺物（第39・40図、図版62・65・77・79・82）

Po65～71を図化した。Po65・67・69～71は7田、Po66・68・82は5溝からの出土である。Po65・66は手づくね成形の土器師皿である。Po65は、口縁部が底部から屈曲して立ち上がり、器高は低い。これに対し、Po66は口縁部の立ち上がりは緩やかであり、器高は高い。Po67は須恵器の壺である。外方に広がる口縁部をもち、端部は短く直立する。Po68は土器師鍋である。受け口状の口縁部は外方への張り出しが大きく、端部には強いヨコナデによって段が形成される。Po69は瓦質土器の羽釜であり、胴部はやや丸みを帯びる。Po70は白磁で皿IX1類に該当する。底部外面には、釉を引き延ばした工具痕が認められる。Po71は龍泉窯系青磁で小椀IIa類に該当し、外面には片彫蓮弁文が施される。

S 1は泥岩製の砥石である。正面・左右側面・裏面が使用されており、特に正面下部の左側面側の摩滅が著しい。石材の粒度は細かく仕上げ砥石と考えられる。



第42図 9溝遺構図・出土土器

5溝・6畦畔・7田の帰属時期は、重複関係から判断し、13世紀後葉から14世紀以降と考えられる。

第3項 第3面の調査

1 概要

本項には、調査区北東部ではⅢ層下面、南西部ではⅢ-2層下面で検出した検出した遺構のうち、耕作関連遺構と判断したものを掲載する。当遺構面ではこのほかに、掘立柱建物やピット等も検出しているが、これらは耕作関連遺構に対して先出することを調査時に確認しており、便宜上、第4面の遺構として掲載することとした。

2 検出した遺構と遺物

9溝（第42図、図版16・67・77）

北東部やや東寄りにおいて、V層上面で検出した溝である。主軸方向をN~42°-Eにとり、ほぼ直線状に延びており、南西端は幅が広がり不整な円形状になっている。北東端近くを5溝に切られ、北東側は削平のため遺存していないが、検出できた長さ約13.1m、幅1.2~2.6mを測り、検出面からの深さは10cmである。埋土は黒褐色で細砂が混じるシルトの単層であり、拳大程度の栗石が複数混じっていた。なお、埋土にはラミナ構造は認められず、流水環境には無かったと推測される。

遺物は、Po72~Po79を図化した。Po72は土師器皿であり、回転糸切り後の底部に板目を残す。Po73~76は手づくね成形の土師器皿である。口径8.0cmのPo73に比べ、Po74~76は口径11.3~12.4cmと大型であり、底部から屈曲して立ち上がる口縁部は、強いヨコナデによって外反する。

Po77・78は土師器の鍋である。いずれも受け口状の口縁をもち、内面は、Po77がハケ、Po78はナデによって調整されている。Po79は龍泉窯系青磁で碗IIb類に該当する。外面には鎮運弁文が施される。

本遺構の帰属時期は、出土遺物と下面の遺構から判断し、13世紀後葉から14世紀と考えられる。

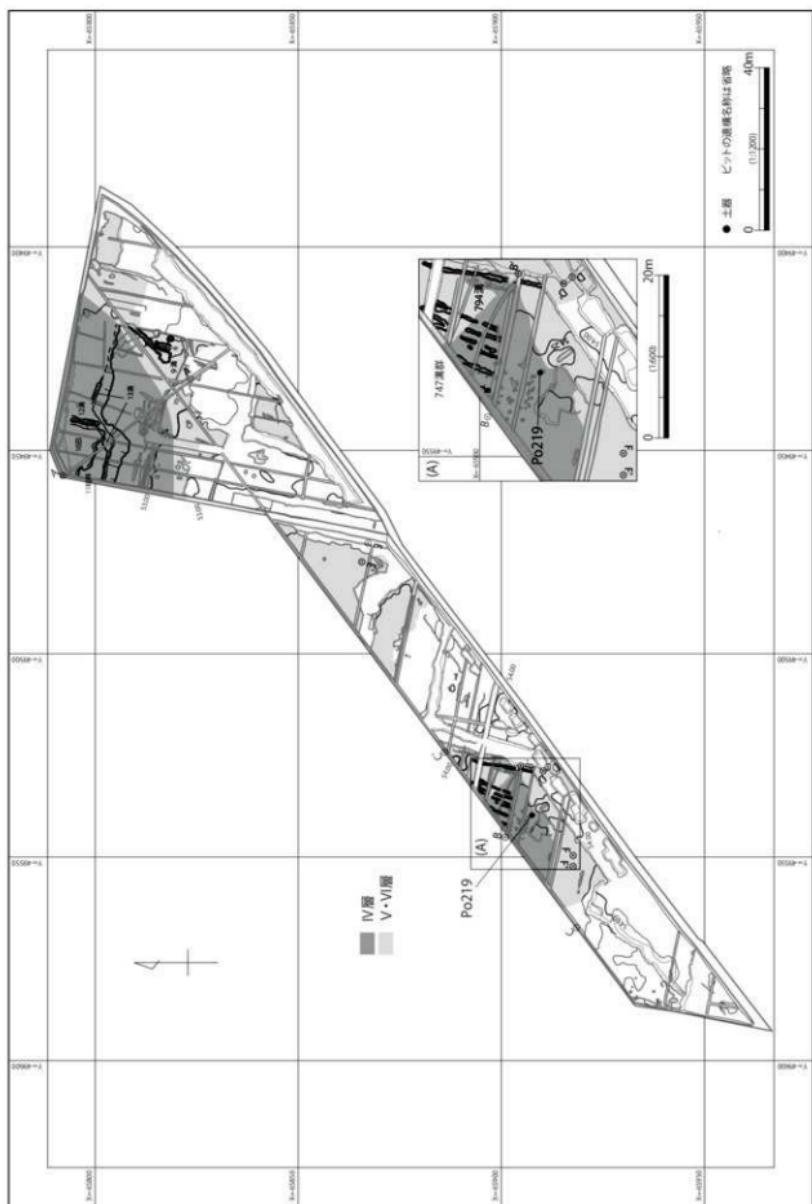
10田、11畦畔、12・13溝（第44・45図、図版14・15・67・78）

北東部北端の緩斜面において、Ⅲ層下面・IV層上面で検出した。これらの遺構は浅い谷状の地形を利用して作られた一連の水田に関わるものである。南側は後世の削平によって本来の地形が失われており、耕作地の広がりは確認できていない。

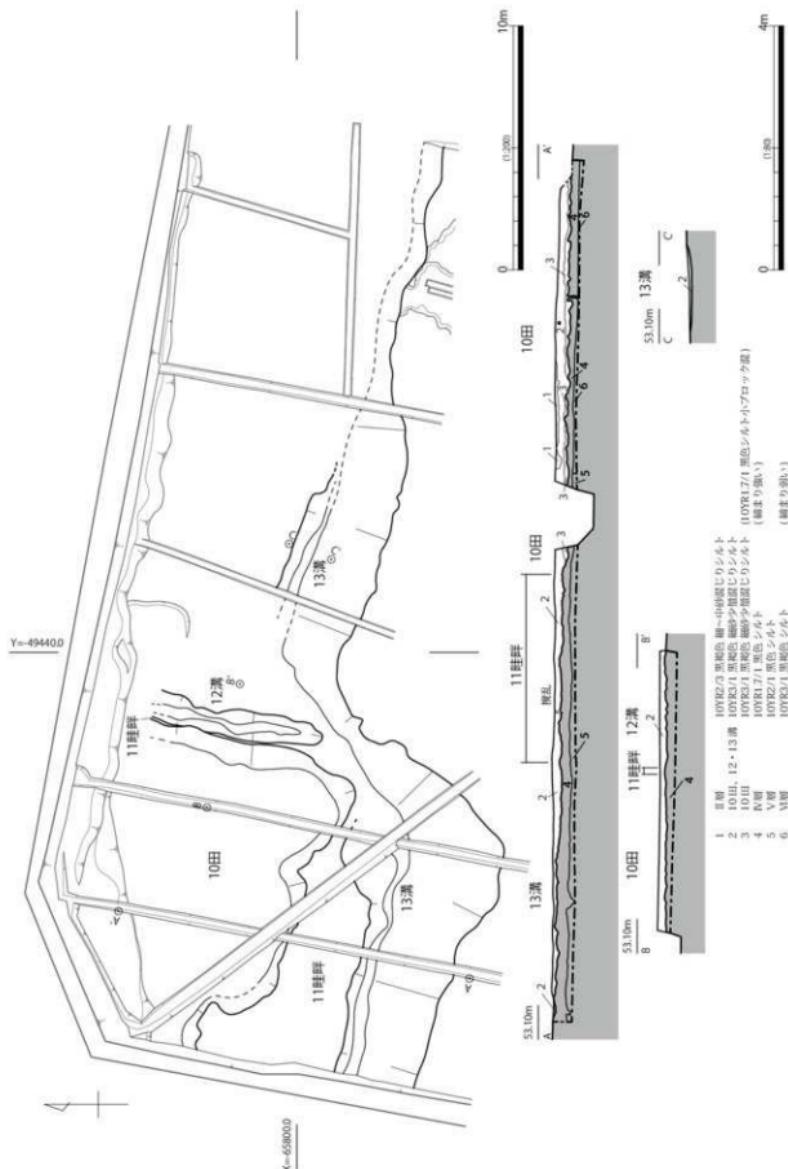
10田、11畦畔、12・13溝の帰属時期は、出土遺物および遺構の先後関係から判断し、13~14世紀と考えられる。

10田（第44・45図、図版14・15・67）

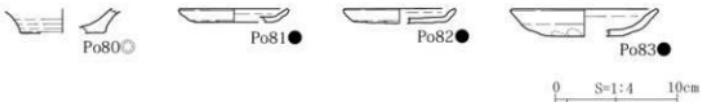
南側は13溝によって区画されるが、それ以外は削平や調査地外になるため全体の形状は不明である。残存部は東西に長く、検出できた範囲は南北が最大約8.0m、東西約12.5mである。埋土は上下2層に分層できるが、共に黒褐色で細砂が少し混じるシルトを主体とする。



第43図 第3面全体図



第44図 10田、11畦畔、12・13溝



第45図 10田、13溝出土土器

11畦畔（第44図、図版14・15）

13溝掘削中に検出した。10田・13溝の搅拌された状況が認められる埋土と、それらを除去して残された部分を擬似畦畔として捉えた。北側はN-13°-E、西側はN-75°-Wを主軸とする擬似畦畔である。西側が調査地外に続いており、東側は遺存状況が悪いため本来の形状を推測することは困難であるが、検出できた長さは西側で約13.0m、北側で約8.4mであり、最大幅5.8mを測る。

12溝（第44図、図版14・15）

13溝掘削中に検出した、主軸をN-11°-Eにとる溝である。検出部分はほぼ直線状に延び、検出できた長さは約7.9m、幅は0.8~1.2mを測り、検出面からの深さは約3cmである。埋土は黒褐色で細砂が混じるシルトであり、13溝や10田の埋土と区別はつかない。なお、10田と12溝の間には擬似畦畔である11畦畔が遺存しており、12溝は11畦畔造成時における掘削痕跡である可能性が考えられる。

13溝（第44・45図、図版14・15・67・78）

主軸はN-88°-Eであるが、途中2箇所で屈曲が認められる。西側が調査地外に延び、東側は削平を受けており、検出できた長さは約38.4m、最大幅1.2mを測り、検出面からの深さは16cmである。埋土は黒褐色で細砂が混じるシルトである。

なお、本遺構の名称は溝として報告しているが、テラス状の断面形状を呈す。10田・11畦畔・12溝を区画するような形状を積極的に評価するならば、本遺構は水田の耕地段差の可能性もある。

10田、13溝出土遺物（第45図、図版67）

遺物はPo80~83を図化した。Po80・83は10田、Po81・82は13溝からの出土である。Po80は回転台土師器の壺であり、底部付近で外反する口縁部をもつ。Po81~83は手づくね成形の土師器皿である。Po81・82は器高が低く、口縁部の立ち上がりは明瞭である一方、Po83は器高が高く、口縁部の立ち上がりは緩やかである。

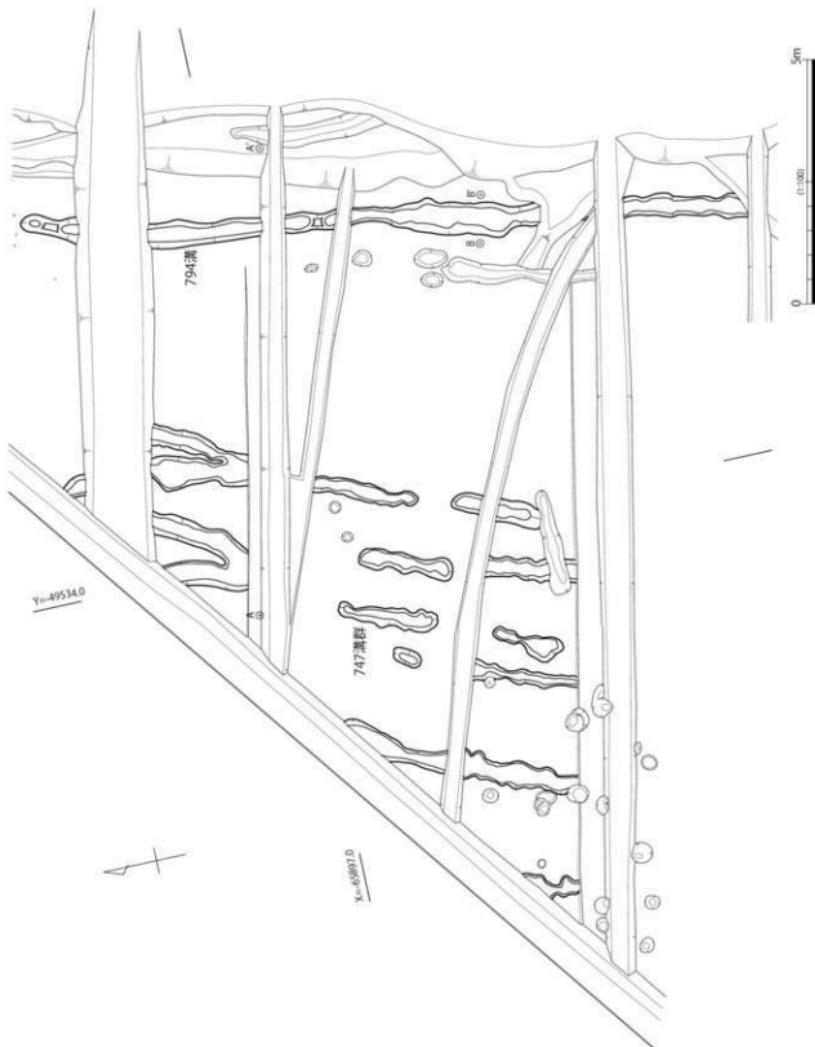
これらの出土遺物は、12世紀後半から14世紀に帰属するものと考えられる。

747溝群（第46・47図、図版16・67）

南西部中央北側に位置し、Ⅲ-2層を除去する過程でその下面において検出した溝群である。南北11m、東西9mの範囲において、概ねN-23°-Eを主軸とする6本の溝が平行するように位置しており、埋土も共通することから一連の遺構群と判断した。溝は遺存状況が悪く、途中で途切れている部分も認められる。埋土は主体となるⅢ-2層にⅣ層に由来する黒色細砂混じりシルトが小ブロック状に混在した層であり、Ⅲ-2層とⅣ層が搅拌された状況を示している。各溝の位置関係と埋土の状況から、本溝群は畑等の耕作痕跡と推測される。

遺物は、土師器ⅢPo84を図化した。

本溝群の帰属時期は次に述べる794溝との関連から、11世紀後半から13世紀中葉と考えられる。



第46図 747溝群、794溝

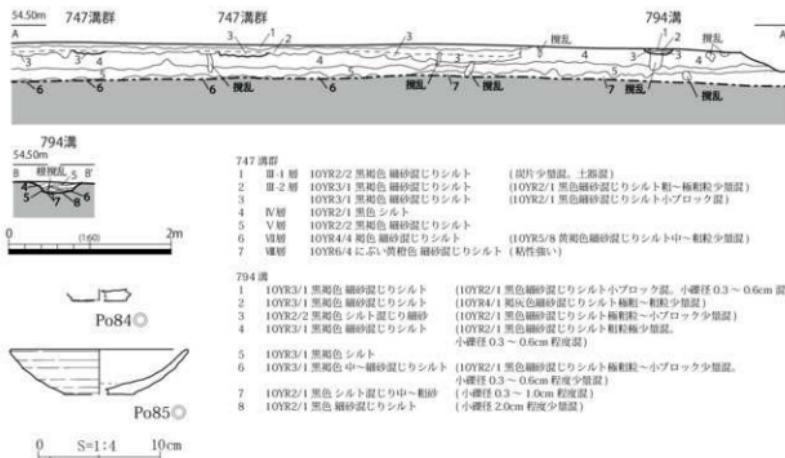
794溝（第46・47図、図版67）

南西部中央付近に位置し、IV層上面で検出した溝である。主軸はN-10°-Eで、南側は削平などのため遺存していないが、調査地内ではほぼ直線状に延びている。検できた長さ14.8m、幅30~70cmを測り、検出面からの深さは7~14cmである。埋土は黒褐色で細砂が混じるシルトを主体とするが、下層には中~粗砂が堆積した層が存在しており、流水環境に置かれた時期もあったことが推測される。

性格を判断する明確な根拠は無いが、第1面の645溝や668溝とほぼ平行する主軸で位置的にもほぼ同じ場所であるため、用水路などとして繰り返し造り替えが行われている可能性があり、西側に存在する747溝群を畑等の耕作痕跡とする推測が正しければ、畑等のための用水路である可能性が考えられる。

遺物は、土師器坏Po85を図化した。Po85は口径に対して器高はやや低く、口縁部が内湾する器形である。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から判断し、11世紀後半から13世紀中葉と考えられる。



第47図 747溝群、794溝土層断面図・出土土器

第4表 第3面遺構計測表

No.	地区	規格	直轄	備考			
	T45-4b	長さ(m)	幅(m)	深さ(cm)	直轄の標高(m)	主緯方位	備考
9	HE-1-2b-c	11.1	1.2~2.6	10	北東側は削平 (現代耕作段差に認められ消失)	N-42°-E	
		(12.1)			北端: 5258 西端: 5271		
12	HE-10a-c	7.2	0.9~1.2	12		北端: 5239 西端: 5260	
		(11.5)					
13	HE-10d-e, d'-e'-f'	28.4	1.2	16		N-88°-E	
		(22.1)			東端: 5257 西端: 5269		
794	HF-10c, 20F-1c	14.8	0.3~0.7	7~14		N-10°-E	
		(12.7)			北端: 54.04 南端: 54.98		
747	HF-10d-e, HF-1d-f	0.5~7.0	0.2~0.5	5		N-25°-E	
		(11.1)			北端: 54.09 南端: 54.98		

No.	地区	規格	直轄	備考			
	T45-4b	長さ(m)	幅(m)	深さ(cm)	直轄の標高(m)	主緯方位	備考
10	HE-10a-b-c-d-e-f	12.5	8.6	11	東端: 5260 西端: 5259	N-42°-W	1000~1100cm 東: 12.5m 西: 13.8m で一溝の作業域を構成する
		(12.5)	(8.6)				
					東端: 5260 西端: 5259		
No.	地区	規格	直轄	備考			
	T45-4b	長さ(m)	幅(m)	深さ(cm)	直轄の標高(m)	主緯方位	備考
II	HE-10e-f, HE-1e-f'	12.0	8.1	10	西端: 5269 北端: 5262	N-25°-W	東西と南北に軸を有するL字型の構造
		(12.0)	(8.1)				
					西端: 5269 北端: 5262		

第4項 第4面の調査

1 概要

先述した第3面と同じ層序において、耕作関連遺構に切られる形で、平安時代後期から鎌倉時代前期の掘立柱建物群を検出した。出土遺物、埋土、遺構相互の関係から、これらと同時期と考えられる掘立柱建物・土坑・溝・ピットを第4面の遺構として捉え、以下に記載する。

当面では、掘立柱建物は17棟を確認しており、そのうち掘立柱建物13は一辺約12mを測る大型の総柱建物であり、注目される。ピットも多数検出しており、各遺構面の中で最も遺構密度が高い。

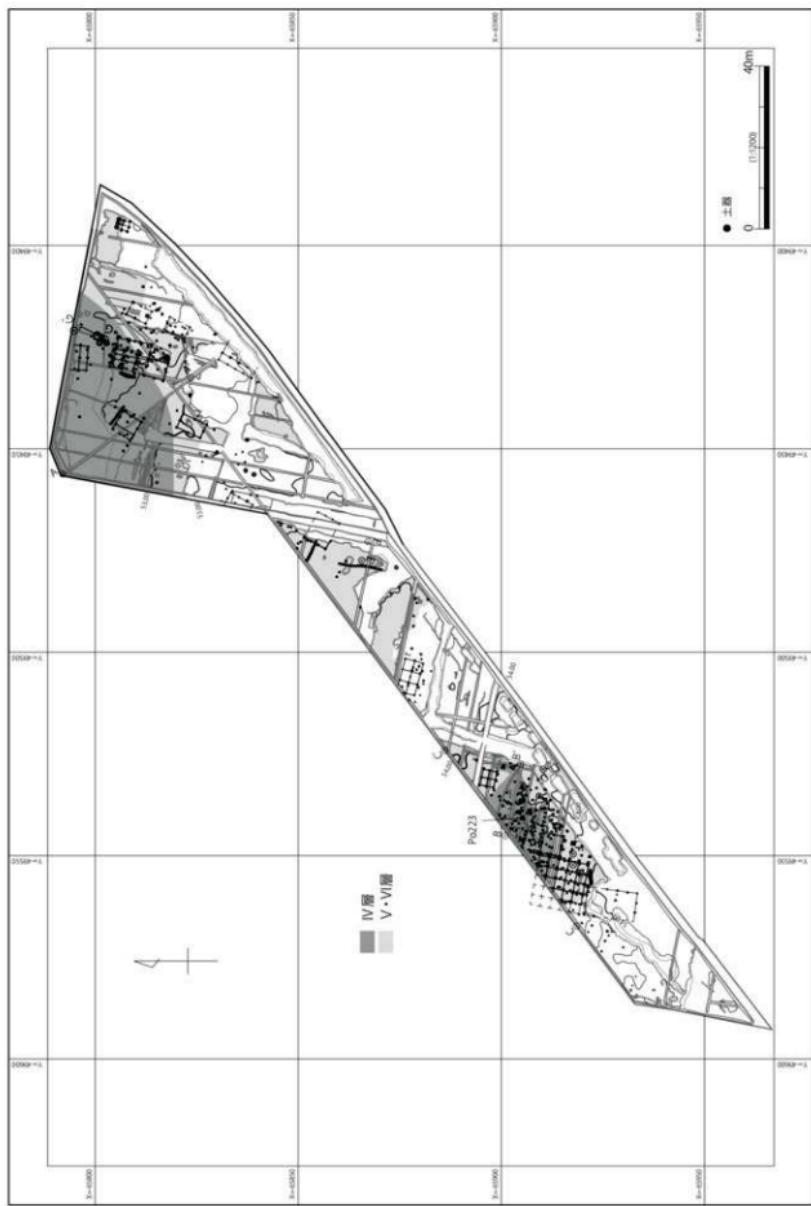
2 検出した遺構と遺物

掘立柱建物1 (第51図、図版17・18)

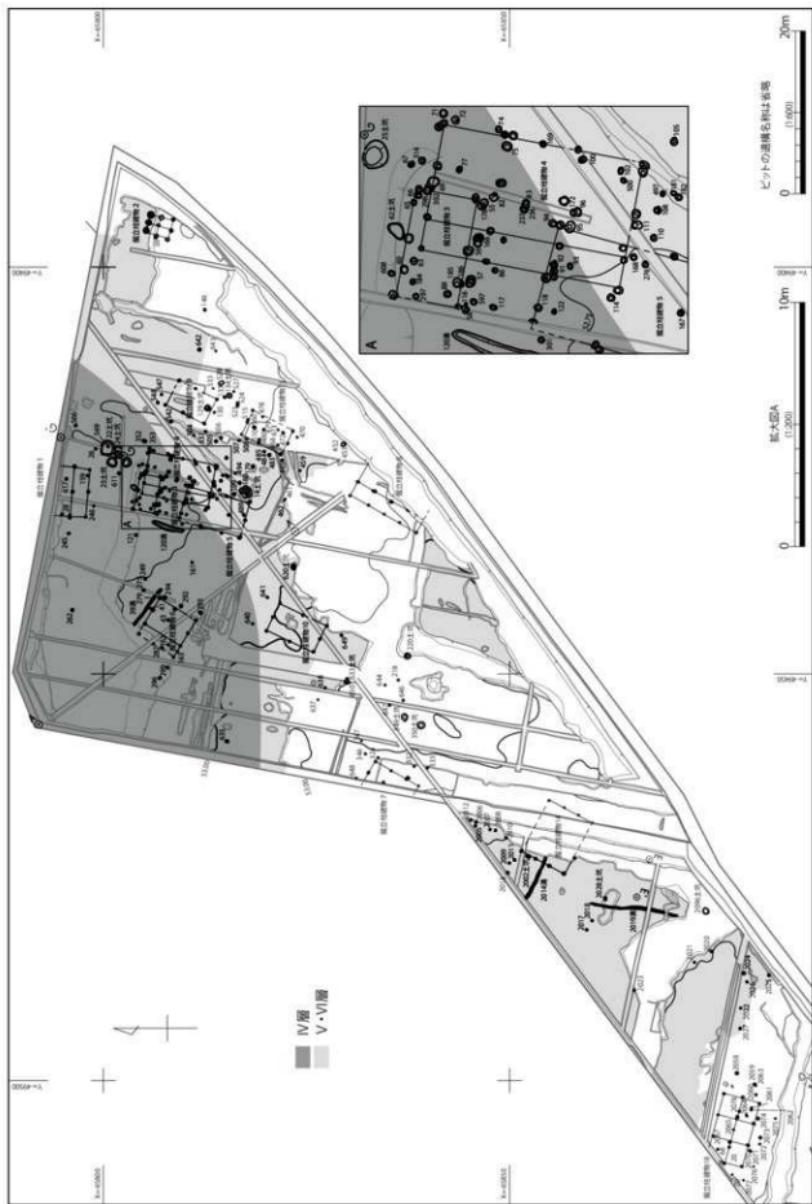
調査区北東部の北側調査区間に位置する。直線的に並ぶ15・16・21ピットと18~20ピットの軸が平行する位置関係であることから、同一建物の柱穴と判断した。18~20ピットは15・16・21ピットより規模が小さく、廟の可能性が考えられる。15~21ピット間の距離は、6.1m、18~20ピット間の距離は5.8mを測る。15・16・18~21ピットはⅢ層(13溝)下面、Ⅳ層上面で検出した。建物北側は調査区外となる。建物の主軸はN-85°-Wである。

第5表 掘立柱建物計測表

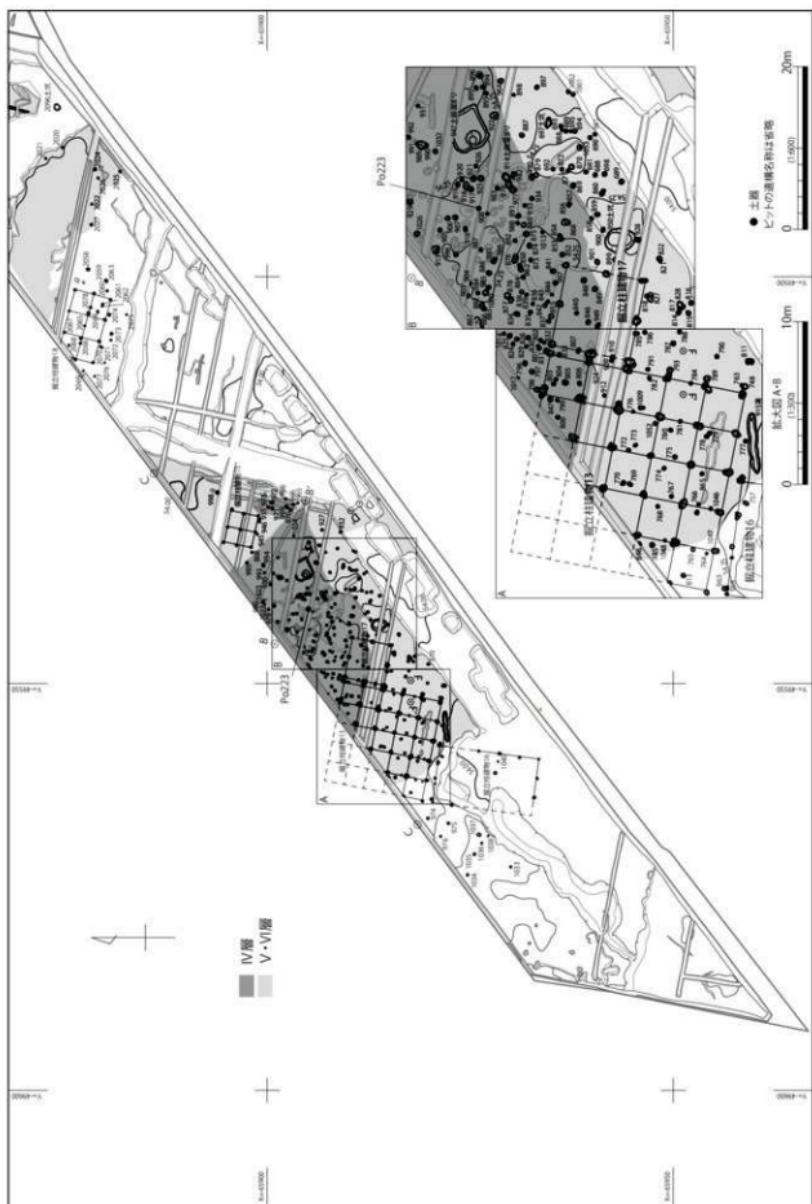
遺物名	遺物区分	地区 T45-6	規格		面積	主軸方位	備考
			航行	梁行			
掘立柱建物1	-	IG-10c-d	建物全体 2間 (6.1m) 身寄のみ	1間 (2.0m) (1.1m)	12.2m ² 以上	N-15°-W	西面に廟あり。航行の北側は調査区外のため未調査
掘立柱建物2	総柱建物	IG-4	2間 (6.1m)	-	-	12.2m ²	N-15°-E
掘立柱建物3	総柱建物	IG-4c-d	2間 (4.5m)	1間 (西北) 2.7m/ 東側 2.6m)	10.8m ²	N-79°-W	
掘立柱建物4	総柱建物	IG-4-2c	建物全体 3間 (西北) 8.2m/ (東側 8.4m) 身寄のみ	2間 (5.2m) 身寄のみ	43.7m ²	N-11°-E	西面に廟あり
掘立柱建物5	総柱建物	IG-4-2c-d	建物全体 3間 (西北) 7.8m/ (東側 7.9m) 身寄のみ	2間 (4.2m) (東側 4.6m)	32.8m ²	10.9m ²	N-15°-E
掘立柱建物6	総柱建物	IG-4-2e	建物全体 2間 (西北) 5.1m/ (東側 5.3m)	3間 (西北) 5.1m/ (東側 5.3m)	26.0m ²	N-32°-E	北西面に廟あり。30溝を伴う
掘立柱建物7	総柱建物	IG-4g	建物全体 3間 (4.1m)	1間 (17m) 13.1 身寄のみ	10.4m ² (13.1m ²)	N-30°-E	
掘立柱建物8	総柱建物	IG-4c-d	建物全体 4間 (9.4m)	-	-	10.4m ²	
掘立柱建物9	総柱建物	IG-1-2b	2間 (2.2m)	1間 (北側 1.4)/ (南側 3.2m)	17.2m ²	N-26°-E	
掘立柱建物10	総柱建物	IG-2-3e	2間 (西北) 4.3m/ (東側 4.5m)	2間 (北側 2.8m)/ (東側 3.2m)	24.3m ²	N-25°-E	
掘立柱建物11	総柱建物	IG-2-3b-c	2間 (西北) 5.4m/ (東側 5.6m)	2間 (3.3m)	17.8m ²	N-26°-E	
掘立柱建物12	総柱建物	IG-2-4e	2間 (4.5m)	2間 (4.1m)	18.5m ²	N-80°-W	666溝を伴う
掘立柱建物13	総柱建物	IG-1-2-3e-i-g	5間 (12.4m)	5間 (12.1m)	120.0m ²	N-79°-W	D-17 (東側)、北西側は調査区外
掘立柱建物14	総柱建物	IG-6-7g-h	3間 (2.1m)	3間 (6.0m)	42.6m ²	N-62°-W	中央部分は溝状の現れにより破壊され航行は確定しない
掘立柱建物15	総柱建物	IG-30-d	2間 (西北) 4.2m/ (東側 4.4m)	2間 (西北) 4.0m/ (東側 3.6m)	14.0m ²	N-28°-W	
掘立柱建物16	総柱建物	IG-2-4f-g	5間 (12.2m)	3間 (7.0m)	85.4m ²	N-8°-E	複数整壁と廻天現れにより中央部は削除を受ける。航行は両側を確定
掘立柱建物17	総柱建物	IG-1-2e-f	2間 (5.0m)	2間 (西北) 4.0m/ (東側 5.0m)	24.0m ²	N-79°-W	
掘立柱建物18	総柱建物	IG-8-9-u-y	3間 (8.1m)	2間 (4.6m)	37.0m ²	N-75°-W	



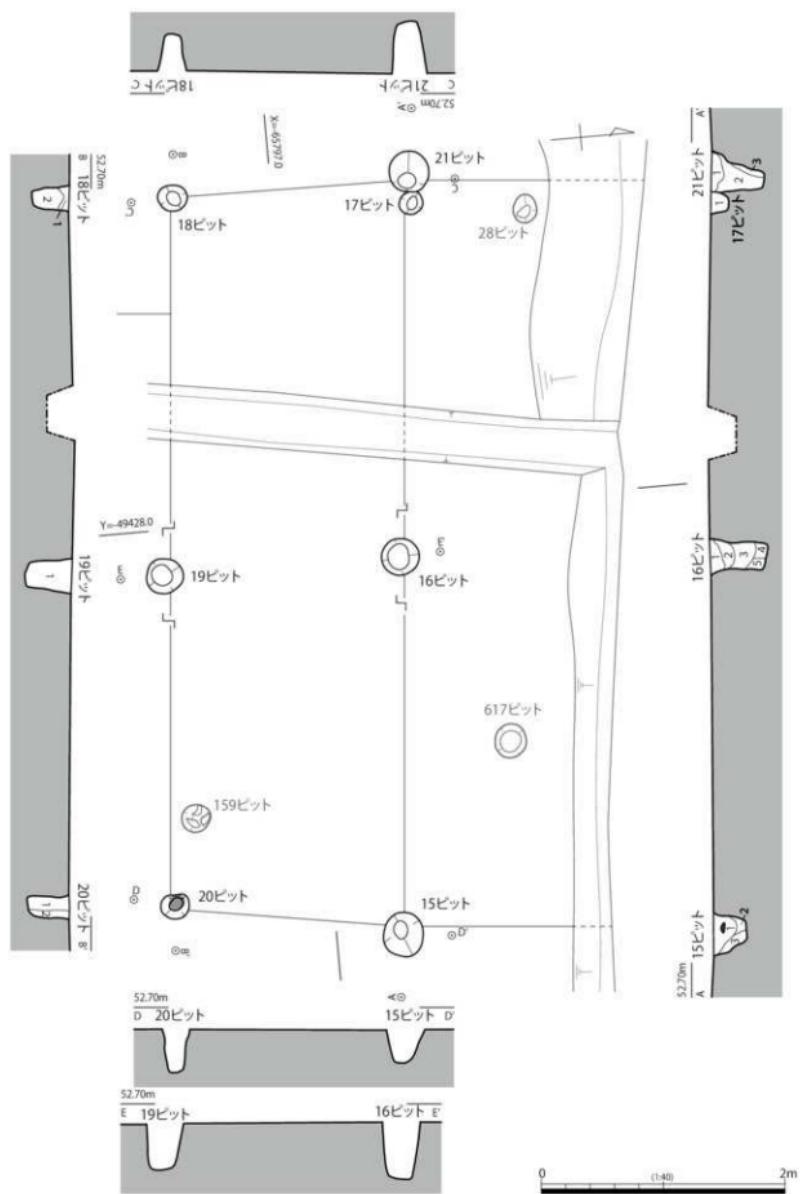
第48図 第4面全体図



第49図 第4面全体図（北東部）



第50図 第4面全体図（南西部）



第51図 掘立柱建物 1

第6表 堀立柱建物1構造計測表

ピット

No.	規格 (cm)	底面の標高 (m)	備考
長軸	短軸	深さ	
15	36	34	24
16	31	30	47
17	19	18	15
21	34	30	43
			[21 (差値)]
			[17 (差値)]

ピット(廻)

No.	規格 (cm)	底面の標高 (m)	柱間寸法 (cm)	備考
長軸	短軸	深さ		
18	24	22	30	52.22
19	30	28	38	52.36
20	24	23	36	52.18
				[30]

柱間寸法(身舎・航行船渠)

No.	柱間寸法 (m)
21-15	6.1
17-15	5.9

柱間寸法(廻・航行船渠)

No.	柱間寸法 (m)
18-20	5.8
19-20	2.7

柱間寸法(身舎・航行方向)

No.	柱間寸法 (m)
17-16	2.9
21-16	3.1

柱間寸法(廻・航行方向)

No.	柱間寸法 (m)
18-21	2.0
18-17	2.0
19-16	2.0
20-15	1.9

- 15ピット
 1 10YR3/1 黒褐色 細砂凝りシルト
 2 10YR3/1 黒褐色 細砂凝りシルト
 3 10YR3/1 黒褐色 細砂凝りシルト

(10YR2/3 黒褐色シルトブロック混。
 10YR3/4 にぶい 黄褐色地山土粗粒極少量混)
 (10YR2/3 黑褐色シルトブロック混)

- 16ピット
 1 10YR2/2 黒褐色 細砂凝りシルト
 2 10YR2/2 黒褐色 細砂凝りシルト
 3 10YR3/2 黒褐色 細砂凝りシルト
 4 10YR5/3 にぶい 黃褐色 シルト
 5 10YR5/3 にぶい 黄褐色 シルト

(10YR2/1 黃色シルトブロック混)

- 17ピット
 1 10YR3/1 黒褐色 細砂凝りシルト

(10YR5/6 明黄褐色細砂凝りシルト粗粒極少量混)

- 21ピット
 1 10YR3/1 黑褐色 細砂凝りシルト
 2 10YR3/1 黑褐色 細砂凝りシルト
 3 10YR3/1 黑褐色 細砂凝りシルト

(10YR6/6 明黄褐色細砂凝りシルト粗粒混)

- 18ピット
 1 10YR3/1 黑褐色 細砂凝りシルト
 2 10YR2/2 黑褐色 細砂凝りシルト

(10YR5/4 にぶい 黄褐色地山土中粒少量混)

- 19ピット
 1 10YR3/1 黑褐色 細砂凝りシルト

(10YR5/4 にぶい 黄褐色地山土中粒少量混)

- 20ピット
 1 10YR2/1 黑褐色 細砂凝りシルト
 2 10YR3/1 黑褐色 細砂凝りシルト

(炭灰少量混)

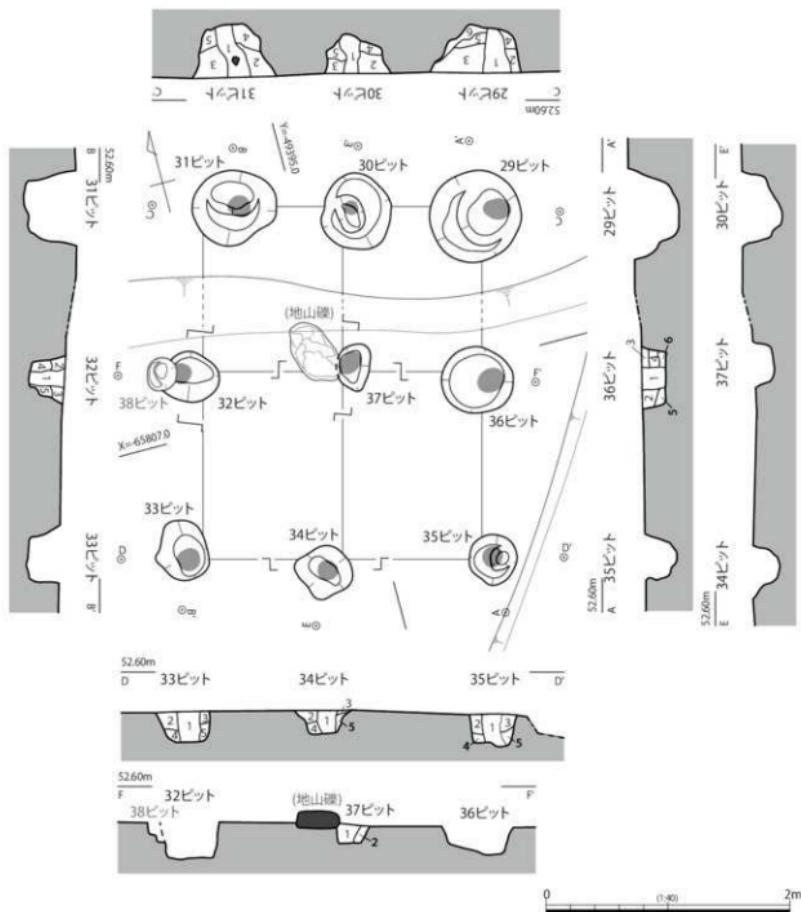
(10YR5/4 にぶい 黄褐色地山土粗粒多量混)

掘立柱建物1 (第51図) の土層注記

掘立柱建物2 (第52図、図版17・19・20)

調査区北東部の北東隅に位置する。桁行2間(2.9m)、梁行2間(2.2~2.5m)の総柱建物であり、N-15°-Eを主軸にとる南北棟である。概ね柱の筋は通るが、西側の桁の通りがやや悪い。建物の南側は削平を受けているため、北側と比較し、検出レベルが15cm程度低い。よって、29~30ピットは表土直下、V層またはVI層上面で検出し、他のピットはI層直下、VII層上面において検出した。なお、37ピットは地山中の大型の礫を避けるような状態で掘削されている。

ピットの平面形は円形を主体とするが、一部、平面隅丸方形状のものも認められる。29~36ピット(外回りの柱穴)の検出面での規模は、長軸41~74cm、短軸40~73cmを測る。検出面からの深さは19~43cmを測り、底面最深部の標高は51.98~52.09mである。31ピットより柱根(試料2)が出土しており、樹種同定の結果、ヒノキ科と同定されている。また、放射性炭素年代測定の結果、cal AD 1,147-1,215(暦年校正2σの確率1位)の値が得られた(第5章第1節)。37ピット(内部の柱穴)の検出面での規模は、長軸37cm、短軸32cmを測る。検出面からの深さは15cmを測り、底面の標高は52.14mである。37ピットは外回りの柱穴に対し規模が小さく、深さも浅いことから、東柱である可能性が高い。



第52図 挖立柱建物2

第7表 挖立柱建物2遺構計測表

表7

No.	基積 (cm)	底面の標高 (m)	柱頭直径 (cm)	柱頭高さ (cm)	柱のあたり (cm)	監者
29	74	73	40	51.96	17	—
30	63	59	32	52.06	15	8
31	68	61	43	51.98	17	14 柱頭(試料2)
32	46	41	29	52.02	13	— 30(重複)
33	50	43	24	52.03	18	—
34	48	44	19	52.09	11	—
35	41	40	26	51.99	14	11
36	59	54	29	52.06	18	—
37	37	32	15	52.14	12	—

No.	柱間寸法 (柱行距離) (cm)
29-35	29
30-34	30
31-33	29

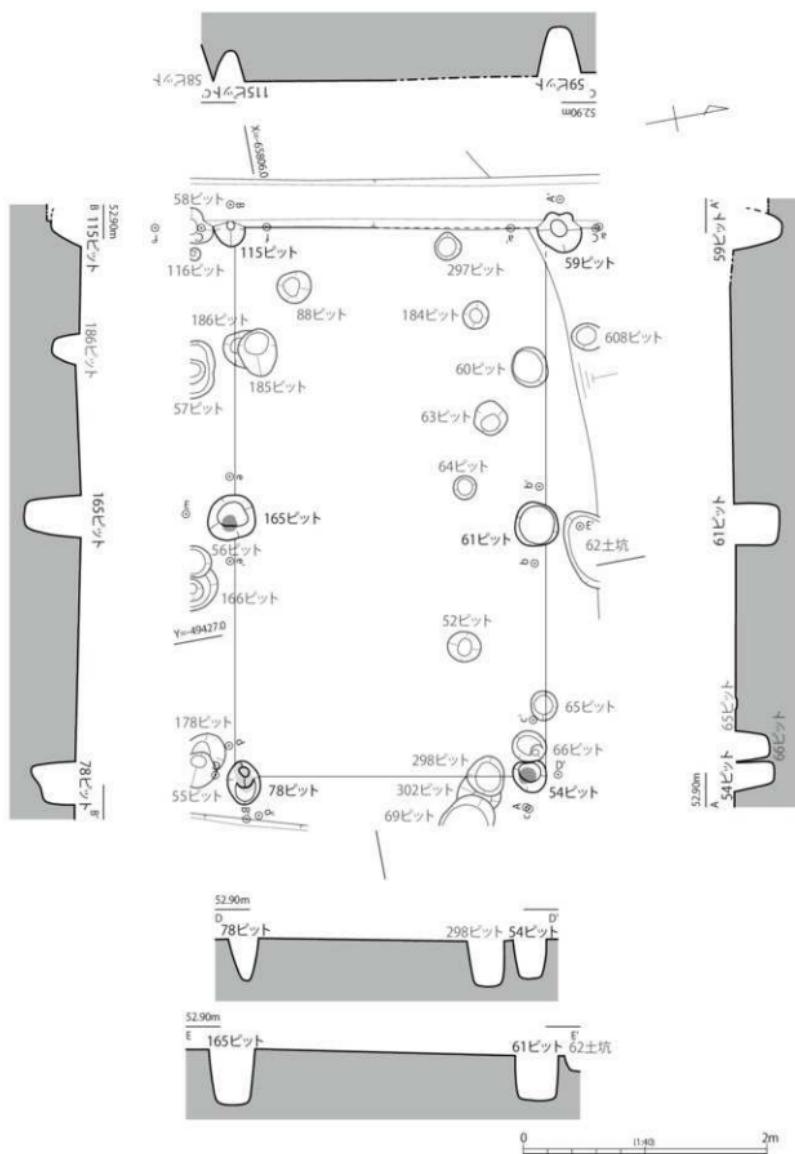
No.	柱間寸法 (柱行距離) (cm)
29-36	14
36-35	15
30-37	13
37-34	17
31-32	14
35-34	14
34-33	11

No.	柱間寸法 (柱行距離) (m)
31-29	2.2
32-36	2.5
33-35	2.5

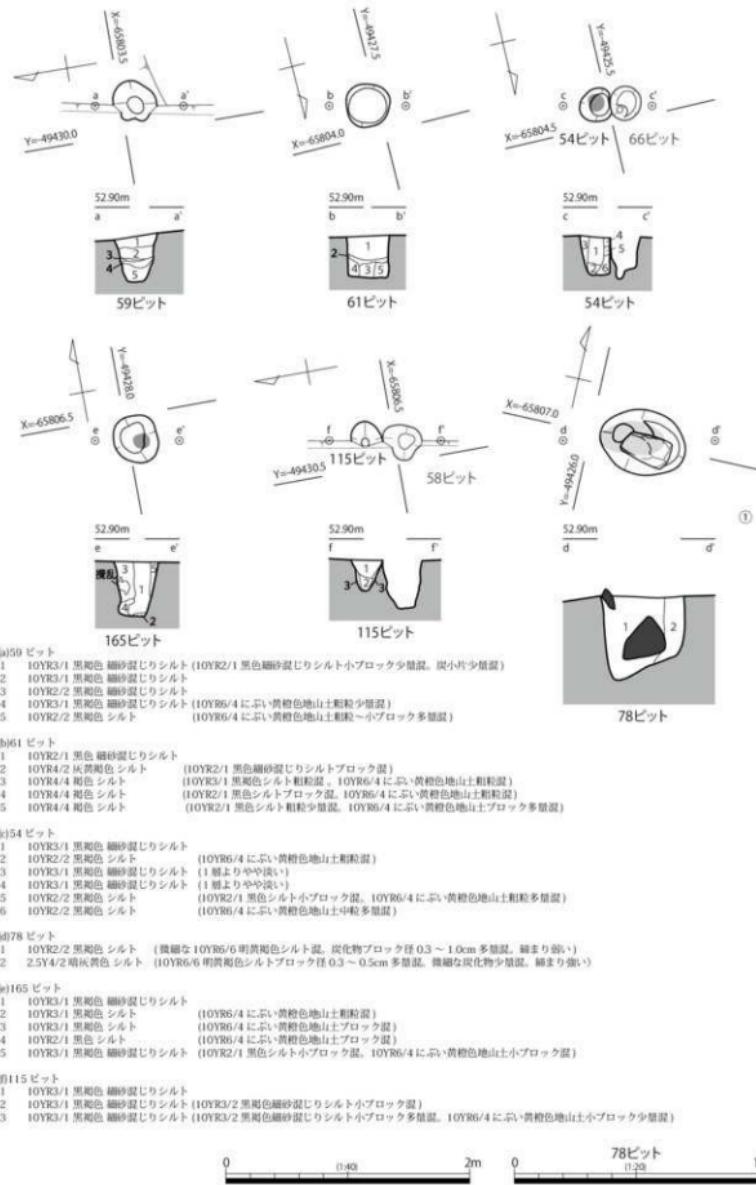
No.	柱間寸法 (梁行距離) (m)
29-30	1.2
30-31	1.0
36-37	1.2
37-32	1.4
35-34	1.4
34-33	1.1

据立柱建物2（第52図）の土屨注記

國化はしていないが、遺物は土師器の細片が出土しており、赤色塗彩したものも認められる。



第53図 掘立柱建物 3



第54図 堀立柱建物3 54・59・61・78・115・165ピット

第8表 挖立柱建物3遺構計測表

No.	断面 (cm)			底面の標高 (m)	柱筋脚長辺 直徑 (cm)	柱のあたり 直徑 (cm)	著者
	長軸	短軸	深さ				
54	28	26	31	52.34	12	—	
59	36	34	37	52.29	—	—	精度に留られる
61	36	37	34	52.32	12	—	柱筋を下部で構造
78	37	37	34	52.33	—	—	柱筋を取り直す
115	26	20(3.1)	25	52.48	—	—	精度に留める
165	41	37	44	52.27	14	—	

柱間寸法 (平行範囲)	
No.	柱間寸法 (m)
59-54	45
115-78	45

柱間寸法 (平行範囲)	
No.	柱間寸法 (m)
115-59	27
165-61	25
78-54	24

柱間寸法 (平行範囲)	
No.	柱間寸法 (m)
59-61	25
61-54	21
115-165	24
165-78	20

掘立柱建物3 (第53・54図、図版17・21)

調査区北東部北側に位置する。桁行2間(4.5m)、梁行1間(2.4~2.7m)の側柱建物であり、主軸をN-79°-Wにとる東西棟である。本建物の柱穴である59・61・54・78・165・115ピットはⅢ層下面、Ⅳ層上面において検出した。

ピットの平面形は円形を呈し、検出面での規模は、長軸26~41cm、短軸26~37cmを測る。検出面からの深さは25~44cmを測り、底面の標高は52.27~52.48mである。

遺物は土師器片が出土しているが、細片のため図化していない。

掘立柱建物4 (第55~58図、図版17・22)

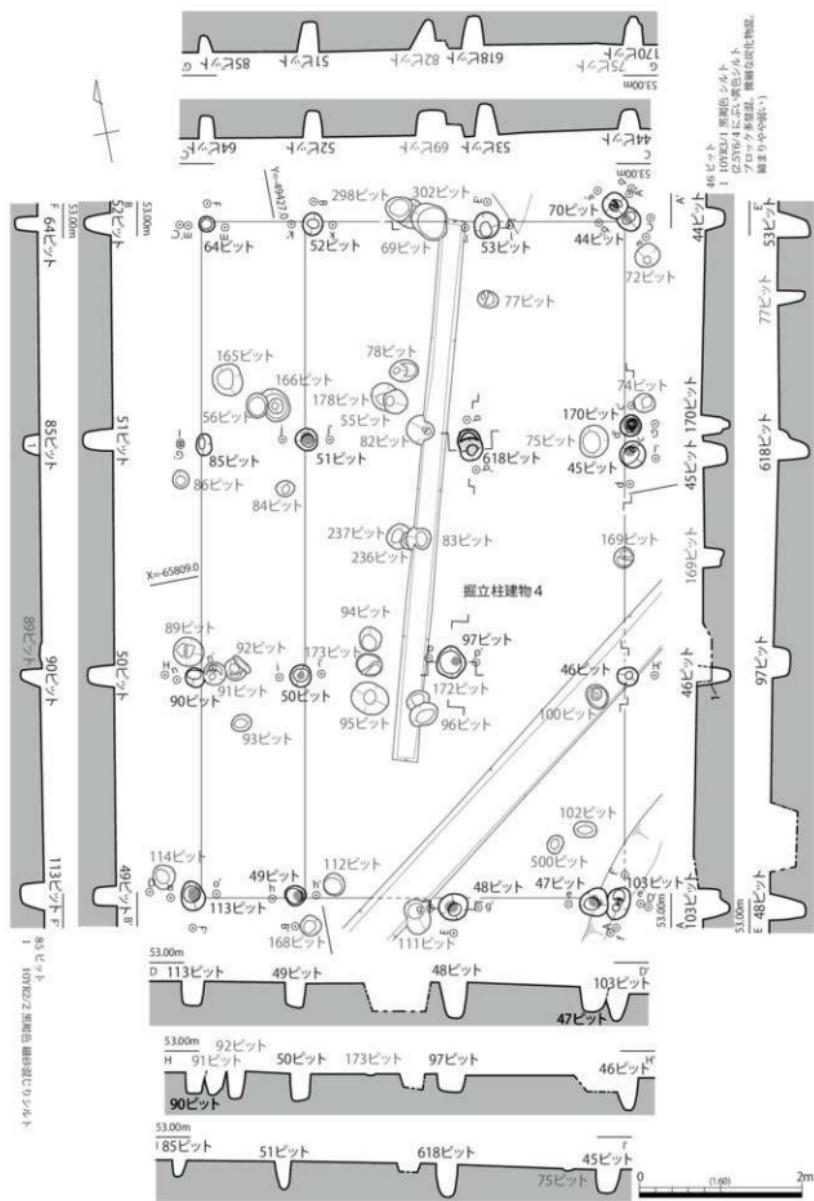
調査区北東部北側に位置する。桁行3間(8.2~8.4m)、梁行3間(5.2m)の主軸をN-11°-Eにとる南北棟であり、西面には扉がつく。重複するピットが認められることから、建て替えが1回行われたものと考える。44・50~53・64・70・85・90ピットはI層直下、IV層上面において検出、45~49・103・170ピットは表土直下、VまたはVI層上面において検出した。

ピットの平面形は円形を呈する。44~53・70・170・103ピット(身舎の柱穴)の検出面での規模は、長軸26~40cm、短軸25~35cmを測る。検出面からの深さは24~57cmを測り、底面の標高は52.12~52.45mである。170ピットは45ピットに近接して位置し、梁筋の通りが悪いものの、桁筋が通ることから本建物に伴うと判断している。170ピット1層中より柱根(試料3)が出土しており、樹種同定の結果、ヒノキ科と同定されている。また、放射性炭素年代測定の結果、calAD534-620(曆年較正2σの確率1位)の値が得られた。試料3は朽ち果て心材の部分のみが遺存していたため、古木効果により本建物の帰属時期より古い値が得られた可能性がある(第5章第1節)。

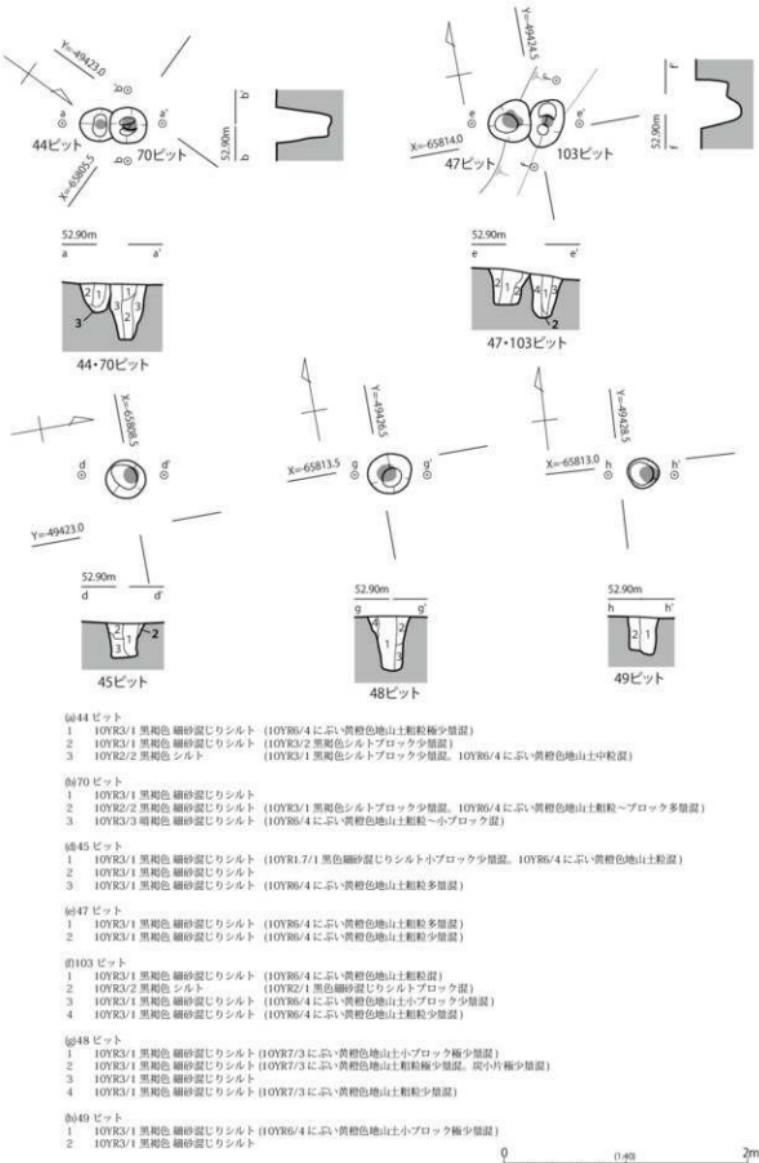
64・85・90・113ピット(廻の柱穴)の検出面での規模は、長軸19~36cm、短軸18~28cmを測る。検出面からの深さは20~29cmを測り、底面の標高は52.41~52.51mである。90ピット底面には、礎盤石により基礎固めされている。

なお、618・97ピットは身舎の中央部に位置し、概ね柱筋が通ることから、本建物に伴うピットである可能性が考えられる。その場合、束柱、または間仕切りなどの可能性が考えられる。

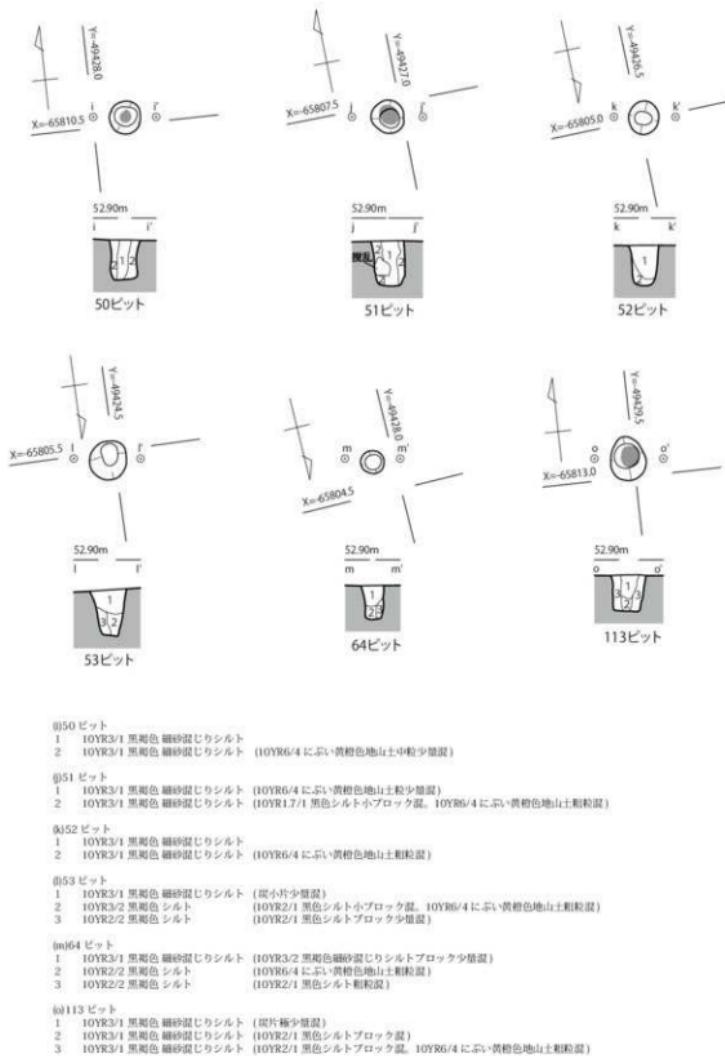
遺物は土師器片が出土しているが、細片のため図化していない。



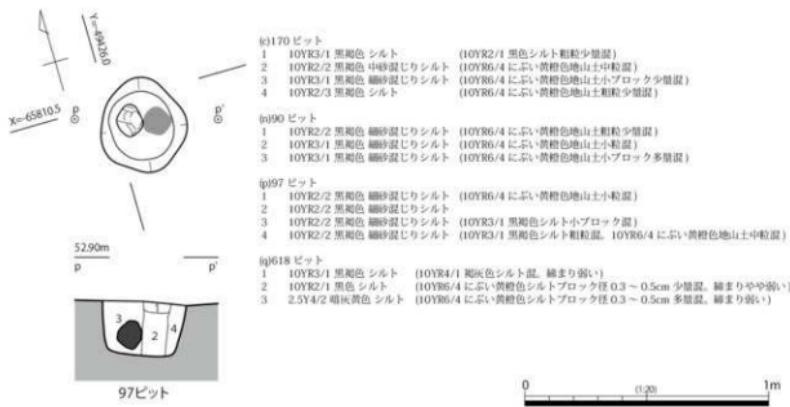
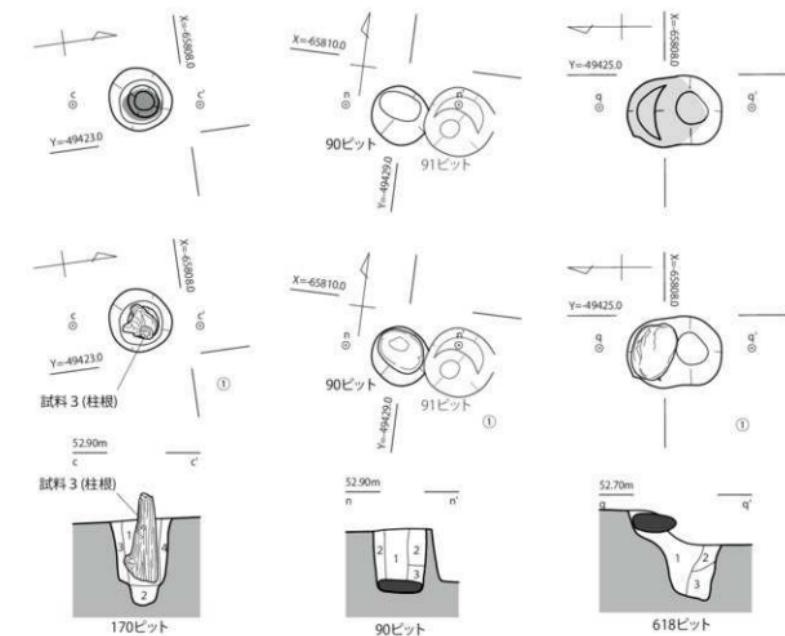
第55図 挖立柱建物4



第56図 堀立柱建物 4 44・45・47~49・70・103ピット



第57図 挖立柱建物4 50~53・64・113ピット



第58図 掘立柱建物4 90・97・170・618ピット

掘立柱建物5（第59～61図、図版17・21）

調査区北東部北側に位置する。桁行3間(7.8～7.9m)、梁行2間(4.2～4.6m)の主軸をN-15°-Eにとる南北棟である。梁行の柱の通りはよいが、桁行の通りがやや悪い。重複するピットが認められるところから、建て替えが1回行われたものと考える。本建物の柱穴である89・119・123・124ピットは表土直下、IV層上面にて検出、112・125・126・128・171・173・174・490ピットはI層直下、VI層上面において検出した。

ピットの平面形は円形を呈する。ピットの検出面での規模は、長軸26～37cm、短軸24～35cmを測る。検出面からの深さは4～42cmを測り、底面の標高は52.35～52.72mである。

なお、114・167ピットは89-128ピットライン上に位置することから、本遺構の東柱などの可能性が考えられる。

遺物は土器器片が出土しているが、細片のため図化していない。

第9表 掘立柱建物4遺構計測表

ピット

No.	規格 (cm)	底面の標高 (m)	柱脚跡直径 (cm)	柱のあたり 直径 (cm)	備考
44	30 27 24	52.34	10	—	70 (重複)
45	32 31 28	52.32	11	—	
46	28 21 42	52.27	—	—	
47	36 35 28	52.41	11	—	102 (重複)
48	35 33 44	52.33	16	—	
49	26 25 30	52.45	13	—	
50	28 26 33	52.40	9	—	
51	28 26 37	52.34	12	—	
52	26 25 33	52.35	—	—	
53	32 31 37	52.38	—	—	
70	30 29 45	52.12	9	—	44 (重複)
97	39 37 22	52.49	10	—	
103	40 29 35	52.30	8	—	47 (重複)
170	27 25 35	52.27	14	13	柱脚 (試料4)
616	38 28 37	52.27	—	—	柱脚取り扱い

柱脚 (底面)

No.	規格 (cm)	底面の標高 (m)	柱脚跡直径 (cm)	備考
64	19 19 28	52.41	—	
85	26 18 20	52.51	—	
90	24 22 26	52.49	9	91 (重複)、柱脚石上
113	36 28 29	52.48	10	

柱脚寸法 (底面・軒行範囲)	
No.	柱脚寸法 (cm)
44-102	8.1
44-47	8.4
70-103	8.6
70-47	8.6
53-48	8.4
52-49	8.2

柱脚寸法 (身寄・軒行範囲)

No.	柱脚寸法 (cm)
44-102	8.1
44-47	8.4
70-103	8.6
70-47	8.6
53-48	8.4
52-49	8.2

柱脚寸法 (身寄・軒行範囲)

No.	柱脚寸法 (cm)
52-48	2.9
52-39	3.7
51-45	4.0
51-170	4.0
50-46	4.1
49-103	3.9
49-47	3.6

柱脚寸法 (身寄・軒行範囲)

No.	柱脚寸法 (cm)
44-45	2.8
70-170	2.7
70-45	3.0
44-170	2.5
45-46	2.8
170-46	3.1
66-103	2.8
46-47	2.9
52-618	2.7
618-170	2.0
50-57	2.0
97-46	2.1
49-48	1.9
48-103	2.0
48-47	1.7

柱脚寸法 (身寄・軒行範囲)

No.	柱脚寸法 (cm)
52-59	2.1
53-44	1.8
53-70	1.6
53-618	2.0
618-170	2.0
50-57	2.0
97-46	2.1
49-48	1.9
48-103	2.0
48-47	1.7

柱脚寸法 (軒・軒行方向)

No.	柱脚寸法 (cm)
64-85	2.7
85-90	2.8
90-113	2.7

柱脚寸法 (軒・軒行方向)

No.	柱脚寸法 (cm)
119-126	7.8
119-171	7.8
89-128	7.8
173-174	7.9

柱脚寸法 (軒・軒行範囲)

No.	柱脚寸法 (cm)
64-52	1.3
85-51	1.3
90-50	1.3
113-49	1.3

第10表 掘立柱建物5遺構計測表

ピット

No.	規格 (cm)	底面の標高 (m)	柱脚跡直径 (cm)	柱のあたり 直径 (cm)	備考
89	27 35 39	52.35	10	—	
112	28 26 28	52.46	—	—	柱脚取り扱い
114	29 28 29	52.48	—	—	柱脚取り扱い
119	34 33 13.11.2	52.58	—	—	柱脚取り扱い。柱頭に埋められた
123	31 24 42	52.35	10	—	124 (重複)
124	28 27 41	52.36	12	—	123 (重複)
125	26 25 29	52.30	12	—	
126	31 30 4	52.72	—	—	171 (重複)
128	30 24 22	52.54	—	—	柱脚取り扱い
167	25 24 29	52.48	14	9	
171	33 30 32	52.44	15	—	126 (重複)
173	31 29 35	52.36	12	9	
174	33 31 20	52.52	10	—	
490	30 23 18	52.46	10	—	

柱脚寸法 (軒・軒行範囲)

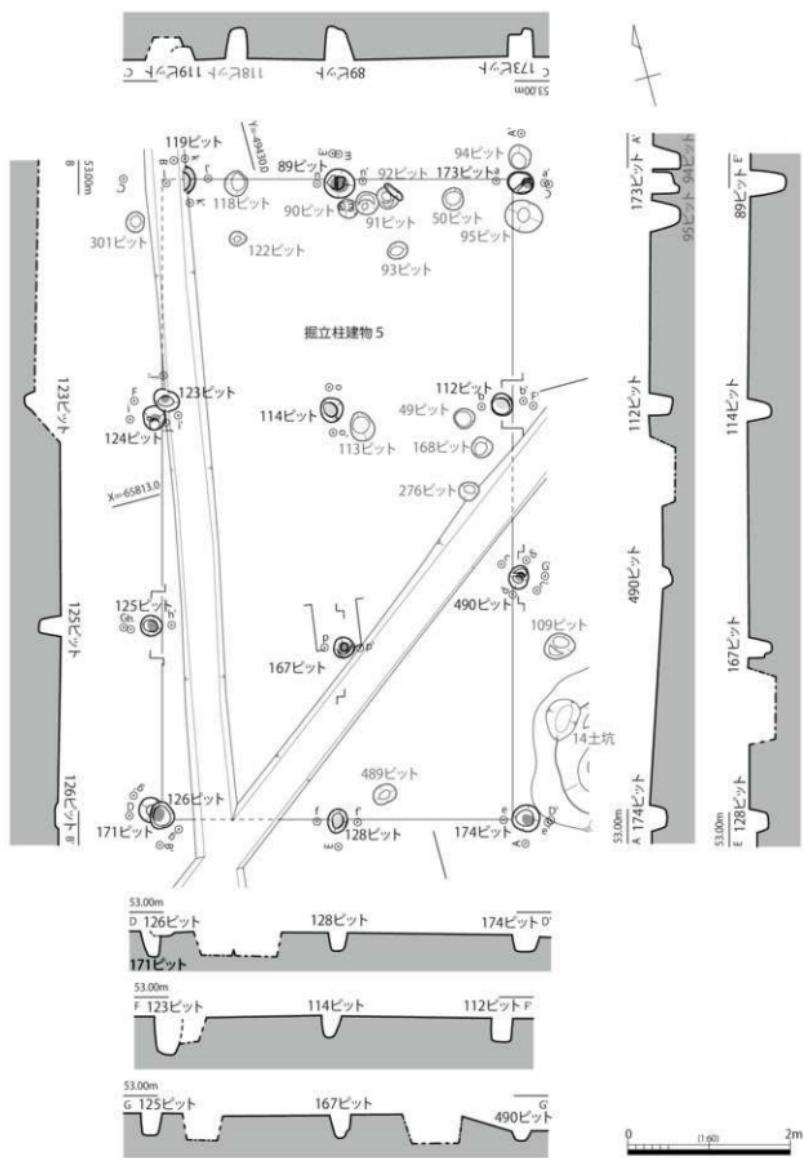
No.	柱脚寸法 (cm)
119-126	7.8
119-171	7.8
89-128	7.8
173-174	7.9

柱脚寸法 (軒・軒行範囲)

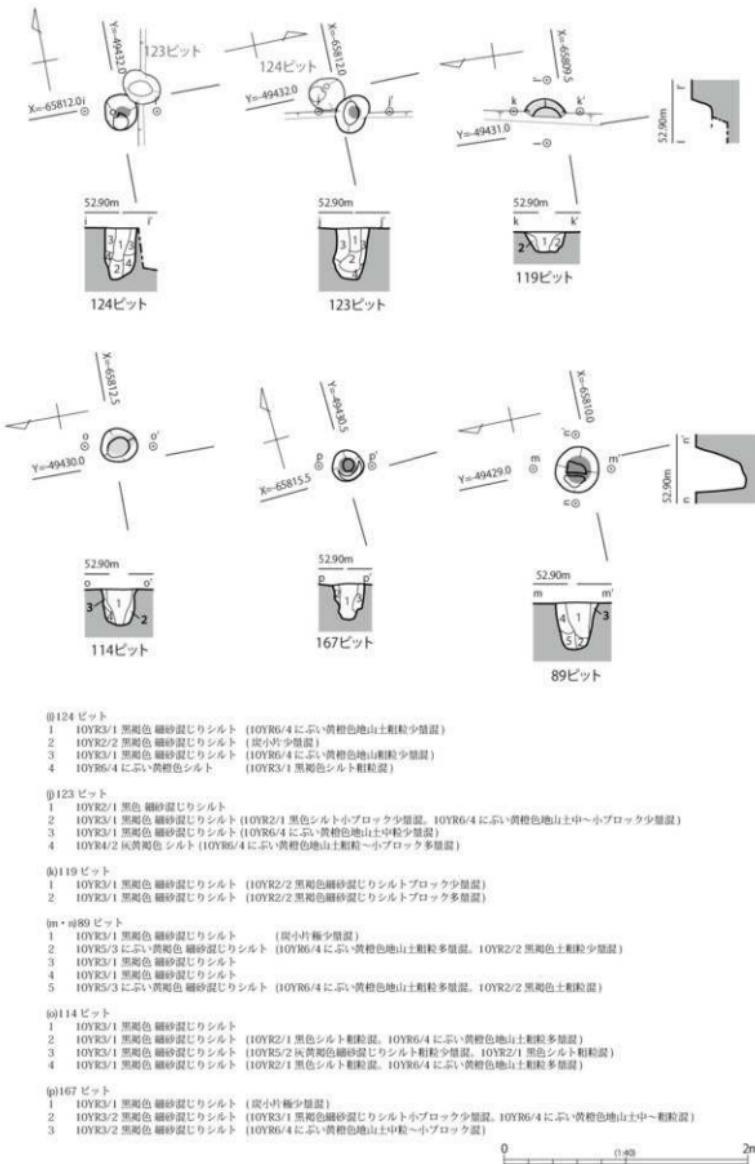
No.	柱脚寸法 (cm)
119-173	4.2
123-122	4.1
124-132	4.3
125-60	4.6
171-174	4.6
126-174	4.5

柱脚寸法 (軒行方向)

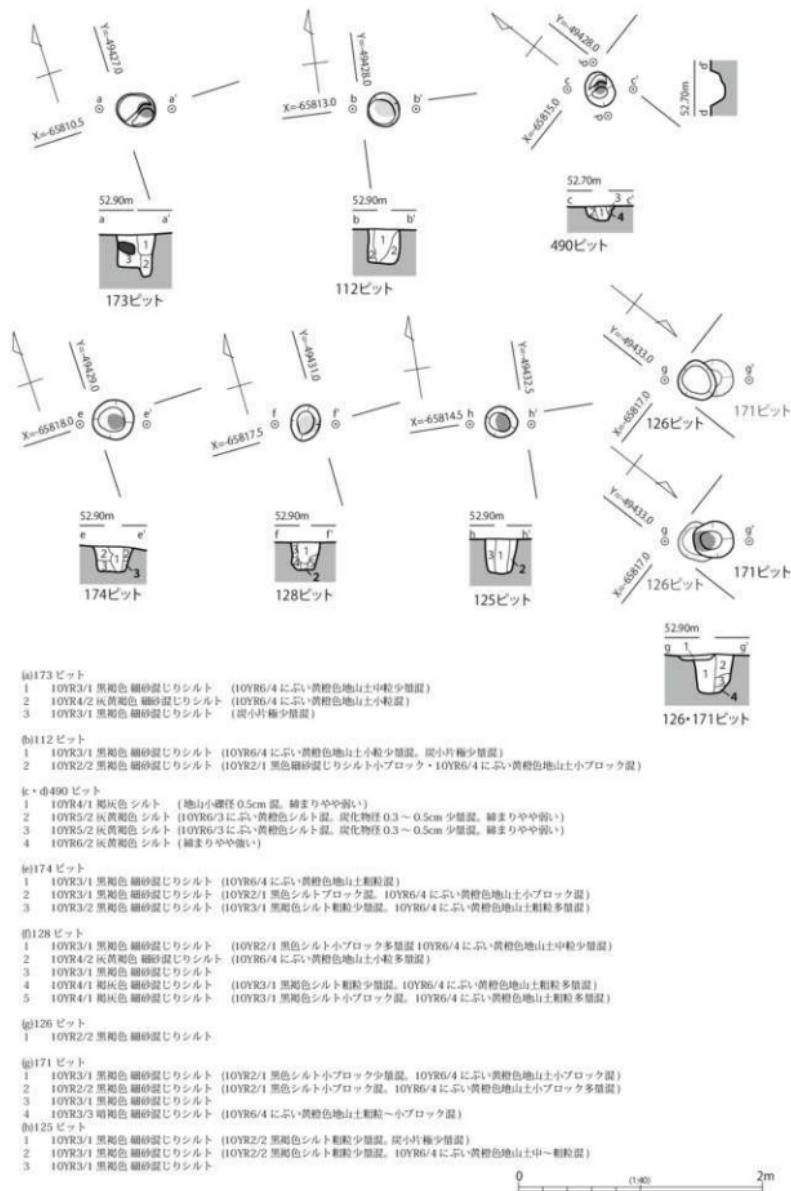
No.	柱脚寸法 (cm)
119-89	1.9
89-172	2.3
123-114	2.1
114-167	2.9
167-128	2.1
119-123	2.8
119-124	3.0
124-125	2.6
125-125	2.6
171-128	2.2
126-128	2.2
128-174	2.4



第59図 掘立柱建物 5



第60図 挖立柱建物5 89・114・119・123・124・167ピット



第614図 挖立柱建物5 112・125・126・128・171・173・174・490ピット

掘立柱建物6（第62～67図、図版23・24・68）

調査区北東部北西側に位置する。桁行2間(5.1～5.3m)、梁行3間(5.1～5.3m)のN-32°-Eを主軸にとる南北棟であり、西面に廂がつく。また、建物の北側に溝を1条伴う(39溝)。43・277・290・291・303ピットはI層直下、IV層上面において検出した。278・286・295・300・304・305ピットはIV層掘削中に検出した。

ピットの平面形は円形を呈する。291・303・304・278・286・277・290ピット(身舎の柱穴)の検出面での規模は、長軸25～35cm、短軸24～32cmを測る。検出面からの深さは8～23cmを測り、底面の標高は52.50～52.62mである。なお、43ピットは身舎中央に位置し、柱筋も通ることから、本建物に伴う束柱、間仕切りなどの可能性が考えられる。

305・295・300ピット(廂の柱穴)の検出面での規模は、長軸21～29cm、短軸12～27cmを測る。検出面からの深さは19～28cmを測り、底面の標高は52.41～52.56mである。

次に、当遺構の柱穴における遺物の出土状況について述べる。土師器坏Po89、皿Po90・91・93は277ピット抜き取り痕跡中から出土し、そのうち、Po89はほぼ完存する個体である。土師器坏Po86・88、皿Po92は278ピット抜き取り痕跡中から出土した。Po86・88は疊によって押しつぶされたような状態で出土している。これらの遺物は、いざれも抜き取り痕跡中より出土していることから、本建物廃絶時になんらかの祭祀行為が行われ、意図的に土器が埋納されたものと推測している。

以下、図化した遺物Po86～93の特徴について述べる。

Po86～89は回転台土師器の坏である。口径13.4～14.2cm、底径5.9～6.3cm、器高4.1～4.4cmを測り、プロポーションに大きな差は認められない。いざれも内湾する口縁部をもつが、Po86～88の端部は丸くおさめられる一方、Po89はやや外反する。Po87～89は底部に板目の痕跡を残す。Po90～93は皿であり、口径8.0～9.0cmを測る。器高はPo90が2.4cmと高く、Po93が1.6cmで低い。Po91～93は、口縁部外面の端部やや下に回転ナデによって稜が形成されている。

これらの遺物から、本遺構の廃絶時期は11世紀後半～12世紀中葉と考えられる。

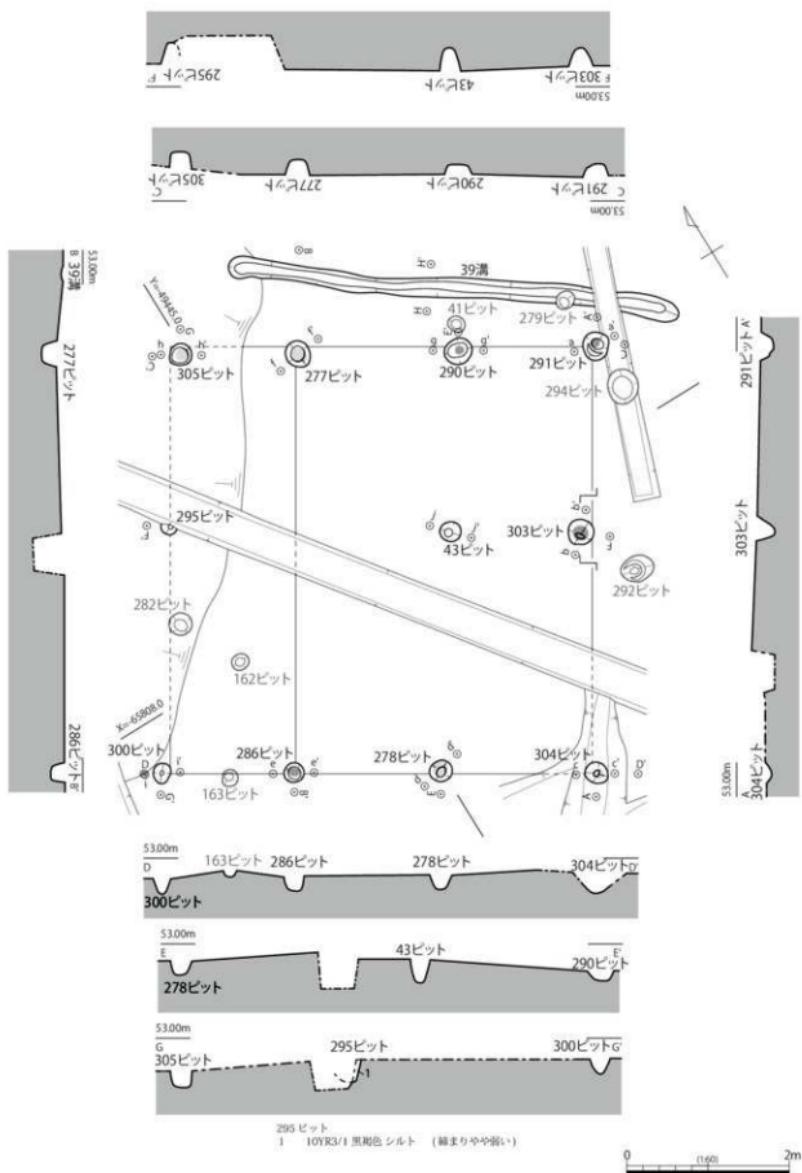
39溝（第62図・63図）

39溝は建立柱建物6の北面に沿っており、建物からは0.4～1.0mの距離をおいて位置する。検出面での幅は40～90cm、検出面からの深さは7cmを測り、U字状の断面形状を呈す。埋土は黒色を呈する砂混じりシルトが堆積する。図化はしていないが、土師器坏の細片が出土している。

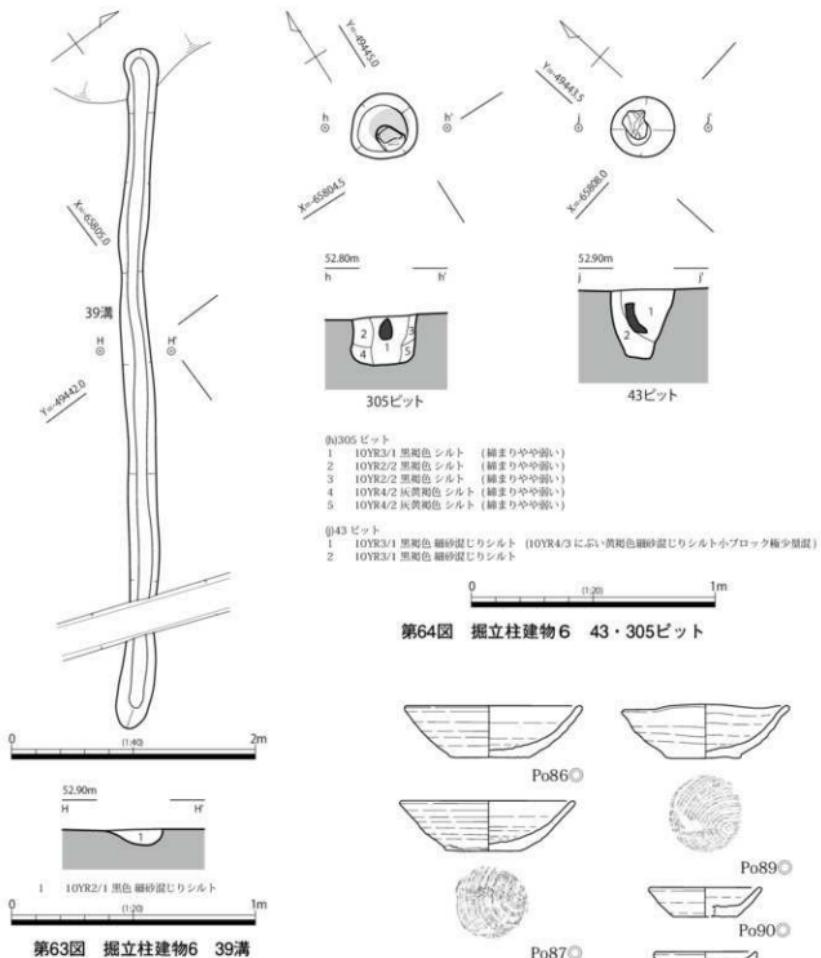
掘立柱建物7（第68図、図版25）

調査区北東部西側の調査区間に位置し、建物の西側は調査区外となる。桁行3間(6.1m)、梁行1間(1.7m)以上のN-30°-Eを主軸にとる南北棟である。重複するピットが認められることから、建て替えが1回行われたものと考える。315～319・321・632・634ピットはI層直下、VII層上面において検出した。

ピットの平面形は円形を呈する。315～319・632・634ピット(身舎の柱穴)の検出面での規模は、長軸24～34cm、短軸22～25cmを測る。検出面からの深さは17～34cmを測り、底面の標高は52.83～52.94mである。なお、321ピットは身舎中央に位置し、柱筋も通ることから、本建物に伴う可能性が考えられる。

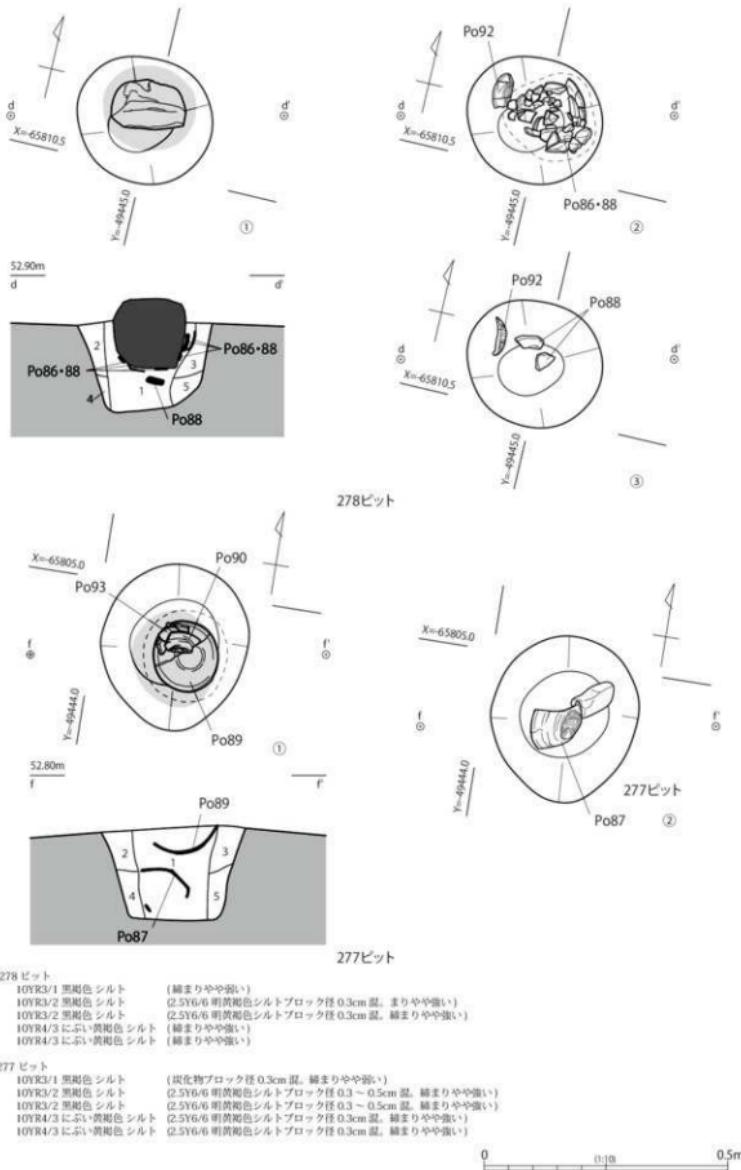


第62図 掘立柱建物 6

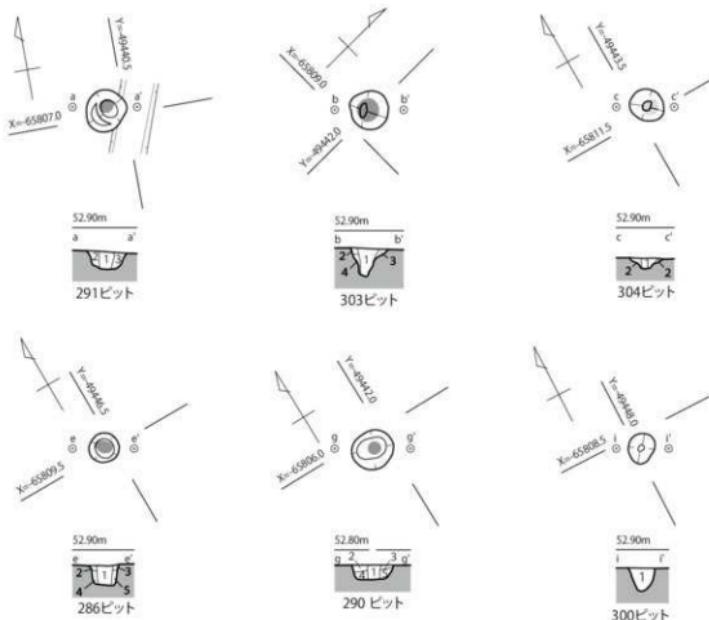


第65図 掘立柱建物6 出土土器

第3章 山ノ下遺跡の調査成果



第66図 掘立柱建物6 277・278ピット



(a) 291ピット

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト (小礫径0.3 ~ 0.5cm 少量混。締まりやや弱い)
2 10YR3/2 黒褐色 シルト (HOYR5/1 和灰色シルト多量混。
10YR6/6 明黄褐色シルトブロック径0.3cm 少量混。締まりやや弱い)
3 10YR3/2 黒褐色 シルト (HOYR5/1 和灰色シルト多量混。
10YR6/6 明黄褐色シルトブロック径0.3cm 少量混。締まりやや弱い)

(b) 303ピット

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト (HOYR5/2 深黄褐色シルト混。締まりやや弱い)
2 10YR2/2 黒褐色 シルト (締まりやや弱い)
3 10YR2/2 黒褐色 シルト (締まりやや弱い)
4 10YR4/2 深黄褐色 シルト (締まりやや弱い)

(c) 304ピット

- 1 10YR4/1 和灰色 シルト (HOYR2/1 黒色シルト混。締まり非常に弱い)
2 10YR5/1 和灰色 シルト (締まり非常に弱い) ②後重機による圧力により変形か?

(d) 286ピット

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト (微細な化物混。締まりやや弱い)
2 10YR2/2 黒褐色 シルト (締まりやや弱い)
3 10YR2/2 黒褐色 シルト (締まりやや弱い)
4 10YR4/1 和灰色 シルト (2.SY6/6 明黄褐色シルトブロック径0.3 ~ 0.5cm 少量混。締まりやや弱い)
5 10YR4/1 和灰色 シルト (締まりやや弱い)

(e) 290ピット

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト (小礫径0.3 ~ 1.0cm 極少量混。締まりやや弱い)
2 10YR3/2 黒褐色 シルト (小礫径0.3 ~ 1.0cm 少量混。締まりやや弱い)
3 10YR3/2 黒褐色 シルト (小礫径0.3 ~ 1.0cm 少量混。締まりやや弱い)
4 10YR4/1 和灰色 シルト (小礫径0.3 ~ 0.5cm 少量混。締まりやや弱い)
5 10YR5/2 深黄褐色 シルト (小礫径0.3 ~ 0.5cm 少量混。締まりやや弱い)

(f) 300ピット

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト (2.SY6/6 明黄褐色シルトブロック径0.3 ~ 0.5cm 少量混。微細な化物混。締まりやや弱い)



第67図 掘立柱建物6 286・290・291・300・303・304ピット

第3章 山ノ下遺跡の調査成果

第11表 挖立柱建物6構造計測表

柱子寸法 (身幅・航行距離)						
No.	柱幅 (cm)	柱高 (m)	柱根の標高 (m)	柱根距高差 (cm)	柱のあたり 直達 (cm)	備考
43	26	25	28	52.55	—	—
277	34	31	19	52.55	—	—
278	27	27	19	52.62	—	—
286	35	24	15	52.61	12	—
290	35	32	12	52.56	10	—
291	35	31	14	52.56	10	10
303	33	32	23	52.53	10	—
304	29	26	8	52.56	—	—

柱子寸法 (身幅・航行距離)						
No.	柱幅 (cm)	柱高 (m)	柱根の標高 (m)	柱根距高差 (cm)	柱のあたり 直達 (cm)	備考
291	30	30	53	—	—	—
290-279	—	—	52	—	—	—
277-286	—	—	51	—	—	—

柱子寸法 (身幅・航行方向)						
No.	柱幅 (cm)	柱高 (m)	柱根の標高 (m)	柱根距高差 (cm)	柱のあたり 直達 (cm)	備考
291-300	—	—	24	—	—	—
303-304	—	—	29	—	—	—
290-43	—	—	22	—	—	—
43-29	—	—	30	—	—	—

柱子寸法 (身幅・航行方向)						
No.	柱幅 (cm)	柱高 (m)	柱根の標高 (m)	柱根距高差 (cm)	柱のあたり 直達 (cm)	備考
277-290	—	—	21	—	—	—
295-300	—	—	16	—	—	—

柱子寸法 (航行距離)						
No.	柱幅 (cm)	柱高 (m)	柱根の標高 (m)	柱根距高差 (cm)	柱のあたり 直達 (cm)	備考
277-291	—	—	36	—	—	—
299-304	—	—	37	—	—	—

柱子寸法 (航行距離)						
No.	柱幅 (cm)	柱高 (m)	柱根の標高 (m)	柱根距高差 (cm)	柱のあたり 直達 (cm)	備考
296-303	—	—	50	—	—	—

No.	柱幅 (cm)	柱高 (m)	柱根の標高 (m)	柱のあたり 直達 (cm)	備考
295	21	12	28	52.46	—
300	25	21	19	52.56	—
305	29	27	20	52.41	柱抜け取り直し

No.	柱幅 (cm)	柱高 (m)	柱根の標高 (m)	柱のあたり 直達 (cm)	備考
39	27.1±	0.4~0.9	7	— 西西北: 52.72 — 東東: 52.25	N-S: W 279 (東側)

315ピット

- 1 IOYR1.7/1 黒色 細網混じりシルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色地山土粒少量混)
2 IOYR1.7/1 黒色 細網混じりシルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色地山土中~細粒多量混)
3 IOYR1.7/1 黒色 細網混じりシルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色地山土中粒少量混)

634ピット

- 1 IOYR2/1 黒色 シルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色地山土粒少~小プロック多量混)
2 IOYR1.7/1 黒色 シルト

316ピット

- 1 IOYR1.7/1 黒色 シルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色地山土中~中粒少量混)
2 IOYR6/4 にぶい黄褐色 地山土細網混じりシルト (IOYR1.7/1 黑色シルト+細粒少量混)

317ピット

- 1 IOYR1.7/1 黒色 シルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色地山土中~細粒少量混)
2 IOYR1.7/1 黒色 シルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色地山土粒少量混)

632ピット

- 1 IOYR1.7/1 黒色 シルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色地山土中~細粒少量混)
2 IOYR2/1 黒色 シルト (IOYR1.7/1 黑色シルト+細粒少量混)
3 IOYR1.7/1 黒色 シルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色地山土中少~小プロック少量混)

325ピット

- 1 IOYR1.7/1 黒色 シルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色地山土小プロック多量混)

318ピット

- 1 IOYR1.7/1 黒色 シルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色地山土細網粒少~小プロック混)
2 IOYR2/1 黒色 シルト (IOYR1.7/1 黑色シルト+細粒少量混)
3 IOYR1.7/1 黒色 シルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色地山土細網粒少量混)

319ピット

- 1 IOYR1.7/1 黒色 シルト (IOYR5/3 にぶい黄褐色細網混じりシルトがマーブル状に多量混)
2 IOYR1.7/1 黒色 シルト (IOYR5/3 にぶい黄褐色細網混じりシルト細粒少量混)

321ピット

- 1 IOYR1.7/1 黒色 シルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色地山土中粒少量混)

- 2 IOYR1.7/1 黒色 シルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色地山土中粒少~小プロック混)

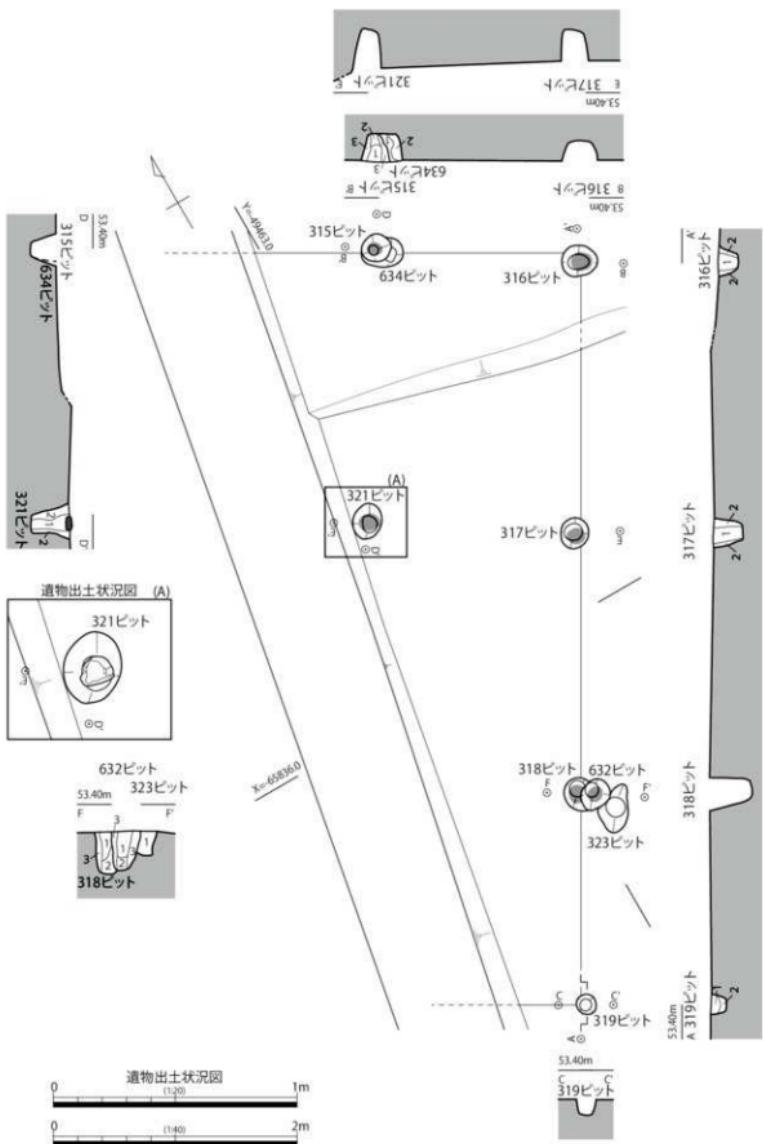
掘立柱建物7 (第68図) の土層注記

また、319ピットは他のピットと比較し規模が小さく、318ピットとの柱間距離が狭いことから、廂などの付属施設の柱穴と推測している。

本遺構からは、土師器片が出土しているが、細片のため図化はしていない。

掘立柱建物8 (第69・70図、図版26)

調査区北東部東側の調査区際に位置し、建物東側は擾乱により消失している。主軸をN-30°-Eにとる桁行4間(9.4m)、梁行1間(1.9m)以上の建物であり、西面には廂がつく。422~430・432・435ピットはI層直下、VII層上面において検出した。



第68図 握立柱建物7

第3章 山ノ下遺跡の調査成果

ピットの平面形は円形を主体とするが、一部、平面隅丸方形状のものも認められる。検出したピットの内、422～426ピットは427～430・432ピットに対し、総じて規模が小さいことから、廻の可能性が高いと考える。また、重複するピットがあり、建て替えが1回行われたものと考える。

427～430・432ピット(身舎の柱穴)の検出面での規模は、長軸28～39cm、短軸16～33cmを測る。検出面からの深さは10～20cmを測り、底面の標高は52.55～52.67mである。

422～426ピット(廻の柱穴)の検出面での規模は、長軸21～26cm、短軸19～26cmを測る。検出面からの深さは10～19cmを測り、底面の標高は52.52～52.64mである。

図化はしていないが、土師器および須恵器の細片が出土しており、土師器片の中には赤色塗彩されたものも認められる。

掘立柱建物9 (第71～73図、図版27・68)

調査区北東部東側に位置する。桁行2間(5.2m)、梁行1間(3.3～3.4m)の側柱建物で、主軸をN-26°-Eにとる南北棟である。136・135・132・538・541・545ピットは表土直下、VI層上面において検出した。ピットの平面形は円形を呈する。検出面での規模は、長軸26～40cm、短軸25～29cmを測る。検出面からの深さは7～18cmを測り、底面の標高は52.21～52.27mである。

図化したPo94・95は手づくね成形された土師器皿であり、132ピット抜き取り痕跡中から重ねられた状態で出土している。いずれもほぼ完存する個体であり、本建物廃絶時になんらかの祭祀行為が行われ、意図的に土器が埋納されたものと考える。Po94の口縁部の立ち上がりは明瞭であり、Po95は緩やかである。

出土遺物から本遺構の時期は12世紀後葉から13世紀中葉と考えられる。

第12表 掘立柱建物7遺構計測表

ピット			底面 (cm)	底面の標高 (m)	底面深さ (cm)	備考
No.	長軸	短軸	深さ			
315	24	22	24	52.88	9	634(東側)
321	30	24	32	52.89	8	
634	24	24	23	52.88	—	215(東側)

ピット (廻)			底面 (cm)	底面の標高 (m)	底面深さ (cm)	備考
No.	長軸	短軸	深さ			
316	20	25	17	52.94	13	
317	26	23	24	52.90	12	
318	29	25	34	52.83	12	632(東側)
319	17	16	13	53.04	—	
320	40	25	20	52.96	—	632(東側)
632	27	23	32	52.86	10	318・323(東側)

柱間寸法 (身寄: 行方向)		
No.	柱間寸法 (m)	柱間寸法 (m)
315-321	2.3	—
634-323	2.2	—

柱間寸法 (廻: 行方向)		
No.	柱間寸法 (m)	柱間寸法 (m)
315-316	1.7	—
634-326	1.6	—
321-317	1.7	—

柱間寸法 (廻: 行方向)		
No.	柱間寸法 (m)	柱間寸法 (m)
316-319	0.3	—
317-318	2.3	—
317-632	2.1	—
318-319	1.7	—
632-319	1.7	—

柱間寸法 (身寄: 行方向)		
No.	柱間寸法 (m)	柱間寸法 (m)
427-428	2.5	—
427-432	2.2	—
428-429	2.4	—
632-429	2.7	—
632-430	2.2	—
632-430	7.0 (30)	—

柱間寸法 (身寄: 行方向)		
No.	柱間寸法 (m)	柱間寸法 (m)
427-428	2.5	—
427-432	2.2	—

柱間寸法 (廻: 行方向)		
No.	柱間寸法 (m)	柱間寸法 (m)
422-423	2.6	—
422-424	2.2	—
424-425	2.2	—
425-426	2.4	—

柱間寸法 (廻: 行方向)		
No.	柱間寸法 (m)	柱間寸法 (m)
422-427	1.9	—
423-424	1.9	—
424-425	1.9	—
424-429	1.8	—
425-430	1.8	—

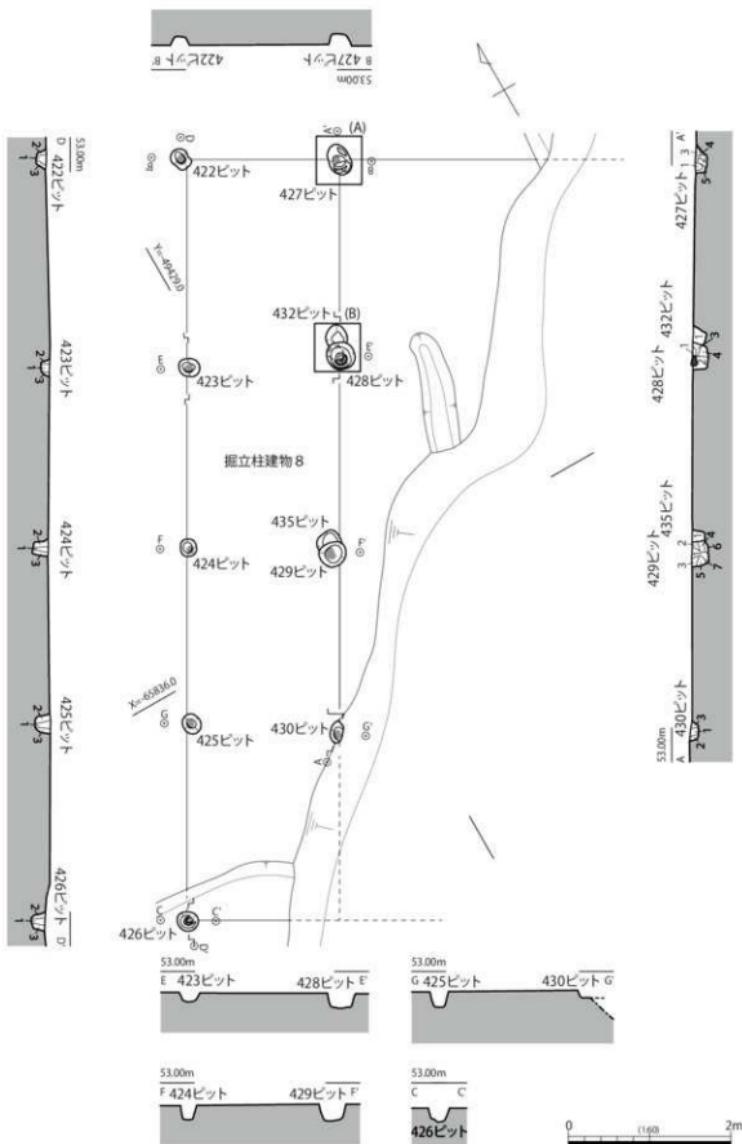
第13表 掘立柱建物8遺構計測表

ピット			底面 (cm)	底面の標高 (m)	底面深さ (cm)	柱間寸法 (身寄: 行方向)	柱間寸法 (廻: 行方向)
No.	長軸	短軸	深さ				
427	39	26	14	52.97	10	—	—
428	35	33	19	52.55	15	13	422 (東側)
429	33	30	20	52.55	10	—	423 (東側)
430	28	16	10	52.67	9	—	—
432	28.0±1.0	26	16	52.57	—	—	428 (東側)
435	30	19.0±1.0	15	52.60	—	—	429 (東側)

ピット (廻)			底面 (cm)	底面の標高 (m)	底面深さ (cm)	柱間寸法 (身寄: 行方向)	柱間寸法 (廻: 行方向)
No.	長軸	短軸	深さ				
422	26	19	12	52.59	6	—	—
423	26	22	10	52.64	10	—	—
424	21	20	18	52.55	6	—	—
425	25	22	19	52.57	7	—	—
426	25	26	17	52.58	7	4	—

柱間寸法 (身寄: 行方向)		
No.	柱間寸法 (m)	柱間寸法 (m)
422-427	1.9	—
423-424	1.9	—

柱間寸法 (廻: 行方向)		
No.	柱間寸法 (m)	柱間寸法 (m)
422-427	1.9	—
423-424	1.9	—
424-425	1.8	—
425-430	1.8	—



第69図 掘立柱建物8

第3章 山ノ下遺跡の調査成果

422 ピット

- 1 IYR3/1 黒褐色 シルト (縛まりやや弱い)
- 2 IYR1.7/1 黒色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 調。縛まりやや弱い)
- 3 IYR1.7/1 黒色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 調。縛まりやや弱い)

423 ピット

- 1 IYR3/1 黑褐色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3cm 調。縛まりやや弱い)
- 2 IYR1.7/1 黒色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 調。縛まりやや弱い)
- 3 IYR1.7/1 黑褐色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 調。縛まりやや弱い)

424 ピット

- 1 IYR3/1 黑褐色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 調。縛まりやや弱い)
- 2 IYR1.7/1 黑色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 調。縛まりやや弱い)
- 3 IYR1.7/1 黑褐色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 調。縛まりやや弱い)

425 ピット

- 1 IYR3/1 黑褐色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3cm 調。縛まりやや弱い)
- 2 IYR1.7/1 黑色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量調。縛まりやや弱い)
- 3 IYR1.7/1 黑褐色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量調。縛まりやや弱い)

426 ピット

- 1 IYR3/1 黑褐色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3cm 調。縛まりやや弱い)
- 2 IYR1.7/1 黑色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 調。縛まりやや弱い)
- 3 IYR1.7/1 黑褐色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 調。縛まり強い)

427 ピット

- 1 IYR3/1 黑褐色 シルト (IYR3/1 黑褐色シルト。縛まりやや弱い。複数の川底性あり)
- 2 IYR3/1 黑褐色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 調。縛まりやや弱い)
- 3 IYR2/1 黑色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3cm 調。縛まりやや弱い)
- 4 IYR6/3 にぶい黄褐色 シルト (IYR2/1 黒色シルト少量調。縛まり強い)
- 5 IYR6/3 にぶい黄褐色 シルト (IYR2/1 黑色シルト少量調。縛まり強い)

428 ピット

- 1 IYR6/2 灰黒褐色 シルト (細炒多量調。小礫径 0.3cm 多量調。縛まり強い、根柢の可能性あり)
- 2 IYR3/1 黑褐色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量調。縛まりやや弱い)
- 3 IYR3/1 黑褐色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量調。縛まりやや弱い)
- 4 IYR3/1 黑褐色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量調。縛まりやや弱い)

432 ピット

- 1 IYR3/1 黑褐色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量調。縛まりやや弱い)

429 ピット

- 1 IYR3/1 黑褐色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量調。IYR1.7/1 シルト調。縛まりやや弱い)
- 2 IYR1.7/1 黑色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量調。縛まりやや弱い)
- 3 IYR1.7/1 黑色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量調。縛まりやや弱い)
- 4 IYR4/2 灰黒褐色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量調。IYR1.7/1 シルト調。縛まりやや弱い)
- 5 IYR4/2 灰黒褐色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量調。IYR1.7/1 シルト調。縛まりやや弱い)
- 6 IYR1.7/1 黑色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3cm 多量調。縛まりやや弱い)
- 7 IYR1.7/1 黑色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3cm 多量調。縛まりやや弱い)

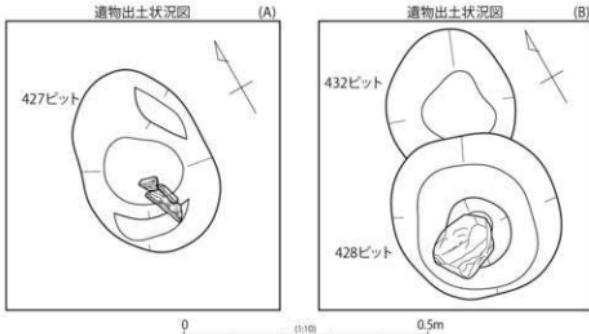
435 ピット

- 1 IYR3/1 黑褐色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.5cm 少量調。縛まりやや弱い)

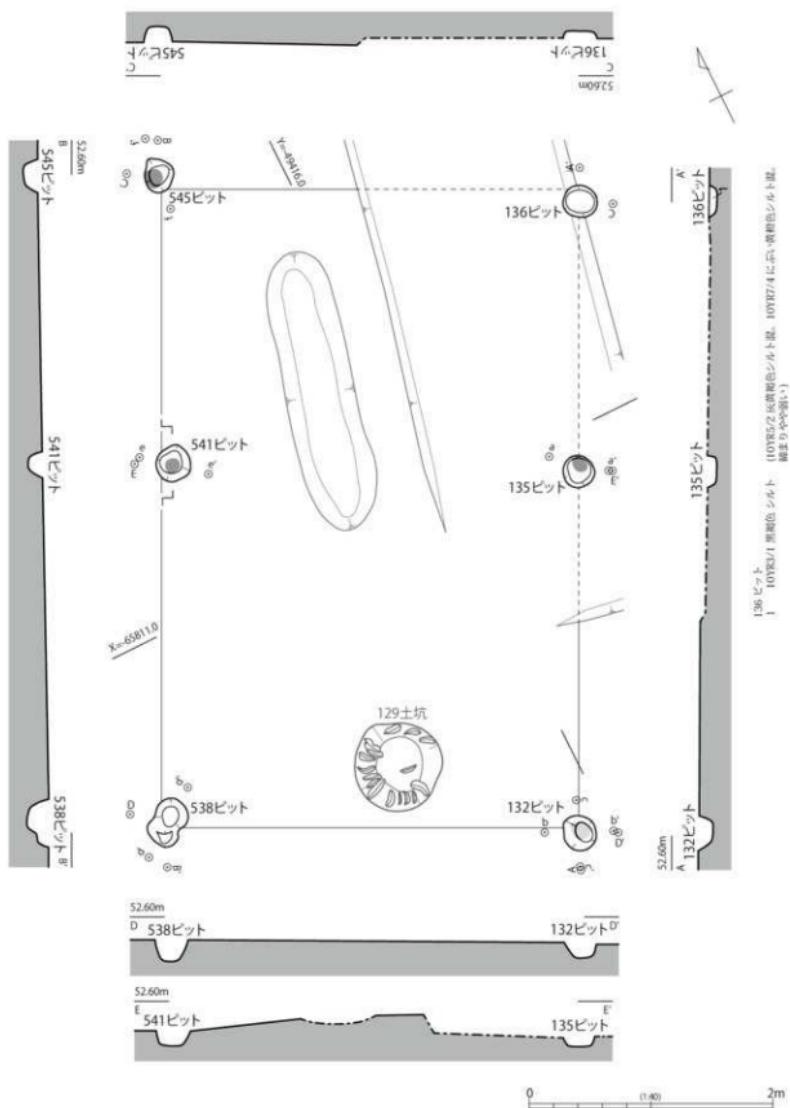
430 ピット

- 1 IYR3/1 黑褐色 シルト (IYR5/2 灰黒褐色シルト調。縛まりやや弱い)
- 2 IYR3/1 黑褐色 シルト (IYR6/2 灰黒褐色シルト調。縛まり強い)
- 3 IYR3/1 黑褐色 シルト (IYR6/4 にぶい黄褐色シルト調。縛まり強い)

掘立柱建物 8 (第69図) の土層注記

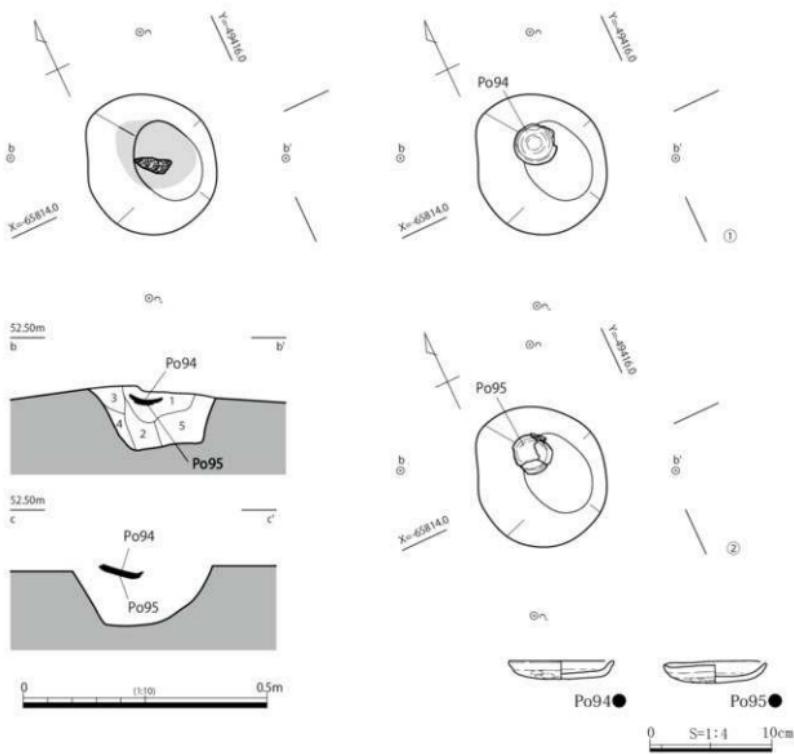


第70図 掘立柱建物 8 遺物出土状況



第71図 掘立柱建物9

第3章 山ノ下遺跡の調査成果



b・c132 ピット

- 1 10YR2/2 黒褐色 シルト (10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.5cm 多量混。炭化物ブロック径 0.3cm 混。締まりやや弱い)
- 2 10YR4/2 灰黄褐色 シルト (10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.5cm 混。炭化物ブロック径 0.3cm 少量混。締まりやや強い)
- 3 10YR3/1 黑褐色 シルト (10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.5cm 少量混。締まりやや強い)
- 4 10YR5/2 灰黄褐色 シルト (10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 混。締まりやや弱い)
- 5 10YR5/2 灰黄褐色 シルト (10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量混。10YR1/7/1 黒色シルト混。締まりやや強い)

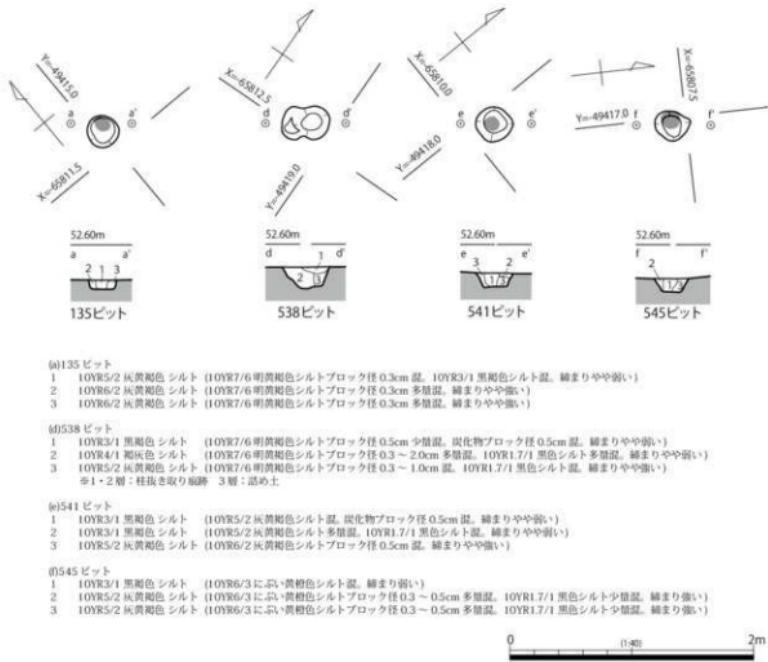
第72図 掘立柱建物9 132ピット遺構図・出土土器

第14表 掘立柱建物9 遺構計測表

No.	断面 (cm)			底面の標高 (m)	有効断面積 (cm)	備考
	長軸	短軸	厚さ			
132	29	27	11	52.27	—	粗面(多取引面)、上部斜傾斜
135	26	25	7	52.23	9	
136	27	—	7	52.29	—	
538	40	27	16	52.23	—	
541	20	29	11	52.26	10	
545	29	25	11	52.21	10	

柱間寸法 (平行方向)	
Mn	柱間寸法 (m)
136-132	52
545-538	52

柱間寸法 (平行方向)	
Mn	柱間寸法 (m)
136-135	22
135-132	30
545-541	24
541-538	28



第73図 挖立柱建物9 135・538・541・545ピット

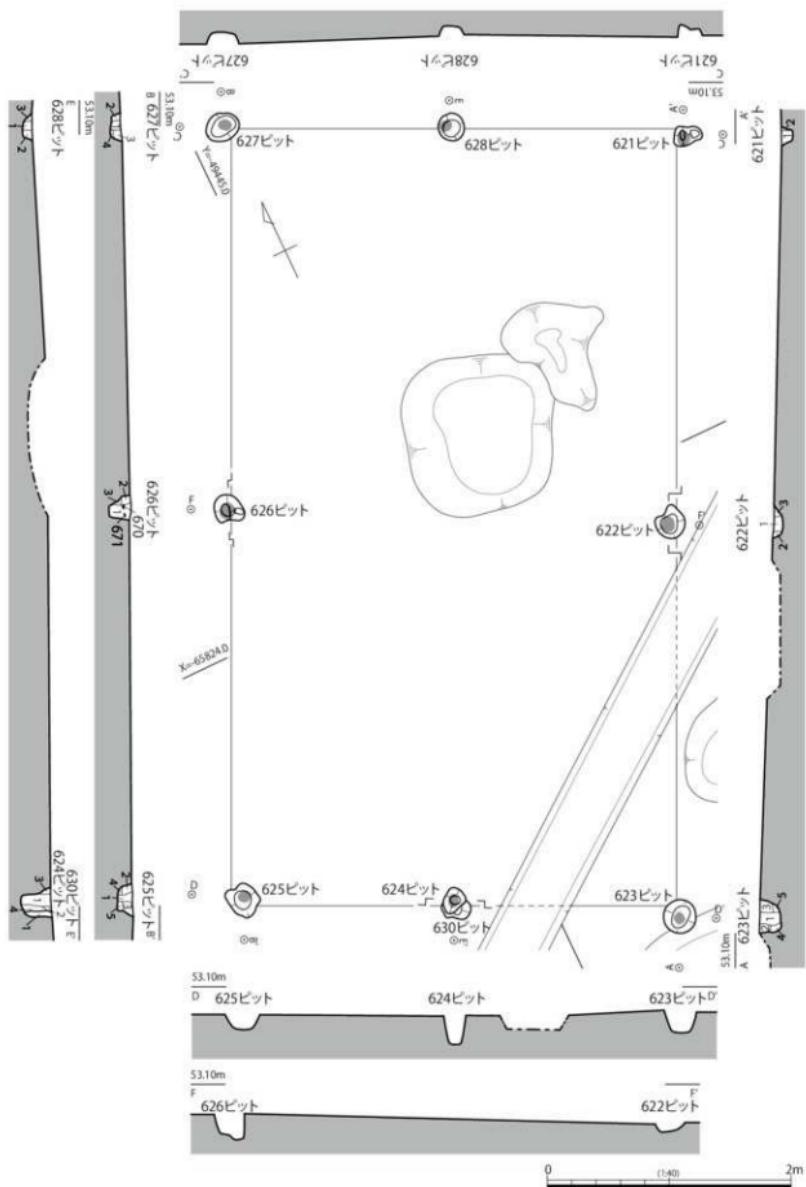
掘立柱建物10（第74図、図版28）

調査区北東部中央に位置する。桁行2間(6.3~6.4m)、梁行2間(3.6~3.8m)の側柱建物で、N-25°-Eを主軸にとる南北棟である。621~628・630ピットはI層直下、VまたはVI層上面において検出した。ピットの平面形は円形を主体とし、一部、やや歪な円形のものも認められる。検出面での規模は、長軸21~28cm、短軸16~28cmを測る。検出面からの深さは8~24cmを測り、底面の標高は52.62~52.76mである。

遺物は土器器片が出土しているが、細片のため図化はしていない。

掘立柱建物11（第75・76図、図版29・68）

調査区北東部の東側に位置する。桁行2間(5.4~5.6m)、梁行2間(3.3m)の側柱建物で、主軸をN-26°-Eにとる南北棟である。建物東側中央部は削平されており、ピットは消失したものと推定している。512・471・469・466・481・519・516ピットはI層直下、VI~VII層上面において検出した。ピットの平面形は円形を呈する。検出面での規模は、長軸26~32cm、短軸19~28cmを測る。検出面からの深さは5~23cmを測り、底面の標高は52.23~52.50mである。



第74図 掘立柱建物10

第15表 堀立柱建物10遺構計測表

ピット							柱四寸法(横行起底)		柱四寸法(梁行起底)	
No.	規則(cm)	高さ(cm)	底面の標高(m)	柱脚底径(cm)	柱のあたり底径(cm)	備考	No.	柱四寸法(m)	No.	柱四寸法(m)
621	23	16	10	52.62	10	B	627-625	6.3	627-621	3.8
622	28	24	8	52.71	12	—	627-624	6.3	628-622	3.6
623	28	28	16	52.72	10	—	621-623	6.4	625-623	3.6
624	21	16	24	52.62	10	—	630(底面)	—	—	—
625	28	24	12	52.26	6	—	—	—	—	—
626	25	21	18	52.69	11	B	—	—	—	—
627	28	23	8	52.20	8	—	—	—	—	—
628	22	21	8	52.63	7	—	—	—	—	—
630	24	16	22	52.65	—	—	624(底面)	—	—	—

柱四寸法(横行起底)		柱四寸法(梁行起底)	
No.	柱四寸法(m)	No.	柱四寸法(m)
627-626	3.2	627-628	1.9
626-625	3.2	628-621	1.9
621-622	3.2	625-624	1.7
622-623	3.2	624-623	1.9

621 ピット

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト (縦掘れなし 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト多量混。締まりやや弱い)
2 10YR4/2 灰褐色 シルト (10YR6/4 にぶい黄褐色シルト多量混。10YR1.7/1 黒色シルト多量混。締まりやや強い)

622 ピット

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト (縦まりやや弱い)
2 10YR2/1 黑色 シルト (10YR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3cm 多量混。締まりやや弱い)
3 10YR2/1 黑褐色 シルト (10YR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3cm 多量混。締まりやや弱い)

623 ピット

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR6/6 明黄色シルトブロック径 0.3cm 少量混。締まり弱い)
2 10YR2/2 黄褐色 シルト (縦まり強い)
3 10YR2/2 黄褐色 シルト (縦まり強い)
4 10YR2/2 黄褐色 シルト (10YR6/6 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3cm 多量混。締まり強い)
5 10YR2/2 黑褐色 シルト (10YR6/6 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3cm 多量混。締まり強い)

624 ピット

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR6/6 明黄色シルトブロック径 0.3cm 強。締まり弱い)
2 10YR4/1 灰褐色 シルト (10YR6/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量混。
3 10YR4/1 灰褐色 シルト (10YR1.7/1 黑色シルト少量混。締まりやや強い)
4 10YR5/1 灰褐色 シルト (10YR6/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量混。
5 10YR5/1 灰褐色 シルト (10YR1.7/1 黑色シルト少量混。締まりやや強い)

630 ピット

- 1 10YR4/1 灰褐色 シルト (10YR6/6 黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量混。締まり強い)

625 ピット

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR6/6 明黄色シルトブロック径 0.3cm 強。締まり弱い)
2 10YR2/1 黑色 シルト (10YR6/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 7.0cm 多量混。締まり強い)
3 10YR2/1 黑色 シルト (10YR6/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 7.0cm 多量混。締まり強い)
4 10YR2/1 黑色 シルト (10YR6/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 少量混。締まり弱い)
5 10YR2/1 黑色 シルト (10YR6/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 少量混。締まり弱い)

626 ピット

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3cm 少量混。締まりやや強い)
2 10YR2/1 黑色 シルト (10YR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3cm 少量混。締まり強い)
3 10YR4/2 灰褐色 シルト (10YR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3cm 少量混。締まり弱い)

627 ピット

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 少量混。締まりやや強い)
2 10YR2/1 黑色 シルト (10YR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 2.0cm 強。締まり強い)
3 10YR2/1 黑色 シルト (10YR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 2.0cm 強。締まり強い)
4 10YR6/4 にぶい黄褐色 シルト (10YR1.7/1 黑色シルト多量混。締まり強い)

628 ピット

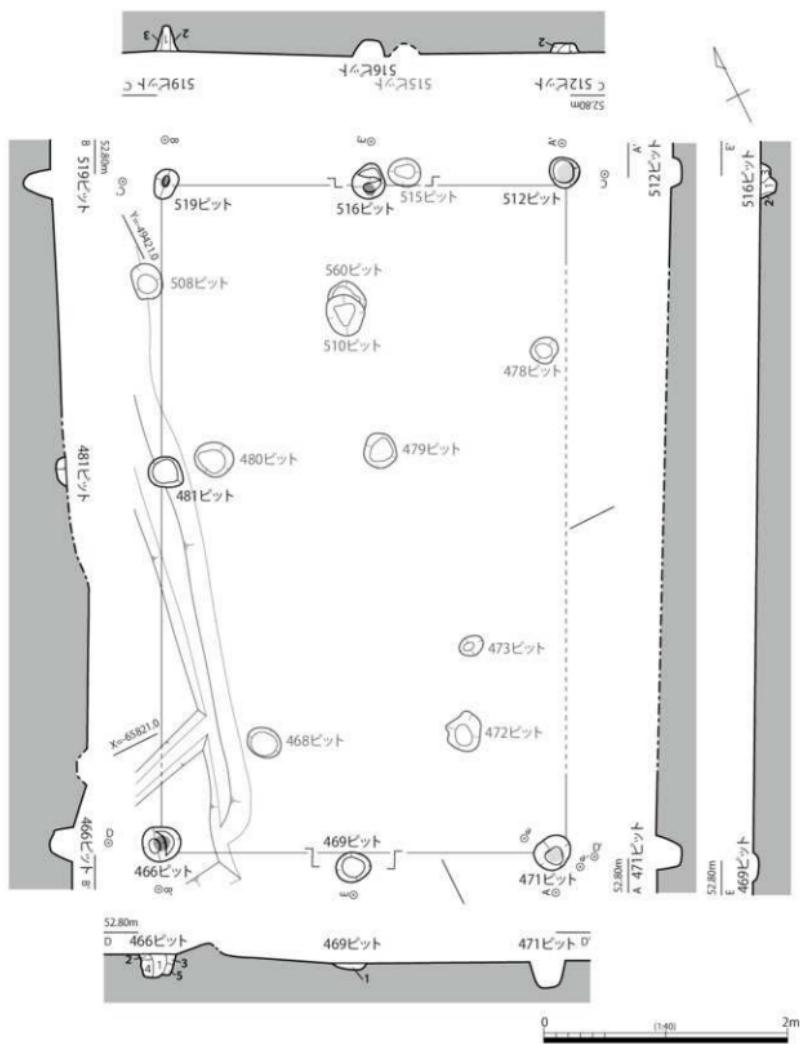
- 1 10YR4/1 灰褐色 シルト (10YR1.7/1 黑色シルト多量混。締まりやや強い)
2 10YR5/2 灰褐色 シルト (10YR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量混。
3 10YR5/2 灰褐色 シルト (10YR1.7/1 黑色シルト少量混。締まりやや強い)
4 10YR5/2 灰褐色 シルト (10YR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量混。
5 10YR1.7/1 黑色シルト少量混。締まりやや強い)

堀立柱建物10 (第74図) の土層注記

遺物は土師器皿Po96~100を図化した。Po96~100は471ピット抜き取り痕跡中より出土し、完存する個体(Po100)のほか、1/2以上遺存する個体(Po98・99)が含まれる。この出土状況から判断し、本建物廃絶時になんらかの祭祀行為が行われ、意図的に土器が埋納されたものと推測される。

回転台土師器の皿Po96~100は、いずれも直線的に外傾する口縁部が短く立ち上がる器形であり、口径7.3~8.2cm、底径5.0~5.9cm、器高1.5~1.9cmを測り、プロポーションに大きな差異はない。Po100には粘土紐の積み上げ痕が明瞭に認められる。

これらの出土遺物から、本遺構の時期は11世紀後半から13世紀中葉と考えられる。



第75図 掘立柱建物11

第16表 挖立柱建物11遺構計測表

ピット							柱間寸法(横行距離)		柱間寸法(縦行距離)	
No.	規格(cm)			前面の標高(m)	柱間距離(cm)	柱のあたり 基準(cm)	No.	柱間寸法(cm)	No.	柱間寸法(cm)
466	32	28	19	52.43	11	7	519-406	54	519-512	33
469	29	24	5	52.50	—	—	516-409	56	466-471	33
471	30	26	23	52.35	—	—	512-471	56		
481	30	26	8	52.48	—	—				
512	26	24	8	52.38	—	—				
516	29	28	12	52.36	12	10				
519	26	19	21	52.20	7	—				

柱間寸法(横行方向)		柱間寸法(縦行方向)	
No.	柱間寸法(cm)	No.	柱間寸法(cm)
519-516	1.7	516-512	1.6
466-409	1.6	466-471	1.6
481-466	3.1	481-471	1.6

466 ピット
1 IOYR3/1 黒褐色 シルト (IOYR5/1 暗灰色シルト混。IOYR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 調。継まりやや弱い)

2 IOYR1/7/1 黒色 シルト (IOYR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 調。継まり強い)

3 IOYR1/7/1 黒色 シルト (IOYR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量混。継まり強い)

4 IOYR1/7/1 黑色 シルト (IOYR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 1.5cm 多量混。継まりやや弱い)

5 IOYR1/7/1 黑色 シルト (IOYR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 1.5cm 多量混。継まりやや弱い)

469 ピット
1 IOYR3/1 黒褐色 シルト (IOYR6/3 にぶい黄褐色シルト混。IOYR5/2 从黃褐色シルト混。継まりやや強)481 ピット
1 IOYR3/1 黒褐色 シルト (IOYR6/1 暗灰色シルト混。IOYR7/6 シルトブロック径 0.3cm 調。継まりやや弱い)

512 ピット

1 IOYR3/1 黒褐色 シルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 少量混。継まりやや弱い)

2 IOYR6/2 灰黄褐色 シルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量混。IOYR1/7/1 黑色シルト混。継まりやや強)

(IOYR1/7/1 黑色シルト混。継まりやや強)

516 ピット
1 IOYR3/1 黑褐色 シルト (IOYR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 調。IOYR4/2 从黃褐色シルト混。継まりやや弱い)

2 IOYR5/2 灰黄褐色 シルト (IOYR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量混。IOYR1/7/1 黑色シルト少量混。継まり強)

(IOYR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量混。IOYR1/7/1 黑色シルト少量混。継まり強)

519 ピット
1 IOYR3/1 黑褐色 シルト (IOYR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3cm 少量混。継まりやや弱い)

2 IOYR5/2 灰黄褐色 シルト (IOYR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量混。IOYR1/7/1 黑色シルト混。継まりやや弱)

(IOYR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量混。IOYR1/7/1 黑色シルト混。継まりやや強)

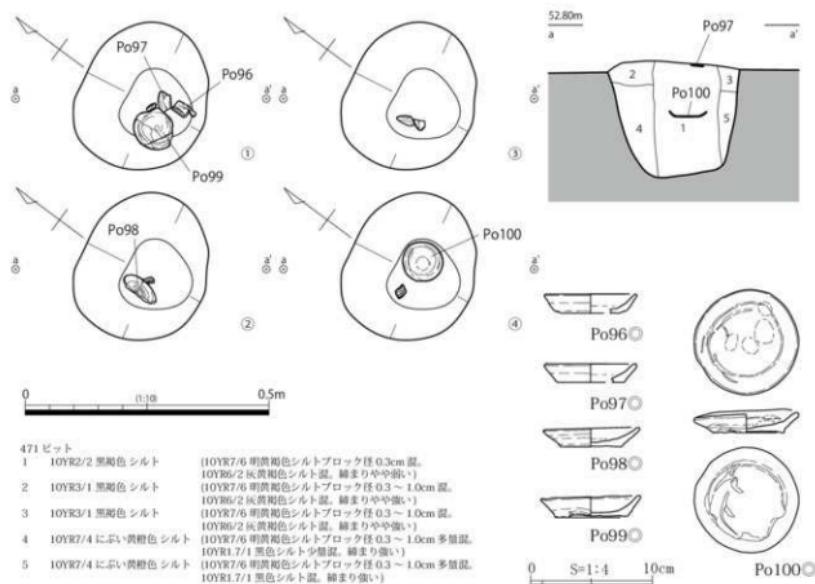
掘立柱建物11 (第75図) の土層注記

掘立柱建物13 (第77~94図、図版17・30~33・69・70・78・82)

調査区南西部西側の調査区間に位置する。桁行5間(12.4m)以上、梁行5間(12.1m)の総柱建物であり、北西側は調査区外となる。平面形はやや東西方向に広がるもの、ほぼ正方形を呈する。想定される面積は150m²以上であり、本遺跡最大の建物跡である。建物の主軸はN-79°-Wである。

なお、本建物東面の柱筋に沿うような状態でピット7基(重複するピットを含む)を検出している(911・923・783・812・793・789・748ピット)。これらのピットはいずれも柱穴であり、本建物東面から約50cmの距離をおいて平行する。本建物内にはこれらのピットと対応する柱筋は検出していないことから、本建物の建て替えに伴うピットである可能性は低いと判断した。また、縁などの付属施設である可能性は、付属的な構造物の柱穴としては規模が大きい(本建物のピットと同等規模)ため、本報告ではこれらの柱穴のうち911・923・783・812ピットについては、掘立柱建物17の柱穴として評価している。

本建物北東側のピットはⅢ-2層下面、Ⅳ層上面で検出し、建物中央部の大部分のピットはⅠ層直下、ⅤまたはⅥ層上面、南西側のピットはⅠ層直下、ⅦまたはⅧ層上面において検出した。ピットは重複するものが多く、1回の建て替えが行われたものと考える。ピットの平面形は隅丸方形、または円形を呈する。検出面での規模は、長軸27~64cm、短軸26~53cmを測る。検出面からの深さは6~



第76図 据立柱建物11 471ピット遺構図・出土土器

第17表 据立柱建物13遺構計測表（1）

柱間寸法(進行方向)		柱間寸法(進行方向)		柱間寸法(進行方向)		柱間寸法(進行方向)	
No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)
706-700	24	724-795	25	700-708	24	710-711	22
706-726	24	722-719	25	725-711	24	700-765	22
712-726	27	719-719	25	711-712	24	706-711	22
902-726	27	766-719	26	708-727	26	713-714	23
712-727	24	719-715	24	705-705	26	714-715	26
710-714	23	715-710	24	727-727	25	715-716	23
717-713	25	715-735	25	709-794	24	717-718	24
713-708	22	709-704	26	703-728	26	718-719	26
713-723	28	709-729	23	704-706	23	719-720	24
706-702	27	725-704	25	729-704	21	719-742	22
706-727	26	725-729	23	706-705	23	721-743	23
733-702	23	725-723	26	902-705	24	721-722	26
733-727	22	725-720	24	707-706	25	721-795	23
721-718	25	725-742	24	707-723	24	743-723	26
716-714	25	725-716	26	706-708	26	722-723	23
714-709	24	742-716	26	733-709	27	706-723	26
709-703	25	716-711	25	709-780	25	724-725	24
724-743	24	711-705	24	709-726	23	725-706	24
724-721	25						

72cmを測り、底面の標高は、53.56~54.25mである。例外はあるものの、建て替え後のピット(後出するピット)が建て替え前のピット(先出するピット)に対し、規模が大きく、深さも深い傾向にある。

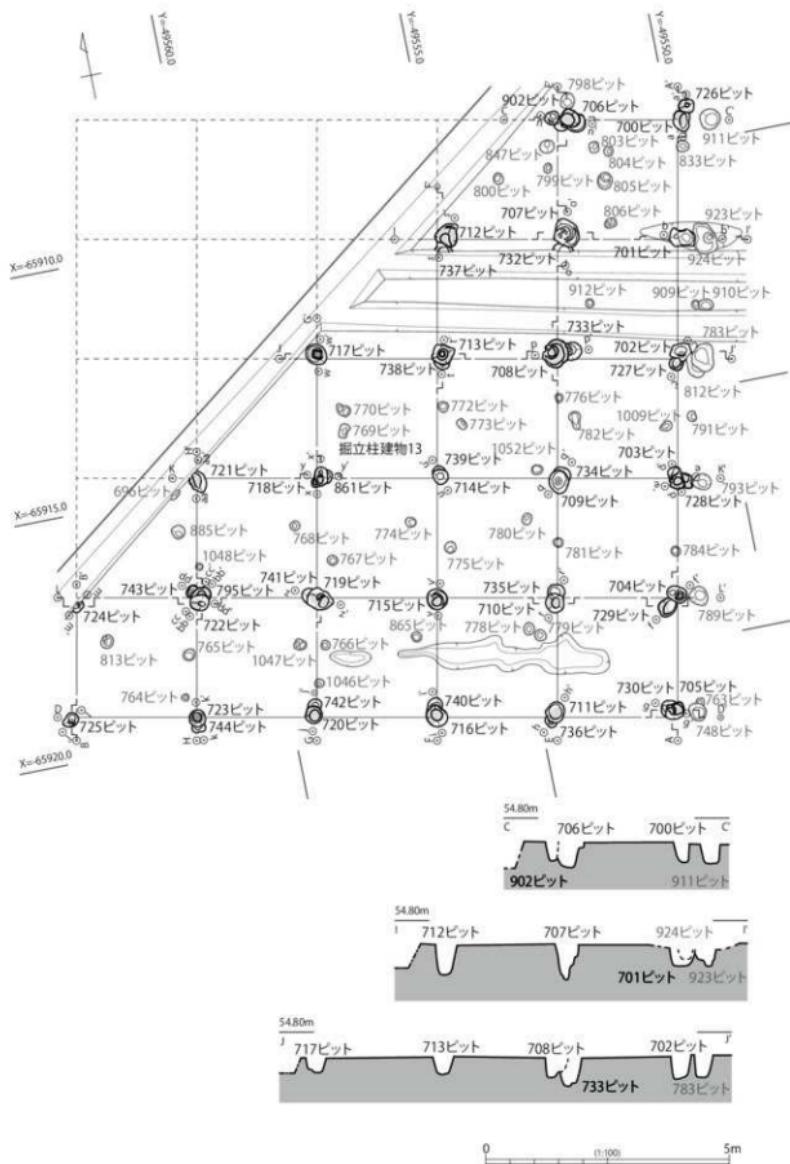
柱は抜き取られているピットが大半を占めるが、建て替え後のピットには柱痕跡が確認できるものもある。そのうち702ピットの柱痕跡上部には長さ25cm、幅18cm、厚さ5cmの焼土塊を検出し、705・723・725ピットには柱根(柱材)の一部が遺存している(試料4~6)。試料4~6の樹種同定を行った結果、すべてスギと同定されている。また試料4・6について放射性炭素年代測定を行ったところ、

第18表 堀立柱建物13遺構計測表（2）

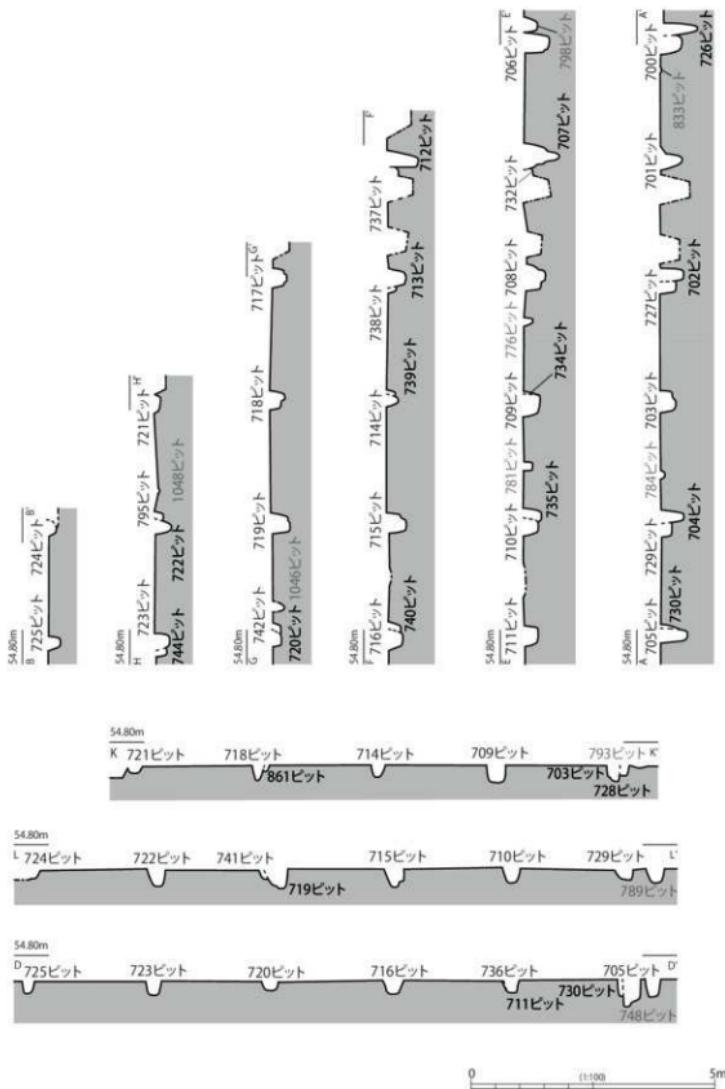
番号	規格 (cm)	底面の高さ (m)	柱の直径	柱直径直徑 (cm)	柱のあたり 直径 (cm)	基礎図	出土遺物	ピットの量	備考
700	45	36	40	53.88	（抜き取り）根巻	—	—	—	上層部鉢Pb15（灰土上）、縦（底5cm）
701	61	33	32	53.88	（抜き取り）根巻 柱のあたり	—	8	—	（抜き取り）縦
702	42	32	46	53.87	柱直徑	12	—	—	上層部鉢片、縦（灰土上）
703	47	28	33	54.00	（抜き取り）根巻	—	—	—	上層部鉢片、縦（抜き取り直徑）、横（柱高2cm）
704	42	31	35	53.96	（抜き取り）柱の あたり	15	15	根巻き石	上層部鉢片
705	39	32	37	53.77	（抜き取り）根巻 柱のあたり	10	8	根巻き石	上層部鉢片
706	64	40	49	53.81	（抜き取り）根巻	12	—	—	上層部鉢Pb19・120・121・125・18 （柱高2cm）、縦（底5cm）、縦（底8cm）
707	61	53	72	53.39	（抜き取り）根巻 柱のあたり	—	10	根巻き石、 根巻き石、 根巻き石	上層部鉢Pb22、上層部鉢Pb19・ 有孔部直徑（柱高1cm）。上層部鉢 Pb26（2箇）
708	56	50	41	53.97	（抜き取り）根巻 柱のあたり	—	10	根巻き石、 根巻き石	上層部鉢Pb11、柱直徑
709	48	40	34	54.00	柱直徑	12	—	根石	上層部鉢Pb14・耳縫、縦（底5cm）、 柱直徑（柱高0.25cm）
710	39	37	33	54.02	（抜き取り）根巻	—	—	根巻き石	柱直徑
711	44	37	28	54.03	（抜き取り）根巻	—	—	根石	上層部鉢Pb14（1箇）、白磁器皿
712	463.1	45	61	53.68	（抜き取り）根巻	—	—	根石	上層部鉢Pb19
713	49	42	35	53.94	（抜き取り）根巻 柱のあたり	—	10	根巻き石?	上層部鉢Pb11・根部鉢Pb129（1 縦（底5cm））
714	33	29	25	54.10	（抜き取り）根巻	—	—	根石?	上層部鉢Pb19、縦（抜き取り直徑）
715	42	41	36	53.93	（抜き取り）根巻	—	10	根石	上層部鉢片
716	46	41	29	54.01	（抜き取り）根巻	—	—	—	上層部鉢片、縦（抜き取り直徑）
717	45	40	31	53.99	柱直徑	16	—	根巻き石または 根巻き石	上層部鉢Pb11
718	38	27	31	54.02	（抜き取り）根巻	—	8	—	（縦（底5cm））
719	53	40	39	53.91	（抜き取り）根巻	—	8	根石?	上層部鉢Pb11・124・125・18 （縦（底5cm））、縦（底5cm）
720	36	34	17	54.09	（抜き取り）根巻	—	—	—	上層部鉢片
721	4303.1	34	14	54.15	（抜き取り）根巻	—	—	根石?	縦（底5cm）
722	37	32	25	55.98	（抜き取り）根巻	—	—	根巻き石	上層部鉢片
723	35	30	33	53.99	柱直徑	12	—	—	上層部鉢Pb11・124・125・18 （縦（底5cm））、縦（底5cm）
724	25	14.11	16	54.10	柱直徑	—	—	根巻き石	Pb27（1箇）、供物・糸引子2、縦（ 底5cm）
725	34	27	36	54.00	柱直徑	4	—	—	上層部鉢Pb11
726	33	29	67	51.56	（抜き取り）根巻	—	—	根巻き石	上層部鉢片
727	28	26	32	54.00	（抜き取り）根巻	—	—	—	上層部鉢片
728	29	19.1.1.	21	54.11	（抜き取り）根巻	—	—	根石	上層部鉢片、縦（抜き取り直徑）
729	43	31	21	54.09	（抜き取り）根巻	—	—	—	上層部鉢片
730	36	24.11.1.	30	53.98	—	—	—	上層部鉢片	縦（底5cm）
731	41	16.11.1.	18	54.12	（抜き取り）根巻	—	—	—	上層部鉢片、縦（抜き取り直徑）
732	36	21.11.1.	58	53.70	（抜き取り）根巻	—	10	根石	上層部鉢片
733	34	19.1.1.1.	17	54.15	（抜き取り）根巻	—	—	根巻き石、 根巻き石	上層部鉢片
734	36	19.1.1.1.	24	54.04	—	—	—	—	上層部鉢片
735	35	33	39	53.97	（抜き取り）根巻	—	—	根石	上層部鉢Pb13
736	24.11.1.1.	25	13	54.16	—	—	—	—	—
737	37	18.11.1.1.	18	54.09	（抜き取り）根巻?	—	—	—	—
738	33	12.11.1.	16	54.14	—	—	—	—	—
739	27	11.11.1.	20	54.15	—	—	—	—	—
740	33.11.1.	30	25	54.05	—	—	—	—	—
741	31	17.11.1.	20	54.10	—	—	—	—	—
742	31	27	14	54.11	—	—	根巻き石?	—	—
743	28	1.6.11.1.	6	54.25	柱直徑	13	—	—	—
744	27	19.1.1.1.	24	54.04	—	—	—	—	上層部鉢片（1箇）
745	40	17.11.1.	19	54.12	（抜き取り）根巻	—	—	根巻き石、根 巻き石	上層部鉢片
746	29	13.11.1.	13	54.20	—	—	—	—	—
747	30	26	38	53.92	（抜き取り）根巻	7	—	—	上層部鉢片

試料4の曆年較正結果(2σ の確率1位)がcalAD967-1024、試料6がcalAD980-1029の値が得られている(第5章第1節)。

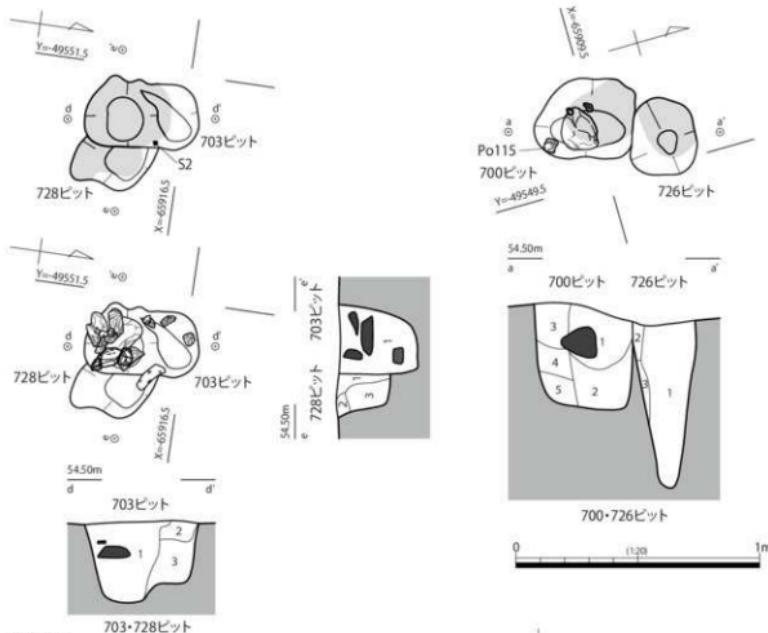
埋め土は黒褐色シルトを主体とし、Ⅷ層由来の明黄褐色シルトブロックが多量に混じる黄灰色シルトなどが堆積する。埋め土中には拳から人頭大の礫が多量に出土するピットがみられ、根巻き石として利用されたものと考える(705ピット等)。根石(712ピット等)や磁盤石(795ピット等)により基礎固めが行われているピットもある。また、708ピットでは根巻き石とともに灰白色の粘土塊が詰め込まれた構造である。



第77図 堀立柱建物13 (1)



第78図 据立柱建物13 (2)



(a)700 ピット

- 1 10YR3/1 黒褐色 砂混じりシルト
(10YR6/1 褐褐色シルト混. 10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径0.3～1.0cm 質。炭化物径0.3～1.0cm 質。炭化物径0.3～1.0cm 質。縛まり強い)
- 2 10YR3/2 黒褐色 砂混じりシルト
(10YR4/1 黄褐色シルトブロック径0.3～1.0cm 多層混。炭化物径0.3～1.0cm 質。縛まり強い)
- 3 10YR4/1 黑褐色 シルト
(10YR4/2 灰黄褐色シルト混. 縛まり強い)
- 4 10YR2/2 黑褐色 シルト
(10YR3/2 黑褐色 シルト (微細な炭化物混。縛まり強い)
- 5 10YR3/2 黑褐色 シルト
(微細な炭化物混。縛まり強い)

(b)726 ピット

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト
(10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径0.3～3.0cm 多層混。炭化物径0.3～0.5cm 質。縛まり弱い)
- 2 10YR4/2 黑褐色 シルト
(10YR4/2 灰黄褐色シルト混. 縛まりやや弱い)
- 3 2.5YR3/1 黑褐色 シルト
(10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径0.3～0.5cm 質。微細な炭化物混。縛まりやや弱い)

(c)703 ピット

- 1 10YR3/1 黒褐色 砂混じりシルト
(10YR6/1 褐褐色シルト混. 10YR4/1 褐灰色シルト混。炭化物径0.3～1.0cm 質。縛まり強い)
- 2 10YR3/2 黑褐色 砂混じりシルト
(10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径0.3～0.5cm 多層混。10YR4/1 黑褐色シルト混。縛まり強い)
- 3 10YR2/2 黑褐色 シルト
(10YR6/1 褐褐色シルト混. 10YR4/1 褐灰色シルト混。炭化物径0.3～0.5cm 質。縛まり強い)

(d)728 ピット

- 1 10YR4/2 灰黄褐色 砂混じりシルト
(10YR4/1 褐褐色シルト混. 10YR6/1 褐灰色シルト混。縛まり強い)
- 2 10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径0.3～0.5cm 少量混。炭化物径0.3～0.5cm 質)
- 3 10YR2/2 黑褐色 シルト
(10YR4/1 褐灰色シルト混. 10YR6/1 褐灰色シルト混。炭化物径0.3～0.5cm 質。縛まりやや強い)

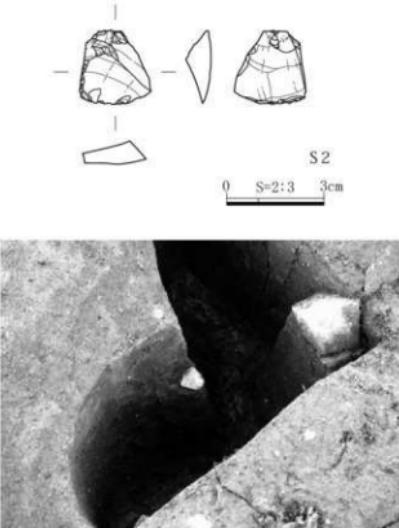
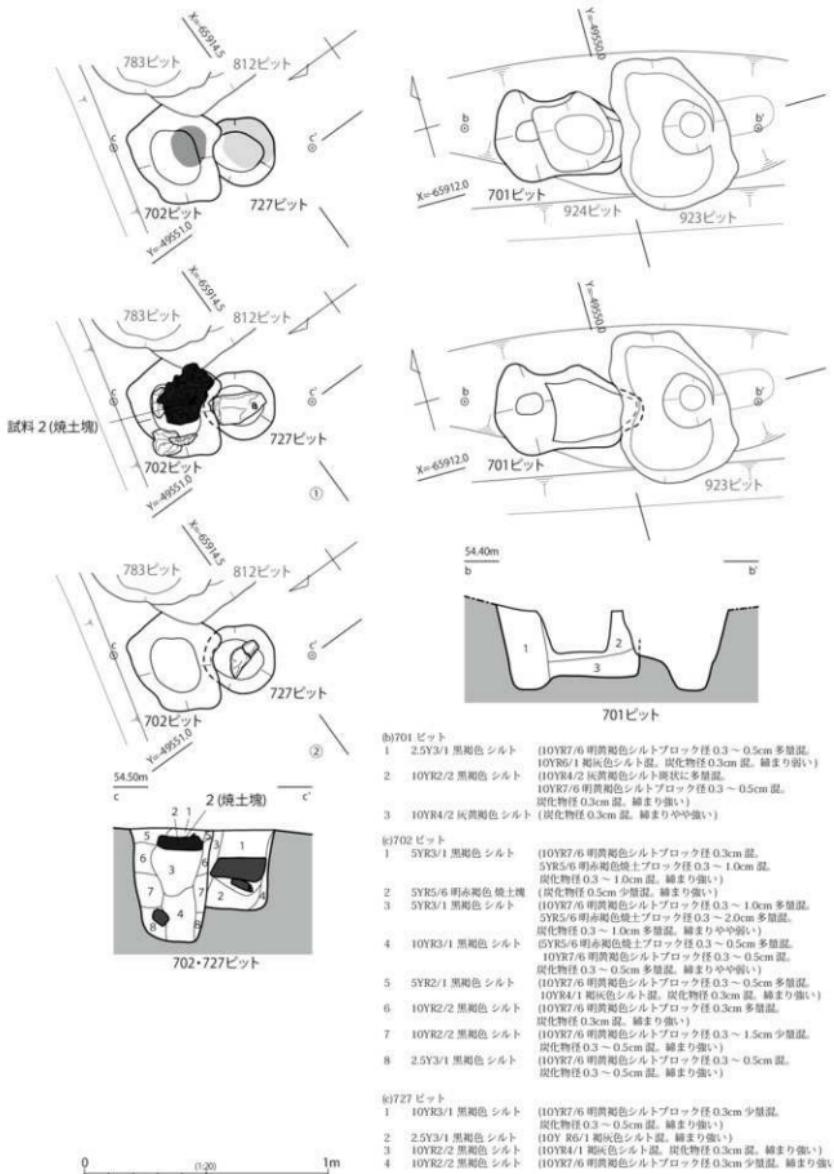
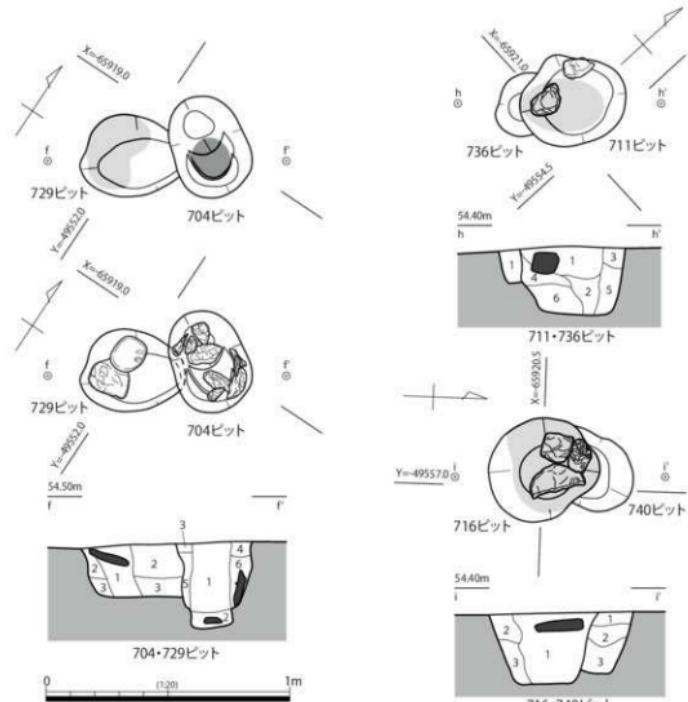


写真5 703ピット S2出土状況（北西から）

第79図 据立柱建物13 700・703・726・728ピット遺構図・出土石器

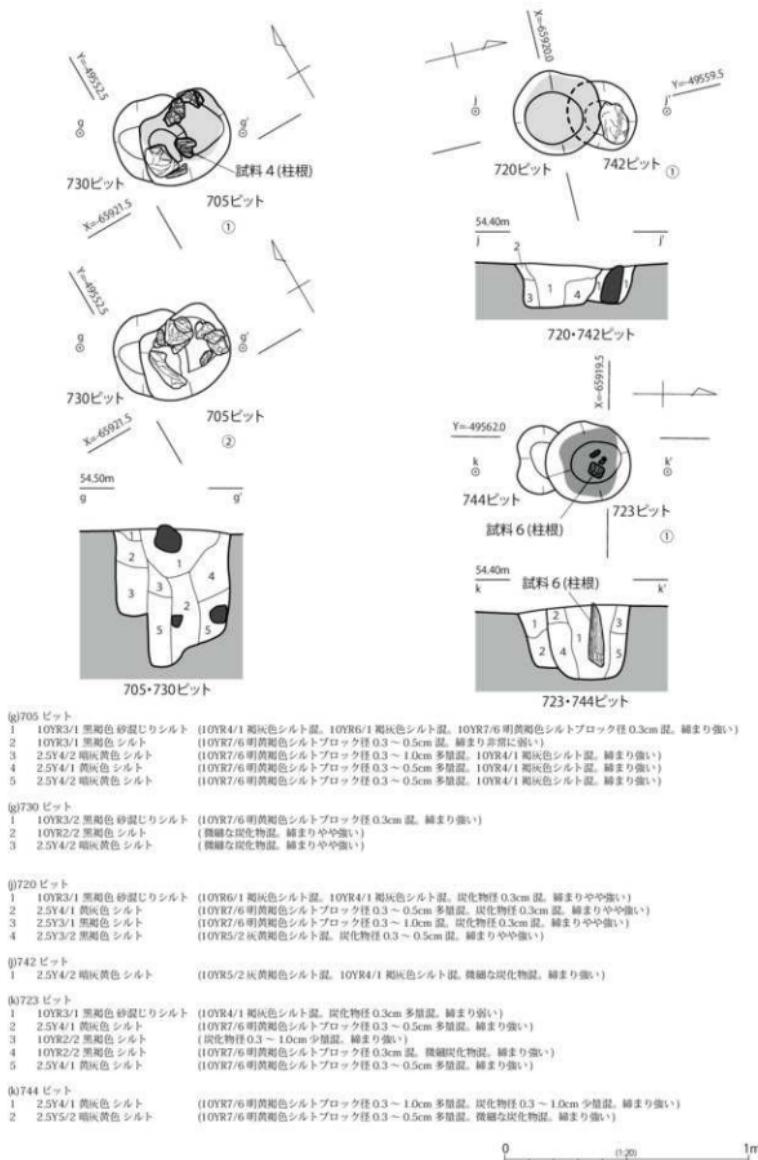


第80図 振立柱建物13 701・702・727ピット

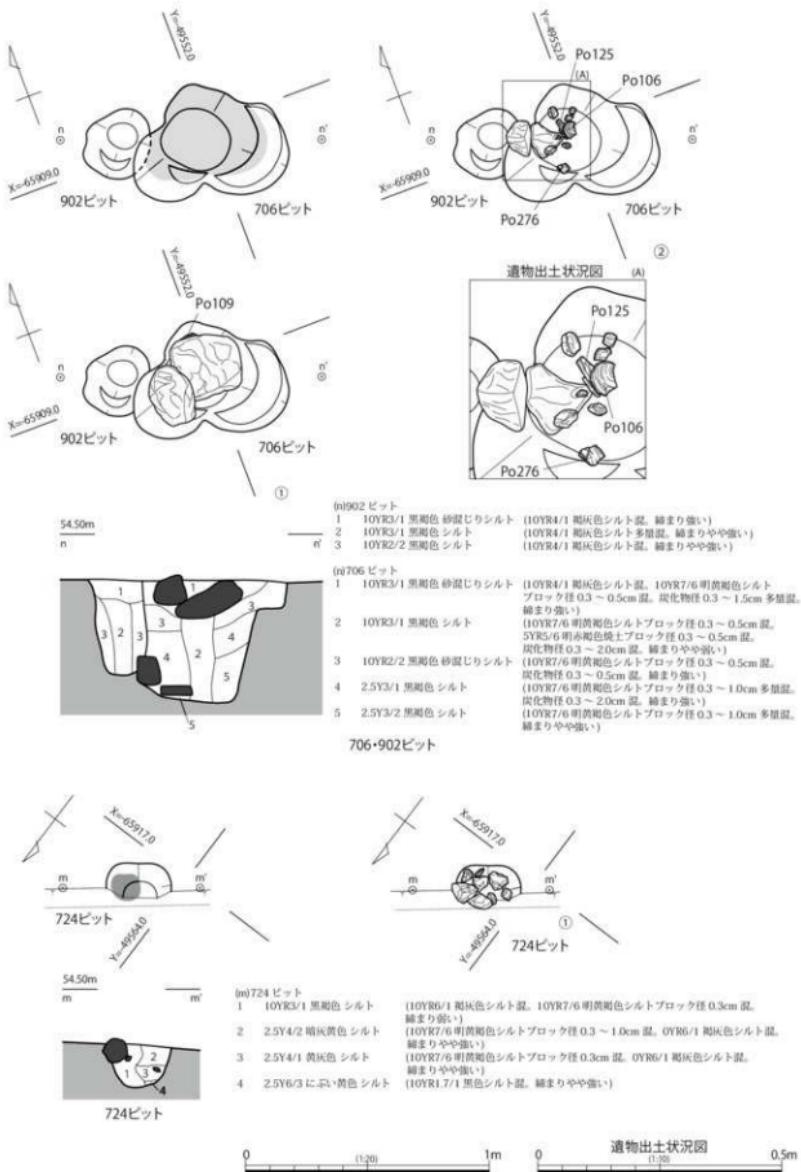


- (b)704ピット
- 1 10YR3/1 黒褐色 砂混じりシルト (10YR4/1 剛灰色シルト混。炭化物径 0.3 ~ 0.5cm 混。締まり強い)
 - 2 2.5YR3/1 黒褐色 シルト (10YR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3cm 混。締まり弱い)
 - 3 10YR3/2 黒褐色 砂混じりシルト (10YR4/1 剛灰色シルト混。10YR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 混。炭化物径 0.3 ~ 1.0cm 混。締まり弱い)
 - 4 10YR3/2 黒褐色 砂混じりシルト (10YR4/1 剛灰色シルト混。10YR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 混。炭化物径 0.3 ~ 1.0cm 混。締まり強い)
 - 5 2.5YR4/2 嘘灰黄色 シルト (10YR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3cm 多量混。締まり強い)
 - 6 2.5YR4/2 嘘灰黄色 シルト (10YR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3cm 混。締まり弱い)
- (b)729ピット
- 1 10YR3/1 黒褐色 砂混じりシルト (炭化物径 0.3cm 混。締まり強い)
 - 2 10YR2/2 黑褐色 砂混じりシルト (10YR4/1 剌灰色シルト多量混。締まり強い)
 - 3 10YR3/2 黑褐色 シルト (炭化物径 0.3cm 混。締まりやや強い)
- (b)736ピット
- 1 10YR3/1 黑褐色 砂混じりシルト (10YR7/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 混。炭化物径 0.3 ~ 1.0cm 混。締まり強い)
 - 2 10YR3/1 黑褐色 シルト (炭化物径 0.3 ~ 0.5cm 混。締まりやや強い)
 - 3 10YR2/2 黑褐色 砂混じりシルト (10YR4/1 剌灰色シルト混。炭化物径 0.3cm 混。締まり強い)
 - 4 10YR3/1 黑褐色 シルト (10YR7/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 混。炭化物径 0.3cm 混。締まり強い)
 - 5 10YR3/1 黑褐色 シルト (炭化物径 0.3cm 混。締まりやや強い)
 - 6 10YR4/2 嘘灰黄色 シルト (炭化物径 0.3cm 混。締まりやや強い)
- (b)711ピット
- 1 10YR3/1 黑褐色 砂混じりシルト (10YR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 混。10YR4/1 剌灰色シルト混。炭化物径 0.3 ~ 1.0cm 混。締まり強い)
 - 2 10YR3/1 黑褐色 シルト (炭化物径 0.3 ~ 0.5cm 混。締まりやや強い)
 - 3 10YR2/2 黑褐色 砂混じりシルト (10YR4/1 剌灰色シルト混。炭化物径 0.3 ~ 0.5cm 混。締まり強い)
 - 4 10YR3/1 黑褐色 シルト (10YR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 混。炭化物径 0.3cm 混。締まり強い)
 - 5 10YR3/1 黑褐色 シルト (炭化物径 0.3cm 混。締まりやや強い)
 - 6 10YR4/2 嘘灰黄色 シルト (炭化物径 0.3cm 混。締まりやや強い)
- (b)716ピット
- 1 10YR3/1 黑褐色 砂混じりシルト (10YR4/1 剌灰色シルト径 0.3cm 混。10YR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 混。炭化物径 0.3cm 混。締まり強い)
 - 2 10YR3/2 黑褐色 砂混じりシルト (10YR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 混。10YR4/1 剌灰色シルト混。締まり強い)
 - 3 10YR2/2 黑褐色 シルト (10YR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 混。炭化物径 0.3cm 混。締まり弱い)
- (b)740ピット
- 1 10YR3/2 黑褐色 砂混じりシルト (10YR4/1 剌灰色シルト混。炭化物径 0.3 ~ 0.5cm 混。締まり強い)
 - 2 10YR2/2 黑褐色 砂混じりシルト (10YR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 混。炭化物径 0.3 ~ 1.0cm 混。締まり強い)
 - 3 2.5YR3/2 黑褐色 シルト (10YR7/6 明黄色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 混。炭化物径 0.3cm 混。締まり弱い)

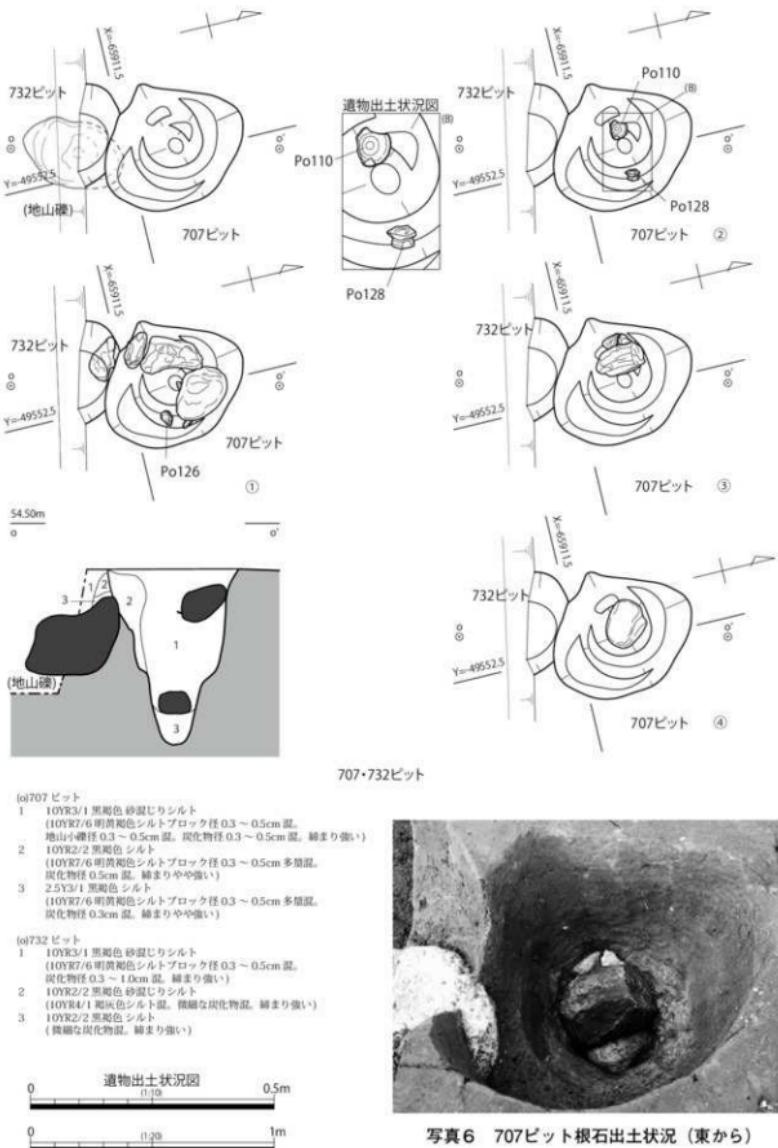
第81図 挖立柱建物13 704・711・716・729・736・740ピット

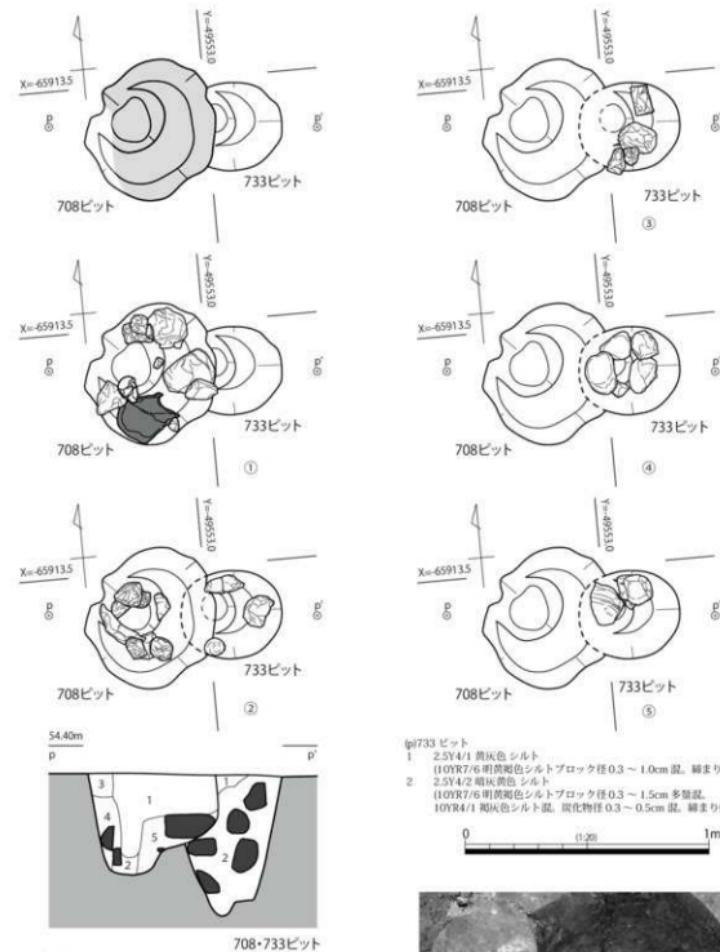


第82図 掘立柱建物13 705・720・723・730・742・744ピット



第83図 掘立柱建物13 706・724・902ピット





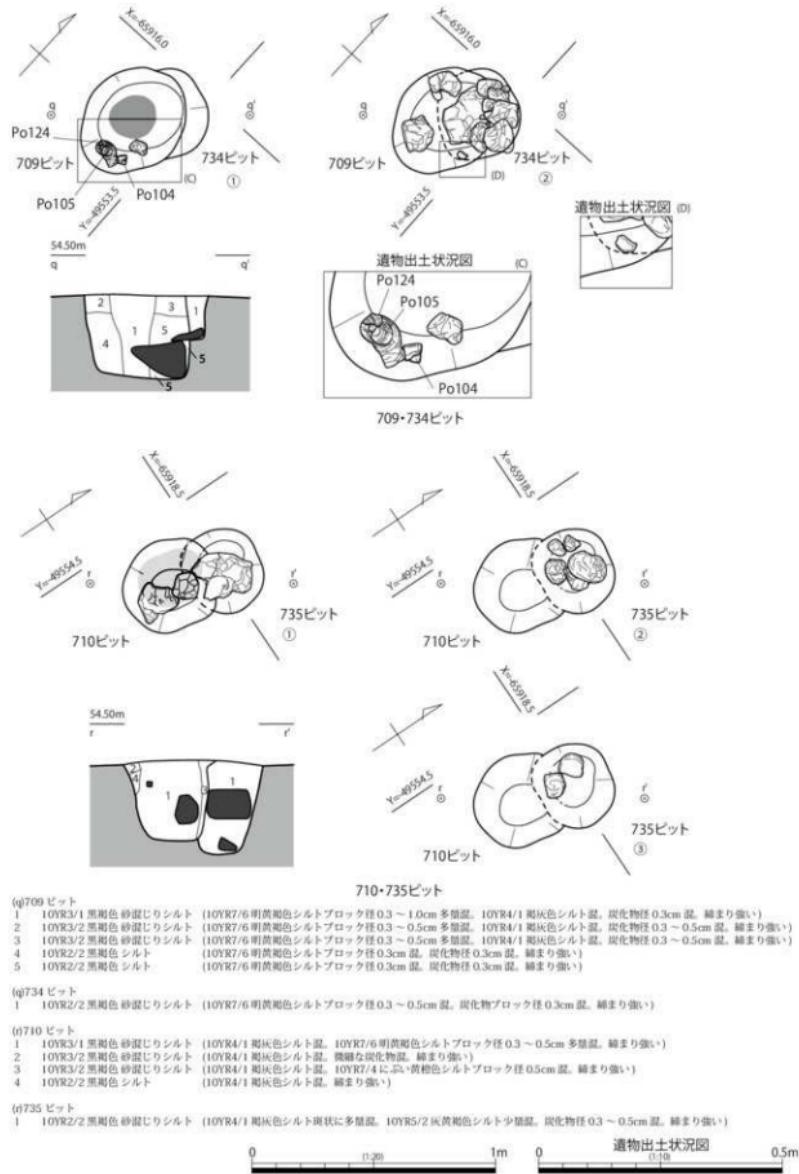
- (pit)708 ピット
- 1 IORY3/1 黒褐色 砂混じりシルト
(IORY4/1 暗赤色シルト混。IORYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 調。締まりやや強い)
 - 2 2.5Y3/1 黒褐色 シルト
(IORY4/1 暗赤色シルト混。IORYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 調。締まり物径 0.3 ~ 2.0cm 調。締まり強い)
 - 3 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト
(IORYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 調。締まりやや強い)
 - 4 2.5Y4/1 暗灰黄色 シルト
(IORY4/1 暗赤色シルト混。締まり強)
 - 5 2.5Y4/1 暗灰黄色 シルト
(IORYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量混。締まり強)
 - 6 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト
(IORYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 調。締まり強)
 - 7 2.5Y4/1 暗灰黄色 シルト
(IORYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.5cm 多量混。締まり強)

- (pit)733 ピット
- 1 2.5Y4/1 暗赤色 シルト
(IORY7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 調。締まりやや強い)
 - 2 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト
(IORYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.5cm 多量混。締まり強)
 - 3 2.5Y4/1 暗灰黄色 シルト
(IORY4/1 暗赤色シルト混。締まり強)



写真7 733ピット根石出土状況 (西から)

第85図 掘立柱建物13 708・733ピット



(q)709ピット

- 1 10YR2/1 黒褐色 砂混じりシルト [10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量混. 10YR4/1 壤灰色シルト混. 硫化物径 0.3cm 混。締まり強い]
- 2 10YR2/2 黒褐色 砂混じりシルト [10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量混. 10YR4/1 壤灰色シルト混. 硫化物径 0.3 ~ 0.5cm 混。締まり強い]
- 3 10YR2/2 黒褐色 砂混じりシルト [10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量混. 10YR4/1 壤灰色シルト混. 硫化物径 0.3 ~ 0.5cm 混。締まり強い]
- 4 10YR2/2 黒褐色 シルト [10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3cm 混。硫化物径 0.3cm 混。締まり強い]
- 5 10YR2/2 黑褐色 シルト [10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3cm 混。硫化物径 0.3cm 混。締まり強い]

(q)734ピット

- 1 10YR2/2 黒褐色 砂混じりシルト [10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 混。硫化物ブロック径 0.3cm 混。締まり強い]

(q)710ピット

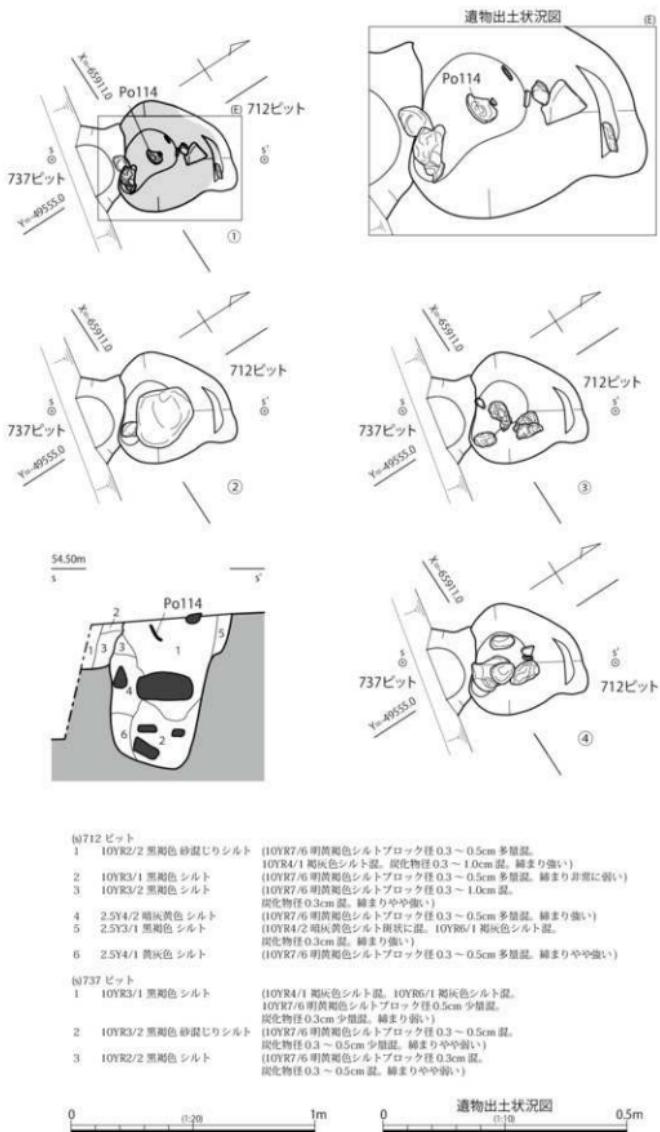
- 1 10YR3/1 黒褐色 砂混じりシルト [10YR4/1 壤灰色シルト混. 10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量混。締まり強い]
- 2 10YR3/2 黒褐色 砂混じりシルト [10YR4/1 壤灰色シルト混. 硫化物多量混。締まり強い]
- 3 10YR3/2 黒褐色 砂混じりシルト [10YR4/1 壤灰色シルト混. 10YR7/4 にぶ~黄褐色シルトブロック径 0.5cm 混。締まり強い]
- 4 10YR2/2 黑褐色 シルト [10YR4/1 壤灰色シルト混。締まり強い]

(q)735ピット

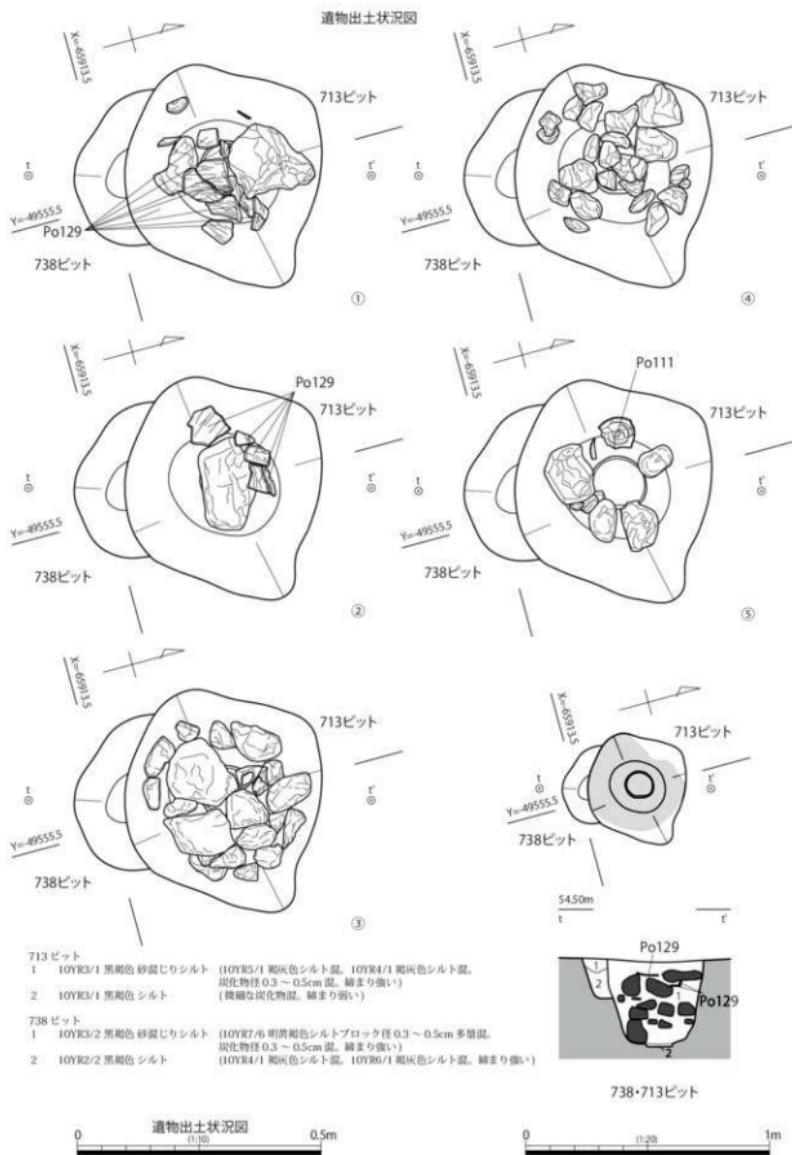
- 1 10YR2/2 黒褐色 砂混じりシルト [10YR4/1 壤灰色シルト面上に多量混. 10YR5/2 黄褐色シルト少量混。硫化物径 0.3 ~ 0.5cm 混。締まり強い]

遺物出土状況図 (D) (Item Location Map D)

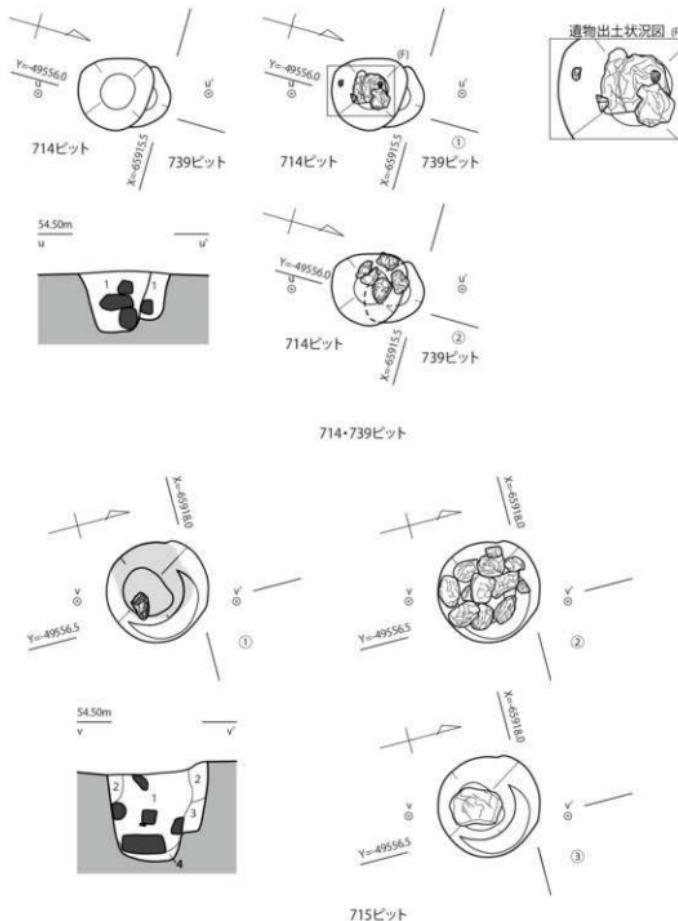
第86図 掘立柱建物13 709・710・734・735ピット



第87図 掘立柱建物13 712・737ピット



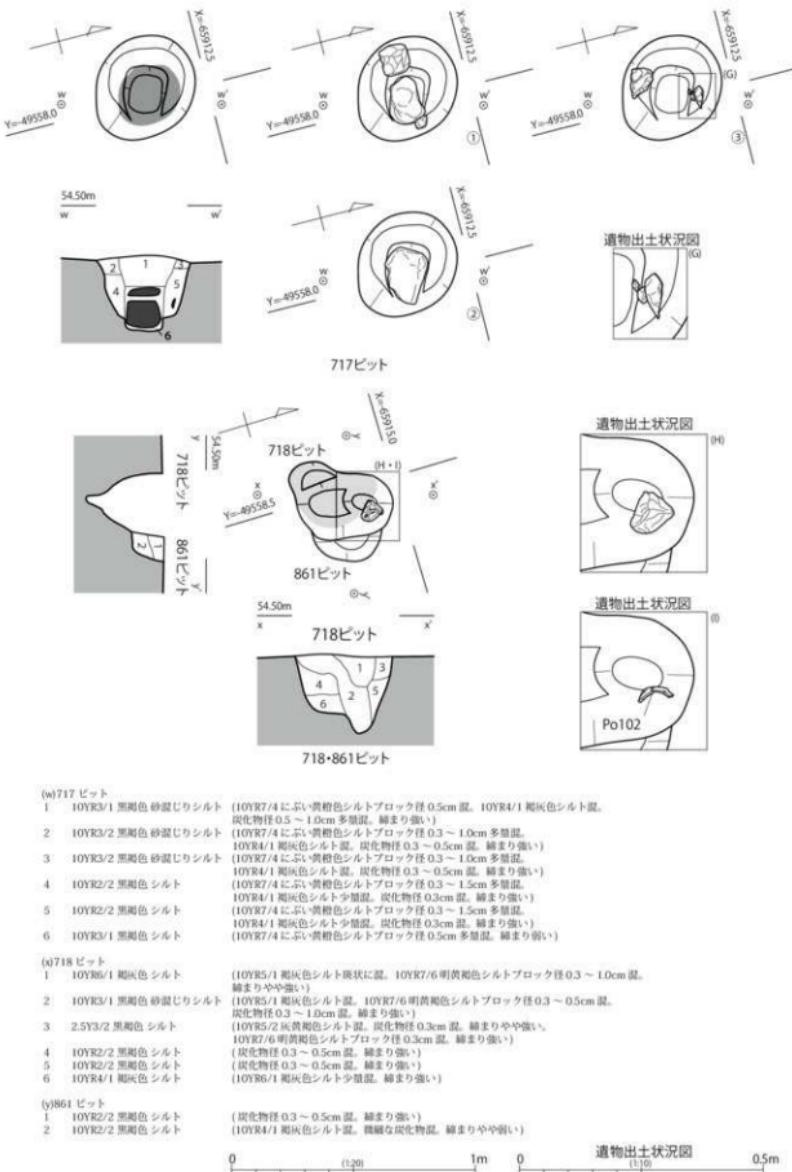
第88図 掘立柱建物13 713・738ピット



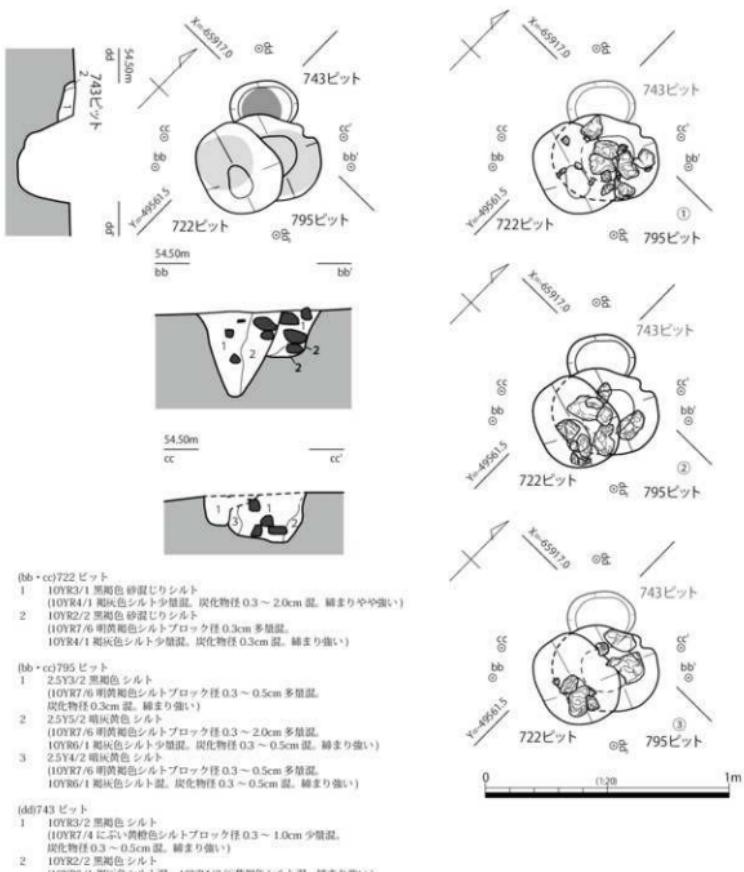
- (a) 714ピット
1 10YR2/2 黒褐色 砂混じりシルト (10YR4/1 剛灰色シルト混。炭化物径 0.3 ~ 0.5cm 褐。縦まり強い)
6) 739ピット
1 10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR4/1 剛灰色シルト多量混。炭化物径 0.3 ~ 0.5cm 褐。縦まり強い)
b) 715ピット
1 10YR2/1 黒褐色 砂混じりシルト (10YR4/1 剛灰色シルト少量混。炭化物径 0.3 ~ 0.5cm 褐。縦まりやや強い)
2 10YR2/2 黒褐色 砂混じりシルト (10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3cm 少量混。炭化物径 0.3cm 褐。縦まり強い)
3 10YR3/2 黒褐色 シルト (10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3cm 少量混。微細な炭化物少量混。縦まり強い)
4 10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3cm 少量混。縦まりやや強い)



第89図 掘立柱建物13 714・715・739ピット



第90図 堀立柱建物13 717・718・861ピット



第91図 挖立柱建物13 722・743・795ピット

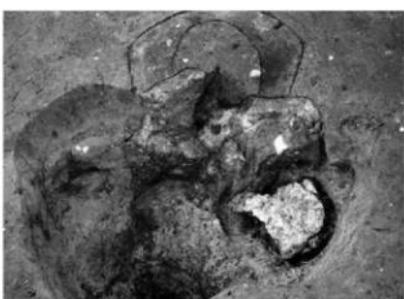
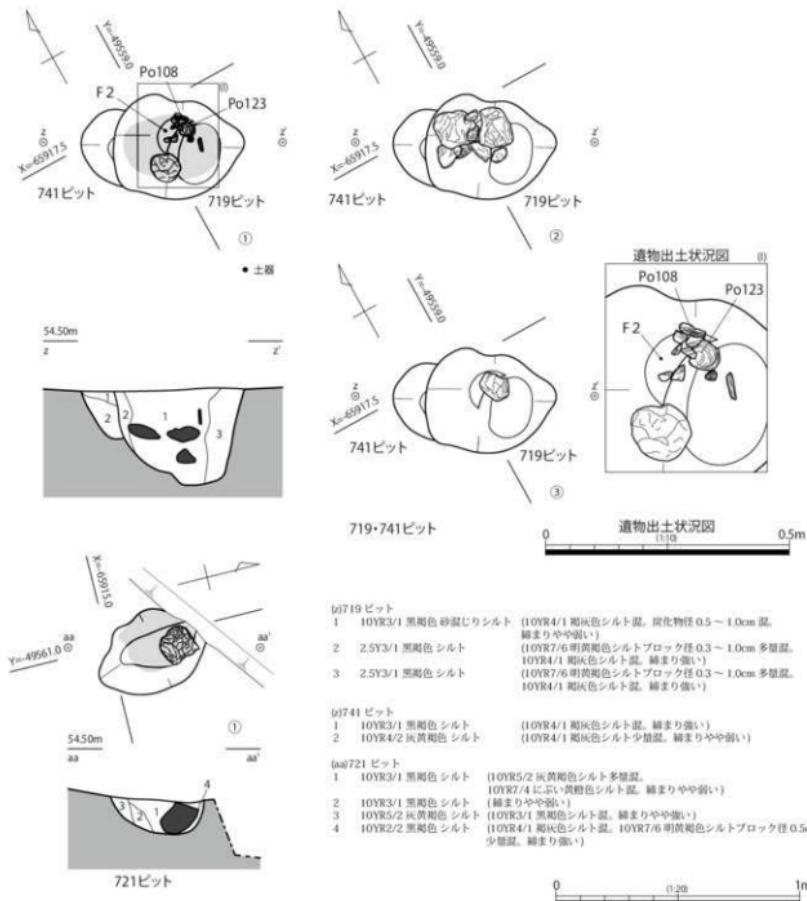


写真8 795ピット礎盤石出土状況（東から）

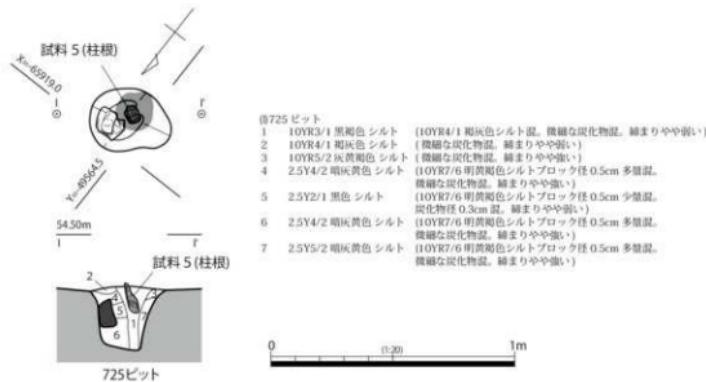


第92図 据立柱建物13 719・721・741ピット

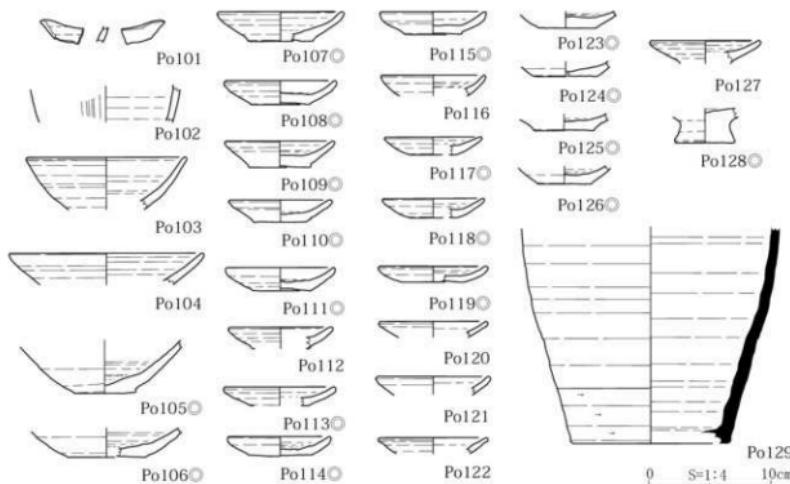
れるなど、本建物のピットは総じて強固な構造となっている。

出土遺物の大半は柱抜き取り痕跡から出土しており、埋め土出土のものは少ない。Po106・125は706ピット中央部の床面直上の基礎固めに使用したとみられる礫とともに出土している(第83図②)。出土状況から判断し、Po106・125は基礎固めとともに柱設置時に一緒に埋められた可能性が考えられる。Po104・105・124は709ピットの埋め土(709ピット4層)より出土している。Po104・105・124はほぼ同じ位置に出土し、Po105は根石と接して出土している。Po111・129は713ピットより出土している。713ピットは柱を抜き取ったのち、その柱抜き取り穴を多量の礫とともに埋め戻した可能性が高い(713ピット1層)。Po129はこの713ピット1層中の礫と混在するような状態で出土している(第

88図①・②)。また、713ピット1層最深部であるピット底面直上には、原位置を保っている礫が遺存しており、出土状況から根巻き石の可能性が高い。Po111はこれらの礫とともに出土しており(第88図⑤)、根巻き石設置段階において一緒に埋められた可能性がある。Po102は718ピットより出土している。718ピットの柱抜き取り痕跡(718ピット2層)下位に拳大の礫が出土しており、Po102はその礫の下より出土している。Po108・116~118・123は719ピットより出土している。719ピットは柱を抜き取ったのち、その柱抜き取り穴を礫とともに埋め戻した可能性が高い(719ピット1層)。Po108・123はこの719ピット1層上位、Po116~118は1層中の礫上面より出土している。



第93図 挖立柱建物13 725ピット



第94図 挖立柱建物13出土土器

本遺構の帰属時期は、出土遺物から判断し、11世紀後葉から12世紀中葉と考えられる。

掘立柱建物13出土遺物（第79・94図、図版69・70・78・82）

遺物はPo101～129、S 2を図化した。本遺構より、貿易陶磁が2点出土している(Po101・102)。Po101は白磁の壺II類である。Po102は越州窯系III類の壺または水注の胴部片で、幅広の櫛状工具による縦筋文が施される優品である。

Po103～106は回転台土師器の坏である。Po103は器高が高く、口縁部は内湾する。Po104・105は直線的に立ち上がる口縁部をもつ坏であり、出土状況と器形等から同一個体の可能性がある。Po107～126は皿である。口縁部がやや内湾するPo107～116・119と、直線的なPo117・118・120～122がある。口径は最も大きいPo107が10.0cm、Po108～122は7.8～9.0cmである。器高は2.0cm前後のものが多い一方、Po119のように低いものもあり、バリエーションが認められる。Po127・128は柱状高台で、Po127は皿状の受け部、Po128は高台部である。Po129は須恵器の壺で、外面底部付近は回転ヘラケズリで調整されている。

S 2は玉韁製の二次加工のある剥片である。打面を転位しながら得られた剥片の末端に微細な剝離を施している。

この他、図化していないが土師器坏Po276・277、不明鉄製品F 2がある。

掘立柱建物14（第95～97図、図版17・34・70）

調査区北東部から南西部にかけて位置する。桁行は3間(7.1m)、推定される梁行が3間(6.0m)の主軸をN-62°-Wにとる東西棟である。側柱建物と推定しているが、建物中央部は現代の用水路等による搅乱が著しく、本建物に伴うピットが存在した可能性も考えられる。205～208ピットはI層直下、VII層上面、2030・2044・2003・2015・2001ピットはI層直下、VまたはVI層上面において検出した。

ピットの平面形は円形を呈し、検出面での規模は、長軸19～37cm、短軸18～34cmを測る。検出面からの深さは7～46cmを測り、底面の標高は53.05～53.26mである。

2003ピットから出土した土師器高台付坏Po130は、外方に張り出す短い高台をもつ。

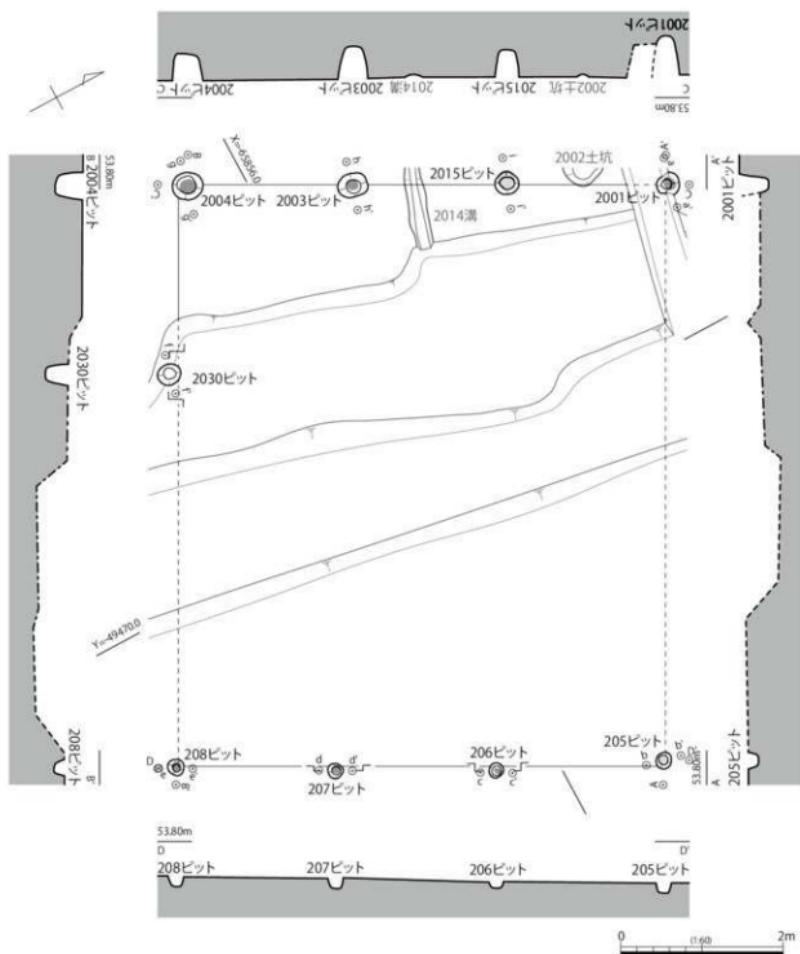
本遺構の帰属時期は、Po130から10世紀代から11世紀中葉と考えられる。

掘立柱建物15（第98～100図、図版17・36・70）

調査区南西部西側に位置する。柱の通りがやや悪いが、桁行2間(4.0～4.2m)、梁行2間(3.4～3.5m)の総柱建物で、主軸をN-78°-Wにとる東西棟である。809・936～943ピットはIII-2層下面、VまたはVI層上面において検出した。

ピットの平面形は円形を呈する。937・936・943・941・809・939・938・940ピット(外回りの柱穴)の検出面での規模は、長軸23～36cm、短軸21～27cmを測る。検出面からの深さは34～51cmを測り、底面の標高は53.62～53.81mである。942ピット(内部の柱穴)の検出面での規模は、長軸28cm、短軸25cmを測る。検出面からの深さは41cmを測り、底面の標高は53.71mであり、外回りの柱穴と比較し、ほぼ同規模といえる。

遺物は土師器坏Po131を図化した。Po131は939ピットの柱抜き取り痕跡(939ピット1層)の上位から出土している。正位で出土しており、口縁端部は花弁状に打ち欠いている。



第95図 掘立柱建物14

第19表 掘立柱建物14遺構計測表

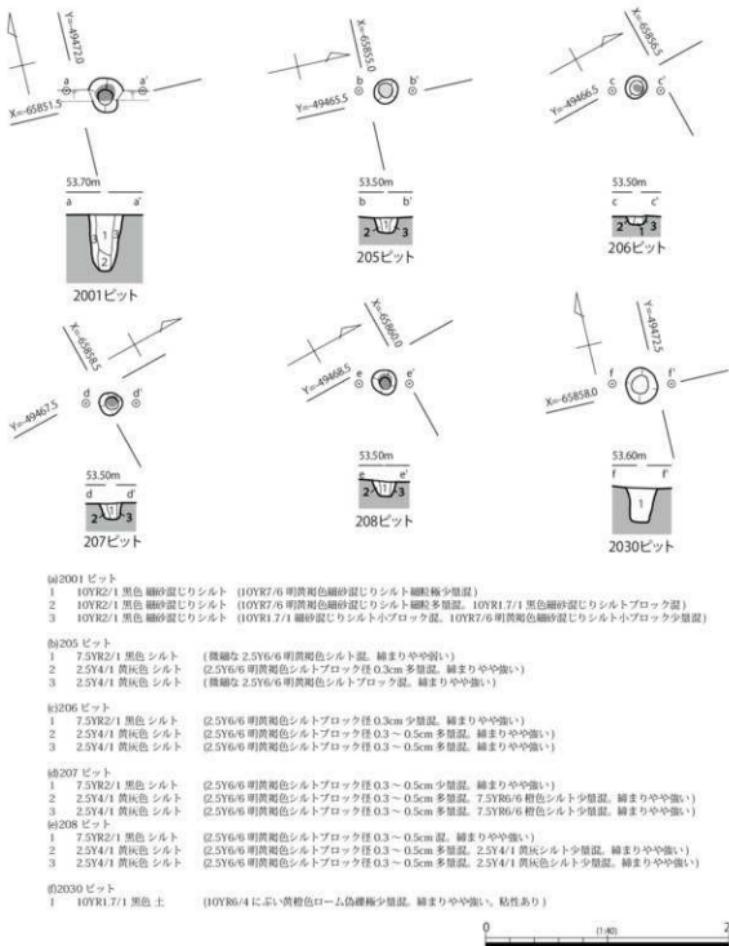
No.	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	底面の標高 (m)	背高 (cm)	備考
205	21	18	12	53.17	7	
206	19	18	7	53.23	7	
207	19	19	13	53.22	8	
208	21	19	12	53.25	8	
209	29	28	46	53.05	11	底面に切られる
2001	37	29	40	53.18	9	
2004	38	34	34	53.26	12	
2015	30	29	33	53.22	—	柱頭が崩壊
2030	29	25	29	53.14	—	

No.	右側寸法 (m)	左側寸法 (m)
2004-208	71	
2003-207	72	
2015-206	72	
2001-205	73	

No.	右側寸法 (m)	左側寸法 (m)
2004-208	23	
2003-207	23	
2015-206	23	
2001-205	49 (2回)	

No.	右側寸法 (m)
2004-208	20
2003-207	20

No.	右側寸法 (m)
2004-208	20
2003-207	20
2015-206	20
2001-205	20

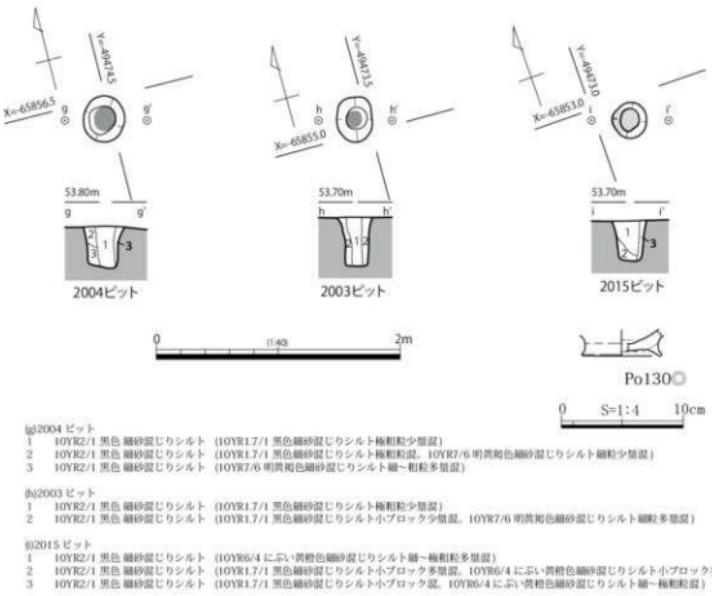


第96図 掘立柱建物14 205~208・2001・2030ピット

本建物の廃絶時期はPo131から11世紀後葉から13世紀中葉と考えられる。

掘立柱建物16 (第101~103図、図版37)

調査区南西部西側に位置する。推定される桁行は5間(12.2m)、梁行3間(7.0m)の主軸をN-8°-E に沿う南北棟である。建物東側中央部は搅乱により、著しく削平されている。761・884ピットはI層直下、VまたはVI層上面、758~760・951~958・961・962ピットはI層直下、VII層上面において検出



第97図 挖立柱建物14 2003・2004・2015ピット遺構図・出土土器

第20表 挖立柱建物15遺構計測表

寸法					
No.	幅標	距離	深さ	底面の標高 (m)	底面の面積 (m ²)
800	24	24	40	53.76	13
906	28	23	39	53.69	10
907	36	27	34	53.81	—
936	26	24	43	53.67	10
939	25	24	34	53.78	9
940	23	21	39	53.70	10
941	22	21	45	53.69	9
942	28	25	41	53.71	—
943	24	23	51	53.62	10

柱間寸法 (平行方向)	
No.	柱間寸法 (m)
938-937	4.2
939-936	4.0
809-943	4.0

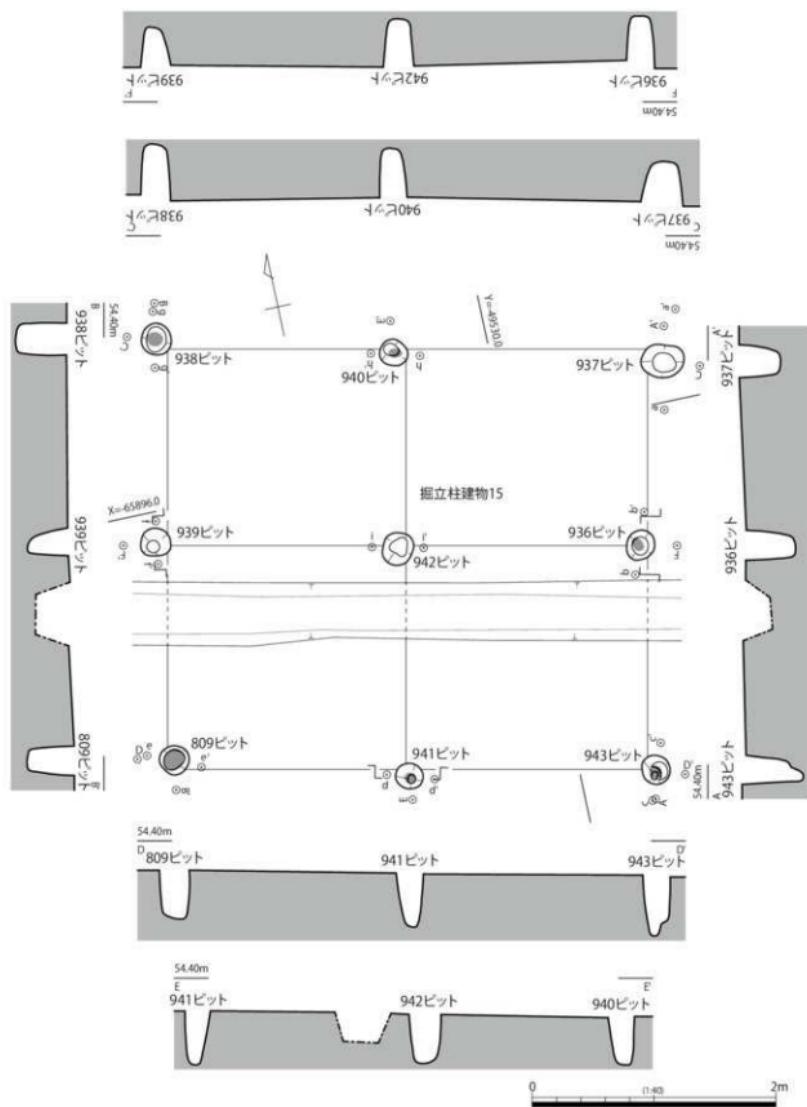
柱間寸法 (平行方向)	
No.	柱間寸法 (m)
938-939	2.0
940-937	2.3
939-942	2.0
942-936	1.9
809-941	2.0
941-943	2.0

柱間寸法 (平行方向)	
No.	柱間寸法 (m)
938-939	1.7
940-941	1.8
942-943	1.6
937-936	1.5
936-943	1.8

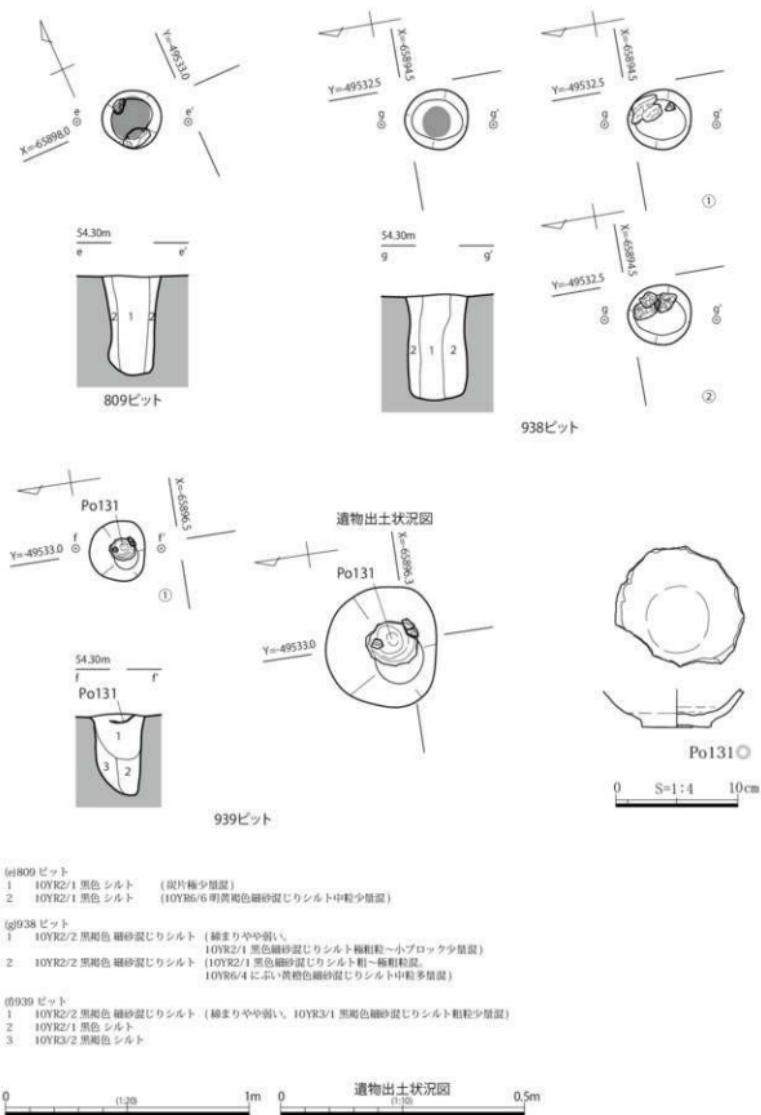
した。ピットの平面形は円形または隅丸方形状を呈する。北西側のピットには重複しているものが認められ(761・758ピット)、部分的な修復等が行われた可能性がある。検出面での規模は、長軸18~38cm、短軸15~34cmを測る。検出面からの深さは4~22cmを測り、底面の標高は53.96~54.13mである。

また、建物内部に962ピットを検出している。平面的な位置関係や952ピットとの柱間距離から判断し、本遺構に伴う可能性がある。検出面での規模は、長軸39cm、短軸32cmを測る。検出面からの深さは12cmを測り、底面の標高は54.00mである。

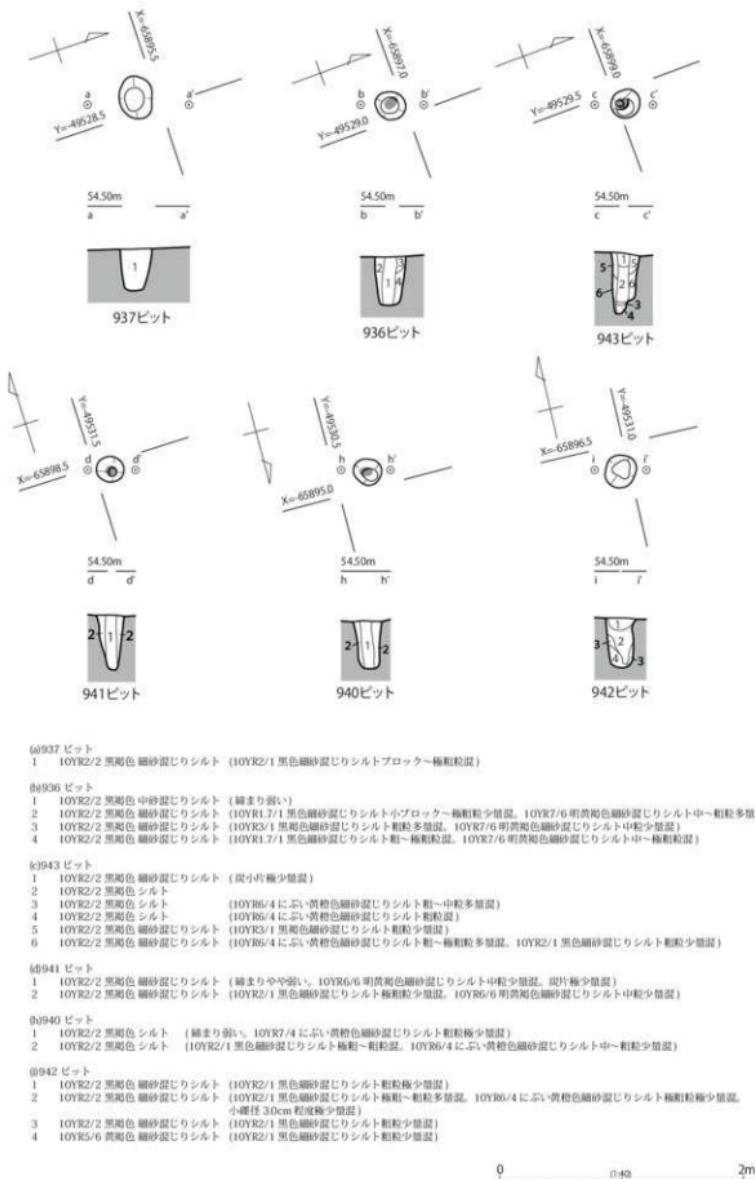
遺物は土師器片が出土しているが、細片のため図化していない。



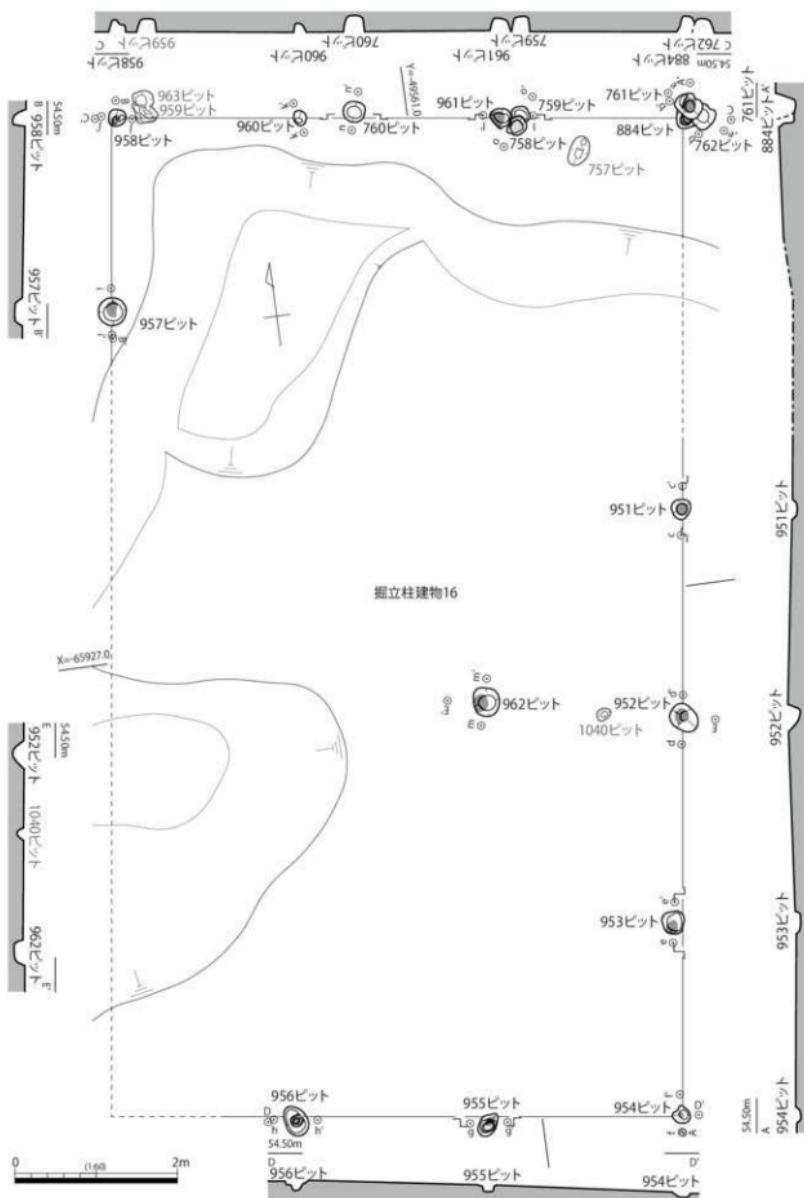
第98図 挖立柱建物15



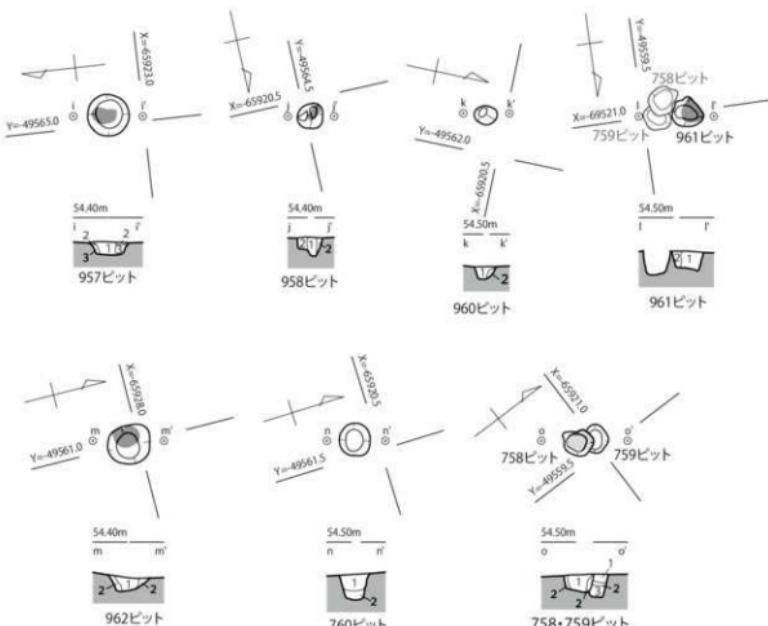
第99図 掘立柱建物15 809・938・939ピット遺構図・出土土器



第100図 挖立柱建物15 936・937・940～943ピット



第101図 掘立柱建物16



(a)957ピット
 1 10YR2/1 黒褐色シルト [10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 少量混。N1.5/0 黑色シルト少量混。締まり強い)
 2 10YR2/2 黒褐色シルト [10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 混。N1.5/0 黑色シルト少量混。炭化物径 0.3 ~ 0.5cm 混。締まり強い)
 3 10YR2/2 黒褐色シルト [10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量混。N1.5/0 黑色シルト少量混。炭化物径 0.3 ~ 0.5cm 混。締まり強い)

(b)958ピット
 1 10YR2/1 黒褐色シルト [10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3cm 混。炭化物径 0.3 ~ 0.5cm 混。締まり強い)
 2 2.5Y4/1 黄灰色シルト [10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3cm 多量混。炭化物径 0.3 ~ 0.5cm 混。締まり強い)

(c)960ピット
 1 2.5Y4/1 黄灰色シルト [10YR7/4 ない黄褐色シルト混。炭化物径 0.3 ~ 0.5cm 混。締まり強い)
 2 2.5Y5/2 噴出黄色シルト [微弱な炭化物混。締まり強い]

(d)961ピット
 1 2.5Y4/2 噴出黄色シルト [10YR4/1 噴出黄色シルト混。10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 混。締まり強い)
 2 2.5Y5/1 黄褐色シルト [10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 少量混。締まり強い)

(e)962ピット
 1 10YR3/1 黑褐色シルト [10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 4.0cm 少量混。締まり強い)
 2 2.5Y4/1 黄褐色シルト [10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 2.0cm 多量混。締まり強い)

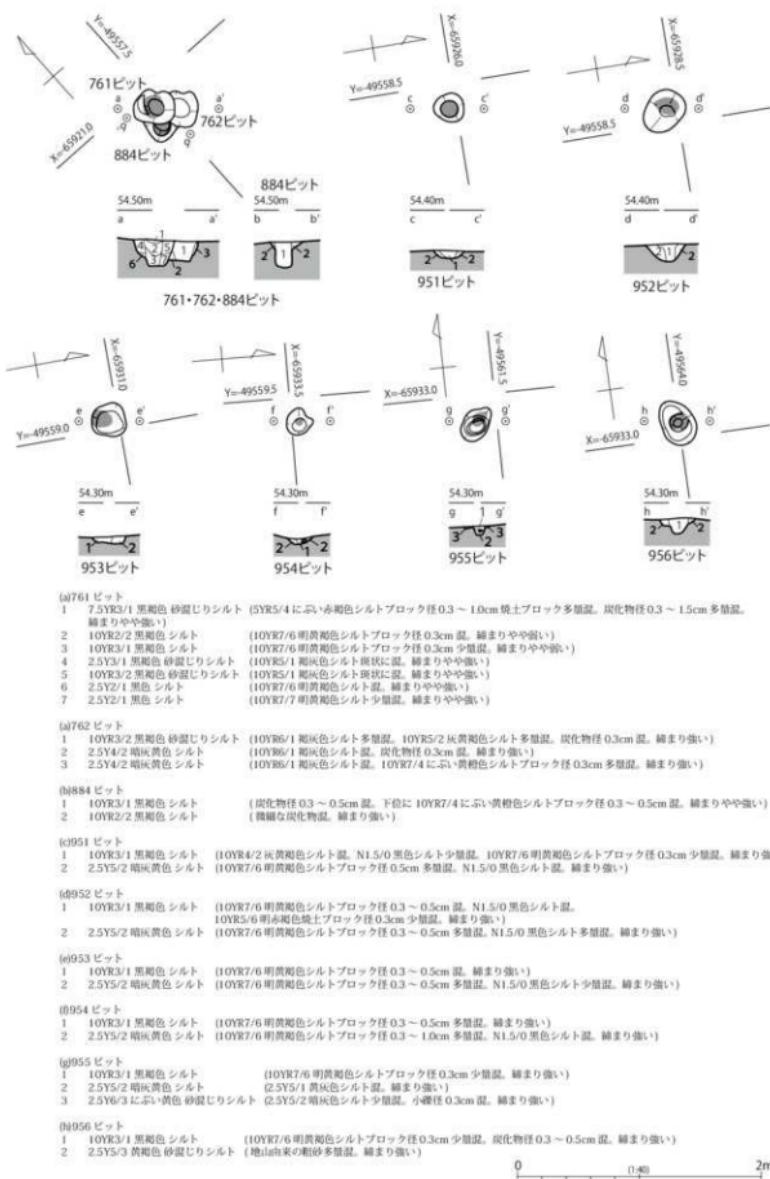
(f)760ピット
 1 10YR2/2 黑褐色 細砂混じりシルト (下層との境に地山土ブロック径 1.0cm 以下を厚さ 1.0cm の層状に混)
 2 10YR2/2 黑褐色シルト

(g)758ピット
 1 10YR2/2 黑褐色シルト (地山土ブロック径 1.0cm 以下混)
 2 10YR2/2 黑褐色シルト (地山土ブロック径 0.5cm 以下多量混)
 3 10YR2/1 黑色シルト (底部に地山土ブロック混)



第102図 挖立柱建物16 758~760・957・958・960~962ピット

第3章 山ノ下遺跡の調査成果



第103図 掘立柱建物16 761・762・884・951~956ピット

第21表 挖立柱建物16遺構計測表

ピット No.	規格 (cm)			前面の標高 (m)		柱のあたり 直径 (cm)	柱根脚直径 (cm)	備考
	基軸	面幅	溝さ	柱直徑 (cm)	柱根脚直徑 (cm)			
756	26	22	15	54.09	—	—	—	759 (重複)、柱抜き取り痕
759	24	18.13.1.	19	54.05	—	—	—	758 (重複)
760	27	25	21	54.03	—	—	—	761 (重複)
761	33	25	22	54.04	8	12	762・884 (重複)	
262	27	19.03.1.	16	54.08	—	—	763・884 (重複)	
884	28	15.03.1.	21	54.08	—	12	761・762 (重複)	
951	24	24	6	54.00	—	9	—	
952	38	29	14	53.98	—	8	—	
953	29	27	6	53.97	—	12	—	
954	32	21	4	53.96	—	6	—	
955	32	24	7	54.00	5	10	—	
956	28	27	12	54.06	9	14	—	
957	35	34	10	54.10	—	15	—	
958	22	20	15	54.09	5	8	—	
960	18	15	10	54.13	—	—	—	
961	25	24	15	54.07	—	16	—	
962	39	32	12	54.00	—	13	—	

柱間寸法(一列行総長)

No.	柱間寸法 (m)
960-956	12.3
760-956	12.4
961-955	12.4
758-955	12.3
759-955	12.4
884-954	12.2
761-954	12.4
762-954	12.3

柱間寸法(相) 傾行距離

No.	柱間寸法 (m)
958-964	7.0
958-761	7.1
958-762	7.2

柱間寸法(裏) 傾行方向

No.	柱間寸法 (m)
958-960	2.3
958-760	2.9
960-961	2.5
960-759	2.7
960-758	2.7
958-957	2.4
961-952	7.2 (286)
758-952	7.1 (286)
759-952	7.2 (286)
962-952	5.5 (286)
884-951	4.8 (286)
961-762	2.3
761-951	4.9 (286)
762-951	4.8 (286)
759-951	2.0
759-952	2.2
758-952	2.1
758-761	2.1
758-762	2.3
962-952	2.5
955-953	2.4
953-954	2.4
956-954	4.7 (286)

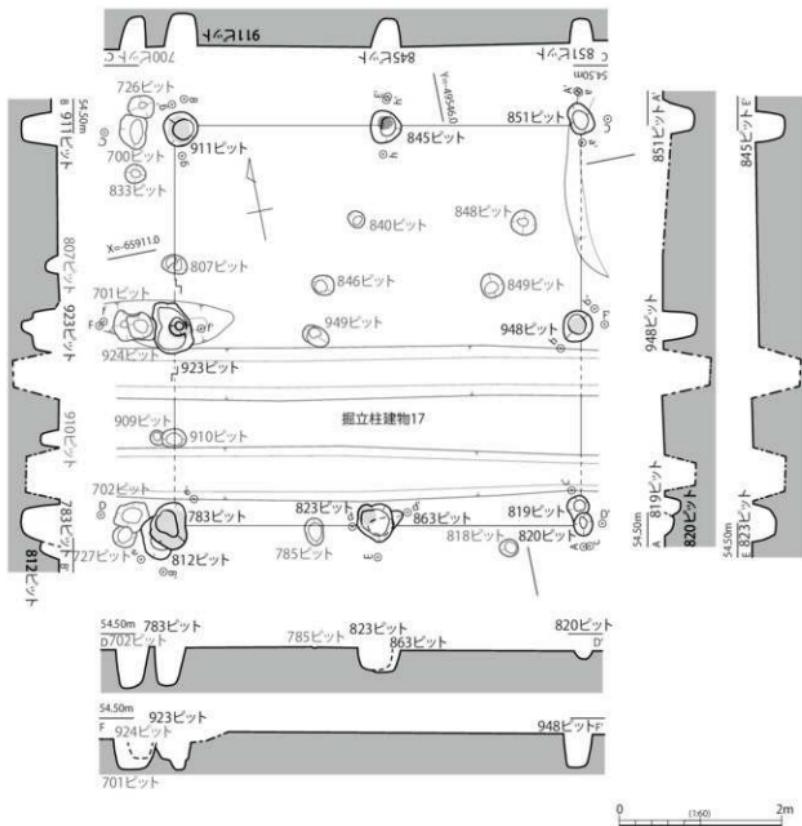
掘立柱建物17 (第104~108図、図版17・38・71)

調査区南西部西側に位置する。本建物の西側は掘立柱建物13と接するような状態で重複し、本建物が掘立柱建物13に対して後出する遺構であることを確認している。また、本建物西側の柱筋の延長ライン上には、793・789・748ピットが位置する。柱の通りがよいことから、掘立柱建物13に伴うピットである可能性(同項、掘立柱建物13参照)、あるいは掘立柱建物13と同等規模の建物が存在した可能性を視野に入れ調査を行ったが、793・789・748ピットに対応するピットは検出していない。

検出した本建物の平面プランは、桁行2間(5.0m)、梁行2間(4.8~5.0m)と、ほぼ正方形のプランであるが、若干、東西方向に広い。建物の主軸はN-79°-Wである。851・845・911・923ピットはⅢ-2層下面、Ⅳ層上面、948・820・819・823・863・783・812ピットはⅢ-2層下面、VまたはVI層上面において検出した。ピットの平面形は円形、または隅丸方形を呈する。検出面での規模は、長軸28~66cm、短軸23~50cmを測る。検出面からの深さは11~44cmを測り、底面の標高は53.87~54.18mである。南面のピット(819・820、823・863、783・812ピット)は重複しており、建て替えや部分的な修復が行われた可能性がある。

埋め土は、Ⅶ層由来の明黄褐色シルトブロックなどが混じる黒褐色シルトを主体とする。823・948ピットの埋め土には拳大の礫が多量に出土しており、根巻き石として利用されたものと考える。783ピット底面には根石により基礎固めが行われており、本建物のピットは総じて強固な構造となっている。また、783ピットでは灰白色の粘土塊が出土している。783ピットは柱が抜き取られており(783ピット1層)、粘土塊の南西側は柱抜き取り時に削り取られた可能性がある。掘立柱建物13の柱穴である708ピットの埋め土には、783ピットとほぼ同色の粘土塊が詰め込まれており、基礎固めを目的としたものと推測している。783ピット出土粘土塊も708ピット出土例と同様の意図のもと埋められた可能性が考えられる。

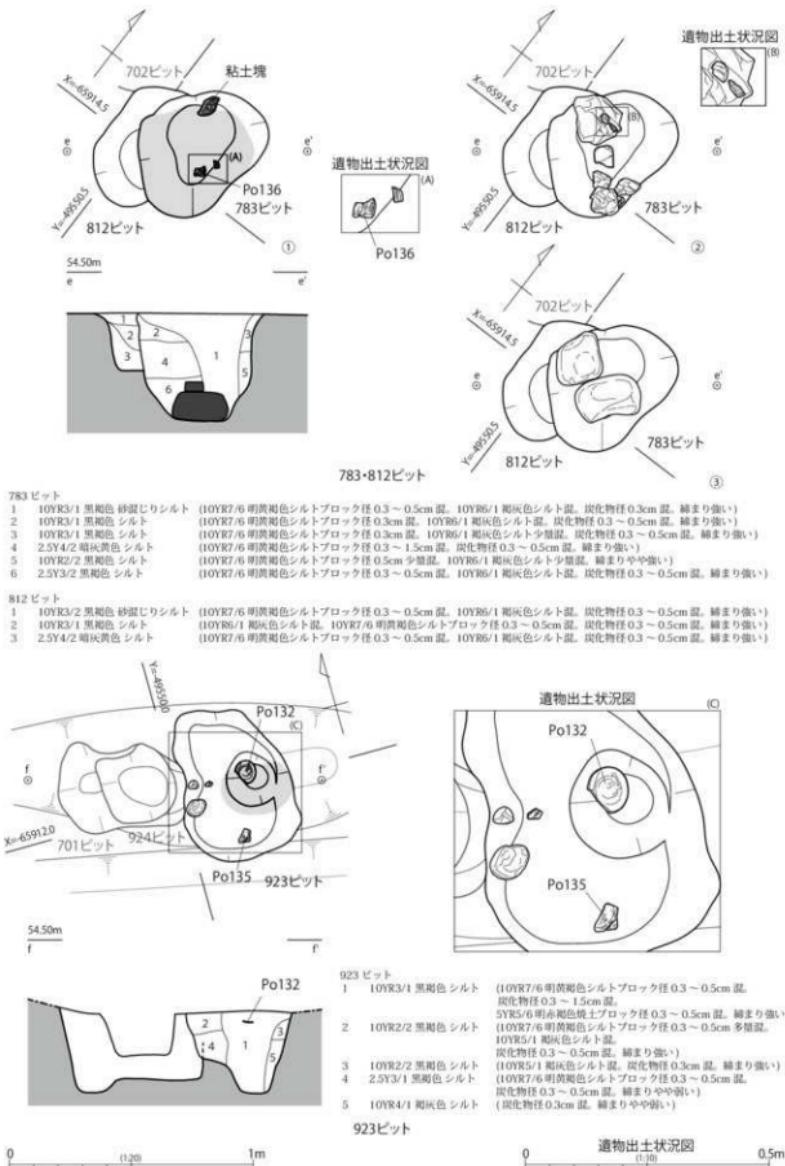
土師器皿Po132(923ピット出土)・土師器壺Po136(783ピット出土)・須恵器壺Po139(911ピット出土)はいずれも柱抜き取り痕跡の上位から出土している。そのうちPo139は人頭大の礫と重なった状態で出土しており、柱抜き取り穴を埋め戻す際に埋められたものと考える。



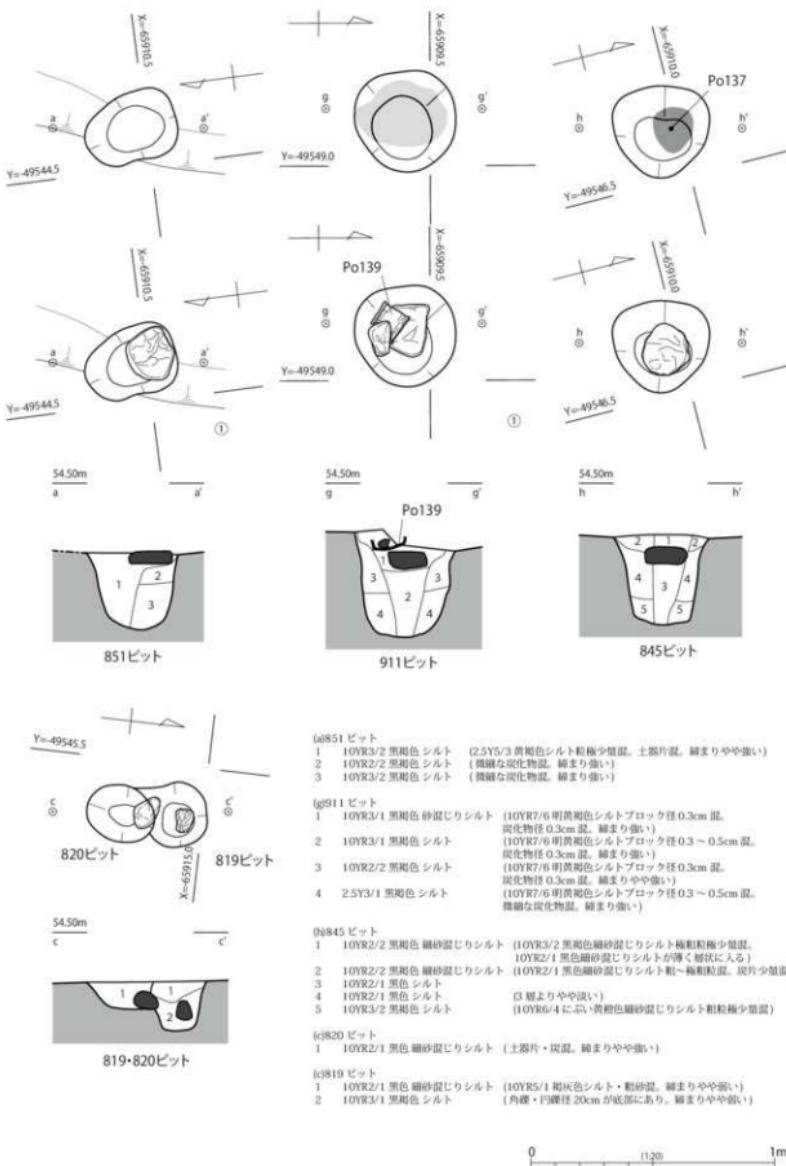
第104図 挖立柱建物17

第22表 挖立柱建物17遺構計測表

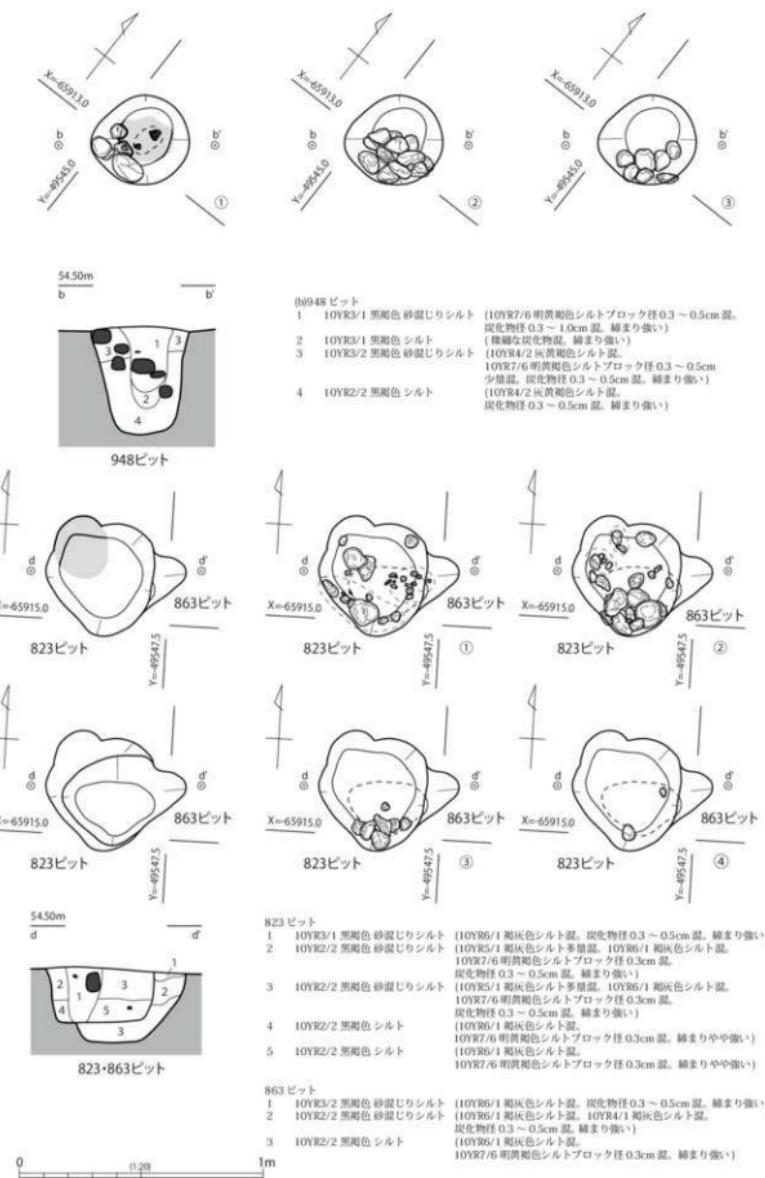
No.	幅幅 (m)		底面の標高 (m)	柱脚表面 基準 (cm)	柱のみたき 基準 (cm)	備考	柱間寸法 (平行軸)		柱間寸法 (平行軸)
	長軸	短軸					No.	柱間寸法 (m)	
783	54	30	44	53.89	—	—	911-783	0.0	911-783
812	53	30(31.1)	28	54.10	—	—	923-812	4.9	845-823
819	21(21.1)	27	20	54.09	—	—	923-819	5.0	851-829
820	28	23	11	54.18	—	—	949-820	5.0	851-819
823	50	44	22	54.10	—	—	948-823	5.0	—
845	39	38	37	53.92	15	—	911-845	0.0	—
851	38	28	32	53.99	—	—	911-851	2.6	911-923
863	51	36	30	54.02	—	—	923-863	2.4	923-783
911	42	42	44	53.87	14	—	923-911	2.4	851-948
923	66	44	33	53.87	—	9	823-923	2.6	948-820
948	40	36	44	53.89	—	—	823-948	2.6	948-819



第105図 掘立柱建物17 783・812・923ピット



第106図 挖立柱建物17 819・820・845・851・911ピット



第107図 堀立柱建物17 823・863・948ピット



写真9 823ピット根巻き石出土状況（東から）

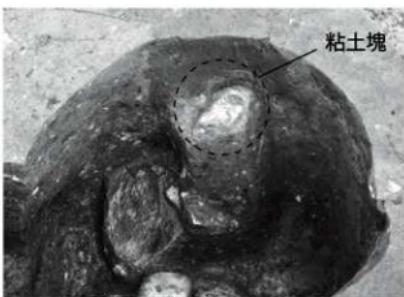
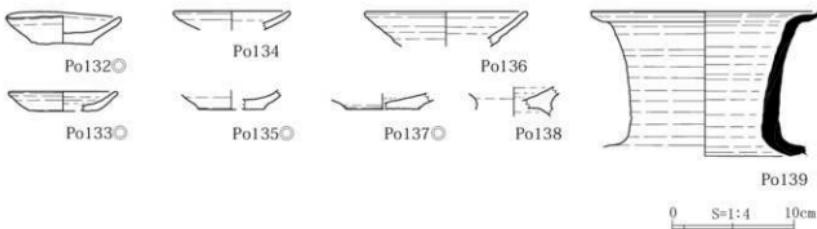


写真10 783ピット粘土塊出土状況（南東から）



第108図 掘立柱建物17出土土器

遺物はPo132～139を図化した。Po132～135は回転台土師器の皿である。Po132～134は直線的に、Po135は丸みをもって立ち上がる口縁部をもつ。Po134は口縁部外面の端部やや下に回転ナデによって稜が形成されている。Po136・137は坏であり、直線的に立ち上がる口縁部もつ。Po138は高台付坏である。

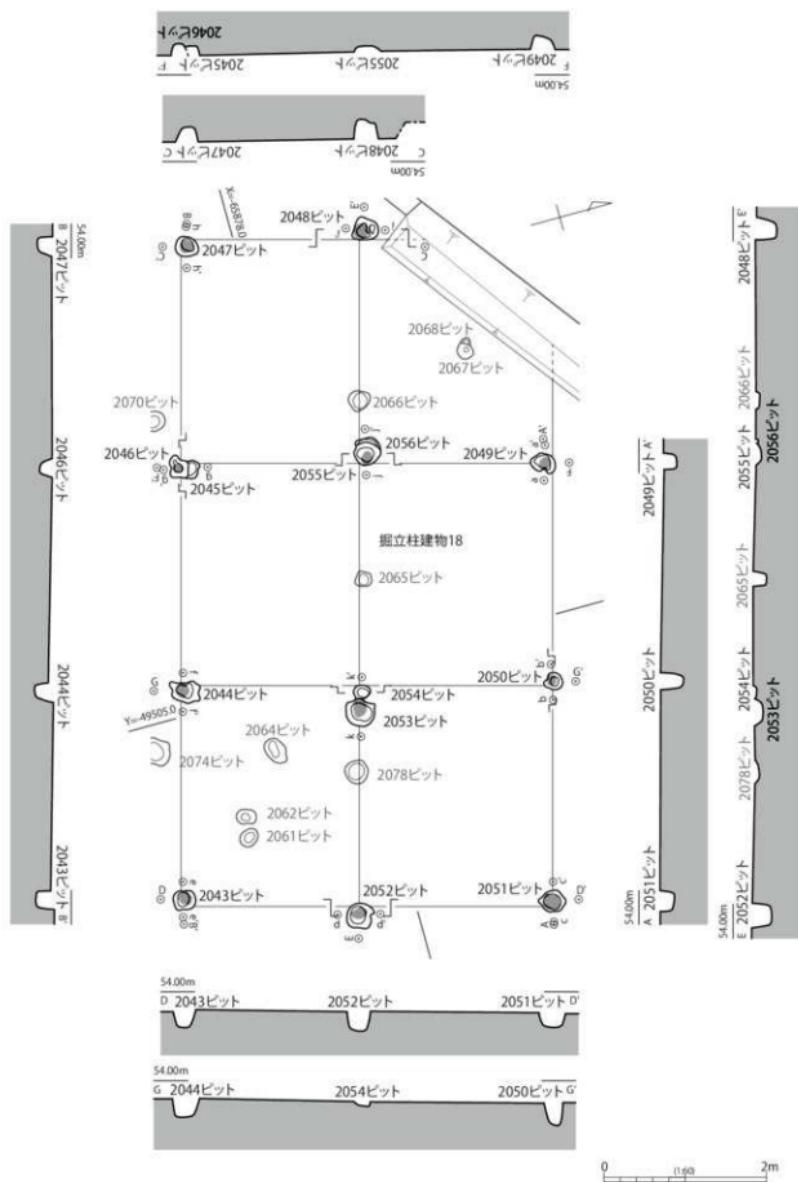
Po139は須恵器の壺である。口縁部は外方に大きく広がり、端部は短く直立する。

これらの出土遺物から、当遺構の廃絶時期は11世紀後葉から12世紀中葉と考えられる。

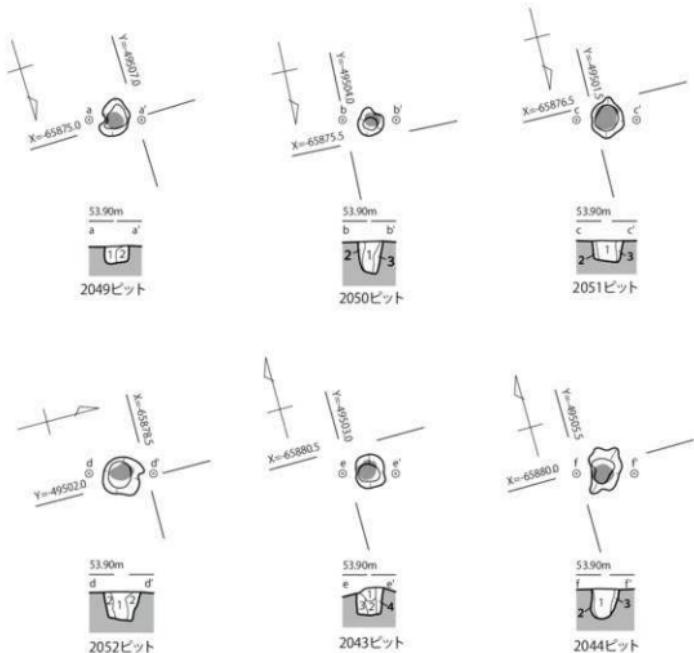
掘立柱建物18（第109～111図、図版35・36）

調査区南西部北側に位置するため建物の北西隅は調査区外であるが、桁行3間(8.1m)、梁行2間(4.6m)の総柱建物と判断できる。建物の主軸がN-75°-Wの東西棟である。2043～2056ピットはI層直下、Ⅳ層上面で検出した。概ね柱の筋は通るが、2048・2053～2056ピット（身舎内部の柱穴）の梁行の通りはやや悪い。ピットの平面形は歪な円形または隅丸方形状を呈す。建物の外回りのピットと内部のピットの規模は大差なく、検出面での規模は長軸20～42cm、短軸12～33cmを測る。検出面からの深さは4～26cmを測り、底面最深部の標高は52.53～53.70mである。

遺物は出土していない。



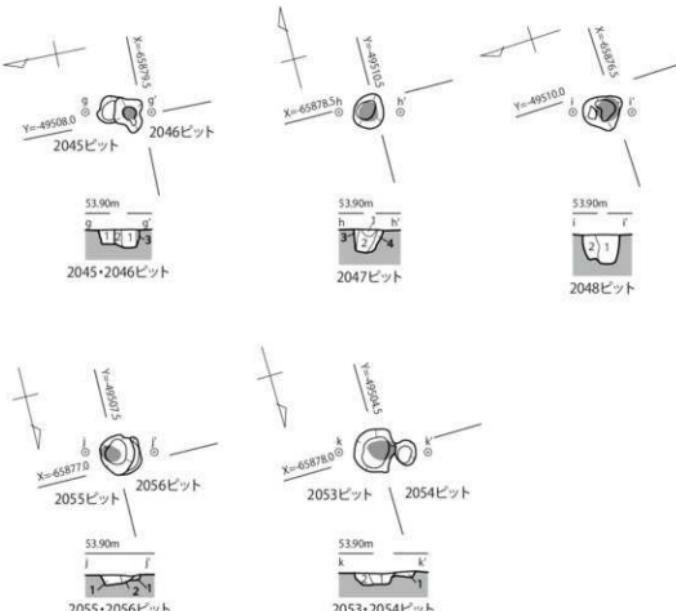
第109図 挖立柱建物18



- (a)2049 ビット
 1 2.5Y1/1 黄灰色 シルト (IOYR7/6明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量認。N1.5/0 黒色シルト混。綿まり強い)
 2 2.5Y4/2 噴灰黄褐色 シルト (IOYR7/6明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量認。N1.5/0 黑色シルト混。綿まり強い)
- (b)2050 ビット
 1 2.5Y1/1 黒褐色 シルト (IOYR7/6明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 少量認。綿まり弱い)
 2 2.5Y3/2 噴灰黄褐色 シルト (IOYR7/6明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量認。N1.5/0 黑色シルト少量認。綿まり強い)
 3 2.5Y4/2 噴灰黄褐色 シルト (IOYR7/6明黄褐色シルトブロック径 0.3cm 多量認。N1.5/0 黑色シルト少量認。綿まりやや強)
- (c)2051 ビット
 1 2.5Y1/1 黄灰色 シルト (IOYR7/6明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 2.0cm 多量認。N1.5/0 黑色シルト混。綿まり強い)
 2 2.5Y4/2 噴灰黄褐色 シルト (IOYR7/6明黄褐色シルトブロック径 0.3cm 多量認。N1.5/0 黑色シルト混。綿まり強い)
 3 2.5Y5/2 噴灰黄褐色 シルト (IOYR7/6明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.5cm 多量認。N1.5/0 黑色シルト混。綿まり弱)
- (d)2052 ビット
 1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (IOYR7/6明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 混。N1.5/0 黑色シルト少量認。綿まり強い)
 2 2.5Y5/2 噴灰黄褐色 シルト (IOYR7/6明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量認。N1.5/0 黑色シルト混。綿まり弱)
- (e)2043 ビット
 1 2.5Y1/1 黑褐色 シルト (IOYR7/6明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 混。2.5Y5/2 噴灰黄褐色シルト少量認。綿まり強い)
 2 2.5Y3/2 噴灰黄褐色 シルト (IOYR7/6明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 少量認。N1.5/0 黑色シルト少量認。綿まり弱い)
 3 2.5Y5/2 噴灰黄褐色 シルト (IOYR7/6明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量認。N1.5/0 黑色シルト混。綿まり弱い)
 4 2.5Y5/2 噴灰黄褐色 シルト (IOYR7/6明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量認。N1.5/0 黑色シルト少量認。綿まり弱)
- (f)2044 ビット
 1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (IOYR7/6明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 混。N1.5/0 黑色シルト少量認。2.5Y6/1 黄灰色シルト少量認。綿まりやや強)
- 2 2.5Y5/2 噴灰黄褐色 シルト (IOYR7/6明黄褐色シルト混。N1.5/0 黑色シルト混。綿まり弱い)
 3 2.5Y5/2 噴灰黄褐色 シルト (IOYR7/6明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量認。N1.5/0 黑色シルト混。綿まり弱い)



第110図 掘立柱建物18 2043・2044・2049～2052ビット



① 2045 ピット

1 2.5Y4/2 噴灰黄色 シルト (HOYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.20cm 多量混。N1.5/0 黒色シルト混。締まりやや強い)

② 2046 ピット

1 2.5Y3/1 黒褐色 シルト (HOYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 混。N1.5/0 黒色シルト少量混。締まりやや弱い)
2 2.5Y5/2 噴灰黄色 シルト (HOYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量混。N1.5/0 黒色シルト多量混。締まりやや強い)
3 2.5Y4/1 黄褐色 シルト (HOYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3cm 混。N1.5/0 黑色シルト混。締まりやや強い)

③ 2047 ピット

1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (HOYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 混。N1.5/0 黑色シルト少量混。締まりやや弱い)
2 2.5Y4/2 噴灰黄色 シルト (HOYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量混。N1.5/0 黑色シルト少量混。締まりやや弱い)
3 2.5Y4/2 噴灰黄色 シルト (HOYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量混。N1.5/0 黑色シルト少量混。締まりやや弱い)

④ 2048 ピット

1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (HOYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.20cm 多量混。N1.5/0 黑色シルト多量混。締まりやや弱い)
2 2.5Y4/1 黄褐色 シルト (HOYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量混。N1.5/0 黑色シルト混。締まり強い)

⑤ 2053 ピット

1 2.5Y4/1 黄褐色 シルト (HOYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3cm 多量混。N1.5/0 黑色シルト混。締まりやや弱い)
2 2.5Y5/2 噴灰黄色 シルト (HOYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量混。N1.5/0 黑色シルト多量混。締まり強い)

⑥ 2054 ピット

1 2.5Y4/2 噴灰黄色 シルト (HOYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量混。N1.5/0 黑色シルト多量混。締まりやや強い)

⑦ 2055 ピット

1 2.5Y4/1 黄褐色 シルト (HOYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3cm 多量混。N1.5/0 黑色シルト少量混。締まりやや弱い)
2 2.5Y4/1 黄褐色 シルト (HOYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.0cm 多量混。N1.5/0 黑色シルト混。締まり強い)

⑧ 2056 ピット

1 2.5Y2/1 黑色 シルト (HOYR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3cm 少量混。締まりやや弱い)



第111図 掘立柱建物18 2045~2048・2053~2056ピット

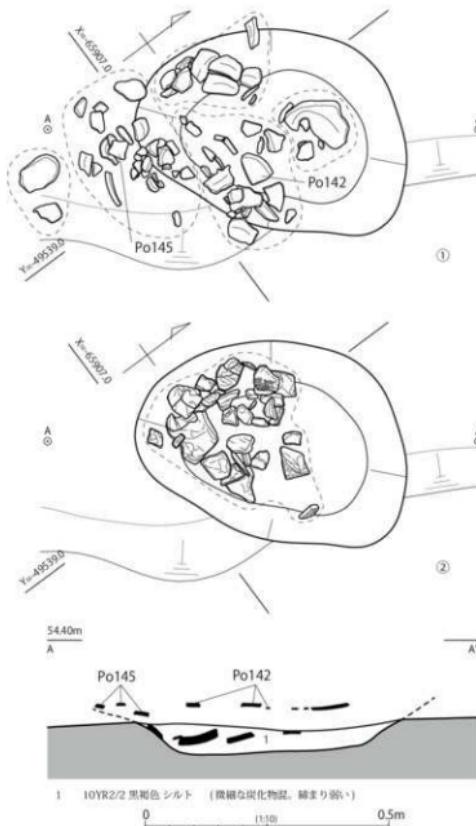
第23表 挖立柱建物18遺構計測表

No.	断面寸法 (cm)			底面の標高 (m)	柱直径 (cm)	柱のあたり 底面 (cm)	著者
	長軸	短軸	深さ				
2043	26	22	23	53.97	9	—	
2044	42	28	24	53.54	14	—	
2045	22(上)	22	12	53.65	—	—	2045 (重複)
2046	31	26	15	53.62	12	—	2045 (重複)
2047	30	25	19	53.58	13	—	
2048	34	30	24	53.49	16	13	
2049	31	22	14	53.55	9	—	
2050	22	22	26	53.47	9	—	
2051	24	20	18	53.52	16	—	
2052	23	20	17	53.43	16	—	
2053	22	20	13	53.69	17	—	2054 (重複)
2054	20	17	4	53.70	—	—	2053 (重複)
2055	33	28	8	53.64	16	—	2056 (重複)
2056	33	12	4	53.68	—	—	2055 (重複)

柱間寸法 (平行範囲)	
No.	柱間寸法 (m)
2047-2043	8.1
2048-2052	8.4
2049-2051	5.4 (重複)
2043-2051	4.6

柱間寸法 (平行範囲)	
No.	柱間寸法 (m)
2047-2046	2.8
2047-2045	2.8
2046-2044	2.7
2045-2044	2.7
2044-2043	2.6
2048-2043	2.8
2055-2053	3.1
2053-2054	2.9
2053-2052	2.5
2054-2052	2.7
2049-2052	2.7
2050-2051	2.4

柱間寸法 (平行範囲)	
No.	柱間寸法 (m)
2047-2049	4.5
2045-2049	4.3
2044-2050	4.5
2043-2051	4.6



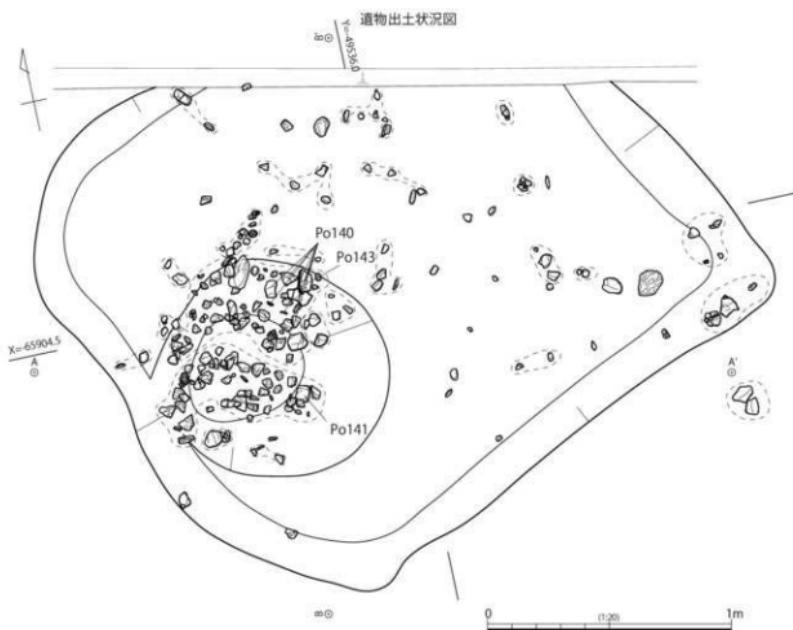
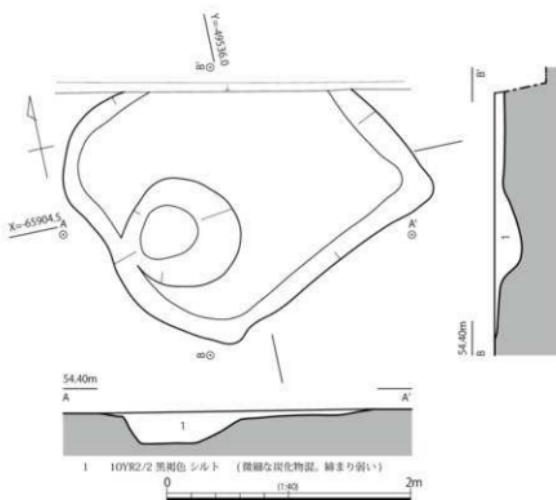
第112図 914土器溜まり

914土器溜まり (第112・114図、図版39・74)

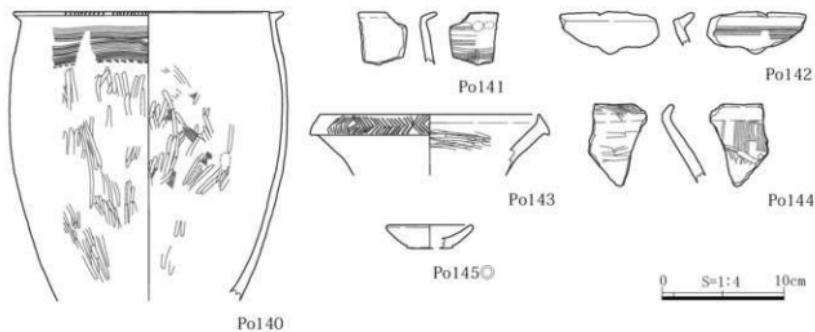
調査区南西部中央付近においてⅢ-2層掘削中に土器片が集中して出土する範囲を確認し、土器溜まりとして調査を行った。平面形は不整な円形を呈し、検出面での規模は長軸57cm、短軸41cmを測る。検出面からの深さは6cmを測り、断面は浅い皿形状を呈す。埋土(1層)は黒褐色シルトが堆積しており、Ⅲ-1層造成時にⅢ-2層上面の窪みを1層で埋め、整地したものと推定している。

出土遺物の大半は弥生土器の細片であるが、極少量平安時代後半から中世に帰属するとみられる土師器片が含まれる。このうちPo142・144・145を図化した。Po142・144は弥生土器である。Po142はくの字状の口縁をもつ壺であり、口縁部下に櫛描平行文が施される。これは弥生時代中期前葉に比定される資料である。Po144は短頭壺であり、内外面ともハケとヘラミガキで調整される。Po145は回転糸切りの土師器皿である。

本遺構の帰属時期は出土遺物(Po145)から判断し、平安末から中



第113図 947土器満まり



第114図 914・947土器溜まり出土土器

世に属す遺構と考えられる。

947土器溜まり（第113・114図、図版40・74）

本遺構は調査区南西部中央付近、914土器溜まりの約3.0m北東に位置する。南側は暗渠により消失しているが、平面形は隅丸方形状を呈すものとみられ、検出面での規模は長軸2.46m、短軸2.18mを測る。検出面からの深さは25cmを測り、断面は二段掘り状を呈す。埋土は914土器溜まりと類似する黒褐色シルトが堆積しており、Ⅲ-1層造成時にⅢ-2層上面の窪みを1層で埋め、整地したものと思われる。

遺物は、弥生土器Po140・141・143を図化した。Po140は逆L字状の、Po141はくの字状の口縁をもつ壺であり、Po140には口縁部下に櫛描平行線文が施される。Po143は上下に拡張した口縁端部に羽状文が施される壺である。これらは弥生時代中期前葉に比定される資料である。

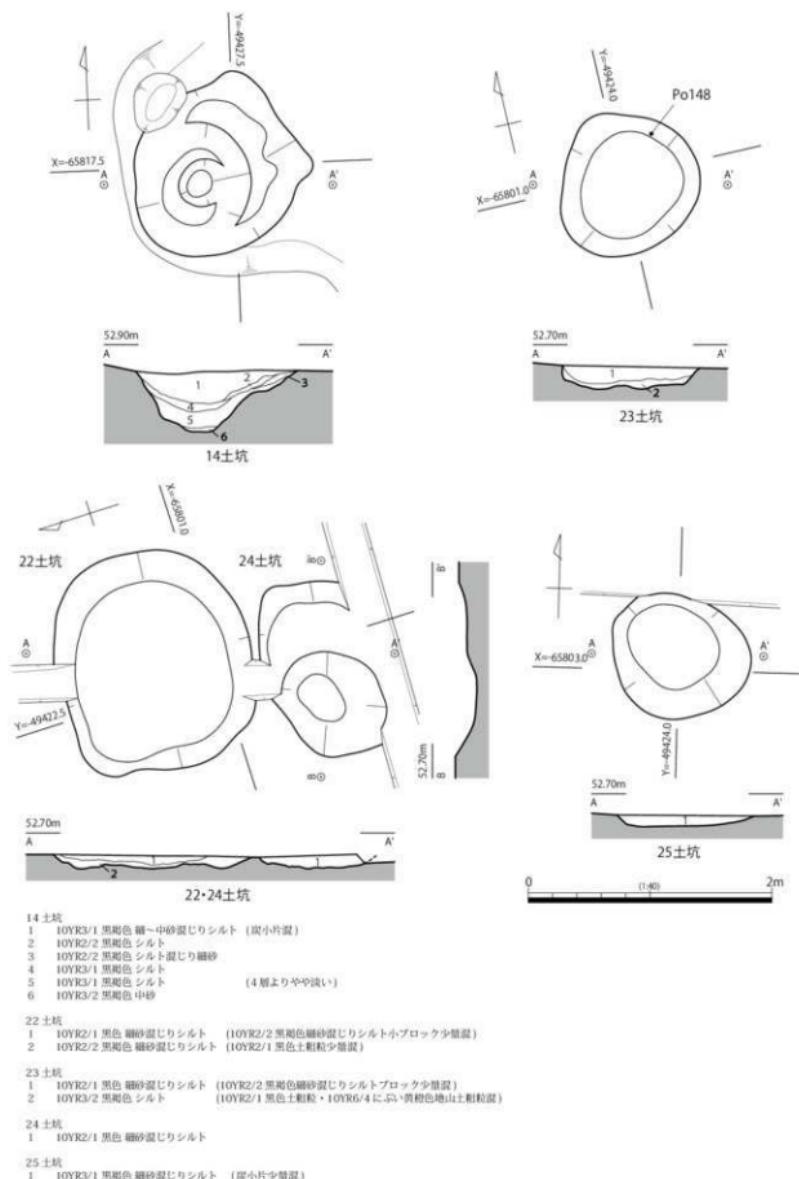
本遺構は、弥生土器が出土しているものの、関連性が窺える914土器溜まりの帰属時期と検出層位から判断し、平安末から中世に帰属するものと考える。

14土坑（第115・121図、図版41・72・73）

本遺構は調査区北東部中央の表土直下、VまたはVI層上面において検出した。平面円形を呈し、検出面での規模は長軸1.48m、短軸1.33mを測る。検出面からの深さは49cmを測り、断面形は擂鉢状を呈する。埋土は細砂や中砂が混じる黒褐色シルトが堆積する。

遺物はPo151・153を図化した。Po151は手づくね成形の土師器皿であり、緩やかに立ち上がる口縁部をもち、器高は低い。Po153受け口状口縁の土師器鍋であり、口縁部の外方への張り出しが大きい。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から判断し、12世紀後葉から14世紀代の遺構と考えられる。



第115図 14・22~25土坑

22～25土坑（第115・121図、図版41・72）

22～25土坑は調査区北東部北側のⅢ下面、Ⅳ層上面において検出した。平面円形を呈す。検出面での規模は長軸約1.1～1.8m、短軸約1.0～1.6mを測る。検出面からの深さは9～18cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。埋土は細砂が混じる黒色または黒褐色シルトが堆積する。

22～25土坑はいずれも近接しており、平面形、規模、埋土も近似する。よって、これらの土坑は関連性の高い遺構群であると考える。

遺物は、23土坑から回転台土師器の坏Po148が出土したほか、22・24土坑からは土師器の細片が出土している。

22～25土坑の帰属時期は、出土遺物から判断し、平安後期から中世と考えられる。

62土坑（第116図）

本遺構は調査区北東部北側のⅢ層下面、Ⅳ層上面において検出した。平面形は歪な梢円形を呈し、検出面での規模は長軸79cm、短軸51cmを測る。検出面からの深さは10cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。埋土は細砂が混じる黒褐色シルトが堆積する。遺物は出土していない。

本遺構の帰属時期は、検出した遺構面から判断し、平安時代から中世のものと考えられる。

129・220・620土坑（第116・117図、図版42）

129・220・620土坑は、調査区北東部中央付近のⅠ層直下、ⅦまたはⅧ層上面において検出した。3遺構は約20mの間隔で北東-南西方向に並び、遺構の形状や埋土の堆積状況が類似する。これらの土坑の中央部には柱痕跡状の堆積が認められ、一見すると、柱穴のような検出状況であった。しかしながら、これらとその周辺の遺構は建物を構成する配列が認められなかったため、土坑と判断した。また、それぞれの土坑底面や壁面に掘削痕跡が認められる点も共通する特徴であり、これらの土坑は関連性が高い遺構と考える。

129土坑（第116図、図版42）

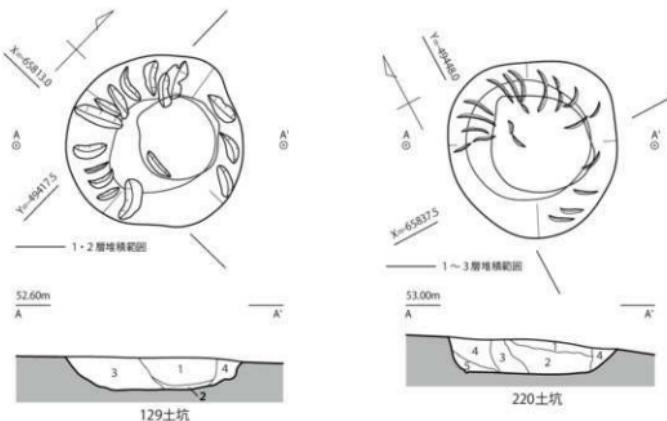
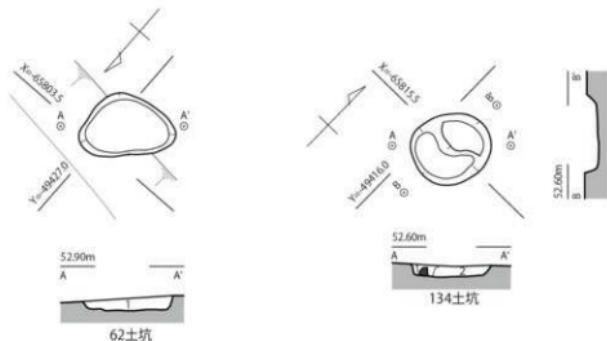
本遺構は調査区北東部中央部のⅠ層直下、Ⅶ層上面において検出した。平面円形を呈し、検出面での規模は長軸75cm、短軸71cmを測る。検出面からの深さは13cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。黒褐色シルトを主体とする埋土は、遺構中央部の1・2層と周辺の3、4層の4層に分層できる。3・4層は、1・2層に対し、締まりが強く、鉄分の沈着が認められた。壁面・底面には、掘削痕跡とみられる幅10～21cmの湾曲した浅い窪みが部分的に認められた。

遺物は土師器細片が出土しており、赤色塗彩されたものも認められる。

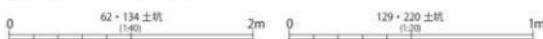
本遺構の帰属時期は、出土遺物から判断し、平安時代から中世と考えられる。

220土坑（第116図、図版42）

本遺構は調査区北東部のⅠ層直下、Ⅶ層上面において検出した。平面円形を呈し、検出面での規模は長軸75cm、短軸70cmを測る。検出面からの深さは14cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。埋土は細砂が混じる黒色シルトであり、遺構中央部の1～3層、その周辺の4・5層に分層できる。壁面・底面には掘削痕跡とみられる幅6～18cmの湾曲した浅い窪みが部分的に認められた。



- 62 土坑
1 10YR2/2 黒褐色 細砂混じりシルト (10YR2/1 黒色シルト小ブロック少量混。炭少粒少量)
- 134 土坑
1 10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR6/3 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.5cm 質。微細な炭化物混。締まりやや強い)
2 10YR3/1 黑褐色 シルト (10YR6/3 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 質。10YR1.7/1 黒色シルト極少量混。炭化物ブロック径 0.5cm 質。締まりやや弱い)
- 129 土坑
1 10YR3/1 黑褐色 シルト (10YR6/3 にぶい黄褐色シルトブロック径 1.0 ~ 2.0cm 少量混。10YR1.7/1 黒色シルト極少量混。10YR5/2 黄褐色シルト混。微細な炭化物混。締まりやや弱い)
2 10YR3/2 黑褐色 シルト (10YR6/2 にぶい黄褐色シルト多量混。締まり弱い)
3 10YR3/2 黑褐色 シルト (10YR5/2 黄褐色シルト混。微細な炭化物混。既分の沈着が認められる。締まりやや強い)
4 10YR3/2 黑褐色 シルト (10YR5/2 黄褐色シルト混。微細な炭化物混。既分の沈着が認められる。締まりやや強い)
- 220 土坑
1 10YR2/1 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR7/4 にぶい黄褐色細砂混じりシルト粒粒混)
2 10YR2/1 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR1.7/1 黑色シルト極粒少量混)
3 10YR2/1 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR1.7/1 黑色シルト極粒少量混)
4 10YR2/1 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR1.7/1 黑色シルト小ブロック混)
5 10YR2/1 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR1.7/1 黑色シルト小ブロック多量混)



第116図 62・129・134・220土坑

第3章 山ノ下遺跡の調査成果

遺物は土師器の細片が出土しているが、図化はしていない。

本遺構は、129土坑と同時期の遺構と考えられる。

620土坑（第117図、図版42）

本遺構は調査区北東部のⅠ層直下、Ⅶ層上面において検出した。平面円形を呈し、検出面での規模は長軸66cm、短軸56cmを測る。検出面からの深さは12cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。埋土は黒色を呈するシルトであり、遺構中央部に1層、その周辺2・3層が堆積する。壁面・底面には、掘削痕跡とみられる幅8~18cmの湾曲した浅い窪みが部分的に認められた。

遺物は出土していない。

本遺構は、129土坑と同時期の遺構と考えられる。

134土坑（第116図、図版43）

本遺構は調査区北東部中央付近のⅠ層直下、Ⅶ層上面において検出した。本遺構の北西約3mには129土坑が位置する。平面円形を呈し、検出面での規模は長軸64m、短軸58mを測る。検出面からの深さは9cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。埋土は黒褐色シルトが堆積する。壁面・底面には浅い窪みが部分的に認められる。痕跡はやや不明瞭ではあるが、129土坑に認められるような掘削痕跡である可能性が考えられる。

図化はしていないが、土師器細片が出土している。

本遺構は、129土坑等との埋土の類似性から、平安時代から中世のものと考えられる。

349土坑（第117図、図版43）

本遺構は調査区北東部南側のⅠ層直下、Ⅶ層上面において検出した。平面円形を呈し、検出面での規模は長軸46cm、短軸37cmを測る。検出面からの深さは15cmを測り、断面形は逆台形状を呈す。埋土は黒褐色を呈するシルトが主体をなす。底面直上より掌大から人頭大の礫5点が、一部重なる状態で出土しており、被熱痕跡が認められるものが含まれる。

遺物は土師器の細片が出土しており、赤色塗彩されたものも認められる。図化はしていない。

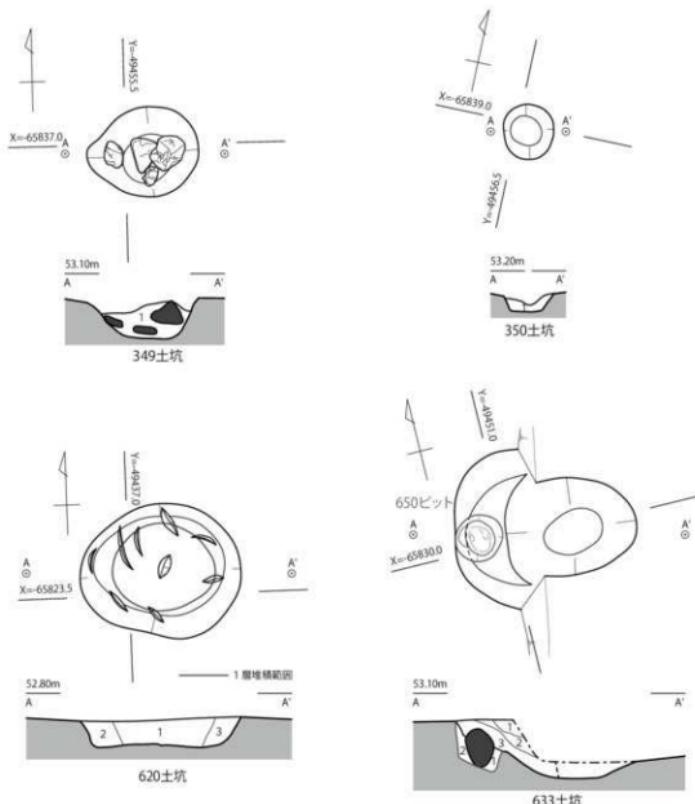
350土坑（第117図、図版43）

本遺構は調査区北東部南側のⅠ層直下、Ⅶ層上面において検出した。本遺構の北東2mには349土坑が位置する。平面円形を呈し、検出面での規模は長軸46cm、短軸42cmを測る。検出面からの深さは12cmを測り、断面形は逆台形状を呈する。埋土は黒色シルトが堆積する。

図化はしていないが、土師器の細片が出土している。

633土坑（第117図、図版44）

本遺構は調査区北東部のⅠ層直下、Ⅶ層上面において検出した。本遺構東側は試掘トレーニングにより遺構上部が消失し、底部の痕跡が僅かに遺存するのみである。また、650ピットを切り込んで掘削されている。平面円形を呈すとみられ、検出面での規模は長軸76cm、短軸65cmを測る。検出面からの深さは24cmを測り、断面形は擂鉢状を呈する。埋土は細砂が混じる黒色シルトが堆積する。遺物は



349 土坑

1 IOYR2/1 黒色 シルト (縋まりやや弱い。IOYR1.7/1 黒色シルト小ブロック少混。IOYR6/4 にぶい黄褐色細砂混じりシルト和粒少混。径20~30cm程度混)

350 土坑

1 IOYR4/1 黒色 シルト (IOYR4/1 壁灰色細砂混じりシルト小ブロック→極和混。IOYR6/4 にぶい黄褐色細砂混じりシルト和粒~小ブロック混)

620 土坑

1 IOYR2/2 黒褐色 シルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3~6.0cm 多混。縋まりやや強い)

2 IOYR2/1 黑褐色 シルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3cm 混。IOYR1.7/1 黒色シルト少混。縋まりやや強い)

3 IOYR3/1 黑褐色 シルト (IOYR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック径 0.3~0.4cm 混。IOYR1.7/1 黒色シルト少混。縋まりやや強い)

633 土坑

1 IOYR1.7/1 黒色 細砂混じりシルト

2 IOYR1.7/1 黒色 細砂混じりシルト (IOYR3/2 黑褐色細砂混じりシルトブロック混)

3 IOYR1.7/1 黑色 細砂混じりシルト

650 ピット

1 IOYR5/2 灰黄褐色 シルト (IOYR7/6 明灰褐色シルトブロック径 0.3~0.5cm 多混。IOYR7/4 にぶい黄褐色シルト極少混。縋まり強)

2 IOYR5/2 灰黄褐色 シルト (IOYR7/6 明灰褐色シルトブロック径 0.3~0.5cm 多混。IOYR7/4 にぶい黄褐色シルト極少混。縋まり強)



第117図 349・350・620・633土坑

出土していない。

697土坑（第118・121図、図版44・71・72）

南西部中央付近に位置し、I層を除去した後にVまたはVI層上面で検出した。東西方向に主軸をとる土坑である。平面形は不整形で、長軸66cm、短軸29cmを測る。断面形皿状で、検出面からの深さ9cmである。埋土は黒褐色シルトが堆積する。

埋土中より、Po146・147が重なるような状態で出土している。Po146・147は回転台土師器の坏であり、Po146は直線的に、Po147はやや丸みをもって立ち上がる口縁部をもつ。

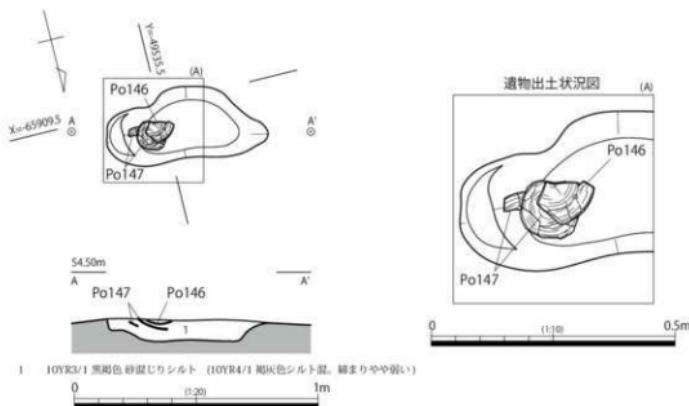
本遺構の帰属時期は、出土遺物から判断し、11世紀後半から12世紀中葉と考えられる。

950土坑（第119・121図、図版44・72）

本遺構は調査区南西部のI層直下、VまたはVI層上面において検出した。中央は暗渠により消失している。平面円形を呈し、検出面での規模は長軸1.80m、短軸1.46mを測る。検出面からの深さは16cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。埋土は黒褐色または褐灰色を呈するシルトが堆積する。

遺物は破片が点在するような状態で出土しており、そのうち、Po150を図化した。Po150は土師器坏であり、底部外面に回転糸切りの痕跡が残る。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から判断し、平安後期から中世と考えられる。



第118図 697土坑

2002土坑（第119図、図版44）

南西部北側に位置し、I層を除去した後にⅦ層上面で検出した。南北方向に主軸をとる土坑である。平面形は不整な梢円形状で、長軸46cm、短軸36cmを測る。断面形は皿状を呈し、検出面からの深さは10cmである。埋土は黒色で細砂の混じるシルトの単層である。

遺物は出土していないが、埋土から第4面に帰属する遺構と判断した。

2028土坑（第119図、図版45）

南西部北側に位置し、I層を除去した後にⅦ層上面の擾乱上で検出した東西方向に主軸をとる土坑である。平面形は梢円形状で、長軸41cm、短軸29cmを測る。断面形は歪な逆台形状を呈し、検出面からの深さは16cmである。埋土は2層に分かれ、共に黒色のシルトを主体とする。土器などの時期を判断できる遺物は出土していないが、底部から長軸13cm程度の栗石が出土している。

埋土から第4面に帰属する遺構と判断した。

2096土坑（第119・121図、図版45・71・73）

南西部北東寄りに位置し、I層を除去した後にⅧ層上面で検出した北東-南西に主軸をとる土坑である。平面形はやや歪な梢円形で、長軸83cm、短軸70cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、検出面からの深さは18cmである。埋土は黒褐色で細砂の混じるシルトの単層で締まりが悪い。この土坑は検出時に埋土の締まりが悪く礫が数多く入っていたことから圃場整備時の擾乱と判断し礫の除去を行っていたところ、土器がまとまって出土したことから遺構と判明した土坑である。そのため、土坑の南西側については礫の出土状況の観察や記録を行っていないが、密に礫が存在していたようである。土坑北東部には長軸15~25cm程度の礫が6点出土し、そのうち、1点は被熱痕跡が認められる。

遺物は、Po149・152を図化した。Po149は土師器坏であり、直線的に立ち上がる口縁部をもつ。底部外面は回転糸切りによる切り離し痕跡の上から、板目の圧痕が残る。Po152は土師器の壺であり、内外面ともにハケ調整される。

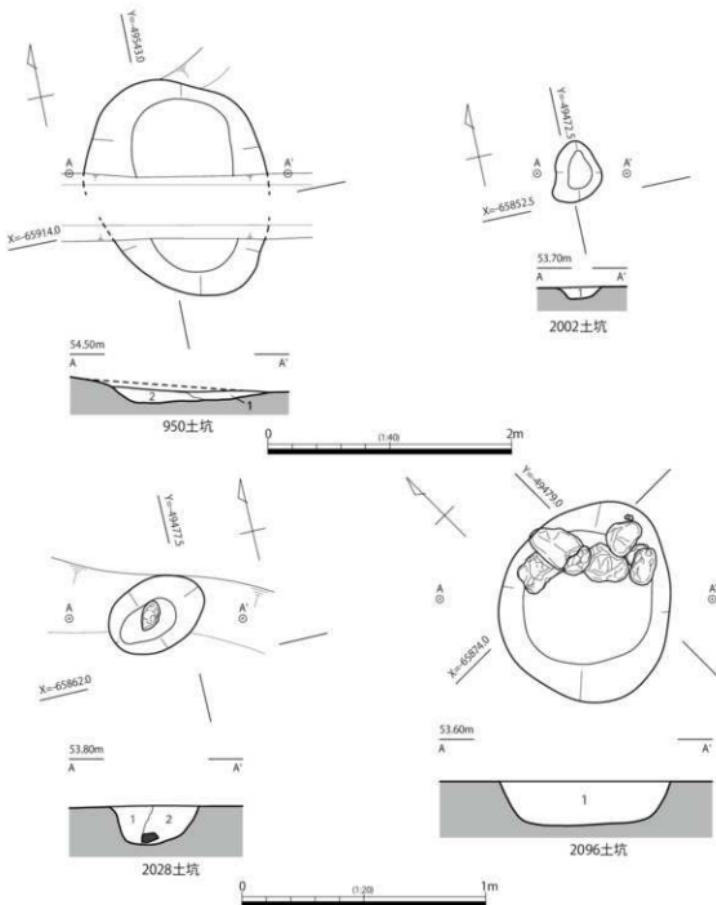
本遺構の帰属時期は、出土遺物から判断し、11世紀後半から12世紀中葉と考えられる。

120溝（第120・121図、図版46・73）

本遺構は調査区北東部のII層下面、IV層上面において検出した。平面形はやや弧状を描き、主軸はN-17°-Eである。検出面での規模は長さ約4m、最大幅60cm、深さは4cmを測る。底面の標高は北端が52.69m、南端が52.71mであり、比高差はあまりない。断面形は浅い皿状を呈する。埋土は細砂が混じる黒褐色シルトが堆積する。

遺物はPo154・155を図化した。Po154は受け口状口縁の瓦質土器鍋である。口縁部はやや上方に伸び、底部外面付近が荒いナデにより調整される。Po155は瓦質土器羽釜であり、直線的に立ち上がる胴部をもつ。

本遺構の機能時期は、出土遺物から13世紀後葉から14世紀代と考えられる。



950土坑

- | | |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 1 10YR3/2 黒褐色 砂混じりシルト | (10YR6/1 黄褐色シルト混。炭化物径0.3cm 混。縫まり強い) |
| 2 10YR6/1 黄褐色 シルト | (10YR4/2 黄褐色シルト斑状に多量混。10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径0.3～0.5cm 少量混。縫まりやや強) |

2002土坑

- | | |
|-----------------------|--|
| 1 10YR2/1 黒色 磨砂混じりシルト | |
|-----------------------|--|

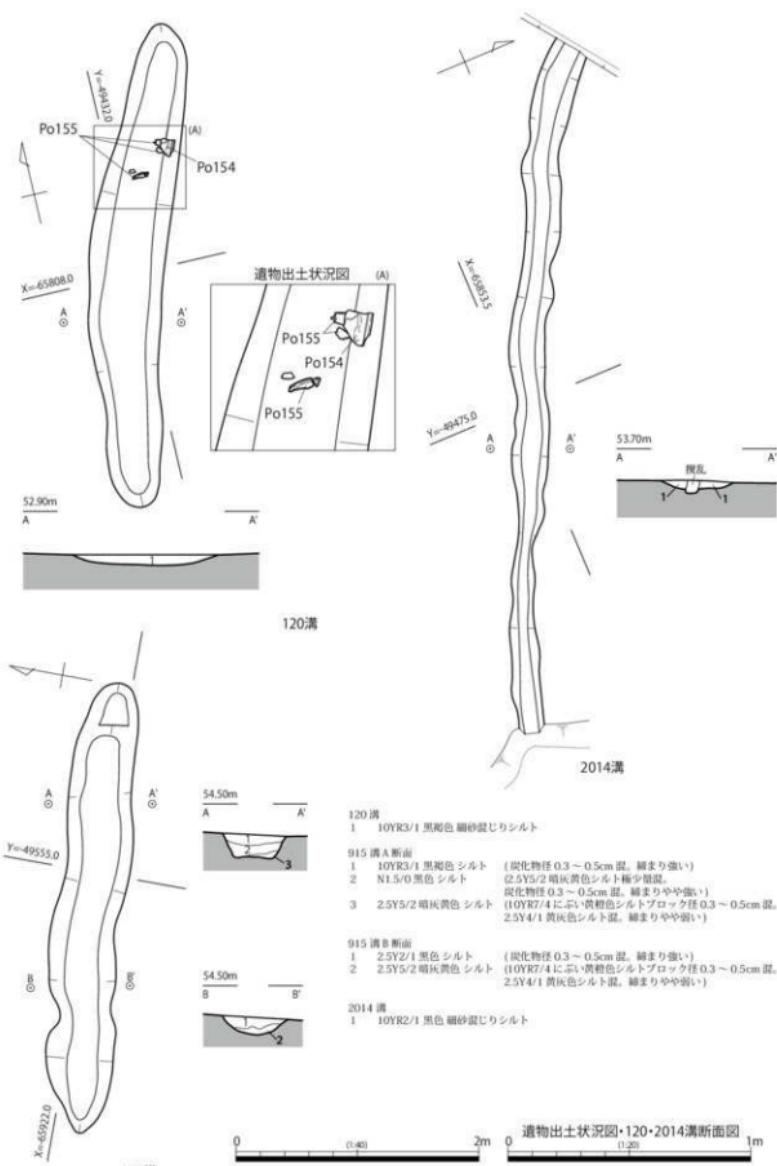
2028土坑

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| 1 10YR2/1 黒色 中～磨砂混じりシルト | (10YR6/6 明黄褐色磨砂混じりシルトがマーブル状に混) |
| 2 10YR2/1 黒色 磨砂混じりシルト | (10YR1.7/1 黒色磨砂混じりシルト粗粒少量混) |

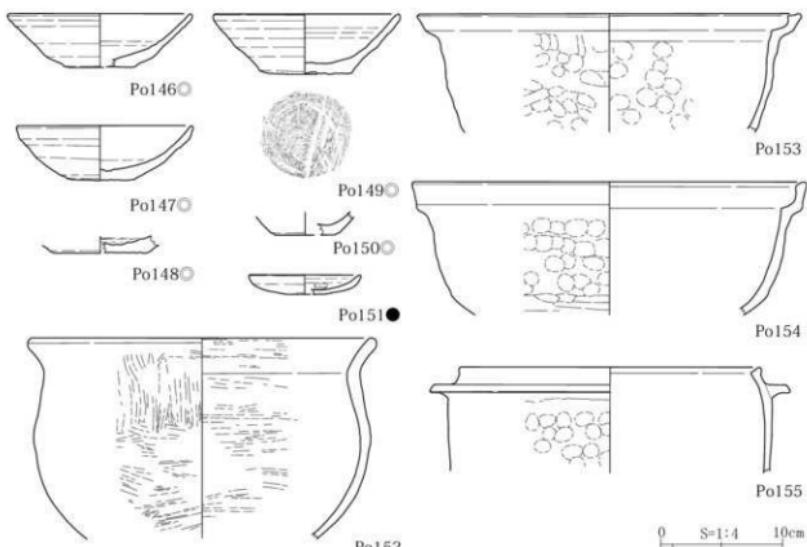
2096土坑

- | | |
|------------------------|-------------------------------------------------|
| 1 10YR2/2 黒褐色 磨砂混じりシルト | (10YR5/6 黄褐色細～中砂混じりシルト中～粗粒少量混。縫径1.5cm程度多量混。土器混) |
|------------------------|-------------------------------------------------|

第119図 950・2002・2028・2096土坑



第120図 120・915・2014溝



第121図 14・23・697・950・2096土坑、120溝出土土器

915溝（第120図、図版46）

本遺構は調査区南西部のI層直下、VまたはVI層上面において検出した。直線的な溝であり、主軸はN-85°-Eである。検出面での規模は長さ約3.7m、最大幅50cm、深さは19cmを測る。底面の標高は東端54.03m、西端54.15mであり、東端が12cm低い。遺構東側は二段壠状になり、短軸の断面形は逆台形、またはU字状を呈す。埋土は黒色または暗灰黄色シルトを主体とし、西側上層には黒褐色シルトが堆積する。

図化はしていないが、土師器の細片が出土している。

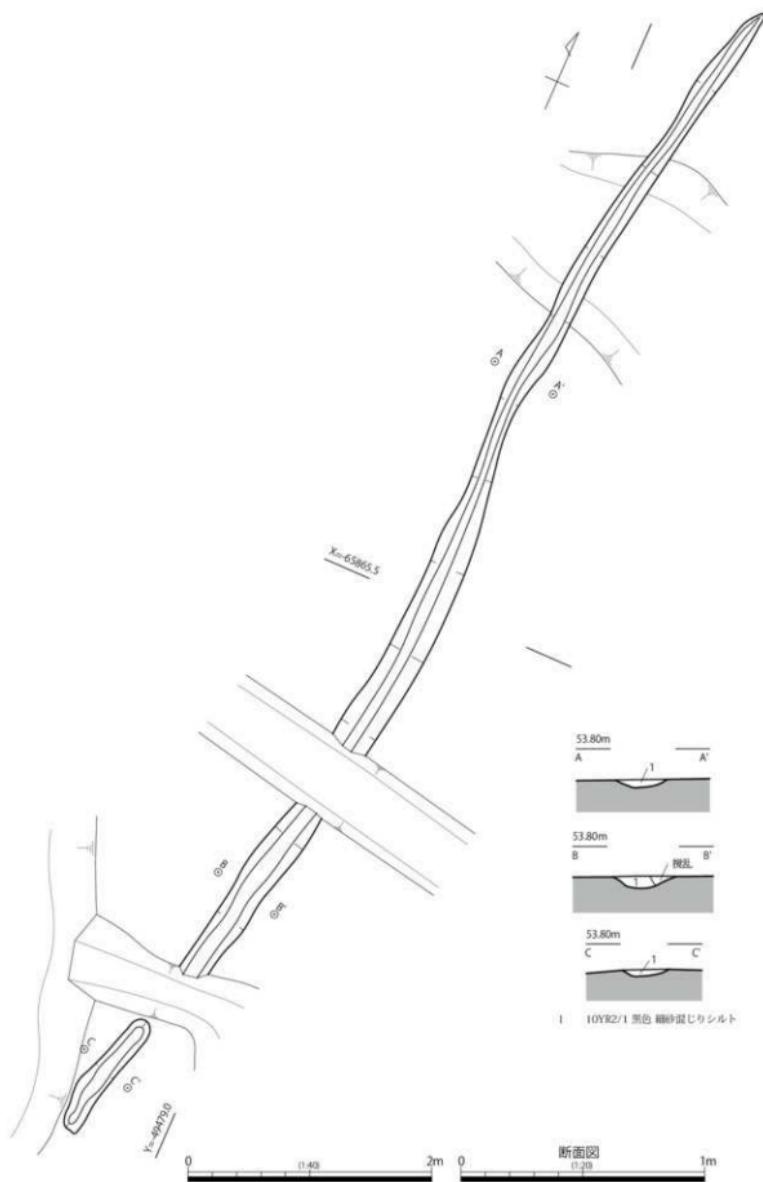
2014溝（第120図）

南西部北端近くにおいて、I層を除去後にVII層上面で検出した、主軸方向をN-66°-Wにとる直線的な溝である。西側は調査地外に延び、東側は削平を受けているため遺存していないが、検出できた長さ5.7m、最大幅30cmを測り、検出面からの深さは3cmである。埋土は黒色で細砂が混じるシルトの単層でラミナ構造が認められず、流水環境には無かったと推測される。

図化はしていないが、土師器の細片が出土している。

2019溝（第122図、図版46）

南西部北寄り検出した溝である。I層を除去した後にVII層上面で検出し、主軸をN-8°-Eにとる。搅乱等で途切れている箇所もあるがほぼ直線状に延び、検出できた長さ10.8m、最大幅約30cmを測り、



検出面からの深さは5cmである。埋土は黒色を呈するシルトの単層である。細砂が混じるもの、ラミナ構造は認められず、流水環境には無かったと推測される。

図化はしていないが、土師器の細片が出土している。

4面ピット（第123～130図、図版47～50・71～73・75）

第4面で検出したピット、または埋土の特徴から第4面に帰属すると判断したピットの内、出土遺物を図化したピットと自然科学分析の試料を採取したピットについて、記載する(26・55・60・69・75・82・100・110・118・236・237・314・692・789・790・810・817・828・848・882・883・887・897・913・922・977・978・996・997・1037ピット)。第4面のピットは調査区全域で検出しているが、比較的、掘立柱建物が検出されたエリアに集中する傾向が認められる。これらのピットは、IV～VII層上面において検出した。

55ピットは埋め土を中心に、根巻き石等の基礎固めに使用されたとみられる掌大の礫が数点出土している。それらの礫と混在した状態で、Po179が出土している。また、236ピット底面には約30cmの礫を礎盤石とし、789ピット底面には拳大の礫により根固めがされている。

60・69・118・848・996・997ピットからは、柱根とみられる木材が出土している。これらの木材については、樹種同定を行っており、60・996・997はスギ、69・118はクリ、848はヒノキ科と同定されている(第5章第1節)。

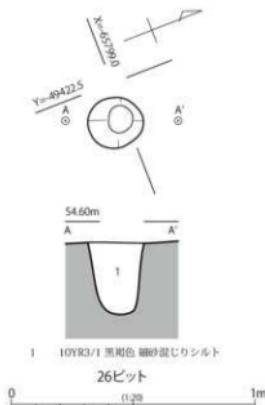
なお、第4面に帰属するその他のピットの特徴については、第25～27表 第4面遺構計測表(2～4)に記した。

遺物は、Po156～179、CP1を図化した。CP1は692ピットの柱抜き取り痕跡から出土した輪羽口の破片であり、外面はナデ・指オサエによって調整されており、先端側に被熱による変色が認められる。

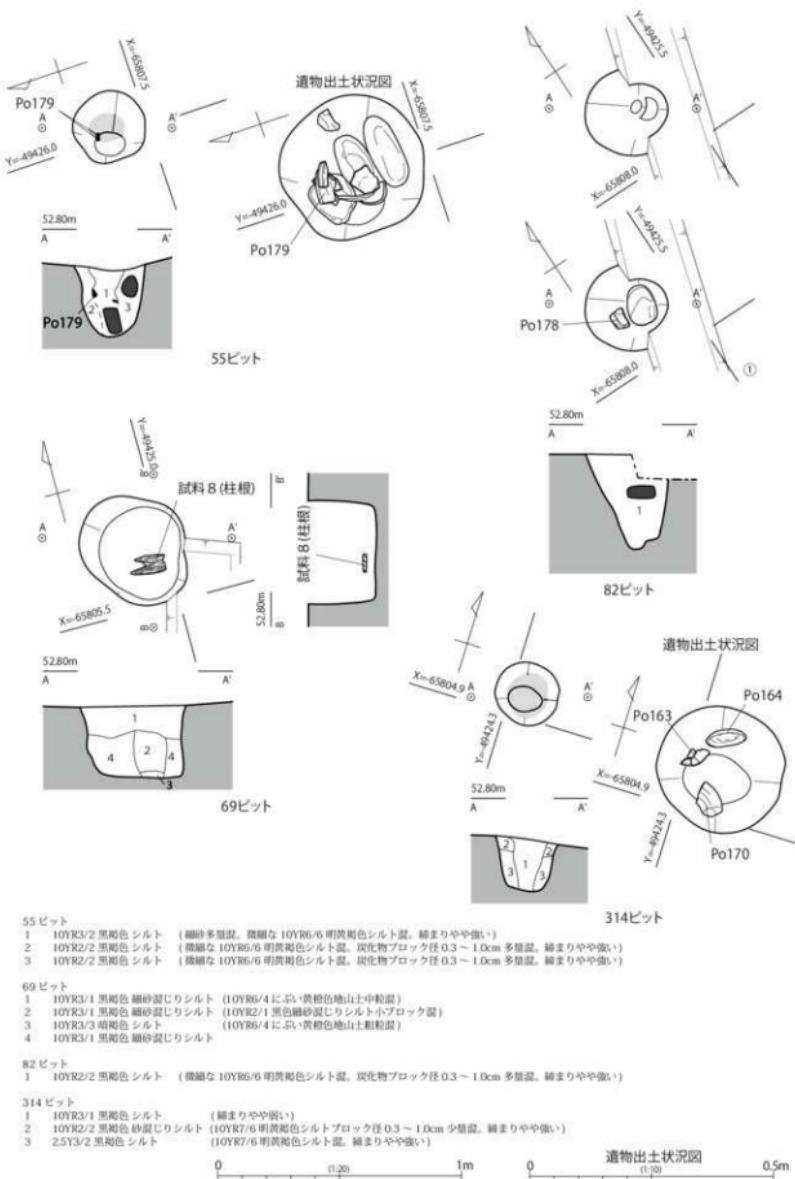
Po156～162は回転台土師器の皿である。Po156は110ピット、Po157・158は1037ピット、Po159は789ピット、Po160は897ピット、Po161は978ピット、Po162は828ピットから出土した。

Po163～170は手づくね成形の土師器皿であり、口径の小さいPo163～166と、大きいPo167～170がある。Po163・164は314ピット、Po165は75ピット、Po166は236ピット、Po167は69ピット、Po168は26ピット、Po169は100ピット、Po170は314ピットより出土している。Po163は器高が高く、口縁端部が強いヨコナデによって外反する。Po164・165は器高が低く、口縁部の立ち上がりは緩やかである。Po167～169は強いヨコナデによって口縁部が外反する。Po170は底部から明瞭に屈曲して直線的に口縁部が立ち上がる。

Po171～174は回転台土師器の壺である。Po171は790ピット、Po172は810ピット、Po173は913ピット、Po174は887ピットから出土した。口縁部は、Po171・172は直線的であり、Po173・174は内湾する。

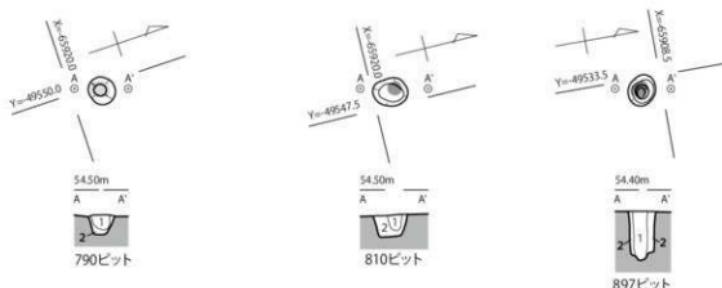
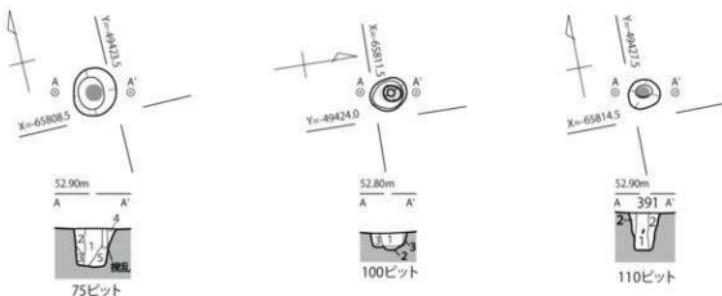


第123図 26ピット



第124図 55・69・82・314ピット

第3章 山ノ下遺跡の調査成果



75 ピット

- 1 10YR3/1 黒褐色 細砂混じりシルト (10YR6/4 に赤い黄褐色地山土粗粒少量混。炭小片少量混)
- 2 10YR2/1 黒褐色 細砂混じりシルト (10YR6/4 に赤い黄褐色地山土粗粒多量混)
- 3 10YR6/4 に赤い黄褐色 地山土 (10YR2/1 黒褐色 細砂混じりシルトプロック混)
- 4 10YR2/1 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR6/4 に赤い黄褐色地山土粗粒少量混)
- 5 10YR2/1 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR6/4 に赤い黄褐色地山土プロック少量混)

100 ピット

- 1 10YR2/2 黒褐色 細砂混じりシルト (炭小片少量混)
- 2 10YR4/2 灰黄褐色 中砂混じりシルト (10YR3/1 黑褐色シルト粗粒多量混。10YR6/4 に赤い黄褐色地山土粗粒多量混)
- 3 10YR2/2 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR6/4 に赤い黄褐色地山土中粒少量混)

110 ピット

- 1 10YR2/1 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR7/3 に赤い黄褐色地山土中粒少量混)
- 2 10YR3/1 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR7/3 に赤い黄褐色地山土中粒少量混)

790 ピット

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト混じり細砂 (土器片・炭混)
- 2 10YR2/1 黑色 シルト (小礫径 0.5cm 以下混)

810 ピット

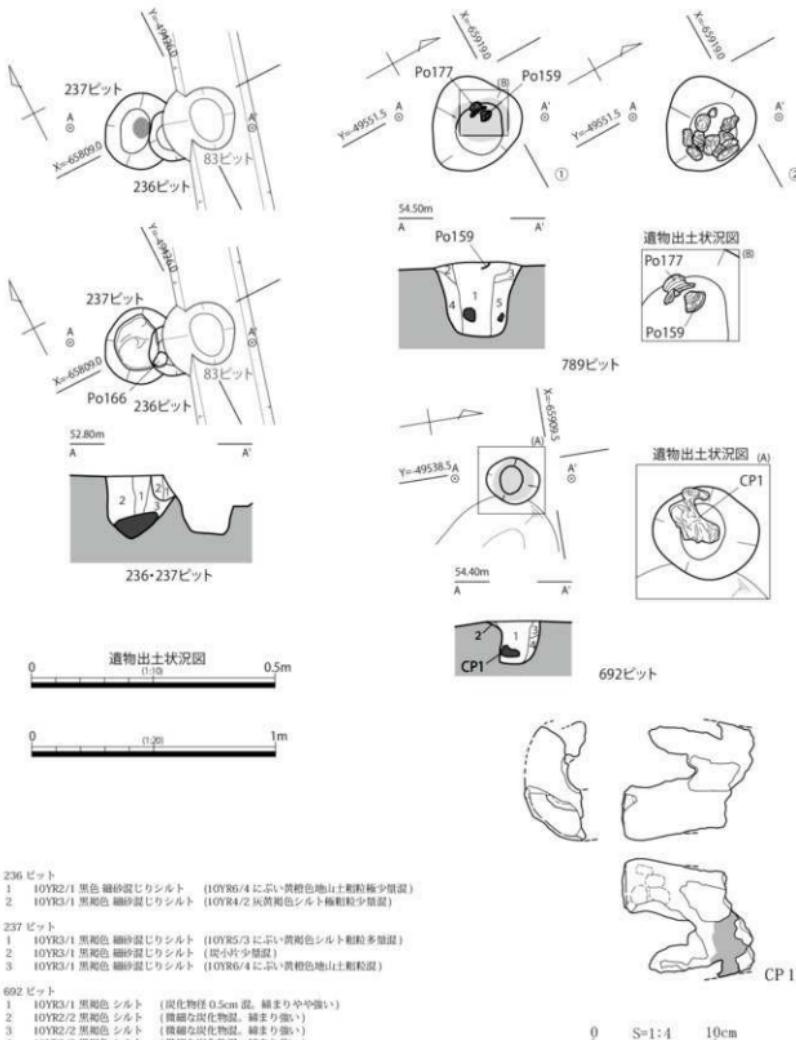
- 1 10YR2/1 黑褐色 細砂混じりシルト (燒土ブロック・炭径 0.5cm 以下多量混)
- 2 10YR2/1 黑色 シルト (黒褐色シルトプロック・細砂ブロック混)

897 ピット

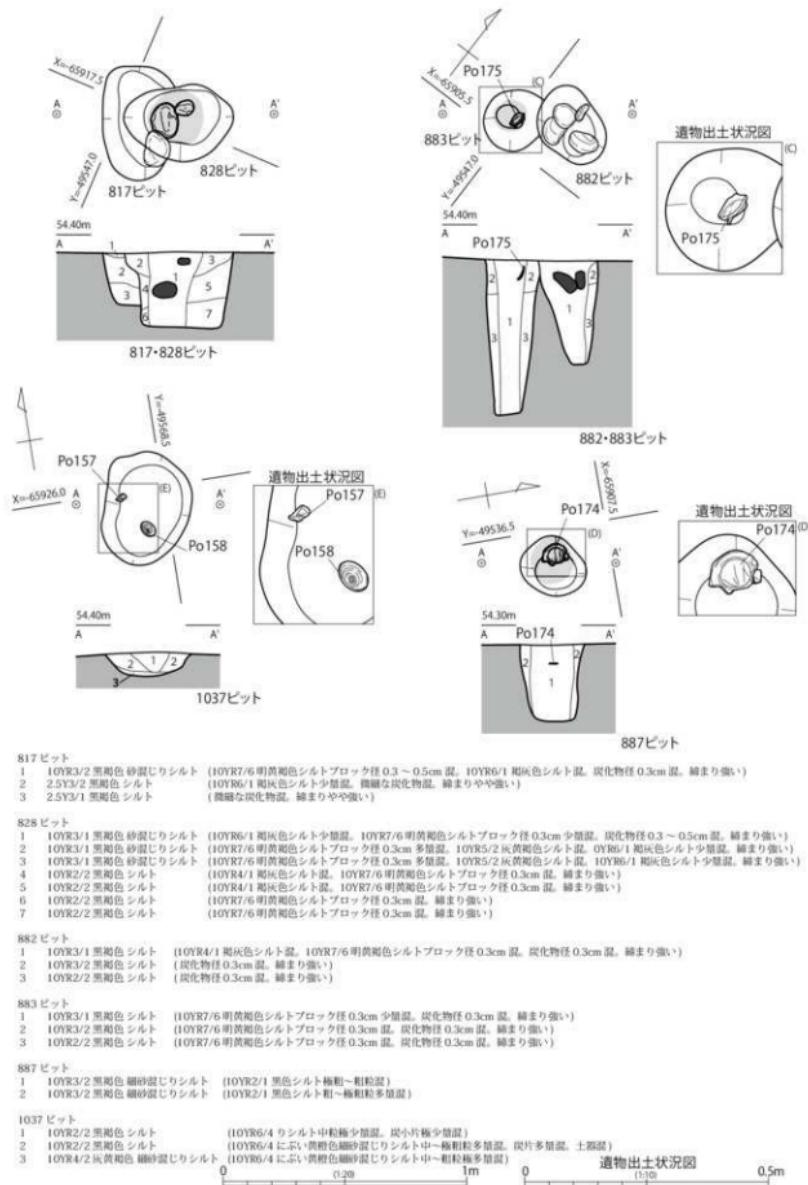
- 1 10YR2/2 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR7/6 明黄褐色シルト混じり細砂小・ブロック極少量混。炭片少量混。土器混)
- 2 10YR2/2 黑褐色 細砂混じりシルト (炭片少量混。土器混)

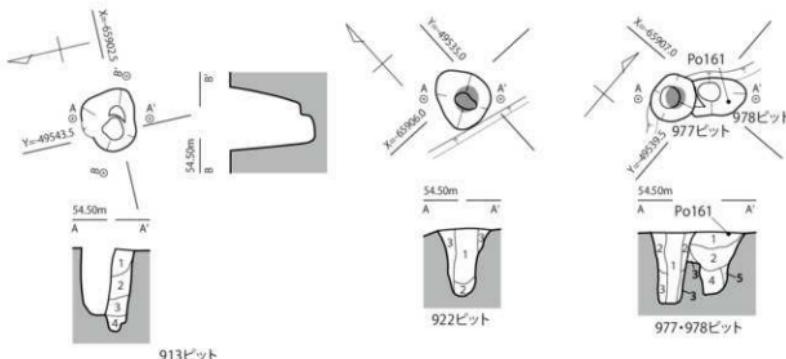


第125図 75・100・110・790・810・897ピット



第126図 236・237・692・789ピット遺構図・出土土製品





913ピット

- 1 10YR3/2 黒褐色 砂混じりシルト (10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 褐。炭化物径 0.3 ~ 0.5cm 褐。縛まり強い)
- 2 10YR2/2 黒褐色 シルト (10YR6/1 黑褐色シルト混。縛織な炭化物混。縛まり強い)
- 3 10YR2/2 黒褐色 シルト (10YR7/6 明黄褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 褐。10YR6/1 黑褐色シルト混。縛織な炭化物混。縛まりやや強い)
- 4 2.5Y3/1 黒褐色 シルト (10YR7/6 シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多量混。縛まりやや強い)

922ピット

- 1 10YR2/2 黒褐色 細砂混じりシルト (縛まり弱い)、10YR1.7/1 黑褐色砂混じりシルト極細粒少量混。炭小片少量混。土器混)
- 2 10YR2/2 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR1.7/1 黑褐色砂混じりシルト極細粒少量混。10YR6/4 にぶい黄褐色細砂混じりシルト中~粗粒混)
- 3 10YR2/2 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR6/4 にぶい黄褐色細砂混じりシルト中~粗粒少量混)

977ピット

- 1 10YR2/2 黑褐色 中砂混じりシルト (10YR6/4 にぶい黄褐色細砂混じりシルト中~粗粒少量混。炭片少量混)
 - 2 10YR3/1 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR2/2 黑褐色細砂混じりシルト粗粒多量混。炭小片少量混)
 - 3 10YR3/1 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR6/4 にぶい黄褐色細砂混じりシルト中~粗粒多量混)
- 4 10YR2/2 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR2/1 黑褐色細砂混じりシルト中~粗粒少量混。炭片少量混。土器混)
 - 5 10YR2/2 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR2/1 黑褐色細砂混じりシルト極細粒~粗粒多量混。炭小片少量混)
- 10YR2/2 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR6/4 にぶい黄褐色細砂混じりシルト小ブロック極少量混)、10YR6/4 にぶい黄褐色細砂混じりシルト小ブロック極少量混)
- 10YR2/2 黑褐色 細砂混じりシルト (10YR2/1 黑褐色細砂混じりシルト小ブロック少量混)、10YR6/4 にぶい黄褐色細砂混じりシルト粗粒少量混)



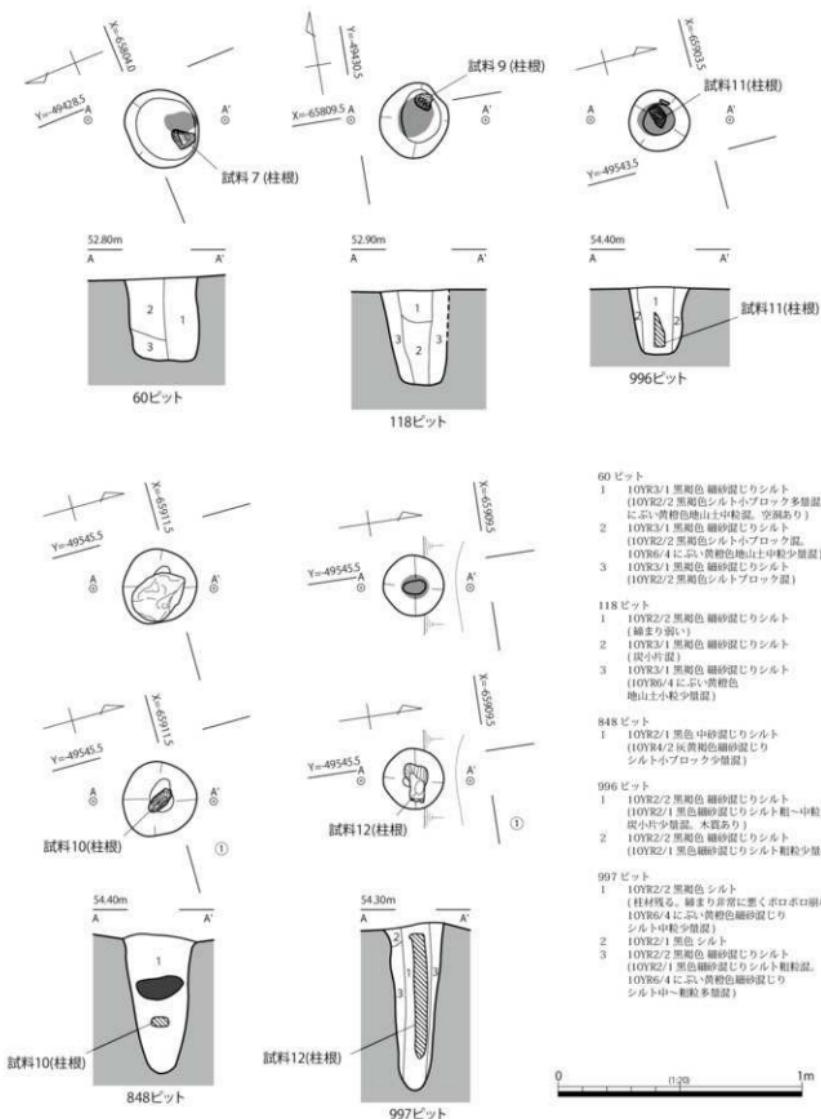
第128図 913・922・977・978ピット

Po175は高台付壺、Po176・177は柱状高台であり、11世紀後葉から12世紀中葉までのものと考える。

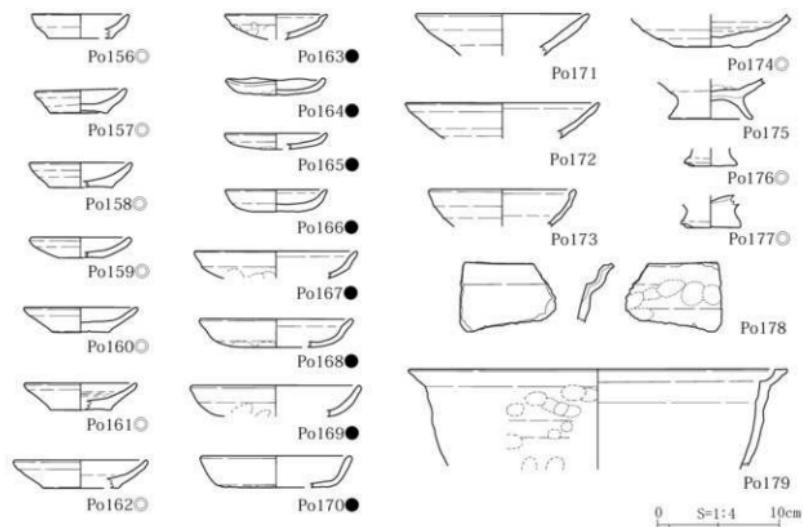
Po178・179は受け口状口縁の土器師器であり、Po179は12世紀後葉から13世紀中葉のものと考える。

Po175は883ピット、Po176は922ピット、Po177は789ピット、Po178は82ピット、Po179は55ピットから出土している。

これらの出土遺物から、第4面のピットは概ね11世紀後葉から13世紀中葉までに帰属する可能性が高い。



第129図 60・118・848・996・997ピット



第130図 第4面ピット出土土器

第24表 第4面遺構計測表 (1)

No.	地区 T45-6	高さ cm	幅幅 cm	厚さ cm	遺構		参考
					基盤	壁	
14	95-2c	140	133	49	90cm	直立	
22	95-10c, 95-1c	183	159	11	569	(重複)	
23	95-1c	120	116	18			
24	95-1c	144	87.5	10	70cm	に切られん	
25	95-1c	112	100	9			
42	95-1c	79	51	10			
129	95-2c	75	21	12	工具あり	80cm-21cm	
134	95-2c	64	58	9			
135	95-2c	75	20	14	工具あり	80cm-18cm	
349	95-4f	68	42	15	薄	上部付土	
250	95-4f	48	42	12			
620	95-3l	66	56	12	工具あり	80cm-18cm	
621	95-3l-4f	76	60.5	24	650	(重複)、トレンチに切られん	
695	95-4d	66	29	9	上部付土		
900	95-2p	180	140	16	縦壠	に切られん	
2002	95-4b	48	36	10			
2028	95-7b	41	29	16	縦壠		
2066	95-4b	82	70	18	縦壠		

No.	地区 T45-6	規格				高さの標高 (m)	主軸方位	参考
		基盤 (m)	幅幅 (m)	壁 (m)	厚さ (m)			
120	95-1d	4.0	0.4-0.6	4		北緯: 52.69 南緯: 32.71	N 17° E	
915	10F-2e	3.7	0.4-0.5	14-29		東緯: 54.03 西緯: 54.45	N 85° E	
2014	95-4b	5.7	0.1-0.3	3		東緯: 53.52 西緯: 53.56	S 46° W	両端を壠間に切ら れる
2019	95-4-7- 9b	10.8 13.1	0.2-0.3	2-5		北緯: 53.63 南緯: 53.67	N 9° E	壠尾・壠端に切ら れる

上部付 1							
No.	地区 T45-6	規格				高さの標高 (m)	参考
		基盤 (m)	幅幅 (m)	壁 (m)	厚さ (m)		
914	10F-1d	3.7	41	6	54.17		縦壠に切られん
947	10F-3d	246	218			北緯: 54.03 南緯: 54.45 下段: 25 7段: 51.05	

第3章 山ノ下遺跡の調査成果

第25表 第4面構造計測表（2）

No.	地区	規格 (cm)			備考
		長幅	短幅	深さ	
26	SE-10c	24	21	29	Pu146出土
28	SE-10d	24	19	23	
29	SE-10c	26	21	16	32 (重複), 杜痕
30	SE-10c	22	19	13	
31	SE-10c	29	27	178 (重複), Pu179出土	
32	SE-10c	21	25	17	365 (重複), 杜痕
33	SE-10c	40	35	32	杜痕
34	SE-10c	29	40	45	杜痕, 墓頂に留まれる
35	SE-10c	32	30	34	杜痕 (試料7) 土上
36	SE-10c	27	25	29	
37	SE-10c	24	23	28	杜痕
38	SE-10c	28	26	33	杜痕
39	SE-10c	27	23	19	
40	SE-10c	49	42	29	300 (重複), Pu162 (重複), 杜痕 (試料8) が出土
71	SE-10c	31	30	27	杜痕
72	SE-10c	31	28	27	
74	SE-10c	26	23	28	杜痕
75	SE-10c	40	35	31	杜痕, Pu165出土
77	SE-10c	26	20	32	縛出土
82	SE-10c	36	34	39	Pu176出土
84	SE-10c	30	26(上), 26(底)	26 (重複), ドレンチに切られる	
84	SE-10c	23	20	27	杜痕
86	SE-10c	22	21	18	
88	SE-10c	28	27	32	杜痕
91	SE-10c	28	27	29	90 (重複), 杜痕
92	SE-10c	27	28	37	杜痕, 91 (重複)
93	SE-10c	25	23	16	杜痕
94	SE-1-2c	20	20	34	杜痕
95	SE-1-2c	46	36	34	杜痕
96	SE-1-2c	26	26	35	35 (重複), 杜痕
99	SE-1-2c	21	25	13	杜痕, 縛出上, Pu160出土
102	SE-1-2c	28	18	17	
105	SE-1-2c	32	27	30	杜痕
108	SE-1-2c	29	29	20	杜痕
109	SE-1-2c	36	32	28	杜痕取り前
110	SE-1-2c	25	25	30	杜痕, Pu156出土
111	SE-1-2d	42	30	39(上), 39(中), 39(下)	ドレンチに切られる, 杜痕取り前
116	SE-1-2d	10	9	16	
117	SE-1-2d	29	23	29	杜痕
118	SE-1-2d	51	29	39	杜痕, 杜痕 (試料9) 土上
121	SE-1-2d	38	27	25	杜痕
122	SE-1-2d	21	18	20	杜痕
130	SE-1-2b	25	23	8	
133	SE-1-2b	36	30	20	杜痕
146	SE-2a	32	29	10	杜痕
159	SE-10e	24	23	34	杜痕
161	SE-2d	24	23	29	杜痕
163	SE-1-2e	22	20	11	
165	SE-1-2e	21	19	8	
166	SE-1-2c	41	31	32	36 (重複)
168	SE-1-2c	26	24	20	杜痕
169	SE-1-2c	26	24	23	杜痕
172	SE-1-2c	30	14	35	ドレンチに切られる, 杜痕取り前
178	SE-1-2c	33	28(上), 35 (底), 35 (重複), 杜痕		
179	SE-1-2c	32	25	25	
180	SE-1-2c	33	28	22	杜痕
181	SE-1-2c	21	19	21	杜痕取り前
182	SE-1-2c	28	23	29	杜痕取り前
184	SE-1-2c	29	23	29	杜痕
185	SE-1-2c	29	23	29	杜痕
186	SE-1-2c	29	23	26	166 (重複), 杜痕, 摺出上
187	SE-1-2c	24	25	25	(重複), 杜痕
206	SE-1-2c	24	25	29	杜痕
206	SE-1-2c	21	19	23 (重複), Pu160出土	
207	SE-1-2c	31	24(上), 25 (底), 25 (重複), 杜痕		
208	SE-1-2d	30	22	12	杜痕
209	SE-1-2c	20	18	21	
209	SE-1-2c	26	26	25	杜痕
210	SE-1-2c	33	30	10	杜痕
211	SE-1-2c	43	37	16	杜痕, ドレンチに切られる
216	SE-1-2c	31	27	25	杜痕
217	SE-1-2c	23	22	23	杜痕
218	SE-1-2c	32	22	23	杜痕
219	SE-1-2c	33	30	17	杜痕
225	SE-1-2d	28	28	25	杜痕
226	SE-1-2c	24	23	37	ドレンチに切られる
229	SE-1-2c	24	20	23	200 (重複), 杜痕
232	SE-1-2c	28	28	24	杜痕
236	SE-1-2c	40	32	22	杜痕
239	SE-1-2c	38	30	10	杜痕
244	SE-1-2c	43	37	16	杜痕, ドレンチに切られる
256	SE-1-2c	31	27	25	杜痕
257	SE-1-2c	23	22	23	杜痕
258	SE-1-2c	32	30	35 (重複), 杜痕	
269	SE-1-2c	27	24	28	杜痕
301	SE-1-2d	25	22	21	杜痕取り前
302	SE-1-2c	35	22(上), 18	69 - 298 (重複)	
314	SE-1-2c	26	26	21	Pu141 - 164 - 170出土, 杜痕取り前
314	SE-1-2c	25	25	17	杜痕
322	SE-1-2c	25	20	22	杜痕
323	SE-1-2c	23	19	32	杜痕

No.	地区	規格 (cm)			備考
		長幅	短幅	深さ	
340	HE-4d	24	21	21	目測
347	HE-4d	18	15	2	
352	HE-4c	21	17	31	23 (重複), 土器片出土, 杜痕取り前
353	HE-4c	24	21	18	186 (重複)
432	HE-3c	50	46	9	452 (重複)
433	HE-3c	51	45	11	452 (重複)
439	HE-3c	18	15	23	
461	HE-3c	32	21	18	462 (重複), 杜痕
462	HE-3c	16	10(上), 16(下)	4	461 (重複)
465	HE-3c	25	23	23	利須取り前
466	HE-3c	20	24	10	利須取り前
470	HE-3c	23	19	8	利須
472	HE-3c	32	28	17	
473	HE-3c = e	21	16	26	
478	HE-2b	22	20	6	利須, 頭化物取出
479	HE-2b = c	38	26	9	
480	HE-2c	32	28	16	
483	HE-2c	32	30	28	
484	HE-2c	20	20	26	485 (重複), 杜痕
485	HE-2c	15	711.5	27	484 (重複)
489	HE-2b	30	22	24	
494	HE-2c	23	18	27	
495	HE-2c	23	19	27	
503	HE-2c	24	17	30	
508	HE-2c	19	15	34	
509	HE-2c	31	27	10	杜痕
509	HE-2c	32	26	38	利須
507	HE-2c	21	20	8	利須
508	HE-2c	30	24	10	利須
510	HE-2b	34	30	31	222 (重複)
515	HE-2c	25	27	10	利須取り前
516	HE-2c	34	30	30	利須
524	HE-2b	28	25	9	利須取り前
527	HE-2b	20	20	18	
528	HE-2b	69	44	9	利須出土
533	HE-2b	16	10	24	
537	HE-2c	29	28	32	杜痕
542	HE-2b	27	27	24	
547	HE-2b	22	20	13	利須取り前
548	HE-2b	28	26	25	利須取り前
560	HE-2b	30	1211.5	37	510 (重複)
568	HE-2b	30	24	32	利須
569	HE-2c	20	25	7	222 (重複), 杜痕
597	HE-1-c = d	26	21	10	利須
608	HE-1c	27	22	29	
611	HE-1c	31	28	10	利須
617	HE-1c	27	27	11	利須
635	HE-2b	39	29	44	利須
637	HE-2b	18	17	8	利須
628	HE-2b	19	17	11	利須取り前
640	HE-2c	22	19	12	杜痕
641	HE-2c	23	19	6	杜痕
642	HE-2c = b	34	34	22	
643	HE-2b	20	19	9	利須
644	HE-2c	22	19	13	
646	HE-2c	28	27	4	利須
647	HE-2c	26	23	10	利須
648	HE-2c	28	29	18	利須
649	HE-2c	26	23	12	利須
650	HE-2c = b	19	19	10	523.5 (重複)
668	HE-2d	23	21	17	
669	HE-2d	30	26	28	利須取り前
690	HE-2c	22	20	25	利須取り前
691	HE-2c	23	21	30	利須
692	HE-2d	22	19	17	利須取り前, 摺出上
693	HE-2d	25	20	25	利須
694	HE-2d	24	24	30	
695	HE-2d	20	16	12	利須取り前
696	HE-2c	25	10.3	24	34 (ドレンチに切られる), 杜痕
698	HE-2d	26	26	14	杜痕
740	HE-2c	37	33	38	263 (重複), 薄葉を認出
757	HE-2c	37	23	40	
763	HE-2c	16	16.1	29	748 (重複)
764	HE-2c	15	14	4	
765	HE-2c	26	22	16	
766	HE-2c	19	19	15	利須取り前
767	HE-2c	22	20	20	
768	HE-2c	29	19	29	
769	HE-2c	30	18	27	
770	HE-2c	31	21	9	
772	HE-2c	21	19	26	
773	HE-2c	22	17	24	
774	HE-2c	21	19	38	
775	HE-2c	24	22	27	薄葉上
776	HE-2c	19	16	19	

第26表 第4面構造計測表 (3)

No.	地区 T45-6	規格 (cm)			備考
		長幅	短幅	厚さ	
277	10F-3	23	19	11	
278	10F-2	26	21	22	
279	10F-2	21	17	20	
280	10F-2	24	19	43	礎出土
281	10F-2	20	20	20	
282	10F-2	37	23	11	浅山層あり
284	10F-2	20	19	9	
285	10F-2	33	22	22	礎出土
286	10F-2	22	20	13	柱抜取り枠
287	10F-2	28	27	30	柱抜取り枠
288	10F-2	22	21	23	礎出土
289	10F-2	40	37	30	Pu159・177出土
290	10F-2e - I	23	21	16	柱抜取り枠, Pu171出土
291	10F-2	21	17	39	
292	10F-2	37	32	25	礎出土
293	10F-1	28	26	28	
294	10F-1	29	25	35	
295	10F-1	31	26	29	
296	10F-1 - 2B	22	16	11	
297	10F-1 - 2B	23	20	27	
298	10F-1e	19	15	17	
299	10F-1e	21	20	16	柱根
300	10F-1f	23	21	31	
301	10F-1f	19	19	22	
302	10F-2	35	30	30	柱根
303	10F-2	26	19	15	
304	10F-2e	33	21	19	
305	10F-2e	20	19	19	柱根
306	10F-2e	28	24	17	柱抜取り枠
307	10F-2e	28	24	17	柱根
308	10F-2e	29	24	17	柱抜取り枠
309	10F-2e	26	24	15	柱根
310	10F-2e	47	29	21	92B (東側)
311	10F-2e	23	22	24	礎出土
312	10F-2e	27	24	22	柱根
313	10F-1e	23	17	43	
314	10F-1e	16	16	20	
315	10F-1 - 2B	26	24	30	
316	10F-1e	31	26	28	
317	10F-1e	24	22	10	柱抜取り枠
318	10F-1e	20	16	26	
319	10F-1e	28	19	12	
320	10F-1e	23	21	13	柱抜取り枠
321	10F-1e	21	15	32	
322	10F-1e	22	19	15	
323	10F-1e	16	19	23	
324	10F-1e	23	20	14	
325	10F-1e	27	25	40	柱根
326	10F-1e	25	21	16	柱根
327	10F-2e	28	25	16	柱根
328	10F-2e	30	27	34	礎出土
329	10F-2e	29	24	19	柱抜取り枠
330	10F-2e	26	26	45	
331	10F-2e	47	29	21	92B (東側)
332	10F-2e	23	22	24	礎出土
333	10F-2e	27	24	22	柱根
334	10F-2e	31	25	11	1833 (東側)
335	10F-1e	25	22	17	柱根
336	10F-1e	26	22	10	柱抜取り枠
337	10F-1e	20	16	26	
338	10F-1e	28	19	12	
339	10F-1e	23	21	13	柱抜取り枠
340	10F-1e	21	15	32	
341	10F-1e	22	19	15	
342	10F-1e	16	19	23	
343	10F-1e	23	20	14	
344	10F-1e	27	25	40	柱根
345	10F-1e	25	21	16	柱根
346	10F-2e	28	25	17	下層に柱根
347	10F-2e	29	27	17	下層に柱根
348	10F-2e	30	30	57	(試料) 出土, 磂出土
349	10F-2e	30	26	61	柱根
350	10F-1e	25	23	35	962 (東側), 柱根
351	10F-2e	27	25	37	
352	10F-1 - 2B	36	26	11.1	22 954 (東側)
353	10F-1 - 2B	23	22	33	柱根
354	10F-1 - 2B	23	22	33	柱根
355	10F-1e	28	28	58	
356	10F-2e	18	18	20	857 (東側)
357	10F-2e	25	18	25	856 (東側)
358	10F-2e	22	16	14	
359	10F-2e	31	23	46	礎出土
360	10F-2d - e	45	21	30	柱根
361	10F-1e	27	26	26	650 (東側), 柱根, 土境内・礎出土
362	10F-1e	21	20	41	
363	10F-1e	24	21	31	柱根, 磔丸山切られる
364	10F-1e	20	20	20	
365	10F-1e	28	28	58	
366	10F-1e	21	16	33	柱根, レンガに切られる
367	10F-1e	45	34(1.1)	36	柱根, レンガに切られる
368	10F-2e	48	32	46	礎出土
369	10F-2e	32	28	34	礎出土
370	10F-2e	30	30	29	
371	10F-2e	23	20	41	
372	10F-2e	20	19	29	柱抜取り枠, 磈出土
373	10F-1e	24	18	25	
374	10F-1e	29	22	20	柱根, 磔丸山切られる
375	10F-2g	29	28	10	柱抜取り枠
376	10F-2g	30	28	15	柱根
377	10F-2g	23	20	3	柱根
378	10F-1d	39	36	58	958 (東側), 柱根
379	10F-1d	46	30	51	957 (東側), Pu164出土
380	10F-1e	22	19	28	柱根

第27表 第4面構造計測表（4）

No.	地区 745-6	規格 (cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
980	97-10d + e	23	23	36	
981	97-10d	21	18	44	
982	97-10d	29	26	45	
983	97-10d	25	23	21	柱抜取り直
984	97-10e	21	19	35	
985	97-10e	27	24	17	
986	97-10e	23	15	28	600 (葉縫)
987	97-10e	27	18	22	柱直
988	97-10e	21	17	29	柱直
989	97-10d	50	40	41	600 - 990 (葉縫)
990	97-10d	29	20	13.5	500 (葉縫)、柱直
991	97-10d	20	16.5	1.5	50 (葉縫)、柱直
992	97-10d	23	22	47	
993	97-10d	19	19	22	柱抜取り直、埋土上
994	97-10d	42	32	20	柱直
995	97-10d	24	24	36	埋出土上
996	97-10e	25	24	27	柱直、柱直 (試料11) 埋土
997	97-10e	25	24	68	柱直、柱直 (試料12) 埋土
998	97-10e	36	37	24	
999	97-10e	35	38	29	柱直、埋土上
1000	97-10e	24	30	29	柱直、埋土上
1001	97-10e	24	30	29	柱抜取り直
1002	97-10d	23	22	48	柱直
1003	97-10d	26	19	30	柱直
1013	97-10e	18	16	26	柱直
1014	97-10e	19	17	38	柱直
1017	97-10e	14.5	9.5	20	トレンチに切られる
1022	97-10e	16	16	33	柱直
1023	97-10d	16	14	16	柱直
1024	97-10d	22	37	23	柱直
1026	97-10e	32	29	44	柱直、埋土上
1027	97-10e	28	25	22	
1033	97-3 - 40	25	23	15	柱直
1034	97-30	29	23	11	
1035	97-30	20	30	6	
1036	97-30g	24	20	7	柱抜取り直
1037	97-30g	45	35	10	Po157 - 158(埋土)
1038	97-30g	16	14	10	柱直
1040	97-30	18	14	5	
1046	97-20	19	16	22	
1047	97-20	25	20	19	
1048	97-20g	15	15	10	

No.	地区 745-6	規格 (cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1052	107-2d	21	20	15	柱直
1053	107-2d	31	29	32	
2006	97-5g	24	20	23	柱直
2007	97-5g	21	19	15	柱直取り直
2008	97-5g	21	20	20	柱直
2009	97-5 - 6b	22	20	15	柱直
2010	97-5 - 6b	22	20	25	柱直、橈直に切られる
2011	97-6b	25	23	18	柱直取り直
2012	97-5g	28	24	35	柱直、橈直に切られる
2013	97-5b	29	22	25	
2017	97-6b	24	17	28	柱直
2018	97-7i	23	20	16	柱直
2020	97-6b	28	24	22	柱直
2021	97-6b	20	17	18	柱直
2022	97-6b	20	18	14	柱直
2023	97-5	22	22	17	柱直
2024	97-6b	35	30	50	柱直
2025	97-6b	26	26	40	柱直
2026	97-6b	22	19	27	
2027	97-6b	24	24	24	柱直
2028	97-6b	40	34	15	柱直
2029	97-5 - 3b	35	28	7	2003 (葉縫)、柱直
2030	97-6b	25	25	5	柱直
2031	97-6b	25	19	15	
2062	97-4a	24	16	16	
2063	97-6b	22	19	20	2008 (葉縫)
2064	97-6b	34	23	7	柱直
2065	97-6b	22	20	16	柱直取り直
2066	97-6b	27	24	4	柱直
2067	97-6b	20	18	16	2008 (葉縫)、柱直
2068	97-6b	12	8.11.5	5	2007 (葉縫)、柱直
2069	97-6b	20	17	15	柱直
2070	97-6b	21	25	25	2007 (葉縫)
2071	97-6b	21	20	5	2007 (葉縫)
2072	97-6b	22	16	6	柱直
2073	97-6b	32	30	14	
2074	97-6b	27	31	20	柱直
2075	97-6b	20	17	7	
2076	97-5 - 9b	16	15	32	柱直
2077	97-6b	18	16	13	柱直
2078	97-6b	29	28	6	柱直

第5項 第5面の調査

1 概要

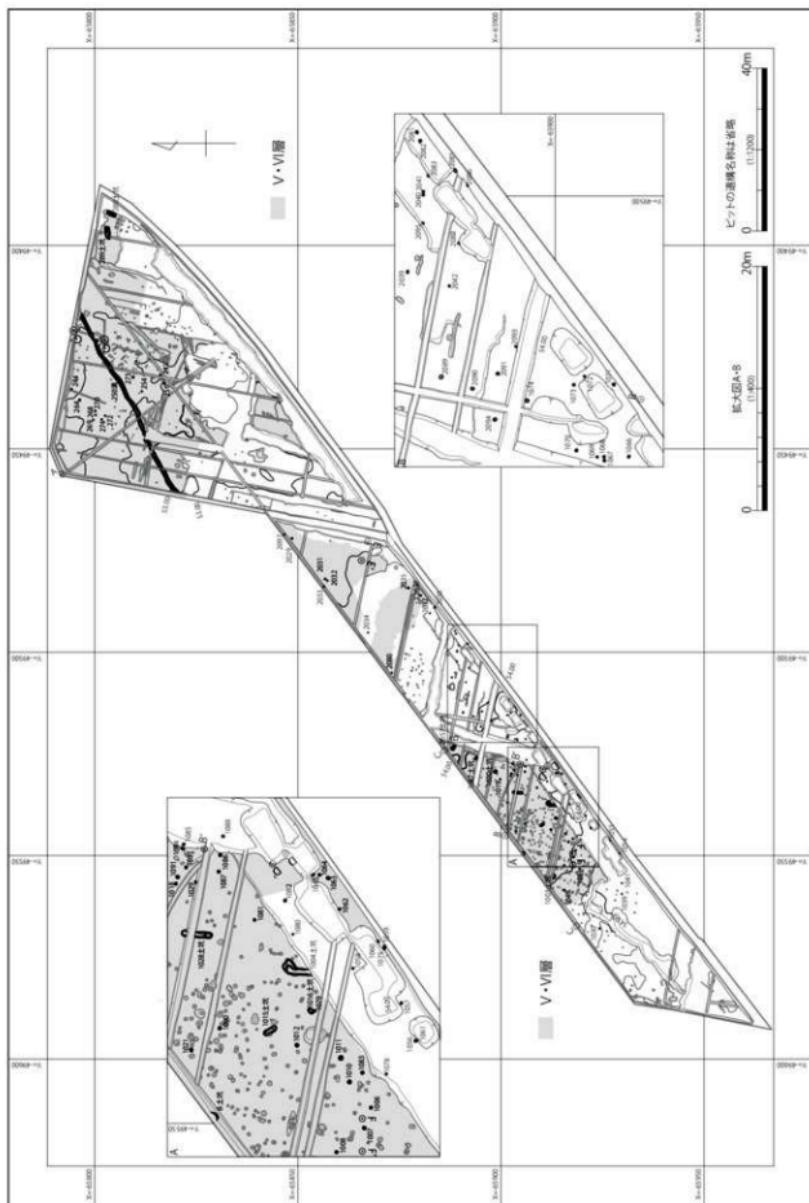
第5面は、IV層下面・V層上面の遺構であり、縄文時代に帰属すると考えられる落とし穴状の土坑、弥生時代中期前葉から中葉の土坑やピット、古墳時代前期初頭の土坑などを検出している。なお、本項では、IV～V層上面にて検出された遺構のうち、出土遺物や埋土の特徴から縄文時代より新しく平安時代より古いと判断した遺構についても掲載している。

2 検出した遺構と遺物

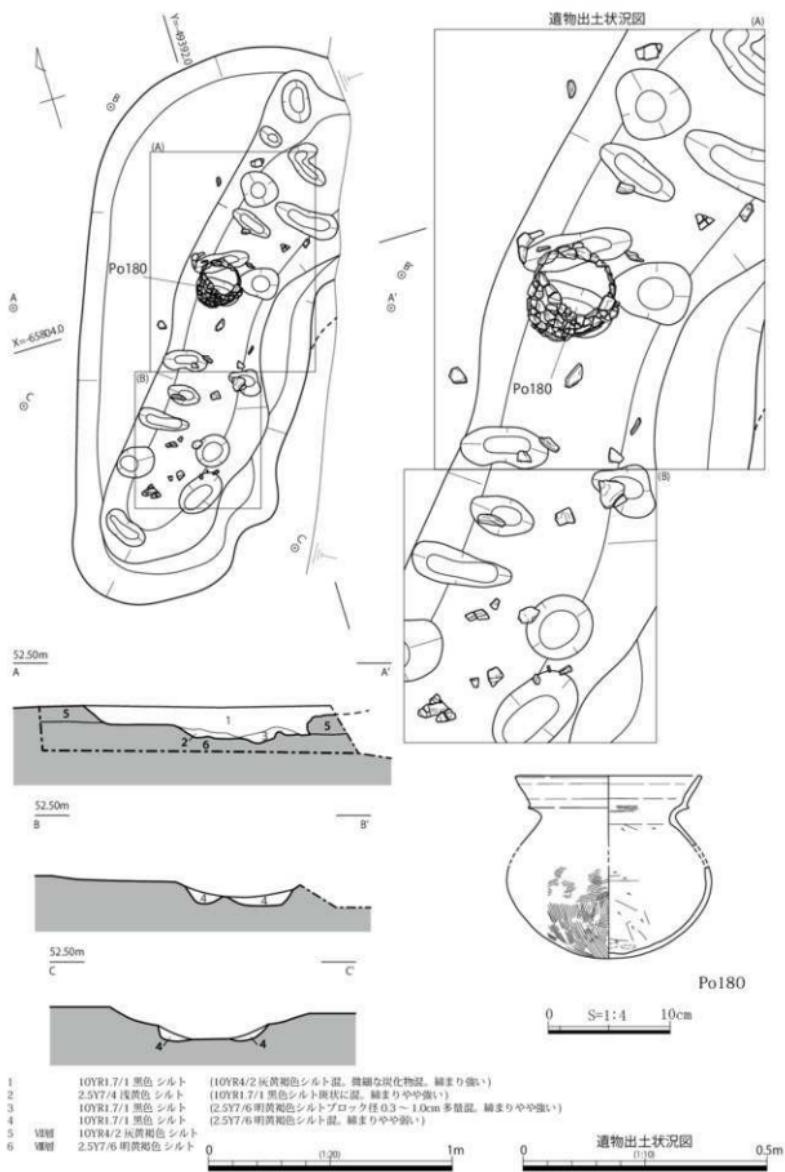
288土坑（第132図、図版51・52・75）

本遺構は調査区北東部北東側のI層直下、V層上面において検出した。本遺構東側は搅乱により消失しているが、平面楕円形を呈すものとみられ、検出面での規模は長軸2.39m、短軸0.94mを測る。検出面からの深さは15cmを測り、二段掘りされている。埋土は4層に分層でき、黒色系のシルト(1層)とV層に由来するブロック土が多く混じる堆積(2・3層)を主体とする。また、土坑底面には平面円形、または楕円形の小穴が認められ、黒色系のシルトが堆積する(4層)。この小穴は、本遺構掘削時における工具痕跡などの可能性が考えられる。

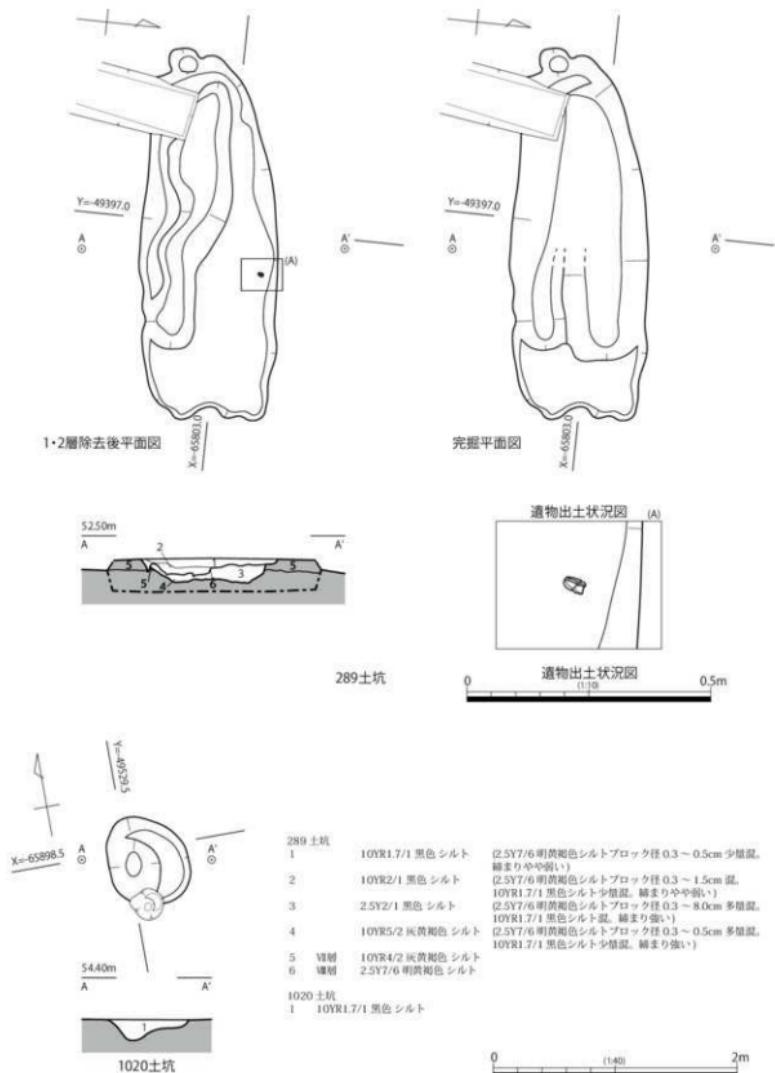
遺物は、埋土1層から出土したPo180を図化した。小型の土師器甕Po180は口縁端部に面取りがな



第131図 第5面全体図



第132図 288土坑遺構図・出土土器



第133図 289・1020土坑

され、外面は不定方向にハケ調整される。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から判断し、古墳時代前期中葉と考えられる。

289土坑（第133図、図版51・52）

本遺構は調査区北東部北東側のⅠ層直下、Ⅶ層上面において検出した。平面椭円形を呈し、検出面での規模は長軸2.88m、短軸1.12mを測る。検出面からの深さは20cmを測り、二段掘りされている。埋土は4層に分層でき、黒色系のシルト（1・2層）とⅧ層由来のブロックが多く混じる堆積（3・4層）に大別できる。

なお、本遺構と288土坑は主軸が異なるものの、遺構検出面、規模、埋土の色調と堆積状況が酷似しており、関連性の高い遺構と考える。

遺物は図化はしていないが、1層より土師器口縁部とみられる細片が出土している。

本遺構の帰属時期は、288土坑と同時期の古墳時代前期中葉と考えられる。

1020土坑（第133図、図版53）

本遺構は調査区南西部中央付近のⅢ-2層下面、ⅤまたはⅥ層上面において検出した。平面円形を呈し、検出面での規模は長軸78cm、短軸65cmを測る。検出面からの深さは17cmを測り、断面形は碗状を呈す。埋土は黒色シルトの単層である。遺物は出土していない。

1003土坑（第134図、図版53・75）

本遺構は調査区南西部西側のⅠ層直下、ⅤまたはⅥ層上面において検出した。本遺構北側は搅乱により消失する。平面円形を呈すとみられ、検出面での規模は長軸94cm、短軸52cmを測る。検出面からの深さは19cmを測り、断面形は逆台形状を呈す。黒色シルトを主体とする埋土は3層に分層できる。

遺物は、弥生土器の破片が点在するような状態で出土している。Po181・182を図化した。Po181は弥生土器壺、Po182は甕である。Po181は大きく外反する口縁部をもち、端部には板状工具による斜格子文、口唇部には3角形の刺突文が施される。Po182の口縁部は外方に伸び、ほぼ水平となる。器壁はやや薄く、外面は縦方向にハケ調整される。

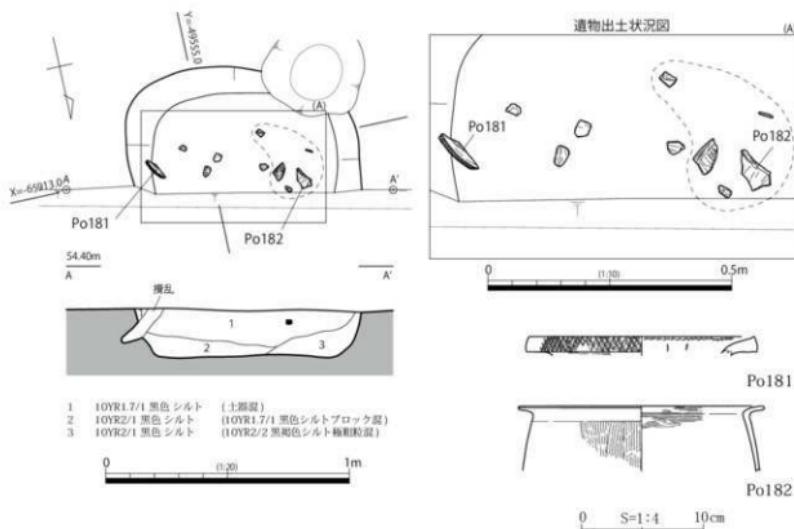
本遺構の帰属時期は、出土遺物より判断し、弥生時代中期中葉と考えられる。

1004土坑（第135・136図、図版54・74・82）

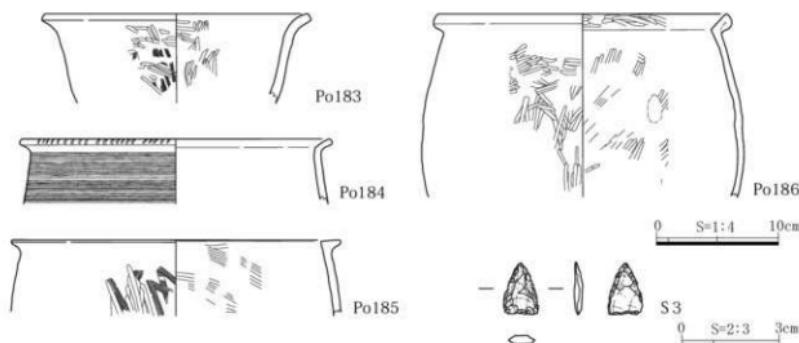
本遺構は調査区南西部南東側のⅠ層直下、ⅤまたはⅥ層上面において検出した。本遺構南側は搅乱により消失している。平面椭円形を呈すとみられる。検出面での規模は長軸2.15m、短軸0.66mを測る。検出面からの深さは8cmを測る。断面形はU字形を呈し、北東側は二段掘状となる。埋土は黒色シルトの単層である。

遺物は弥生土器の破片が遺構内に散在するような状態で出土している。Po183～186、S3を図化した。Po183～186は弥生土器である。鉢Po183は外反する口縁部をもち、内外の調整はヘラミガキを主体とする。Po184はくの字状、Po185は逆し字状口縁の甕である。Po184は口縁部下に4単位以上の櫛描平行線文が施される。甕Po184・185は弥生時代中期前葉に比定される資料である。

甕Po186は粘土の折り返しによって玉縁状に成形された口縁部と、緩やかに膨らむ胴部をもち、外



第134図 1003土坑遺構図・出土土器

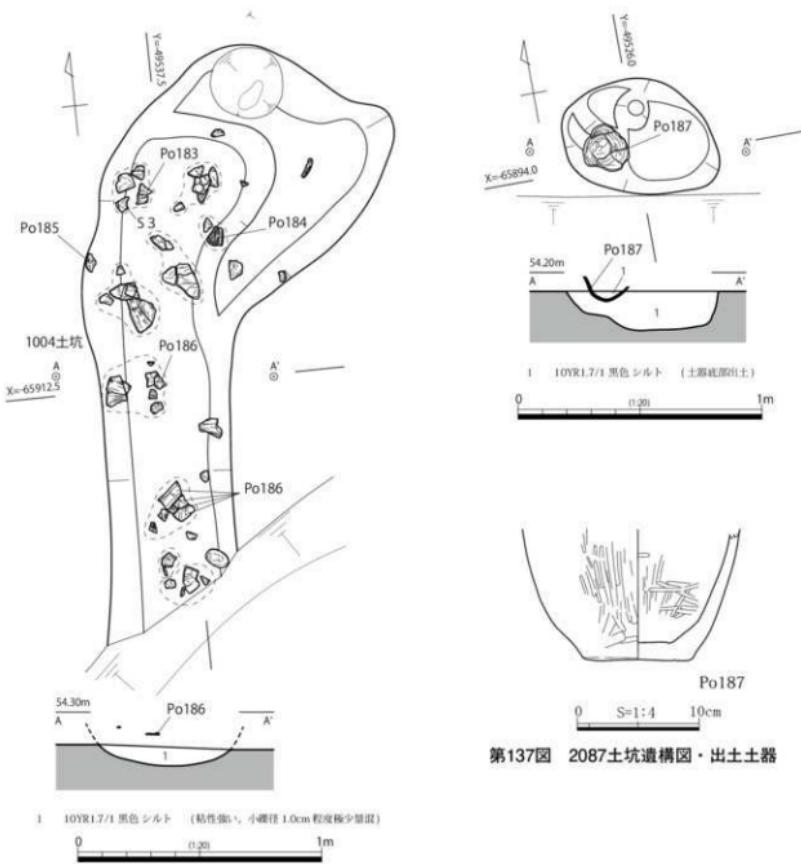


第135図 1004土坑出土遺物

面はミガキ、内面はハケの痕跡を残しながらナデ・ミガキで調整される。朝鮮系無文土器に形態が似るが、口縁部の成形技法がそれと異なるため、「擬朝鮮系無文土器」(片岡 1999)の可能性がある資料である。

S 3 は平基式の安山岩製石鎌である。小型のものであり、素材となる剥片の周縁を加工して成形している。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から判断し、弥生時代中期前葉と考えられる。



第136図 1004土坑

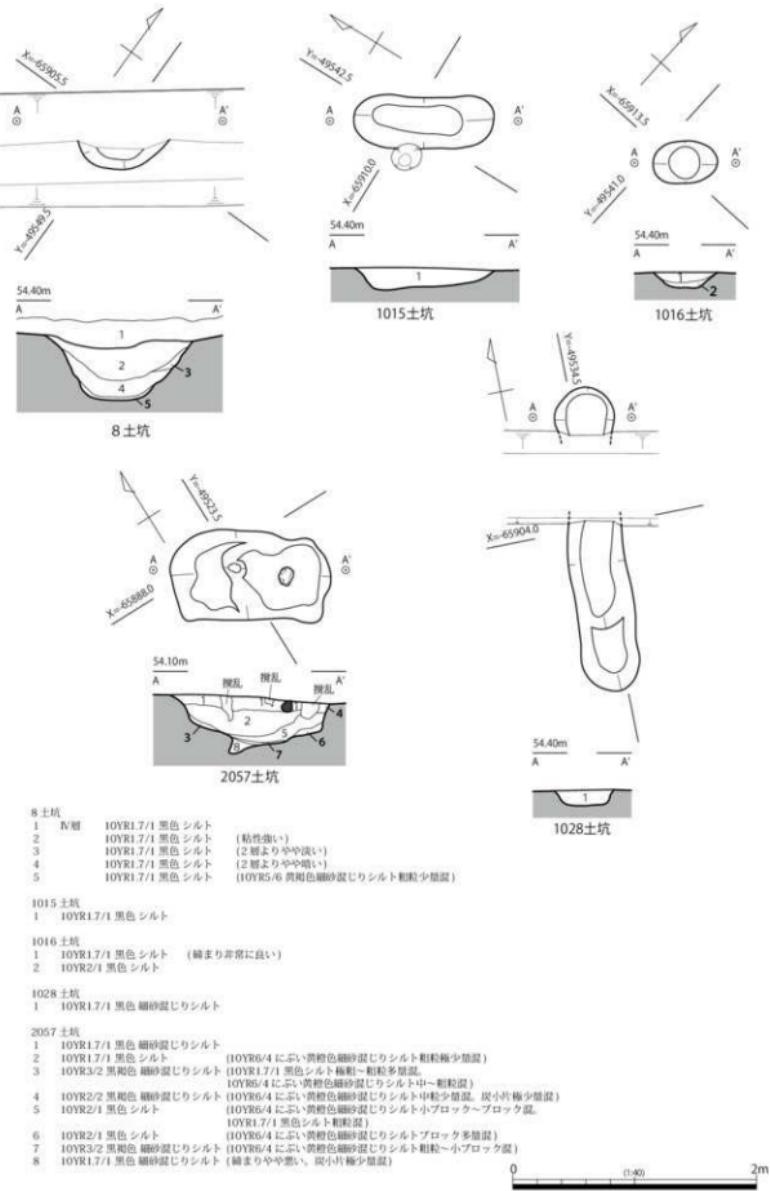
第137図 2087土坑遺構図・出土土器

2087土坑（第137図、図版53・75）

南西部中央付近に位置し、III-2層を除去した後にV層上面で検出した東西方向に主軸をとる土坑である。平面形は梢円形で、長軸66cm、短軸47cmを測る。断面形は不整な逆台形状を呈し、検出面からの深さは16cmである。底面は一部に段や凹凸があり平坦ではない。埋土は黒色シルトの単層である。

遺物は、Po187を図化した。弥生土器甕の底部Po187は埋土中より出土し、器壁は厚く、内外面ともヘラミガキで調整される。

本遺構の機能時期は、出土遺物から判断し、弥生時代中期の可能性がある。



第138図 8・1015・1016・1028・2057土坑

8 土坑（第138図）

調査区南西部調査区際のIV層下面、V層上面において検出した。本遺構西側は調査区外となるが、平面円形を呈すとみられ、検出面での規模は長軸1.20m、短軸0.23mを測る。検出面からの深さは50cmを測り、断面形は逆台形状を呈する。埋土は黒色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

1015土坑（第138図）

調査区南西部中央付近のIV層下、V層上面において検出した。平面形は長楕円形を呈し、検出面での規模は長軸1.15m、短軸0.42mを測る。検出面からの深さは18cmを測り、断面形はU字状を呈す。埋土は黒色シルトの単層である。遺物は出土していない。

1016土坑（第138図、図版53）

調査区南西部中央付近のIII層下、V層上面において検出した。平面円形を呈し、検出面での規模は長軸52cm、短軸35cmを測る。検出面からの深さは13cmを測り、断面形は碗状を呈す。埋土は2層に分層でき、黒色シルトが主体をなす。遺物は出土していない。

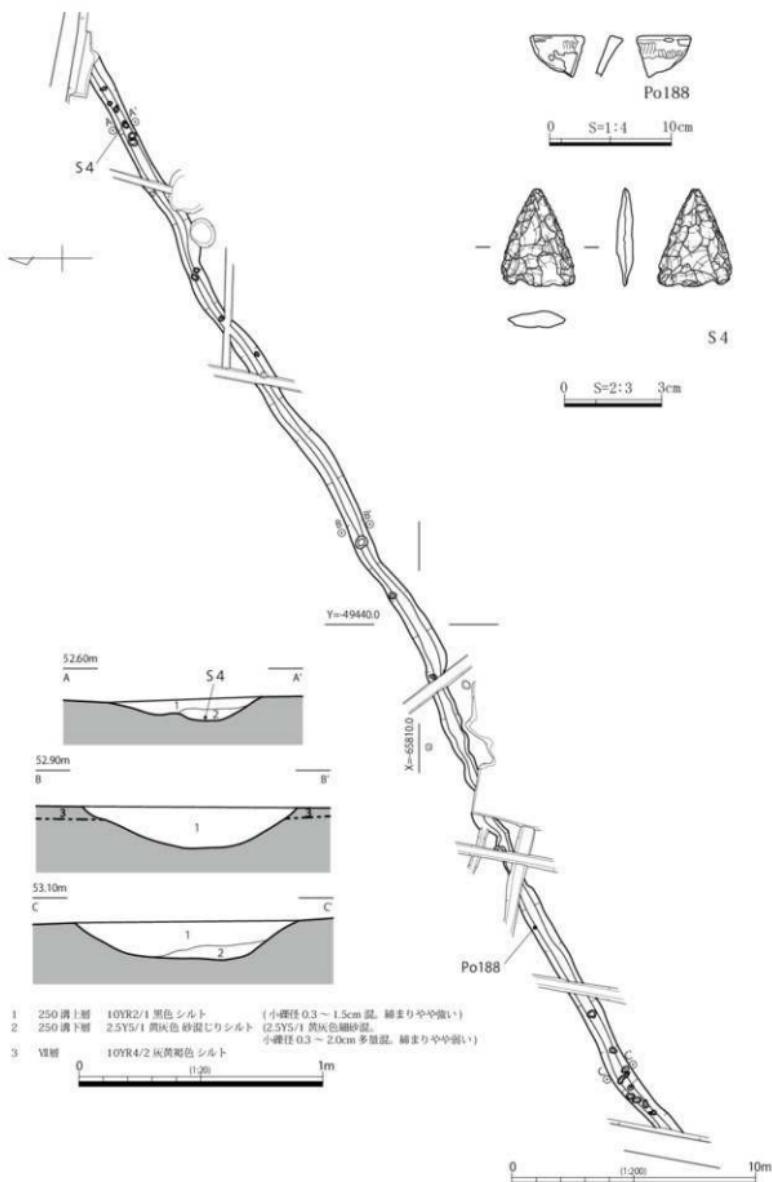
1028土坑（第138図、図版53）

調査区南西部中央付近のIV層下、V層上面において検出した。南側は暗渠により消失しており、検出面での規模は長軸2.50m、短軸0.46mを測る。検出面からの深さは13cmを測り、断面形は皿状を呈す。埋土は細砂が混じる黒色シルトが堆積する。遺物は出土していない。

2057土坑（第138図）

調査区南西部中央西側のIII-2層下、V層上面において検出した。平面形は歪な隅丸長方形を呈し、検出面での規模は長軸1.32m、短軸0.72mを測る。検出面からの深さは40cmを測り、断面は二段掘り状を呈す。底面中央には小ビットが検出されている。埋土は8層に分層でき、黒色、または黒褐色を呈するシルトが堆積する。遺物は出土していない。

本遺構は形態的な特徴から落とし穴と考えられ、縄文時代の遺構と想定しているが、明確にはできない。



250溝（第139図、図版55・75・82）

調査区北東部のIV層下面、V層上面において検出した。N-62°-Eを主軸とする直線的な溝であり、検出面での規模は長軸49.5m、短軸0.5~0.9m、深さは9~17cmを測る。底面の標高は西端で52.91m、東端で52.34mであり、比高差が約57cmある。断面形はU字状を呈す。埋土は2層に分層でき、上層は黒色系のシルト（1層）が堆積する。底面には円形の小穴が点在し、小穴内には小砾や粗砂（2層）が堆積し、流水の環境下におかれた時期があったものと考える。

遺物はPo188とS4を同化した。Po188は弥生土器壺の口縁部であり、内外面ともヘラミガキで調整される。S4は平基式の石鉗で、安山岩製である。二等辺三角形を呈し、両面とも丁寧に加工している。

本遺構は、検出面と出土遺物から判断し、弥生時代から古墳時代までのものと想定している。

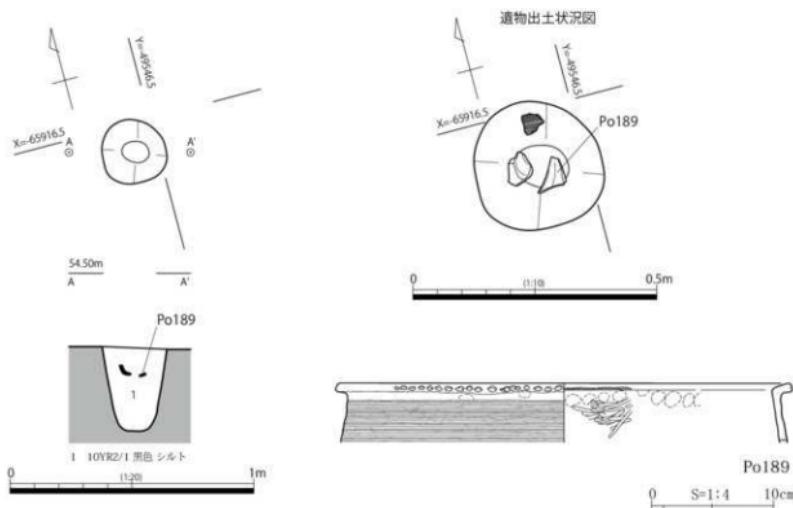
第5面ピット（第28表）

第5面では、黒色を呈する埋土が堆積するピットを検出しておらず、弥生土器の細片が出土しているものも認められる。本項では第5面に帰属すると判断したピットの内、出土遺物を掲載したピット（1010ピット）について記載をする。

なお、第5面に帰属するその他のピットの特徴については、第28表 第5面遺構計測表に記した。

1010ピット（第140図、図版57・75）

南西部中央付近のI層直下、V層上面において検出した。平面円形を呈し、検出面での規模は、長



第140図 1010ピット遺構図・出土土器

軸27cm、短軸26cmを測る。検出面からの深さは、34cmを測り、断面形はU字状を呈す。埋土は黒色シルトの単層である。

埋土中位より、弥生土器が出土しており、Po189を図化した。Po189は大型の弥生土器壺であり、逆L字状口縁の端部に刺突文、体部上半に櫛描平行線文が施される。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から判断し、弥生時代中期前葉と考えられる。

第28表 第5面遺構計測表

遺構				参考
No.	地区	規格 (cm)	測定	
241	80-2d	24	20	24
241	80-10d	17	15	15
254	80-2d	19	18	8
259	80-2d	34	32	22 (直縁)
264	80-10d	33	28	30 (直縁)
266	80-1e	19	14	21
269	80-10e	20	20	17
270	80-1e 80-10e	28	18	18
272	80-2e	20	19	19
274	80-2e	19	18	18
274	80-2e	19	18	18 (直縁)
3005	80-2e	20	16	20
3007	80-2e	25	23	22
3008	80-2e	21	20	16
3010	80-2e	27	26	34 (Po189) (直縁)
3011	80-2e	33	31	27 (直縁)
3012	80-2e	26	24	34
3018	80-1d	20	16	7
3019	80-10d	19	18	12
3021	80-1e	24	21	26
3022	80-1d	21	17	14
3030	80-3g	34	30	20 (L207土壤) (直縁)
3031	80-1e	18	16	27 (直縁)
3033	80-2d	22	21	24
3041	80-2d	24	18	15
3040	80-2d	29	23	37
3051	80-2d	20	18	24
3054	80-2e	22	21	9
3055	80-2e	21	21	13 (複数に切られる)
3056	80-2e	23	21	11 (直縁) (直縁)
3057	80-2e	23	21	12
3058	80-2d	18	15	20
3059	80-2d	19	12	24 (L072 (直縁))
3060	80-2d	18	16	5 (複数に切られる)
3061	80-2e	20	13	13 (L006 (直縁))
3062	80-2e	16	14	14 (直縁)
3063	80-2e	20	16	9
3064	80-2e	18	16	10 (直縁)
3065	80-2e	28	19	26 (複数に切られる)
3066	80-1e	28	20	13
3067	80-1e	22	23	24

測定				参考
No.	地区	規格 (cm)	測定	
8	80-1e	120	231.3	30 (几乎是調査区外のため未測定)
288	80-1i	239	94	15 (複数に切られる)
289	80-1i	268	112	20 (複数に切られる)
3003	80-2d	94	323.3	19 (複数に切られる)
3004	80-2d	215	66	8 (複数に切られる)
3015	80-1-2e	135	42	18 (複数に切られる)
3016	80-2e	52	35	13
3020	80-2e	78	65	17 (複数に切られる)
3028	80-1d	230	46	13 (複数に切られる)
2667	80-9e	132	72	40 (小口)
2687	80-10e	66	47	16

測定					参考
No.	地区	規格 (cm)	測定	測定	
1068	80-2d	20	18	20	
1069	80-2d	19	17	17	
1070	80-2d	24	22	13	柱底
1071	80-1b	24	23	31	
1072	80-1b	17	15	15	
1073	80-1b	22	18	11	
1074	80-1b	29	19	29	
1075	80-2d	18	14	31	Po189 (直縁)
1078	80-2d	16	15	24	
1079	80-2d	15	13	43	
1080	80-2d	14	12	16	
1081	80-2d	16	14	39	
1082	80-2d	24	20	19	
1083	80-2d	20	19	24	
1084	80-1e	25	19	24	
1085	80-1e	24	19	17	
1086	80-1e	21	19	40	
1087	80-1e	24	19	44	
1088	80-1e	22	19	28	
1090	80-1e	23	22	63	
1091	80-1e	24	21	42	
2029	80-2b	26	22	36	
2031	80-6	28	24	19 (柱底)	
2032	80-6	20	17	16 (柱底)	
2033	80-6	23	22	10	
2034	80-7	23	17	18	
2035	80-6	34	32	20 (柱底)	
2036	80-6	26	25	30 (柱底)	
2037	80-6	24	20	21	
2038	80-6	25	23	18	
2039	80-6b	26	18	12 (柱底)	
2040	80-6	20	18	15 (柱底)	
2041	80-6	19	18	14 (柱底)	
2042	80-10a	18	15	13 (柱底)	
2080	80-6a	20	15	29	
2081	80-6	25	21	28	
2082	80-6	24	22	44	
2083	80-6	19	15	13	
2085	80-10	31	23	5	
2086	80-2b	17	15	11	
2088	80-10a	193.1	15	12	(複数に切られる)
2089	80-6b	32	28	19	
2090	80-10b	29	23	37 (櫛を櫛出)	
2091	80-6	27	25	35	
2092	80-6	19	12	7 (柱底)	
2094	80-10b	20	25	47 (柱底)	
2095	80-7b	20	18	25	
2096	80-6b	19	103.3	14 (北西は浜曲河外のため未測定)	

測定					参考
No.	地区	規格 (cm)	測定	測定	
8016	80-1-2c	40.5	32.3	52.34	N-62'-E
250	80-1-2-2	40.5	32.3	9-17cm	
					N-62'-E
					上斜面切出と右斜面下斜面から右斜面と右斜面から右斜面と右斜面から右斜面と右斜面

第6項 第6面の調査

1 概要

第6面は、最終的な遺構の確認面であり、本項では、ⅦまたはⅧ層上面において検出した遺構のうち、落とし穴と帰属時期が明確にできなかったものを掲載する。縄文時代に帰属する可能性を考えられる落とし穴(2057土坑)が第5面(Ⅴ層上面)において検出されていること、Ⅴ層以下が無遺物層となることから判断し、第6面において検出した遺構は、本来はより上面に帰属する遺構と考えている。第6面の遺構として、土坑、溝、ピットを掲載している。

2 検出した遺構と遺物

4 土坑（第142図、図版58）

本遺構は調査区南西部南側のⅠ層直下、Ⅷ層上面において検出した。平面形は隅丸方形を呈す。検出面での規模は長軸85cm、短軸65cmを測る。検出面からの深さは46cmを測り、断面は逆台形を呈す。埋土は黒褐色系のシルトを主体とし、地山ブロックを多く含む。壁面の崩落土や遺構周辺より流入した土壌など、一次的に堆積した自然堆積の痕跡は認められず、遺構掘削後時間を置かず、埋め戻された可能性が高いと考える。

底面直上から、疊15点が一部折り重なるような状態で出土しているが、用途は不明である。

600土坑（第142図、図版58）

本遺構は調査区北東部北側のⅧ層上面において検出した。平面形は梢円形を呈し、検出面での規模は長軸1.13m、短軸1.00mを測る。検出面からの深さは38cmを測り、断面は逆台形を呈す。埋土は黒色または暗褐色を呈するシルトを主体とする。底面中央には径28cm、深さ34cmの小ピットを検出しており、その小ピットの埋土は粗砂や小礫が混じるシルトが主体をなす。4層は杭等の痕跡とみられる。土坑底面の小穴周辺には拳大から人頭大の亜円礫が4点出土しており、杭の固定に使用した可能性がある。遺構の形状から判断し、落とし穴と考える。

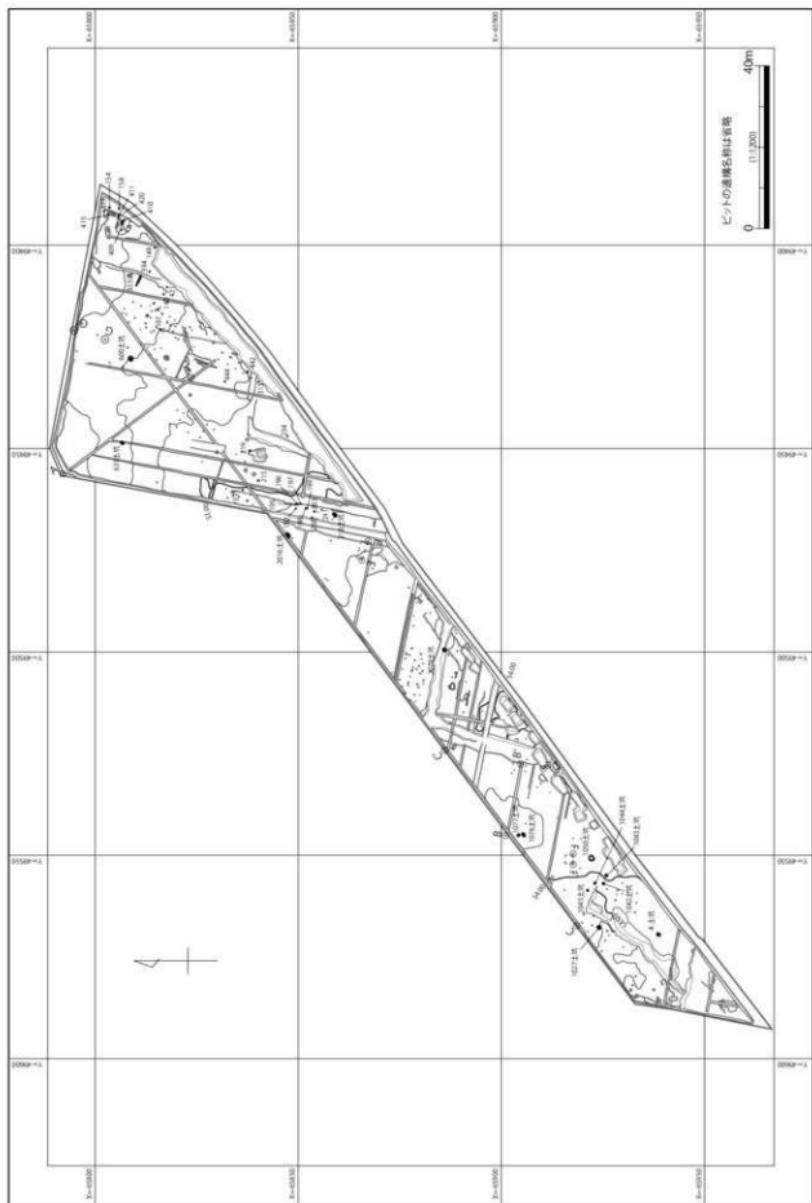
210土坑（第143図、図版59）

本遺構は調査区北東部南側のⅧ層上面において検出した。平面形は隅丸長方形を呈す。検出面での規模は長軸1.10m、短軸0.68mを測る。検出面からの深さは61cmを測り、断面はU字状を呈す。埋土は黒色または灰色系のシルトが堆積する。底面中央には径14cm、深さ18cmの小ピットを検出している。小ピットの埋土4層は、杭等の痕跡の可能性がある。遺構の形状から判断し、落とし穴と考える。

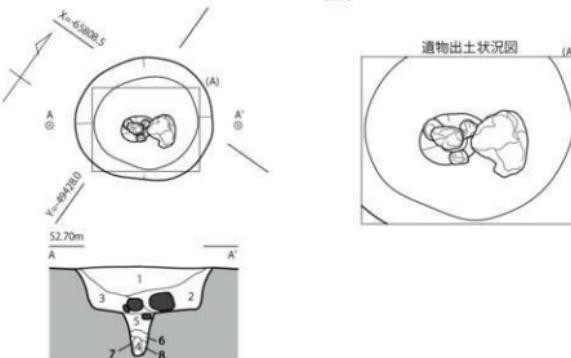
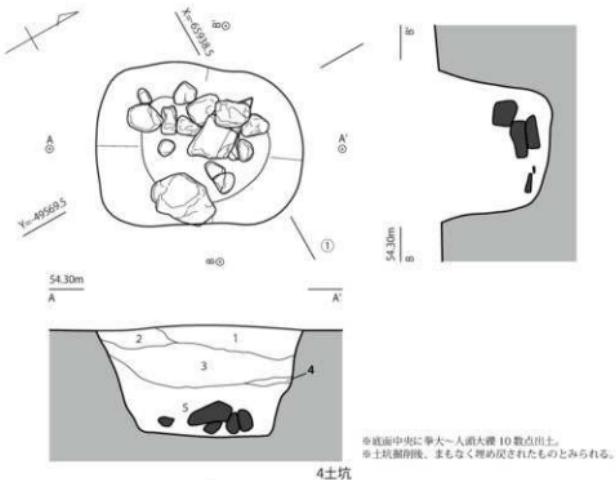
631土坑（第143図、図版59）

本遺構は調査区北東部北西側のⅧ層上面において検出した。遺構東側上部は暗渠により、消失している。なお、調査中に豪雨により多量の雨水が本遺構内に流入したため土層断面が崩落し、堆積状況の情報の大半を記録することができなかつた。

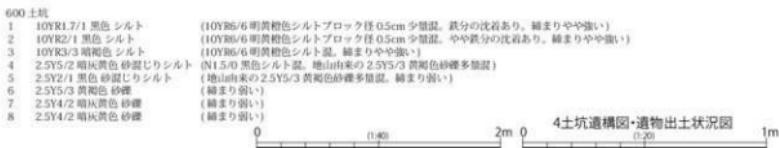
平面形は梢円形を呈し、検出面での規模は長軸86cm、短軸54cmを測る。検出面からの深さは82cmを測り、断面は逆台形を呈す。埋土は遺構上位に黒色シルトが堆積している。底面中央には径



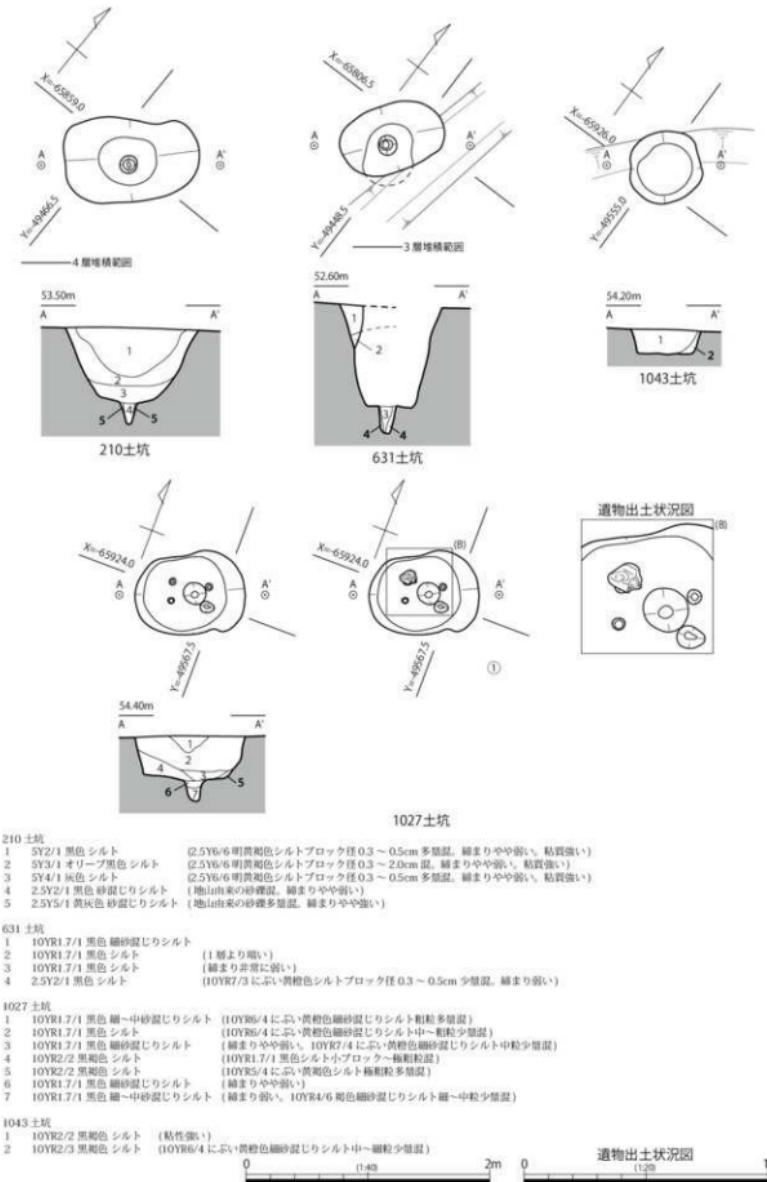
第141図 第6面全体図



- 4土坑
- 2.5Y3/1 黒褐色 シルト (地山由来の2.5Y4/4にぶる黄色シルトブロック径0.3～4.0cm 多量証。
地山由来の小鏡微細～径0.5cm 多量証。繊細な炭化物混。縋まり強い。粘質弱い)
 - 10YR2/1 黒褐色 シルト (地山由来の2.5Y4/4にぶる黄色シルトブロック径0.5cm 多量証。
地山由来の繊細な小鏡多量証。繊細な炭化物混。縋まりやや弱い。粘質やや強い)
 - 2.5Y3/2 黒褐色 シルト (地山由来の2.5Y4/4にぶる黄色シルトブロック微細～径3.0cm 多量証。
地山由来の小鏡微細～径0.3cm 多量証。繊細な炭化物混。縋まり強い)。粘質弱い)
 - 10YR2/1 黒褐色 シルト (地山由来の2.5Y4/4にぶる黄色シルトブロック径0.3cm 少量証。
地山由来の繊細な小鏡多量証。炭化物微細～径0.5cm 強。縋まりやや弱い。粘質やや強い)
 - 10YR3/1 黒褐色 シルト (地山由来の2.5Y4/4にぶる黄色シルトブロック径0.3～2.0cm 少量証。
地山由来の小鏡微細～径0.5cm 多量証。縋まり強い)。粘質弱い)



第142図 4・600土坑



第143図 210・631・1027・1043土坑

15cm、深さ20cmの小ピットを検出している。小ピット埋土3層は、杭等の痕跡の可能性がある。遺構の形状から判断し、落とし穴と考える。

1027土坑（第143図、図版60）

南西部南寄りに位置し、Ⅶ層上面で検出した東西方向に主軸をとる土坑である。平面形は橢円形状で、長軸91cm、短軸64cmを測る。断面形は逆台形を呈し、検出面からの深さは35cmである。底面の中央やや西寄りには径19cm、深さ18cmの小ピットを1基検出し、この小ピットを取り開むように、径5~12cm、深さ2~3cm程度のさらに小さなピット状の痕跡を4基検出している。土坑底面に何らかの構造物が設置されていた痕跡の可能性が考えられる。埋土は黒色のシルトが主体であり、土坑部分で5層、ピットで2層の計7層に分層できた。底面直上では、長軸15cmの礫が出土している。形態的な特徴から、落とし穴と考える。

1042土坑（第144図）

南西部南東寄りに位置し、Ⅶ層上面で検出した土坑である。平面形はやや歪な円形で、長軸50cm、短軸46cmを測る。断面形は皿状を呈し、検出面からの深さは8cmを測る。埋土は黒褐色で粘性の強いシルトの単層である。遺物は出土していない。

土坑の性格は不明であるが、1043~1045・1050土坑と近接して位置しており、埋土も共通することから、これらと一連の遺構と推測される。

1043土坑（第143図、図版60）

南西部南東寄りに位置し、Ⅶ層上面で検出した土坑である。平面形はやや歪な円形で、長軸60cm、短軸58cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、検出面からの深さは21cmである。埋土は黒褐色のシルトを主体とする。遺物は出土していない。

土坑の性格は不明であるが、1042・1044・1045・1050土坑と近接して位置しており、埋土も共通することから、これらと一連の遺構と推測される。

1044土坑（第144図）

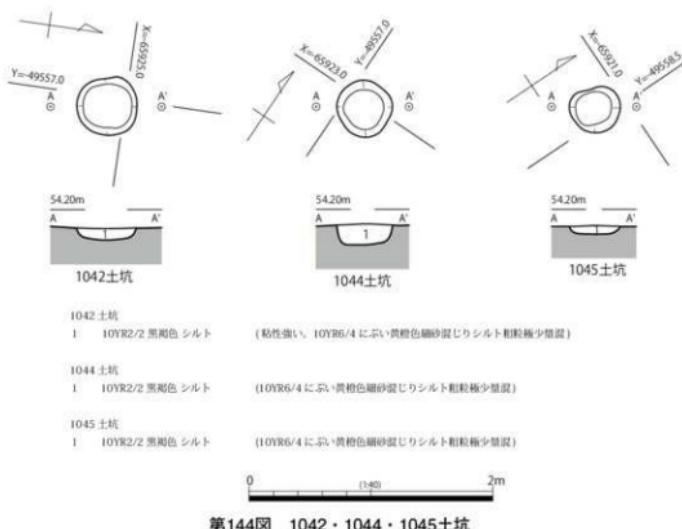
南西部南東寄りに位置し、Ⅶ層上面で検出した土坑である。平面形はやや歪な円形で、長軸47cm、短軸46cmを測る。断面形は皿状を呈し、検出面からの深さは16cmを測る。埋土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

土坑の性格は不明であるが、1042・1043・1045・1050土坑と近接して位置しており、埋土も共通することから、これらと一連の遺構と推測される。

1045土坑（第144図）

南西部南東寄りに位置し、第Ⅷ層上面で検出した土坑である。平面形はやや歪な円形で、長軸42cm、短軸36cmを測る。断面形は皿状を呈し、検出面からの深さは6cmを測る。埋土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

土坑の性格は不明であるが、1042~1044・1050土坑と近接して位置しており、埋土も共通すること



第144図 1042・1044・1045土坑

から、これらと一連の遺構と推測される。

1050土坑（第145図、図版60）

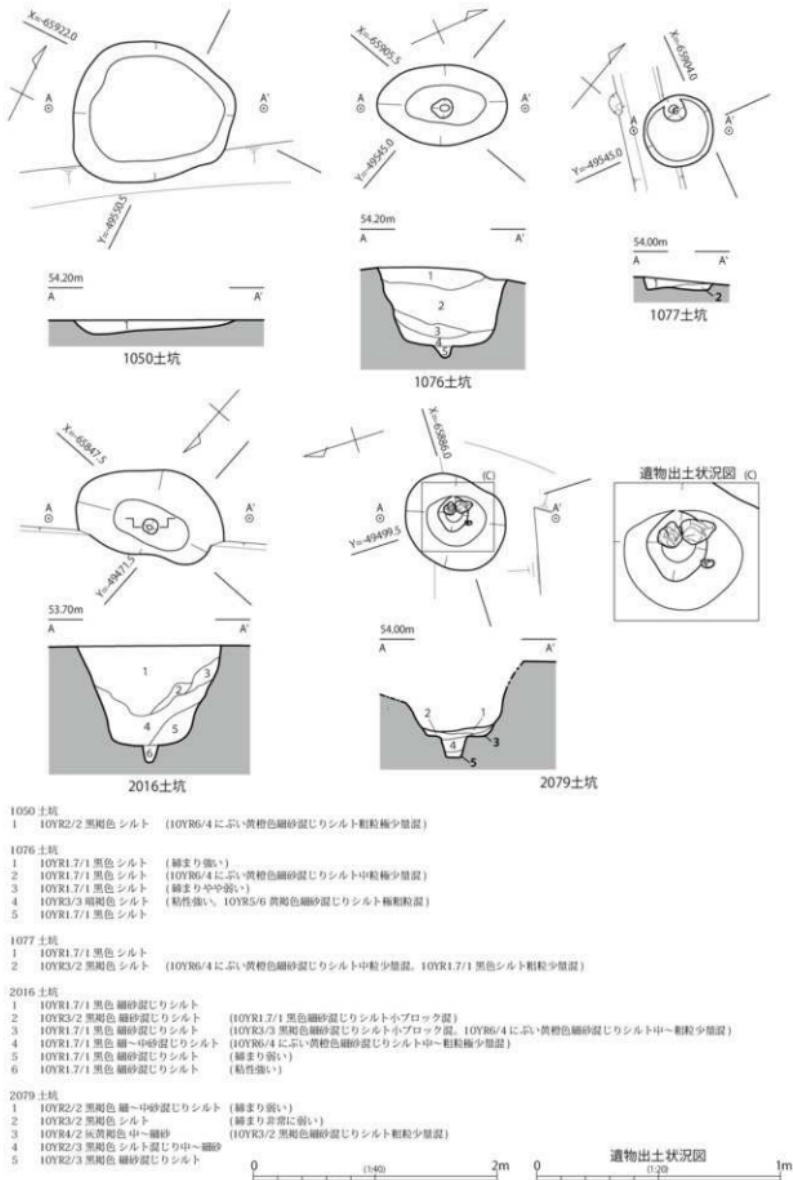
南西部南東寄りに位置し、Ⅶ層上面で検出した土坑である。平面形は歪な楕円形で、長軸1.33m、短軸1.15mを測る。断面形は皿状を呈し、検出面からの深さは12cmである。埋土は黒褐色のシルトの単層である。遺物は出土していない。

土坑の性格は不明であるが、1042～1045土坑と近接して位置しており、埋土も共通することから、これらと一連の遺構と推測される。

1076土坑（第145図、図版61）

南西部中央付近に位置し、Ⅶ層上面で検出した北東～南西方向に主軸をとる土坑である。平面形は楕円形状で、長軸1.07m、短軸0.66mを測る。断面形は逆台形を呈し、検出面からの深さは63cmである。底面のほぼ中央に長軸18cm、短軸16cm、深さ10cmの小ピットが存在する。埋土は土坑部分で4層、小ピットで1層の計5層に分層できた。土坑部分では、最下層(4層)に粘性の強い暗褐色のシルトがあり、それより上層(1～3層)には黒色のシルトが堆積している。形態的な特徴から、落とし穴と考ええる。

第3章 山ノ下遺跡の調査成果



第145図 1050・1076・1077・2016・2079土坑

1077土坑（第145図、図版61）

南西部中央付近に位置し、Ⅶ層上面で検出した土坑である。平面形は円形で、長軸59cm、短軸57cmを測る。断面形は歪な逆台形状を呈し、検出面からの深さは7cmである。埋土は2層に分層でき、上層には黒色シルト、下層には黒褐色シルトが堆積している。遺物は出土していない。

2016土坑（第145図、図版61）

南西部北端に位置し、Ⅶ層上面で検出した。東西方向を主軸とする土坑である。トレンチに一部が掛かり掘削されてしまったため明確ではないが、平面形は稍円形を呈すものと考える。検出面での規模は、長軸1.25m、短軸は0.71mを測る。断面形は逆台形を呈し、検出面からの深さは81cmである。底面のほぼ中央に径約0.12cm、深さ14cmの小ピットが存在する。埋土は土坑部分で5層、ピットで1層の計6層に分層でき、黒色で細砂の混じるシルトを主体とする。遺物は出土していない。形態的な特徴から、落とし穴と考える。

2079土坑（第145図、図版61）

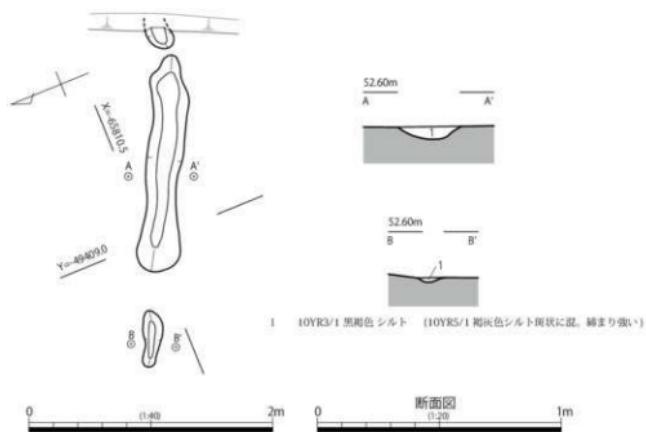
南西部北中央北寄りに位置し、近現代の水路堆積土を除去した後にⅧ層上面で検出した。東西方向に主軸をとる土坑である。水路堆積土の下から検出したことから搅乱と考えて掘削を開始したため、観察や記録作成を行わずに埋土の多くを掘り上げてしまった。残存部の平面形は歪な円形状を呈しており、長軸87cm、短軸は71cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、検出面からの深さは34cmである。底面に長軸29cm、短軸25cm、深さ17cmの小ピットが存在する。埋土は土坑の残存部分で3層、小ピットで2層の計5層に分層できる。黒褐色で砂の混じるシルトを主体とするが、底面南側には壁面の風化崩落に由来すると考えられる灰黄褐色の中砂～細砂が存在する。底面の小ピット周辺からは礫が3点出土しており、600土坑の礫出土状況と類似する。土器は出土していない。形態的な特徴から、落とし穴と考える。

355溝（第146図）

調査区北東部西側のⅧ層上面において検出した。N-64°-Eを主軸にとる浅く直線的な溝であり、一部途切れるが、検出面での規模は長軸2.8m、短軸0.1～0.3m、深さは最深5cmを測る。底面の標高は北西端で52.40m、南東端で52.38mであり、比高差はほとんどない。断面形はU字状を呈す。埋土は黒色系のシルトが堆積する。

図化はしていないが、土師器の小片が出土している。

第3章 山ノ下遺跡の調査成果



第146図 355溝

第29表 第6面遺構計測表

No.	地区 T454-6	墓形 (cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
107	95-2e	25	24	22	
140	95-2e	23	16	8	柱頭
149	95-2e	20	18	10	柱頭
154	95-1j	28	27	18	柱頭取り扱
158	95-1j	21	21	21	柱頭取り扱
159	95-5g	20	16	15	
160	95-5g	18	15	9	
166	95-5g	29	18	13	
167	95-5g	19	19	7	
168	95-6g	15	32	9	
169	95-6g	31	20	20	柱頭
203	95-6g	30	37	17	柱頭
211	95-6g	14	13	12	
215	95-5f	27	26	6	柱頭
219	95-4f	26	22	24	柱頭
234	95-5e	17	15	10	
238	95-4g	18	16	22	柱頭
313	95-5d	16	13	9	柱頭
321	95-4g	21	20	21	柱頭
394	95-2b	24	23	6	
409	95-1j	24	19	11	柱頭
430	95-1j	24	20	12	柱頭取り扱
431	95-1j	29	17(15.1)	5	
435	95-1j	44	32	33	柱頭
437	95-1j	30	18	7	柱頭に埋らせる
439	95-1j	24	37	9	柱頭
421	95-2b	20	37	5	
442	95-4d	34	22	27	柱頭取り扱
444	95-4d	20	19	12	

No.	地区 T454-6	墓形 (cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
4	10Y-2	85	65	46	薄黄色土
210	95-6g	110	68	61 (79)	柱ごと土塗出
600	95-1c	113	100	28 (72)	柱ごと土塗出、薄黄色土
631	95-1c	86	54	82 (102)	柱ごと土塗出
1627	10Y-3g	91	64	30 (53)	柱ごと土塗出、薄黄色土
1692	95-3h	50	46	21	
1693	10Y-3h	69	58	21	柱頭に埋れる
1694	10Y-3h	47	46	36	
1695	10Y-3h	42	36	6	
1696	10Y-3h	133	115	12	柱頭に埋れる
1698	10Y-3e	107	66	63 (72)	柱ごと土塗出
1672	10Y-3e	39	57	2	
2016	95-3b	125	74	81 (86)	柱ごと土塗出
2079	95-2b	87	71	34 (51)	柱ごと土塗出、薄黄色土

No.	地区 T454-6	墓形			長軸の標高 (m)	主軸方位	備考
		底径 (m)	幅 (m)	深さ (m)			
355	95-2e	2.6m 以上	0.1~0.3m	2~5m	北東端: 52.3m 北西端: 52.40	N-64°-W	

第7項 遺構外出土遺物

本項では、包含層(Ⅲ・Ⅲ-1・Ⅲ-2・Ⅳ層)、およびⅠ層(表土)、搅乱土から出土した遺物について、記載する。

Ⅲ層出土遺物 (第147~149図、図版65~67・75~80)

Po190は回転台土師器の皿である。口縁部内外面の一部に煤が付着しており、灯明皿として用いられた可能性がある。Po191~196は手づくね成形の土師器皿である。Po191~193は口径が8cm程度であり、口縁部の立ち上がりは緩やかで器高は低い。Po192は内外面とも口縁端部付近に煤が付着しており、灯明皿であったと考えられる。Po194・195も口縁部の立ち上がりは緩やかであるが、大型で器高も高い。同じく大型のPo196は口縁部が底部から屈曲して立ち上がり、ヨコナデによって外反する。これらの土師器皿はいずれも中世に属す。

Po197・199は須恵器である。Po197は坏身であり、TK217型式併行のものである。Po199は壺の底部であり、短く外方に張り出す高台をもつ。Po198の土師器壺は、手づくねで成形されており、やや歪な形状をしている。これらは飛鳥時代のものと考えられる。

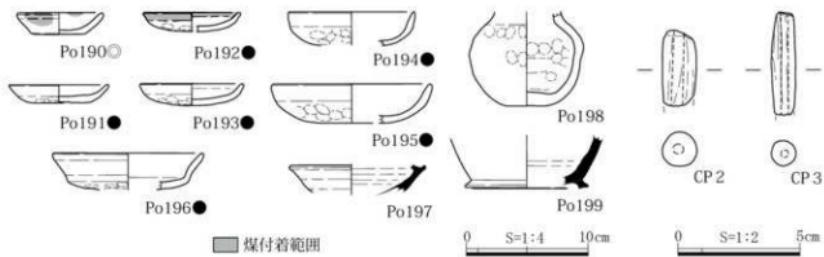
CP2・CP3は土錘である。CP2は円柱状、CP3は中央部がやや膨らむ形状をしている。

Po200~209は中世に属す資料である。Po200・201は受け口状口縁の土師器鍋であり、外面は指押さえ、内面はナデによって調整されている。Po202・203は瓦質の、Po204は土師質の羽釜である。Po202はシャープな鋸が斜め上方にむかって貼付けられており、外面は粗いナデ、内面はハケ調整される。また、胎土が非常に緻密であり、焼成が硬質な点も他の羽釜と様相を異にする資料である。

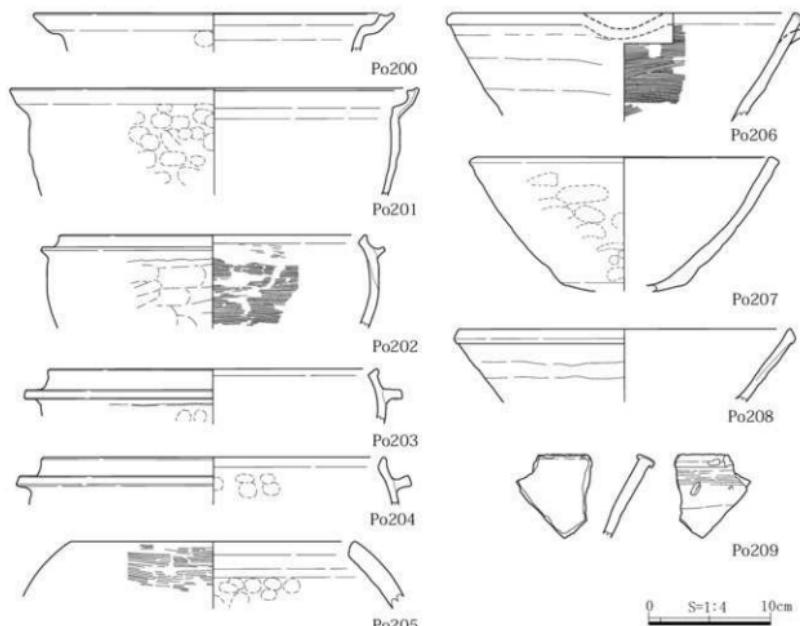
Po205は風炉であり、外面を細かいミガキによって調整したのち炭素吸着を行っている。

Po206は片口鉢であり、内面はハケ調整されている。Po207~209は鉢であり、Po207はやや丸みを帯びた底部が確認できる。口縁端部の形状には、ナデによって面取りするPo207、段を設けるPo208、粘土の貼付けによって拡張するPo209と差異が認められる。

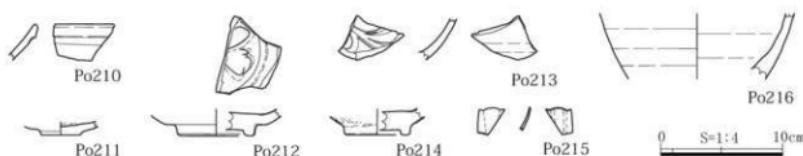
Po210~216は貿易陶磁である。Po210は白磁碗IV類、Po211は白磁皿VI類で11世紀後半から12世紀前半に属す。Po212~214は龍泉窯系青磁碗であり、Po212がI 2~4類、Po213がI 2類で12世紀中頃から後半、Po214がII b類で13世紀前後から前半に属す。Po215は青白磁の碗または皿で11世紀後半から12世紀後半に属す。Po216は中国陶器壺で陶器B群に該当する中世の資料である。



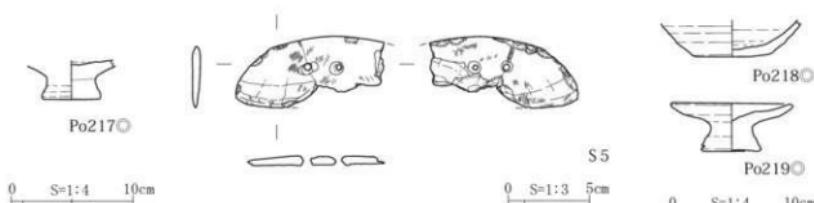
第147図 Ⅲ層出土遺物 (1)



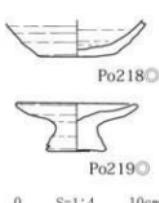
第148図 Ⅲ層出土遺物（2）



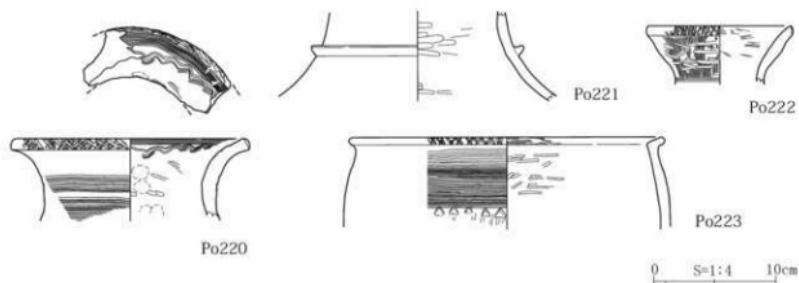
第149図 Ⅲ層出土遺物（3）



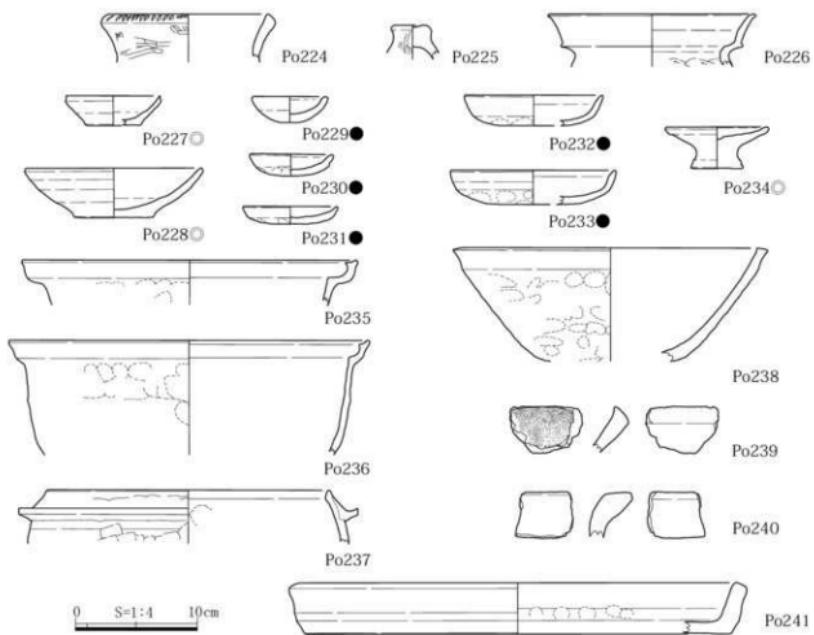
第150図 Ⅲ-1層出土遺物



第151図 Ⅲ-2層出土土器



第152図 IV層出土土器



第153図 調査区内出土土器

III-1層出土遺物（第150図、図版65・82）

Po217とS 5を図化した。Po217は土師器柱状高台である。底部外面には回転糸切りによる切り離し痕跡が残る。いずれも11世紀後葉から12世紀中葉のものと考えられる。

S 5は石庖丁である。安山岩の横長薄片を素材とし、研磨によって両刃の刃部を成形している。正面左側の孔は複数回の試行のうち穿孔に成功している。弥生時代に属する資料である。

III-2層出土遺物（第151図、図版65・67）

Po218・219を図化した。Po218は回転台土師器の坏である。Po219は柱状高台であり、底部外面には回転糸切りによる切り離し痕跡が残る。これらは11世紀後葉から12世紀中葉のものと考えられる。

IV層出土土器（第152図、図版74）

Po220～223はIV層から出土した弥生土器で、Po220～222は壺、Po223は甕である。Po220は緩やかに外反する口縁をもち、端部は斜格子文、頭部および口唇部は櫛描平行文で加飾される。Po221は頭部下に断面三角形の貼付突帯が施される。Po222は直線的に外傾する口縁の端部は斜格子文、頭部は櫛描平行文で加飾される。Po223は逆L字状口縁の甕であり、壺Po220・222と同様、斜格子文・櫛描平行文によって加飾されている。これらの資料は弥生時代中期前葉に比定される。

調査区内出土遺物（第153～156図、図版75～82）

I層・搅乱土等から出土したPo224～241、CP4～7、S6～9を図化した。

Po224は弥生土器の壺である。緩やかに外傾する頭部をもち、口縁端部には刺突文が施される。弥生時代中期前葉に帰属すると思われる資料である。Po225は弥生土器の蓋である。外面はミガキにより調整されている。Po226は土師器甕であり、口縁端部に平坦面がつくられる。古墳時代前期前葉に比定される。

Po227～238は中世に属す資料である。Po227は回転台土師器の皿である。口縁部が直線的に立ち上がり、端部が面取りされる。Po228は坏である。内湾する口縁部をもち、口径に対して器高が低い。Po234は柱状高台である。Po227・228・234は、いずれも底部外面に回転糸切りによる切り離し痕跡が残る。

Po229～233は手づくね成形の土師器皿でいずれも側面觀は弓形を呈す。Po229は器高が高く半球状の器形である。Po230はヨコナデによって口縁部がやや外反する。Po231は口縁部の立ち上がりは緩やかで浅い器形である。Po232・233は大型品で、器高が高い。Po233の口縁部は2段のヨコナデが施される。

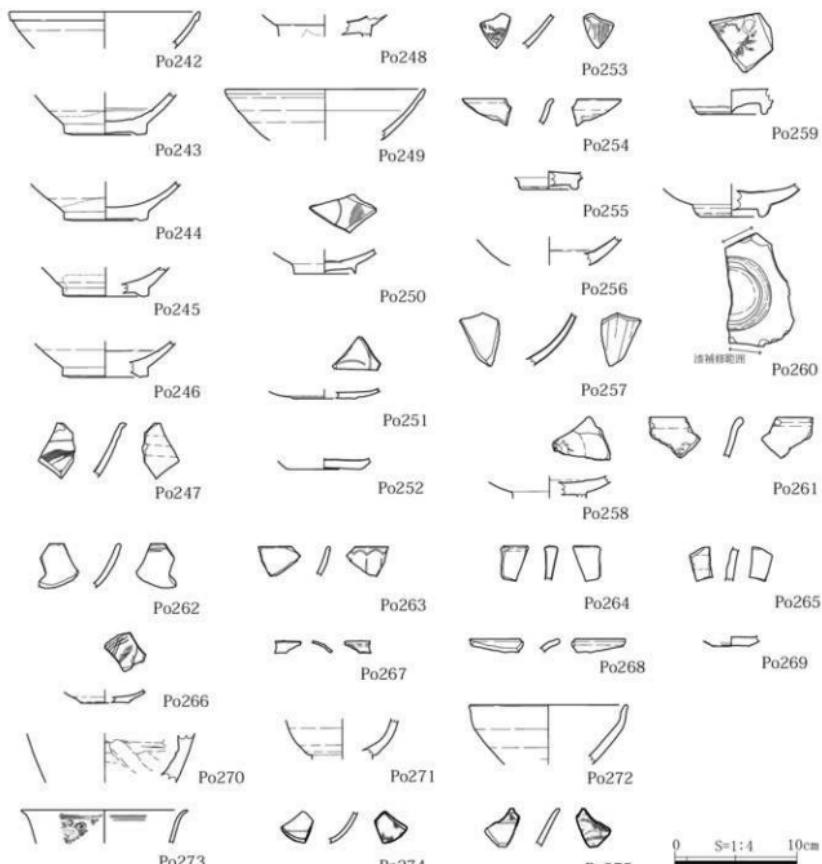
Po235・236は受け口状口縁の土師器鍋であり、外面は指頭圧痕が顯著であり、内面はナデによって調整される。Po237は瓦質土器の羽釜であり、大きく内傾する口縁部をもつ。Po238は土師器の鉢である。外面は指頭圧痕が顯著であり、口縁端部はヨコナデによって面取りされる。

Po239は擂鉢、Po240は火鉢、Po241は焙烙であり、近世に属するものと思われる。

Po242～275はI層および搅乱土等から出土した陶磁器を図化した。Po242～252は白磁である。Po242は椀II1a類、Po243・246は椀IV1類、Po244・245は椀IV1a類であり11世紀後半から12世紀前半に帰属する。Po247は椀V4b類、Po248は椀V類、Po249は椀VまたはVII2類、Po250は椀VIIbであり、12世紀中頃から後半に帰属する。Po251は皿VIIb類でC期11世紀後半から12世紀前半に、Po252は皿IX1類で13世紀中頃から14世紀初頭前後に帰属する。

Po253・254は同安窯系青磁である。Po253が椀1b類、Po254が椀III類でいずれも12世紀中頃から後半に帰属する。

Po255～264は龍泉窯系青磁である。Po255が椀I類あるいはII類、Po256が椀I1a類で12世紀中頃から後半に属する。Po257は椀III2C類で13世紀中頃から14世紀初頭前後に属する。Po258～262は椀IV



第154図 調査区内出土陶磁器

類で14世紀初頭から中頃に属する。Po259の底部内面には焼成時の焼付き痕が認められる。Po260は割れ口の一部に補修に用いられたとみられる漆が残存している。Po262は椀IV類の中では良質の方である。Po263は椀上田BIV類に該当する。Po264は香炉である。Po265は高麗青磁の壺類である。

Po266・267は青白磁である。Po266は皿であり、Po267は合子蓋とみられる。

Po268・269は瀬戸焼である。Po268は端反皿で16世紀代のものと考えられる。Po269は皿の底部であり、内面に施釉される。回転糸切りの痕跡を残す。Po270は灰釉の瓶子で古瀬戸製品とみられる。Po271・272は天目茶碗で、釉が一部にぶい赤褐色を呈し、16世紀以降のものとみられる。Po273～275は染付碗もしくは皿で中国産とみられる。Po273・275は小野B群に該当し、16世紀中頃以降のも

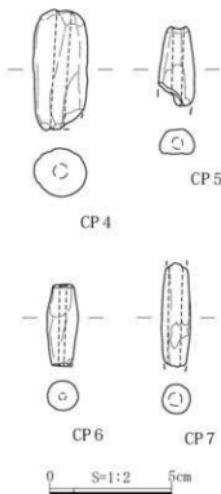
のである。

CP 4～7は土錘である。CP 4は楕円形の断面を呈し、両端が面取りされている。CP 5～7はいずれも中央部が膨らむ形状であるが、プロポーションおよび孔の径には差異がみられる。

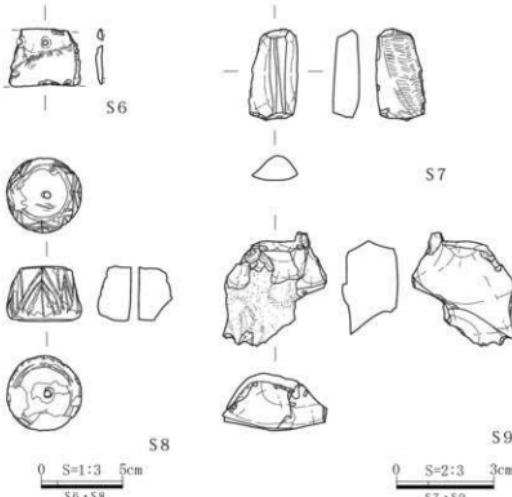
S6は粘板岩の横長剥片を素材とした石庖丁である。素材の剥落によって裏面が失われているが、両刃の刃部がつけられていたものとみられる。S7は緑色凝灰岩製の管玉未製品である。自然面を残す素材を剥離・研削することで成形を試みている。S8は凝灰岩製の紡錘車である。上面・下面ともに研削によって縁辺に段を形成し、側面には矢羽根状の、下面には圓線上の文様が刻まれる。S9は玉隨製の二次加工のある剥片である。自然縫に打面を設けたのち剥離した剥片の縁辺に背面側から加工を加えている。

実測図非掲載遺物（図版66・69・78・80～82）

写真のみを掲載した遺物には、回転台土師器坏Po276・277、土師器片口鉢Po278、青磁Po279～295、白磁Po296～311・313、青白磁Po312、中国陶器Po314、越前焼Po315、中世須恵器Po316・317、近世陶磁器Po318～327、不明鉄製品F1・2がある。



第155図 調査区内出土土製品



第156図 調査区内出土石器

第4節 遺物觀察表

第30表 土器觀察表（1）

遺物 番号	図版 番号	SL上 番号	調査区 T&G	遺構 番号	集合者機 制別機	層位	標題	法量 (cm)			特徵 (形態等)	出土 状況	地質	地圖	備考	
								直徑	口径	底径						
Po1	16	62-1	691 705	10F-3c	188	645遺	土壌	土器部 鍋	△14.0	Φ11.6	—	内面：口縁部斜方。底面ハリ接 内面：1号底部斜方。底面ハリ接 外縁：工芸によるルメ	良 良好	内面：口部～底部一側 内面：口部～底部一側	前面削・後化付着	
Po2	23	62-1	147	HE-10c	188	108	1層	土器部 器	1.4	7.2	—	内面：縦ナギ。底面底部オサヌ 内面：縦ナギ。底面オサヌ	良 良好	内面：口部～底部一側に 内面：口部～底部一側	手づくね成型	
Po3	23	62-1	152	HE-10c	188	108	1層	瓦質土器 器	△1.1	—	—	内底部も縦ナギ	良 良好	内面：瓦質	内面：瓦質	
Po4	23	62-1	166	HE-2c	188	201	1層	瓦質土器 器	△5.6	Φ10.4	—	内面：縦ナギ 内面：ハナギナギ	良 良好	内面：口部～底部一側に 内面：口部～底部一側	内面削・内面削	
Po5	23	62-1	148	HE-1c	188	108	1層	繩柄土器 器	△4.2	—	内面：ナギ 内面：ナギ。鋸目	良 良好	内面：口部～底部一側 内面：口部～底部一側	内面削・内面削		
Po6	23	79	182	HE-1d	188	301	1層	白陶 器	△5.1	Φ16.4	—	内面：口縁部斜方。底面11.7ハ 内面：口縁部斜方。底面11.7ハ 内面：底部	良 良好	外縁削・底部削 内面削・底部削 内面削	口縫切・腰窓 口縫切・腰窓 内孔丸	
Po7	23	79	161	HE-1c	188	201	1層	白陶 器	△2.9	—	—	内面削・施釉	良 良好	施釉部	施釉部	施釉部白色
Po8	23	77	166	HE-1d	188	301	1層	青磁 器	△2.1	—	#6.1	内面：施釉。底部斜方。高台底部 施釉2.9	良 良好	施釉部	施釉部	施釉部第4号厚 施釉部
Po9	23	77	169	HE-1e	188	301	1層	青磁 器	△4.0	—	—	内面：施釉。施釉2.9 内面：施釉	良 良好	施釉部	施釉部	施釉部第4号厚 施釉部
Po10	23	77	179	HE-1-2d	188	301	1層	青磁 小鉢	△1.2	—	#3.5	内面：施釉。高台底部斜方。 内面：施釉	良 良好	施釉部	施釉部	施釉部厚 施釉部
Po11	23	81-1	183	HE-1d	188	301	1層	白陶 器	△2.6	Φ12.3	—	内外面：施釉	良 良好	—	—	小野工作
Po12	29	64	1919	10F-3d	208	瓦立式建物 12 665c	1層	土器部 器	△2.6	Φ12.6	#5.9	内面：回転ナギ 内面：回転ナギ	良 良好	内面：底部斜方 内面：底部斜方	底部斜方 底部斜方	底部斜方
Po13	29	63-1	786	10F-3d	208	瓦立式建物 12 665c	1層	土器部 器	4.1	Φ13.8	6.4	内面：回転ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 良好	内面：口部～底部高脚部。 内面：小鉢	内面：口部～底部高脚部。 内面：小鉢	底部斜方 底部斜方
Po14	29	64	857 807	10F-1d	208	瓦立式建物 12 665c	1層	土器部 器	3.9	Φ15.7	#6.9	内面：回転ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 中好	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部
Po15	29	64	937	10F-1d	208	瓦立式建物 12 665c	土壌	土器部 器	3.2	—	5.4	内面：回転ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 良好	内面：底部斜方 内面：底部斜方	底部斜方 底部斜方	内面：底部斜方
Po16	29	64	808	9F-10d	208	瓦立式建物 12 665c	1層	土器部 器	△1.8	—	5.6	内面：回転ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 中好	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部
Po17	29	64	938	9F-10d	208	瓦立式建物 12 665c	1層	土器部 器	△2.4	—	#5.6	内面：回転ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 中好	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部
Po18	29	64	777 796	10F-1e	208	瓦立式建物 12 665c	土壌	土器部 器	△1.7	—	#6.0	内面：回転ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 良好	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部
Po19	29	64	736	10F-1e	208	瓦立式建物 12 665c	1層	土器部 器	△2.0	—	#1.8	内面：回転ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 中好	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部
Po20	29	63-1	937	10F-1d	208	瓦立式建物 12 665c	土壌	土器部 器	△2.4	—	6.8	内面：回転ナギ 内面：回転ナギ。	良 良好	内面：底部斜方 内面：底部斜方	底部斜方 底部斜方	内面：底部斜方
Po21	29	63-2	737	10F-1e	208	瓦立式建物 12 665c	1層	土器部 器	△2.7	—	—	内面：回転ナギ。底部回転ナギ 内面：回転ナギ。	良 良好	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部
Po22	29	63-2	730	10F-3e	208	瓦立式建物 12 665c	1層	土器部 器	△2.4	—	—	内面：回転ナギ。底部回転ナギ 内面：回転ナギ。	良 良好	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部
Po23	29	64	937	10F-1d	208	瓦立式建物 12 665c	土壌	土器部 器	1.6	#8.4	#5.6	内面：回転ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 良好	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部
Po24	29	64	807	10F-1d	208	瓦立式建物 12 665c	1層	土器部 器	1.9	#8.4	#5.6	内面：回転ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 良好	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部
Po25	29	64	806	10F-1e	208	瓦立式建物 12 665c	土壌	土器部 器	2.0	#8.6	#4.6	内面：回転ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 良好	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部
Po26	29	63-1	792	10F-1d	208	瓦立式建物 12 665c	1層	土器部 器	2.4	8.6	4.8	内面：回転ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 中好	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部
Po27	29	64	1885	10F-1c	208	瓦立式建物 12 665c	1層	土器部 器	2.1	#8.7	#5.1	内面：回転ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 良好	内面：底部斜方 内面：底部斜方	底部斜方 底部斜方	内面：底部斜方
Po28	29	64	732 864	10F-3e	208	瓦立式建物 12 665c	1層	土器部 器	2.4	#9.1	#5.3	内面：回転ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 良好	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部
Po29	29	63-1	791	10F-1d	208	瓦立式建物 12 665c	1層	土器部 器	2.2	8.9	5.3	内面：回転ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 良好	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部
Po30	29	64	788	10F-1d	208	瓦立式建物 12 665c	1層	土器部 器	1.7	#9.6	#3.6	内面：回転ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 中好	内面：底部斜方 内面：底部斜方	底部斜方 底部斜方	内面：底部斜方
Po31	29	63-1	789	10F-1d	208	瓦立式建物 12 665c	1層	土器部 器	1.8	8.6	5.0	内面：回転ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 中好	内面：口部～底部一側 内面：口部～底部一側	内面：口部～底部一側 内面：口部～底部一側	内面：口部～底部一側
Po32	29	64	807	10F-1d	208	瓦立式建物 12 665c	1層	土器部 器	1.7	#8.8	#1.7	内面：回転ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 中好	内面：底部斜方 内面：底部斜方	底部斜方 底部斜方	内面：底部斜方
Po33	29	64	760 807	10F-1d	208	瓦立式建物 12 665c	1層	土器部 器	1.7	#9.3	#5.5	内面：回転ナギ。ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 良好	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部 内面：口部～底部高脚部	内面：口部～底部高脚部
Po34	29	63-1	790	10F-1d	208	瓦立式建物 12 665c	1層	土器部 器	1.9	8.6	4.6	内面：回転ナギ。底部回転系留部 内面：回転ナギ。	良 中好	内面：口部～底部一側 内面：口部～底部一側	内面：口部～底部一側 内面：口部～底部一側	内面：口部～底部一側

第3章 山ノ下遺跡の調査成果

第31表 土器観察表（2）

番号	測定番号	測定	土器番号	測定区	測定	測定	測定	測定(cm)			特徴(豪華型)	出土場所	孔溝	備考		
								高さ	幅	底径						
P-35	29	64	937	H-1d	28	底付建物 12 6668(?)	厚土	土器番号 17	17	86.4	#48	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色～灰 い褐色		
P-36	29	63-1	793	H-1d	28	底付建物 12 6668	1層	土器番号 17	17	86	#47	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色		
P-37	29	63-1	794	H-1d	28	底付建物 12 6668	1層	土器番号 17	17	82.2	-	#40	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 やや良好	内面と底灰白色～灰 い褐色	
P-38	29	63-1	795	H-1d	28	底付建物 12 6668	1層	土器番号 17	17	82.9	-	#45	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 やや良好	内面と底灰白色	
P-39	29	63-1	808	H-1d	28	底付建物 12 6668	1層	土器番号 17	17	82.8	-	#44	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 やや良好	内面：灰白色 内面：浅黄褐色～灰 い褐色	
P-40	29	63-1	807	H-1d	28	底付建物 12 6668	1層	土器番号 17	17	83.1	-	#49	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 やや良好	内面と底灰白色	
P-41	29	63-2	795	H-1d	28	底付建物 12 6668	1層	土器番号 17	17	82.8	#286	-	内面：工具によるナギ 内面：白泥落部、擦傷ケリア加工	裏 良好	内面：灰白色 内面：灰白色～灰 い褐色	外削痕・灰化跡有り
P-42	29	63-2	806	H-1e	28	底付建物 12 6797(?)	厚土	土器番号 17	17	83.8	-	-	内面：1面落ナギ、指オサス、擦傷 ケリア加工	裏 良好	内面：灰白色 内面：灰白色～灰 い褐色	外削痕・底付焼化物有り
P-43	29	79	661	H-1d	28	底付建物 12 6668	底瓦上 1層	白磁 底	△47	-	-	-	内面：施釉、回転ハラタキリ。下端 柱孔付	裏 良好	施釉底 白磁底	主4期 底付焼化物入り灰 厚土付 削痕有り
P-44	30	62-3	937	H-1d	28	6678	厚土	土器番号 21	21	88.6	#52	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色		
P-45	30	62-3	809	H-1d	28	6678	厚土	土器番号 21	21	84.7	#49	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面：灰白色～灰 い褐色		
P-46	30	62-3	809	H-1d	28	6678	厚土	土器番号 21	21	83.6	-	#136	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色	
P-47	30	62-3	941	H-1d	28	6678	厚土	土器番号 21	21	82.1	-	#53	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面：灰白色～灰 い褐色	
P-48	30	65-3	905	H-1d	28	6678	厚土	土器番号 21	21	82.4	-	#48	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色	
P-49	30	78-4	930	H-1d	28	6678	厚土	白磁 底	△29	-	-	#54	内面：施釉、高合口・底付落葉 施釉	裏 良好	内面と底灰白色	主4期
P-50	32	62-3	818	H-1d	28	6741.8	厚土	土器番号 29	29	-	#59	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色～灰 い褐色		
P-51	32	62-3	818	H-1d	28	6741.8	埋土	土器番号 23	23	88.8	#57	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色 内面：施釉底	内面：施釉底	
P-52	34	65-2	847	H-1e	28	682.2	1層	土器番号 46	46	147	54	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色 内面：白泥落部	外削痕・底付泥有り	
P-53	34	62-3	745	H-1e	28	683.2	厚土	土器番号 △19	-	-	#54	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色		
P-54	34	62-3	873	H-1d	28	682.2	厚土	土器番号 △22	-	-	#66	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色	△1期	
P-55	34	62-3	863	H-1e	28	694.2	厚土	土器番号 △36	-	-	#61	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面：施釉底 内面：灰白色～灰 い褐色		
P-56	34	62-3	863	H-1e	28	694.2	厚土	土器番号 △21	-	-	#53	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色		
P-57	34	62-3	866	H-1d	28	696.2	1層	土器番号 22	22	84.7	#46	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色		
P-58	34	62-3	898	H-1e	28	699.2	厚土	土器番号 △14	-	-	#44	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色		
P-59	34	65-3	784	H-1e	28	697.2	1層	土器番号 柱孔付	34	99.8	#41	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色～灰 い褐色		
P-60	34	65-3	863	H-1e	28	698.2	1層	土器番号 △33	-	-	#46	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色		
P-61	34	65-3	1126	H-1e	28	702.2	厚土	土器番号 △35	-	-	#51	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色		
P-62	34	65-3	805	H-1d	28	696.2	1層	土器番号 柱孔付	22	84.4	-	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色		
P-63	34	80-4	875	H-1d	28	697.2	2層	湖面	△45	99.5	#303	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色～灰 い褐色		
P-64	34	79	726	H-1d	28	697.2	1層	白磁 底	△19	-	#66	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面：白磁底 内面：灰白色～灰 い褐色	△1期	
P-65	40	62-2	244	H-1c	28	701	厚土	土器番号 △19	△19	117	-	内面：施釉、底付落葉ナサニ 内面：施釉ナサニ、底付ナサニ	裏 良好	内面と底灰白色	手づくね成型	
P-66	40	62-2	240	H-1c	28	508	厚土	土器番号 △30	30	#122	-	内面：施釉、底付落葉ナサニ 内面：施釉ナサニ	裏 良好	内面と底灰白色	手づくね成型	
P-67	40	62-2	244	H-1c	28	701	厚土	土器番号 △38	△38	#170	-	内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色	手づくね成型	
P-68	40	62-2	240	H-1c	28	508	厚土	土器番号 △60	△60	#260	-	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面：灰白色 内面：浅黄褐色～灰 い褐色	手づくね成型	
P-69	40	65-1	276	H-1c	28	701	厚土	灰質土 1号 1号 1号	△89	#240	-	内面：1面落葉ナギ、底付落葉ナサニ 内面：1面落葉ナギ、底付ナサニ	裏 良好	内面：灰白色 内面：灰白色	主1期 外削痕に施釉剥離有り	
P-70	40	79	244	H-1d	28	701	厚土	白磁 底	△17	-	#78	内面：施釉	裏 良好	内面：灰白色	外削痕に底付剥離有り	
P-71	40	77-1	244	H-1d	28	701	厚土	白磁 底	△28	-	-	内面：1面落葉ナギ、底付落葉ナサニ 内面：1面落葉ナギ、底付ナサニ	裏 良好	内面：灰白色	手づくね成型	
P-72	42	67-2	296	H-1c	28	908	1層	土器番号 △21	21	97.9	#49	内面：回転ナギ、底部回転系切引 内面：回転ナギ	裏 良好	内面と底灰白色	外削痕に底付剥離有り	
P-73	42	67-2	297	H-1c	28	908	1層	土器番号 △29	△29	98.0	-	内面：施釉、底付落葉ナサニ（单 面不規則） 内面：施釉ナサニ	裏 良好	内面と底灰白色	手づくね成型	
P-74	42	67-2	297	H-1c	28	908	1層	土器番号 △25	△25	#113	-	内面：施釉、底付落葉ナサニ 内面：施釉ナサニ	裏 良好	内面と底灰白色	手づくね成型	

第32表 土器觀察表（3）

番号	種類	固有号	取上	調査区 745-0	地図	地名	面積	面積	面積 (ha)		特徴	地上風向	名属	備考		
									面積	田代						
Fu75	42	67-2	296	95-2c	388	横	1面	土砂留置 場	△24	*113	-	外周：植生テープ、花壇テープ+サイカ 内周：草木	良好	外周：草木+樹木、内周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu76	42	67-2	297	95-1c	388	横	1面	土砂留置 場	27	*124	-	外周：植生テープ、花壇テープ+サイカ 内周：草木	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu77	42	67-2	398	95-2c	388	横	1面	土砂留置 場	△34	*312	-	外周：植生テープ、花壇テープ+サイカ 内周：草木	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu78	42	67-2	297	95-1c 95-2c	388	横	1面	土砂留置 場	△53	*306	-	外周：植生テープ+サイカ、花壇テープ+サイカ 内周：草木	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu79	43	77	298	95-2c	388	横	1面	貯留場 跡	△21	-	-	外周：植生テープ、花壇テープ 内周：草木	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu80	45	67-2	287	96-10c	388	1001	面土	土砂留置 場	△20	-	*71	-	外周：植生テープ、花壇テープ、低張防砂網初期 内周：草木	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型
Fu81	45	67-2	293	95-1c	388	13横	面土	土砂留置 場	11	*88	-	外周：植生テープ、花壇テープ+サイカ 内周：草木	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu82	45	67-2	290	95-1c	388	13横	面土	土砂留置 場	12	*00	-	外周：植生テープ、花壇テープ+サイカ 内周：草木	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu83	45	67-2	287	96-10c	388	1001	面土	土砂留置 場	22	*118	-	外周：植生テープ、花壇テープ+サイカ 内周：草木	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu84	47	67-2	142	100-1c	388	747横	面土	土砂留置 場	△10	-	*45	外周：回転テープ、低張防砂網初期 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu85	47	67-2	132	100-1c	388	746横	面土	土砂留置 場	37	*144	*58	外周：回転テープ、低張防砂網初期 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu86	49	68-1	692	95-2c	488	488	488	488	488	*142	63	外周：回転テープ、低張防砂網初期 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu87	49	68-1	803	95-1c	488	488	488	488	488	*141	62	外周：回転テープ、低張防砂網初期 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu88	49	68-1	692	95-2c 513	488	488	488	488	488	*140	62	外周：回転テープ、低張防砂網初期 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu89	49	68-1	472	95-1c	488	488	488	488	488	*139	62	外周：回転テープ、低張防砂網初期 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu90	49	68-1	472	95-1c	488	488	488	488	488	*138	62	外周：回転テープ、低張防砂網初期 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu91	49	68-2	493	95-1c	488	488	488	488	488	*139	62	外周：回転テープ、低張防砂網初期 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu92	49	68-1	512	95-2c 518	488	488	488	488	488	*140	62	外周：回転テープ、低張防砂網初期 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu93	49	68-2	472	95-1c	488	488	488	488	488	*140	62	外周：回転テープ、低張防砂網初期 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu94	72	68-3	648	95-2b	488	488	488	488	488	*132	62	外周：植生テープ 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu95	72	68-3	656	95-2b	488	488	488	488	488	*132	62	外周：植生テープ 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu96	76	68-5	626	95-3c	488	488	488	488	488	*131	62	外周：植生テープ 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu97	76	68-5	626	95-3c	488	488	488	488	488	*130	62	外周：植生テープ 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu98	76	68-5	626	95-3c	488	488	488	488	488	*129	62	外周：植生テープ 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu99	76	68-4	626	95-3c	488	488	488	488	488	*129	59	外周：回転テープ+サイカ、低張防砂網初期 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu100	76	68-4	646	95-3c	488	488	488	488	488	*129	58	外周：回転テープ、低張防砂網初期 内周：回転テープ+サイカ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu101	76	78-2	1699	100-2F	488	488	488	488	488	*129	58	外周：植生テープ 内周：回転テープ+サイカ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu102	94	78-2	1377	100-2F	488	488	488	488	488	*129	58	外周：植生テープ 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu103	94	69	1014	100-2F	488	488	488	488	488	*129	58	外周：植生テープ 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu104	94	69	1044	100-2F	488	488	488	488	488	*126	*158	外周：植生テープ 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu105	94	70-1	1044	100-2F	488	488	488	488	488	*124	-	外周：植生テープ 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu106	94	69	1723	100-2F	488	488	488	488	488	*124	-	外周：植生テープ 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu107	94	69	1699	100-2F	488	488	488	488	488	*124	*109	*58	外周：植生テープ 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型
Fu108	94	70-1	1042	100-2F	488	488	488	488	488	*120	*49	外周：植生テープ 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu109	94	49	1594	100-2F	488	488	488	488	488	*119	*47	外周：植生テープ 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	
Fu110	94	70-1	1649	100-2F	488	488	488	488	488	*119	*44	外周：植生テープ 内周：回転テープ	良好	外周：草木+樹木+花壇 内周：草木+樹木+花壇	手づくね成型	

第33表 土器観察表（4）

遺物 番号	測定 番号	測定 番号	測定区 域	遺物 種類	単品遺物 個数	測定 範囲	測定 (cm)			特徴 (豪華型)	出土 状況	孔溝	備考
							底高	口径	底径				
Po111	94-69	1328	10F-26	4番	1	土器部 底	1.9	Φ8.6	4.6	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内外面とも薄灰白色 内面
Po112	94-69	1116	10F-26	4番	1	土器部 底	△1.8	Φ8.2	Φ4.6	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内外面とも灰白色・薄 灰白色
Po113	94-69	1125	10F-26	4番	1	土器部 底	△1.6	Φ8.9	Φ5.0	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内外面とも灰白色
Po114	94-70-1	1645	10F-26	4番	1	土器部 底	1.6	Φ8.3	5.2	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内面 内面 内面 内面
Po115	94-70-1	1664	10F-46	4番	1	土器部 底	1.9	Φ8.5	4.6	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内面 内面 内面 内面
Po116	94-69	1113	10F-26	4番	1	土器部 底	△1.7	Φ8.4	—	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ 回転ナデ	良好	内面 内面 内面 内面
Po117	94-69	1113	10F-26	4番	1	土器部 底	1.5	Φ7.8	Φ3.6	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内面 浅黄褐色 内面 浅黄褐色
Po118	94-69	1113	10F-26	4番	1	土器部 底	1.6	Φ8.2	Φ4.2	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内面 内面 内面 内面
Po119	94-69	958	10F-26	4番	1	土器部 底	1.3	Φ8.6	Φ5.1	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内面 浅黄褐色 内面 浅黄褐色
Po120	94-69	1627	10F-46	4番	1	土器部 底	△1.3	Φ8.8	—	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内面 内面 内面 内面
Po121	94-69	1627	10F-26	4番	1	土器部 底	1.5	Φ9.0	—	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内面 内面 内面 内面
Po122	94-69	1431	10F-26	4番	1	土器部 底	△1.3	Φ8.7	—	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内外面とも薄色・浅 黄褐色
Po123	94-69	1641	10F-26	4番	1	土器部 底	△1.4	—	4.9	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内面 内面 内面 内面
Po124	94-69	1644	10F-26	4番	1	土器部 底	△1.3	—	Φ5.2	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内面 内面 内面 内面
Po125	94-69	1726	10F-46	4番	1	土器部 底	0.4	—	Φ4.8	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内面 浅黄褐色 内面 浅黄褐色
Po126	94-69	1667	10F-26	4番	1	土器部 底	△1.5	—	Φ4.4	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内面 内面 内面 内面
Po127	94-69	1118	10F-26	4番	1	土器部 底	△1.9	Φ8.8	—	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内面 内面 内面 内面
Po128	94-70-1	1674	10F-26	4番	1	土器部 柱頭直付	△2.9	—	4.7	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内外面とも薄灰白色
Po129	94-70-1	1051	11M-26	4番	1	土器部 底	△1.7	—	Φ12.6	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、下部ナズリ、底部 回転ナデ、底部回転ナズリ	良好	内面 内面 内面 内面
Po130	97-70-2	998	9F-6h	4番	1	土器部 底	△2.2	—	Φ6.3	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、高台回転ナズリ、底部 回転ナズリ、底部回転ナズリ	良好	内面 内面 内面 内面
Po131	99-70-2	1638	9F-10M	4番	1	土器部 底	△2.2	—	5.6	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内面 浅黄褐色 内面 浅黄褐色
Po132	108-71-1	1706	10F-26	4番	1	土器部 底	△2.4	9.2	5.1	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内外面とも灰白色 内面
Po133	108-71-2	1737	10F-26	4番	1	土器部 底	1.6	Φ8.6	Φ5.6	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内面 内面 内面 内面
Po134	108-71-2	1737	10F-26	4番	1	土器部 底	△1.6	Φ9.4	—	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内面 内面 内面 内面
Po135	108-71-2	1422	10F-26	4番	1	土器部 底	△1.6	—	Φ5.3	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内面 内面 内面 内面
Po136	108-71-2	1695	10F-26	4番	1	土器部 底	△2.9	—	Φ13.1	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転ナズリ 回転ナズリ	良好	内面 内面 内面 内面
Po137	108-71-2	1514	10F-1-26	4番	1	土器部 底	△1.3	—	Φ6.1	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転系留型 回転ナデ、底部回転系留型	良好	内外面とも灰白色
Po138	108-71-2	1133	10F-26	4番	1	土器部 柱頭直付	△2.5	—	—	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転ナズリ 回転ナズリ	良好	内外面とも灰白色
Po139	108-71-1	1455	10F-1e	4番	1	土器部 底	△1.9	—	Φ18.7	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転ナズリ 回転ナズリ	良好	内外面とも灰白色
Po140	114-74-1	1986	10F-1d	4番	1	粘土土器 底	△2.3	—	Φ22.0	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転ナズリ、体部調和型 回転ナズリ	良好	内外面とも灰白色
Po141	114-74-1	1956	10F-1d	4番	1	粘土土器 底	△4.3	—	—	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転ナズリ、体部調和型 回転ナズリ	良好	内面 浅黄褐色 内面 浅黄褐色
Po142	114-74-1	1403	10F-1d	4番	1	粘土土器 底	△3.4	—	—	内面 凹面 内面 内面	回転ナデ、底部回転ナズリ、体部調和型 回転ナズリ	良好	内面 浅黄褐色 内面 浅黄褐色

第34表 土器觀察表（5）

遺物 番号	測定 番号	測定 版	取引 番号	調査区 名	遺物 名	集合遺物 名	部位	埋蔵 層	尺度 (cm)			特徴 (測定等)	出土 状況	名前	備考
									高さ	口徑	底径				
Po143	114	74-1	1966	10P-1d	408	土器部	1層	馬生上唇 部	5.50	Φ17.9	—	外側：口縁部削り足。底部ナメ 内側：口縁部ナメ。底部へタガキ 毛	良 良好	内外面ともに赤い黄褐色	—
Po144	114	74-1	1702	10P-1d	408	土器部	1層	馬生上唇 部	5.68	—	外側：口縁部削り足。ヘラミギキ、 内側：口縁部削り足。ヘラミギキ 毛	良 良好	内外面：口部・黃褐色～ 内面：灰褐色	—	
Po145	114	74-1	1402	10P-1d	408	土器部	1層	上唇部 部	1.9	Φ0.8	Φ1.6	外側：口縫部削り足。底部削り足傾 内側：口縫部削り足	良 普通	内外面とも灰白色	—
Po146	121	72	970	10P-1d	408	60上灰	1層	土器部 部	1.4	Φ14.8	Φ5.9	外側：口縫部ナメ。底部削り足傾 内側：口縫部ナメ	良 良好	内外面とも灰白色・糊 色	—
Po147	121	71-3	971	10P-1d	408	60上灰	1層	土器部 部	4.5	Φ14.3	5.6	外側：口縫部ナメ。底部削り足傾 内側：口縫部ナメ	良 良好	内外面とも灰白色	—
Po148	121	72-1	335	9E-1c	408	23上灰	土土	土器部 部	1.4	—	Φ7.4	外側：口縫部ナメ。底部削り足傾 内側：口縫部ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	—
Po149	121	71-3	172	9E-8b	408	2096上灰	1層	土器部 部	4.9	Φ15.1	2.6	外側：口縫部ナメ。底部削り足傾 内側：口縫部ナメ。底部削り足傾 内側：口縫部ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	外底部に灰斑残
Po150	121	72	1576	10P-2e	408	950上灰	土土	土器部 部	5.19	—	Φ5.1	外側：口縫部ナメ。底部削り足傾 内側：口縫部ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	—
Po151	121	72	306	9E-1-2e	408	14上灰	土土	土器部 部	1.6	Φ9.0	—	外側：口縫部ナメ。底部ナメ～角 内側：口縫部ナメ。底部ナメ～角 内側：口縫部ナメ	良 良好	内外面ともに灰白色 ～に赤い褐色	手づくね成型
Po152	121	73	172	9E-4b	408	2096上灰	1層	土器部 部	1.65	Φ27.8	—	外側：ナメナメナメ 内側：ナメナメナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	外側脚・灰化物付着 色
Po153	121	73	306	9E-1-2e	408	14上灰	土土	土器部 部	2.97	Φ31.2	—	外側：口縫部ナメ。底部ナメ～角 内側：口縫部ナメ。底部ナメ～角 内側：口縫部ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	外側脚付着
Po154	121	73	343	9E-1d	408	120唐	1層	瓦質上唇 部	5.10	Φ31.9	—	外側：口縫部ナメナメ。底部削り足工 内側：口縫部ナメナメ。底部削り足工 内側：口縫部ナメナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	外側脚付着
Po155	121	73	343	9E-1d	408	120唐	1層	瓦質上唇 部	5.87	Φ24.5	—	外側：口縫部ナメナメ。底部削り足工 内側：口縫部ナメナメ	良 良好	内外面とも灰白色～糊 色	外側脚付着
Po156	130	72	391	10P-2e	408	1107-1ト	1層	土器部 部	2.0	Φ7.8	Φ5.3	外側：口縫部ナメ。底部削り足傾 内側：口縫部削り足。底部削り足ナメ 内側：口縫部ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	—
Po157	130	71-3	1993	10P-3g	408	1037-1ト	泥土	土器部 部	2.0	7.3	4.8	外側：口縫部ナメ。底部削り足傾 内側：口縫部ナメ。底部削り足ナメ 内側：口縫部ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	—
Po158	130	72	1996	10P-3g	408	1037-1ト	1層	土器部 部	2.0	Φ8.2	Φ5.3	外側：口縫部ナメ。底部削り足傾 内側：口縫部ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	—
Po159	130	72	1169	10P-2f	408	789-1ト	1層	土器部 部	1.7	Φ7.9	Φ2.6	外側：口縫部ナメ。底部削り足傾 内側：口縫部ナメ	良 良好	内外面とも灰白色～糊 色	—
Po160	130	72	1677	10P-1d	408	4072-1ト	泥土	土器部 部	2.1	Φ9.1	Φ4.8	外側：口縫部ナメ。底部削り足傾 内側：口縫部ナメ。底部削り足ナメ 内側：口縫部ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	外底部にも灰白色
Po161	130	72	1590	10P-3d	408	9076-1ト	1層	土器部 部	2.2	Φ9.0	Φ5.0	外側：口縫部ナメ。底部削り足傾 内側：口縫部ナメ。底部削り足ナメ 内側：口縫部ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	—
Po162	130	72	1483	10P-2e	408	8287-1ト	泥土	土器部 部	2.3	Φ10.2	Φ6.3	外側：口縫部ナメ。底部削り足傾 内側：口縫部ナメ。底部削り足ナメ 内側：口縫部ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	—
Po163	130	72	547	9E-1c	408	314-1ト	1層	土器部 部	2.3	Φ6.3	—	外側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	手づくね成型
Po164	130	71-3	546	9E-1c	408	314-1ト	1層	土器部 部	1.4	7.9	—	外側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	手づくね成型
Po165	130	72	430	9E-1c	408	75-1-1ト	泥土	土器部 部	1.3	Φ6.2	—	外側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	手づくね成型
Po166	130	72	238	9E-1c	408	261-1ト	泥土	土器部 部	2.3	Φ12.2	—	外側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	手づくね成型
Po167	130	72	416	9E-2c	408	100-1ト	泥土	土器部 部	1.8	Φ6.2	—	外側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	手づくね成型
Po168	130	72	546	9E-1c	408	69-1-1ト	泥土	土器部 部	2.2	Φ11.1	—	外側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	手づくね成型
Po169	130	72	1194	10P-2e-f	408	790-1ト	泥土	土器部 部	2.3	Φ12.2	—	外側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	手づくね成型
Po170	130	72	1437	10P-2e	408	810-1-1ト	泥土	土器部 部	2.9	Φ15.6	—	外側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	手づくね成型
Po171	130	72	1194	10P-2e-f	408	790-1ト	泥土	土器部 部	3.4	Φ14.0	—	外側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	手づくね成型
Po172	130	72	1437	10P-2e	408	810-1-1ト	泥土	土器部 部	3.9	Φ15.6	—	外側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	手づくね成型
Po173	130	72	1801	10P-3e	408	913-1-1ト	泥土	土器部 部	3.0	Φ11.7	—	外側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	手づくね成型
Po174	130	72	1334	10P-1d	408	887-1-1ト	泥土	土器部 部	3.7	Φ2.7	—	外側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	手づくね成型
Po175	130	72	1650	10P-3e	408	883-1-1ト	泥土	高白陶	3.3	—	Φ6.8	外側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	手づくね成型
Po176	130	71-3	1803	10P-1d	408	922-1-1ト	泥土	土器部 部	3.5	—	4.3	外側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	—
Po177	130	71-3	1169	10P-2f	408	789-1-1ト	泥土	土器部 部	3.6	—	4.9	外側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ。底部削り足ナメ 内側：縫ナメ	良 良好	内外面：口部～灰 色	手づくね成型

第35表 土器観察表（6）

物 品 番 号	属 属 番 号	測定 場 所	測定 場 所 番 号	測定区 域 T-A5-6	測定 場 所 番 号	単位 測定 場 所	測定 場 所 番 号	層位	層位	法量(cm)			特徴 (測定場所)	出土 状況	色調	備考
										高さ	11径	底径				
Po176	130	73	303	9E-Lc	4面	82ビット	1層	土器部 縫	△4.8	—	—	外周：口縁部端子、底部オサニ、側 壁足ナメ	裏 小や良好	外周：黒褐色 内周：黒褐色～暗灰色	外周復行者	
Po179	130	73	409	9E-Lc	4面	55ビット	1層	土器部 縫	△6.3	*309	—	外周：口縁部端子、底部オサニ、側 壁足ナメ	裏 小や良好	外周：黒褐色 内周：黒褐色～暗灰色	外周復行者	
Po180	132	75-2	325	9D-1	5面	288上灰	1層	土器部 縫	△5.0	*148	—	外周：口縁部端子、底部オサニ、側 壁足ナメ	裏 良好	外周：浅黄褐色～灰 内周：灰褐色	外周復行者	
Po181	131	75-1	1871	10F-2f	5面	1003上灰	1層	土器部 縫	△1.6	*184	—	外周：口縁部端子、ハラ 内周：口縁部端子、ハラ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	外周復行者	
Po182	134	75-1	1868	10F-2f	5面	1003上灰	1層	土器部 縫	△5.4	*198	—	外周：口縁部端子、底部ハラナメ 内周：口縁部端子、底部ハラ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	外周復行者	
Po183	135	74-3	1907	10F-2d	5面	1004上灰	1層	土器部 縫	△7.3	*215	—	外周：口縁部端子、ハラナメナメ 内周：部ハラナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	外周復行者	
Po184	135	74-3	1921	10F-2d	5面	1004上灰	1層	土器部 縫	△5.4	*251	—	外周：口縁部端子、底部ハラナメ 内周：灰褐色～灰褐色	裏 やや良好	外周：灰褐色 内周：灰褐色	外周復行者	
Po185	135	74-3	1909	10F-2d	5面	1004上灰	1層	土器部 縫	△6.2	*268	—	外周：口縁部端子、底部ハラナメ 内周：ハラナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	外周復行者	
Po186	135	74-3	1913	10F-2d	5面	1004上灰	1層	土器部 縫	△5.4	*244	—	外周：口縁部端子、底部ハラナメ 内周：口縁部ハラナメ	裏 やや良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	外周復行者	
Po187	137	75-3	1997	9E-10c	5面	2057上灰	1層	土器部 縫	△10.8	—	90	外周：ミサキ、底部ナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	外周復行者	
Po188	138	75-1	421	9E-2d	5面	2508	堆土	土器部 縫	△3.4	—	—	外周：口縁部端子、ミサキ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	外周復行者	
Po189	140	75-1	1851	9E-2d	5面	80B-2c+ト 段瓦上	土器部 縫	△4.9	*306	—	外周：ミサキ、底部ナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	外周復行者		
Po190	147	65-4	267	9E-10c	5面	土器部 縫	1.8	*46.8	44	—	外周：口縁ナメ、底部ハラナメ 内周：口縁ナメ	裏 良好	外周：浅黄褐色 内周：浅黄褐色	外周復行者		
Po191	147	67-1	264	9E-10d	5面	土器部 縫	1.5	*60.0	—	—	外周：ミサキ、底部ナメナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	手づくね成型		
Po192	147	67-1	292	9E-4c	5面	土器部 縫	△1.6	*77.6	—	—	外周：ミサキ、底部ナメナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	手づくね成型		
Po193	147	67-1	236	9E-4c	5面	土器部 縫	1.8	*88.3	—	—	外周：ミサキ、底部ナメナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	手づくね成型		
Po194	147	67-1	285	9E-4c	5面	土器部 縫	△2.8	*102	—	—	外周：口縁部端子、底部ナメナメ 内周：口縁部端子、底部ナメナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	手づくね成型		
Po195	147	67-1	236	9E-4c	5面	土器部 縫	3.2	*128	—	—	外周：ミサキ、底部ナメナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	手づくね成型		
Po196	147	67-1	289	9E-10e	5面	土器部 縫	△3.0	*121	—	—	外周：ミサキ、底部ナメナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	手づくね成型		
Po197	147	67-1	277	9E-1d	5面	堆土上 縫合	△2.6	—	—	—	外周：ミサキナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	手づくね成型		
Po198	147	65-4	300	9E-1d	5面	土器部 縫	△2.7	—	—	—	外周：ミサキナメ、底部ナメナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	手づくね成型		
Po199	147	67-1	284	9E-10c	5面	堆土上 縫合	△4.4	—	987	—	外周：ミサキナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	手づくね成型		
Po200	148	66	273	9E-10d	5面	土器部 縫	△3.2	*293	—	—	外周：口縁部端子、底部ナメナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	内周縫合と外周に付着 者		
Po201	148	66	299	9E-2d	5面	土器部 縫	△6.8	*332	—	—	外周：口縁部端子、底部ナメナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：浅黄褐色～灰褐色	内周縫合と外周に付着 者		
Po202	148	66	254	9E-1d	5面	瓦質上 土器部 縫	△2.7	*248	—	—	外周：口縁部端子、底部ナメナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	内周縫合あり		
Po203	148	66	199	9E-10e	5面	瓦質上 土器部 縫	△4.5	*267	—	—	外周：口縁部端子、底部ナメナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	内周縫合		
Po204	148	66	205	9E-Lc	5面	土器部 縫	△3.9	*279	—	—	外周：口縁部端子、底部ナメナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	外周縫合あり		
Po205	148	66	265	9E-4c	5面	土器部 縫	△5.5	*322	—	—	外周：口縁部端子、底部ナメナメ 内周：口縁部端子、底部ナメナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：浅黄褐色～灰褐色	外周表面吸着		
Po206	148	66	265	9E-4c	5面	土器部 縫	△6.9	*280	—	—	外周：口縁部端子、底部ナメナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	外周縫合あり		
Po207	148	76	202	9E-2d	5面	土器部 縫	△11.0	*241	—	—	外周：口縁部端子、底部ナメナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	手づくね成型		
Po208	148	66	265	9E-1b	5面	土器部 縫	△6.0	*272	—	—	外周：口縁部端子、底部ナメナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	手づくね成型		
Po209	148	66	189	9E-10e	5面	土器部 縫	△6.8	—	—	—	外周：口縁部端子、底部ナメナメ 内周：ミサキナメ	裏 良好	外周：灰褐色～灰褐色 内周：灰褐色	外周縫合あり		
Po210	149	79	264	9E-10d	5面	内縫 縫	△3.0	—	—	外周：施釉ナメ 内周：施釉	裏 良好	施釉：灰白色 施釉：灰褐色	好相			
Po211	149	79	206	9E-4c	5面	内縫 縫	△1.1	—	32	外周：施釉ナメ 内周：施釉	裏 良好	施釉：灰褐色 施釉：灰褐色	好相			
Po212	149	77	276	9E-4c	5面	青縫 縫	△2.2	—	558	外周：施釉端子ナメ 内周：施釉ハラナメ	裏 良好	施釉端子：灰白色 施釉ハラナメ：灰褐色	施釉表面吸着			
Po213	149	77	199	9E-10e	5面	青縫 縫	△3.4	—	—	外周：施釉ナメ 内周：施釉ハラナメ	裏 良好	施釉端子：灰白色 施釉ハラナメ：灰褐色	施釉表面吸着			

第36表 土器觀察表（7）

第37表 土器観察表（8）

物 品 名 称	国 籍	器 上 番 号	測 定 区 域	測 定 範 囲	単 位 測 定 標 記	位 置	横 向	法 量 (cm)		特 徴 (鑿等)	地 上 現 成	色 調	考 査
								高 さ	幅 さ				
Po252	154	79	26	9E-2e		1層	青面 鉢	0.69	—	中段・施釉	青 良好	施釉部・灰白色	真1型灰面
Po253	154	77	81	9E-1e		複数土	青面 鉢	0.28	—	内・外・施釉・縦目文	青 良好	施釉部・灰オーリーブ色	同安窯系11b型
Po254	154	77	83	9E-4f		1層	青面 鉢	0.22	—	内・外・施釉・縦目文	青 良好	施釉部・灰オーリーブ色	同安窯系11b型
Po255	154	77	91	9E-2b-c		複数土	青面 鉢	0.15	—	内・外・施釉・高台面・直底踏磨・斜 軸・ラッカリ内・外・施釉	青 良好	施釉部・グリーン色	施釉系1また以テ型高 台
Po256	154	77	13	9E-1e-d e-f		1層	青面 鉢	0.23	—	内・外・施釉	青 良好	施釉部・灰オーリーブ色	施釉系1上1層
Po257	154	77	89	9E-10e		複数土	青面 鉢	0.44	—	内・外・施釉・高足・直底踏磨・内 ・外・施釉	青 良好	施釉部・グリーン色	施釉系12C形体 施釉・灰土色
Po258	154	77	37	9E-1a		複数土	青面 鉢	0.18	—	内・外・施釉・内・外・施釉・高足	青 良好	施釉部・灰オーリーブ色 露胎部・灰黑色	施釉系1-B型1 灰土色・灰有
Po259	154	77	295	9E-1c		Ⅱ・茎部	青面 鉢	0.21	—	#52 内・外・施釉・内・外・施釉・高足	青 良好	施釉部・灰オーリーブ色 露胎部・灰黑色	施釉系1灰面(?)・高台 部・灰施釉(?)・灰有
Po260	154	77	69	9E-10e		複数土	青面 鉢	0.27	—	#51 内・外・施釉・高足・直底踏磨	青 良好	施釉部・グリーン色 露胎部・灰有	施釉系1灰面(?)・灰施 釉(?)・灰有
Po261	154	77	37	9E-1a		複数土	青面 鉢	0.33	—	内・外・施釉・内・外・施釉・豊作(?)花	青 良好	施釉部・グリーン色	施釉系1上1層 口縁・灰土色
Po262	154	77	89	9E-2b		複数土	青面 鉢	0.36	—	内・外・施釉・圓腹 内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・明暗部・ 灰軸・内・外・施釉部・明暗部	施釉系1斜腹口縁 灰土色・白有
Po263	154	77	84	9E-2b		複数土	青面 鉢	0.24	—	内・外・施釉・蓮瓣文 内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・明暗部・ 灰軸・内・外・施釉部・明暗部	施釉系1上1層 口縁・灰土色
Po264	154	77	6	9E-1b-c d		1層	青面 鉢	0.28	—	内・外・施釉	青 良好	施釉部・明オーリーブ色 露胎部	施釉系1灰面(?)・灰 土色・白有
Po265	154	77	299	9E-1e		複数土	青面 鉢	0.28	—	内・外・施釉	青 良好	施釉部・グリーン色	施釉系1B型または 露胎部・灰有
Po266	154	80-2	69	9E-10e		複数土	青白面 合子盤	0.11	—	#39 内・外・施釉・高足踏磨 内・外・施釉・合子盤	青 良好	施釉部・明暗部・ 露胎部・灰黑色	施釉系1灰面(?)・灰 土色
Po267	154	80-2	6	9E-1b-c d		1層	青白面 合子盤	0.10	—	内・外・施釉・合子盤	青 良好	施釉部・明暗部・ 露胎部・灰黑色	小型
Po268	154	81-1	12	9E-10t-e f		1層	彫刻地 彫刻地	0.11	—	内・外・施釉	青 良好	施釉部・グリーン色	施釉系1斜部
Po269	154	81-1	27	9E-1d		1層	彫刻地 彫刻地	0.08	—	#51 内・外・施釉・内・外・踏磨	青 良好	施釉部・灰オーリーブ色 内・外・施釉	施釉系1-B型 灰土色
Po270	154	81-1	37	9E-1a		複数土	彫刻地 彫刻地	0.00	—	内・外・施釉	青 良好	施釉部・グリーン色 内・外・施釉	施釉系1上1層 口縁・灰土色
Po271	154	81-1	60	9E-1b- 9E-4c		複数不明 (?)レンゲ	青白 茶系	0.34	—	内・外・施釉・内・外・踏磨	青 良好	内・外・施釉部・明暗部・ 内・外・施釉・合子盤	施釉系1灰面(?)・灰 土色・白有
Po272	154	81-1	695	9E-4d		複数土	豆白 茶系	0.49	#128	— 内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・明暗部・ 内・外・施釉	小野寺群
Po273	154	81-1	294	9E-10d		複数不明 (?)レンゲ	青竹 施釉	0.28	#135	— 内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・明暗部	小野寺群
Po274	154	81-1	51	9E-1j		複数土	青竹 施釉	0.26	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部	無
Po275	154	81-1	399	9E-9m		複数土	青竹 施釉	0.22	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部	小野寺群
Po276	—	69	1703	9E-1f	4件	複数不明 (?)レン ゲ	土加 付	—	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・明暗部	豆白
Po277	—	69	1113	9E-2f	4件	複数不明 (?)レン ゲ	土加 付	—	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・明暗部	豆白
Po278	—	69	220	9E-10k		豆白	土加 付	—	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・明暗部	Po266と同一個体と思わ れる
Po279	—	78-1	264	9E-10d		豆白	土加 付	—	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・明暗部	Po266と同一個体と思わ れる
Po280	—	78-1	269	9E-10e		豆白	土加 付	—	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・明暗部	Po266と同一個体と思わ れる
Po281	—	78-1	275	9E-1c		豆白	土加 付	—	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・明暗部	Po266と同一個体と思わ れる
Po282	—	78-1	189	9E-10e		豆白	土加 付	—	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・明暗部	Po266と同一個体と思わ れる
Po283	—	78-1	189	9E-10e		豆白	土加 付	—	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・明暗部	Po266と同一個体と思わ れる
Po284	—	78-1	27	9E-1d		豆白	土加 付	—	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・明暗部	Po266と同一個体と思わ れる
Po285	—	78-1	315	9E-4c		豆白	土加 付	—	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・明暗部	Po266と同一個体と思わ れる
Po286	—	78-1	17	9E-2c		豆白	土加 付	—	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・明暗部	Po266と同一個体と思わ れる
Po287	—	78-1	94	9E-2c		豆白	土加 付	—	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・明暗部	Po266と同一個体と思わ れる
Po288	—	78-1	32	9E-10d		豆白	土加 付	—	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・明暗部	Po266と同一個体と思わ れる
Po289	—	78-1	22	9E-2c		豆白	土加 付	—	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・明暗部	豆白
Po290	—	78-1	68	9E-4c		複数土	青白	—	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・豆白	豆白
Po291	—	78-1	62	9E-4c		複数土	青白	—	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・豆白	豆白
Po292	—	78-1	168	9E-1d	1件	豆白	青白	—	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・豆白	豆白
Po293	—	78-1	198	9E-4d	1件	豆白	青白	—	—	内・外・施釉	青 良好	内・外・施釉部・豆白	豆白

第38表 土器観察表(9)

遺物 番号	測定 番号	測定 番号	測定区 名	測定区 名	測定区 名	集合遺物 測定位置	層位	種別	法量(cm)			特徴 (測定等)	土器 造成	形調	備考
									表面	口押	底				
Pn294	—	79-1	173	ME-6b	—	複数	複数	複数	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面とも焼紅色 裏口付	提梁底無 柄部・把手無
Pn295	—	79-1	290	ME-4e	288	13底	複数	複数	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面ともオーブル形 裏口付	提梁底無 柄部・把手無
Pn296	—	80-1	694	ME-10d	—	複数	複数	複数	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn297	—	80-1	154	ME-10b	108	11H	1層	白頭 複数	—	—	—	外曲・施釉 内曲・施釉、白頭面	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn298	—	80-1	108	ME-3f	—	複数	複数	複数	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn299	—	80-1	83	ME-1d	—	複数	複数	複数	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn300	—	80-1	645	ME-4d	—	複数	複数	複数	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn301	—	80-1	179	ME-1-d	108	30H	1層	白頭 複数	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn302	—	80-1	79	ME-10	—	複数	白頭 複数	複数	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn303	—	80-1	72	ME-1d	—	複数	白頭 複数	複数	—	—	—	外曲・施釉 内曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn304	—	80-1	96	ME-1-2d	—	1層	白頭 複数	複数	—	—	—	外曲・施釉 内曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn305	—	80-1	652	ME-10d	—	複数	白頭 複数	複数	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn306	—	80-1	1257	ME-19c	108	46H薄	土器	白頭 複数	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn307	—	80-1	2024	—	—	複数	白頭 複数	複数	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn308	—	80-1	462	ME-1f	—	複数	白頭 複数	複数	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn309	—	80-1	645	ME-4d	—	複数	白頭 複数	複数	—	—	—	外曲・下子分腹 内曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn310	—	80-1	655	ME-4e	—	複数	白頭 複数	複数	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn311	—	80-2	66	ME-4e	—	複数	白頭 複数	複数	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn312	—	80-2	613	ME-5h	—	複数	青白釉 合子	複数	—	—	—	外曲・施釉 内曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn313	—	80-2	644	ME-3c	—	複数	白頭 複数	複数	—	—	—	外曲・施釉 内曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn314	—	80-3	27	ME-1d	—	1層	中间道	—	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	B唇
Pn315	—	81-1	114	ME-4c	—	複数	曲面燒 複数	複数	—	—	—	外曲・施釉 内曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn316	—	81-1	43	ME-4f	—	1層	中空 竖耳器 複数	複数	—	—	—	外曲・タテキ 内曲・ナヂ	良 良好	内外面ともオーブル形 裏口付	提梁底無 柄部
Pn317	—	81-1	29	ME-2b	—	1層	小口 横耳器 複数	複数	—	—	—	外曲・タテキ 内曲・ナヂ	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn318	—	81-2	309	ME-9u	—	複数	更埴燒 複数	複数	—	—	—	外曲・酒内張高脚 内曲・酒内張高脚	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn319	—	81-2	37	ME-4u	—	複数	更埴燒 複数	複数	—	—	—	外曲・高白底高脚 内曲・高白底高脚	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn320	—	81-2	126	ME-3c	—	複数	更埴燒 複数	複数	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn321	—	81-2	49	ME-2u	—	複数	青白釉 複数	複数	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn322	—	81-2	962	ME-1d	—	複数	燒内張 複数	複数	—	—	—	外曲・燒内張高脚 内曲・燒内張高脚	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn323	—	81-2	73	ME-10k	—	複数	燒内張 複数	複数	—	—	—	外曲・燒内張高脚 内曲・燒内張高脚	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn324	—	81-2	122	ME-3d	—	複数	肥前燒 複数	複数	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn325	—	81-2	123	ME-4c	—	複数	肥前燒 複数	複数	—	—	—	内外曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn326	—	81-2	235	ME-9u	—	複数	引出縫 複数	複数	—	—	—	外曲・施釉 内曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部
Pn327	—	81-2	27	ME-1d	37	ME-1a	1層	青白釉 複数	複数	—	—	外曲・施釉 内曲・施釉	良 良好	内外面とも灰白色 裏口付	提梁底無 柄部

第39表 土製品観察表

遺物 番号	測定 番号	測定 番号	取上 番号	測定区 名	測定区 名	測定区 名	集合遺物 測定位置	層位	種別	法量 (cm)	土器 造成	形調	備考
CP1	126	75-4	968	ME-1d	4面	602 ピッタ	1層	III11	縦大長：10.8 縦小長：— 縦厚：1.0	良 良好	外曲：に近い形状～灰白色 内曲：に近い形状～に近い褐色	馬糞天然あり	
CP2	147	75-5	285	ME-4c	—	Ⅱ層	土器	南北長：△11 南北幅：1.4 南北厚：1.0	良 良好	灰白色～灰褐色	重量：5.8 g		
CP3	147	75-5	197	ME-4c	—	Ⅱ層	土器	南北長：△12 南北幅：1.0 南北厚：1.0	良 良好	褐色～に近い褐色	重量：4.0 g		
CP4	155	75-5	31	ME-10e	—	1層	土器	南北長：△10 南北幅：2.2 南北厚：1.0	良 良好	灰白色	重量：22.0 g		
CP5	155	75-5	315	ME-4c	—	Ⅱ-Ⅲ層	土器	南北長：△12 南北幅：1.6 南北厚：1.2	良 良好	褐色	重量：4.2 g		
CP6	155	75-5	122	ME-3d	—	複数	土器	南北長：△12 南北幅：1.2 南北厚：1.2	良 良好	△に近い黄褐色	重量：5.0 g		
CP7	155	75-5	801	ME-3c	—	複数	土器	南北長：△12 南北幅：1.2 南北厚：1.2	良 良好	褐灰白色～に近い黄褐色	重量：5.8 g		

第3章 山ノ下遺跡の調査成果

第40表 石器観察表

遺物 番号	測定 番号	国施 番号	出土場所	測定区 T-45-4p	遺構名	集合遺構 個別遺構	層位	種類	法量 (cm・g)			石種	参考
									最大長	最小幅	最大厚		
S1	79	82-1	242	95-1c	2面	5面	1層	砾石	△11.4	3.3	1.0	59.5	角岩
S2	79	82-1	3964	10F-2f	4面	掘立柱建物13 720.2(+)ト	周め土	二次加工破片	2.4	2.2	0.8	3.4	玉髓 旧有器?
S3	135	82-1	2898	10F-2d	5面	1004.2(4)	4面	石礫	1.6	1.1	0.3	2.6	安山岩
S4	139	82-1	1	96-1b	5面	259.0	2面	石礫	3.0	2.3	0.5	0.4	安山岩 下層
S5	150	82-1	994	10F-4e	6面	第一組 規直土	有段子	石	△9.3	4.4	0.6	27.8	角閃岩
S6	156	82-1	3308	95-7b		層位不明	石砾土	石	△4.4	3.8	-	10.3	砂質岩
S7	156	82-1	973	95-7b		層位不明	骨瓦 未成品	石	2.8	1.5	0.8	1.9	綠色磨瓦質
S8	156	82-2-3	98	95-4c		複底土	鈎頭車	石	4.5	4.5	3.2	74.5	矽灰岩
S9	156	82-1	66	95-7b		1層	二次加工破片	石	3.3	3.0	1.6	15.1	石鹽

第41表 鉄器観察表

遺物 番号	測定 番号	国施 番号	出土場所	測定区 T-45-4p	遺構名	集合遺構 個別遺構	層位	種類	法量 (cm)			石種	参考
									最大長	最小幅	最大厚		
F1	—	82-4-5	808	10F-10d	2面	無	1層	不明	23	6.5	0.6		
F2	—	82-4-5	3113	10F-2f	4面	掘立柱建物13 729.2(+)ト	堆土	不明	40	19	0.7		

第4章 平ノ前遺跡の調査成果

第1節 概要

平ノ前遺跡の地勢は、北東約440mに位置する山ノ下遺跡と同様であり、天神野台地から東に延びる手指状の小丘陵による微地形とその裾を流れていた自然流路による土砂の供給によって、遺跡内の堆積は一様ではない。平成28年度に行われた倉吉市教育委員会による試掘調査(第158図)では、このような堆積環境のなかで、弥生時代～中世までの幅広い時期の遺物と、溝や落ち込みなどの遺構が確認されている。ここでは、平成29年度に当財団が本調査を行ったA1区とP4区の調査成果について述べることとする。

第2節 A1区の調査

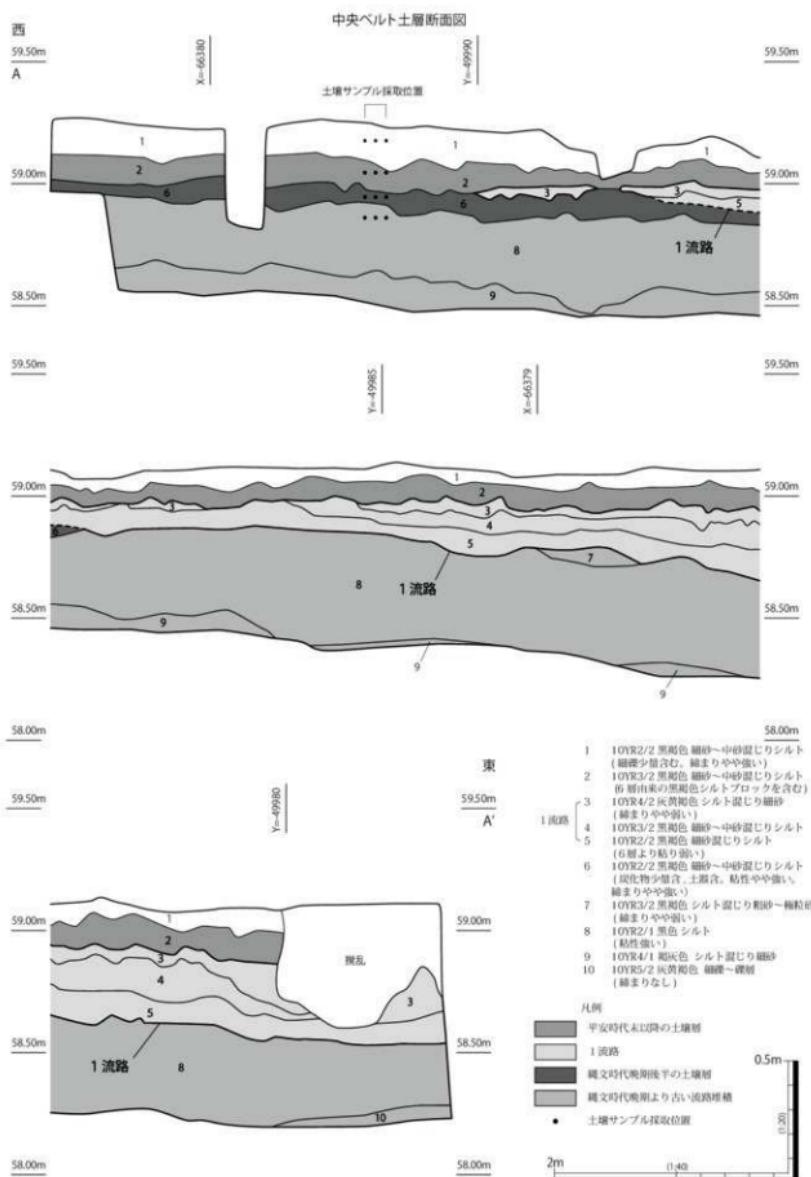
第1項 概要と基本層序

A1区は、天神野台地の崖下線から約30m東に位置し、台地上との標高差は約20mを測る。調査区の現況は水田であり、東に向けて緩やかに下る本来の地形は圃場整備によって失われていた。重機による現代耕作土の掘削後、調査区北東壁・南西壁際に掘削した排水用トレーンチ断面の観察および16T8・16T9の調査成果(第158図)から、本調査区は丘陵裾を南北方向に流れていた自然流路上に位置することが明らかとなった。そこで、調査区中央をほぼ東西に貫き、自然流路と直行するトレーンチ(中央トレーンチ、第157図、図版83・84)を設置し、以下の9層の堆積を確認・記録した。

- 1層 近現代の耕作土層である。
- 2層 平安時代末以降の土壤層である。
- 3～5層 自然流路(1流路)の堆積であり、調査区東側に向かって緩やかに落ち込む。細砂層である3層は広い範囲に供給されたとみられ調査区西端を除く広い範囲に堆積する。
- 6層 主に下層の8層を母材とする土壤とみられる黒褐色細～中砂混じりシルト層である。少量の炭化物と土器片を含む。
- 7～10層 流路堆積であり、いずれも無遺物である。3～5層(1流路)と同様、東側に向かって緩やかに落ち込む。黒色シルト層の8層は調査区全域に厚く堆積していることが確認された。

土層断面および各層における平面調査いすれにおいても、人為的な遺構は認められず、6層上面及び6層中で出土した縄文時代晚期後半の土器についても個体のまとまりや、遺構として認識すべき出土状況は見いだせなかった。無遺物の8層までの掘削によって、1流路と偶蹄目の足跡を確認し調査を終了した(第159図、図版83)。

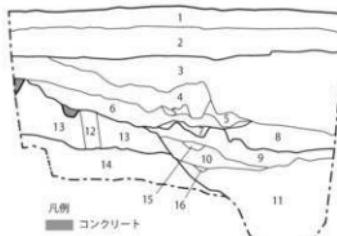
なお、1・2・6・8層の土壤サンプルを対象とした自然科学分析(第5章第2節)の結果は、1層での稲作とソバ栽培の他は、耕作の可能性を支持するものではなく、調査成果と同調的であった。また、同分析結果では、調査区付近が乾湿を繰り返す、沼沢地～湿地のような環境であったことも示さ



第157図 A 1区中央トレント土層断面図

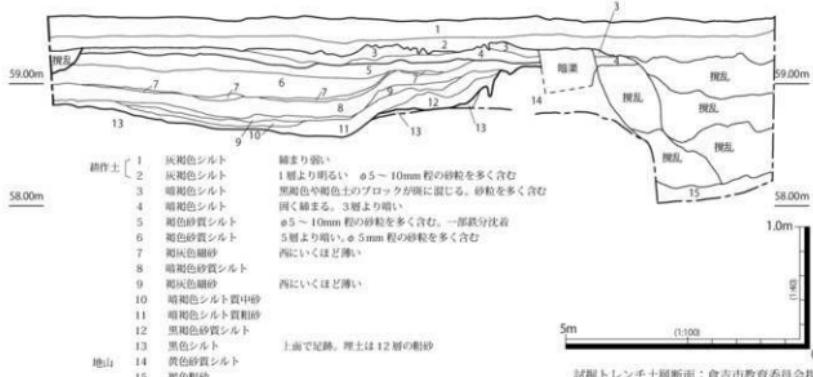


試掘トレンチ 16T8

西 61.50m
A

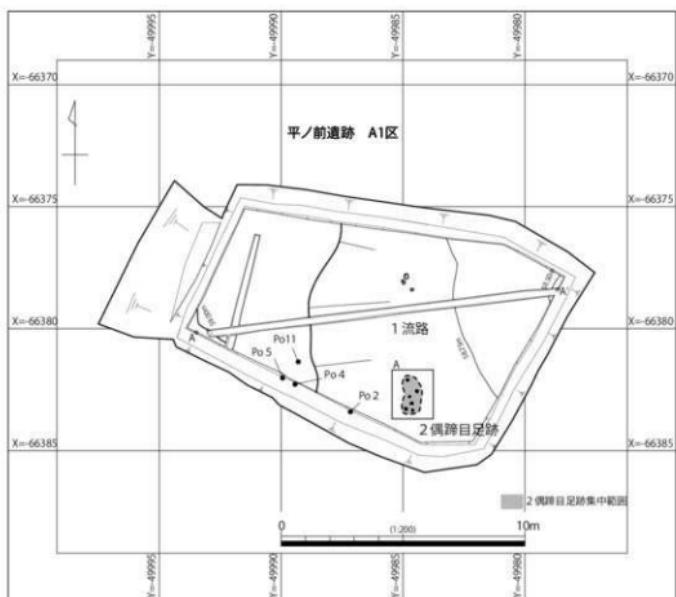
- 耕作土 1 从褐色シルト
2 灰褐色シルト
3 灰褐色砂渺
4 噴褐色砂渺
5 黄白色砂渺
6 黄褐色砂渺シルト
7 噴褐色砂渺シルト
8 褐色砂渺シルト
9 黑褐色シルト
10 ? (データなし)
11 黑褐色シルト
12 从褐色砂渺
13 灰白色中砂
14 黄色シルト
15 黄褐色砂渺
16 黄褐色砂渺
- 固く締まる。1層より明るい。φ5mm程の砂粒を多く含む。
に赤褐色シルトブロック暗褐色中砂。黄色砂質ブロックを多く含む。
因く締まる
に赤褐色シルトブロック黃色砂質ブロックを多く含む。
因く締まる
噴褐色シルトブロック黃色砂質ブロックを多く含む。
因く締まる
喷褐色中砂黄褐色砂質ブロックを多く含む。
喷褐色中砂黄褐色砂質ブロックを多く含む。
6層より明るい。黄色砂質ブロックを多く含む。
黒褐色シルトが塊に凝じる。固く締まる
(古墳～中世の遺物を包含)
粘性高い。上面にφ3～5mmの円礫を多く含む
(古墳～中世の遺物を包含)
10より明るい。粘性高い。φ1cmほどの白色砂粒を多く含む
(古墳～中世の遺物を包含)
φ5mmの白色砂粒を多く含む。
地割れの埋土?
鉄分が混じる
固く締まる。黄色ブロック(地山)や黄色のラミナを含む
地山。固く締まる
φ1～4cmの円礫を多く含む

試掘トレンチ 16T9

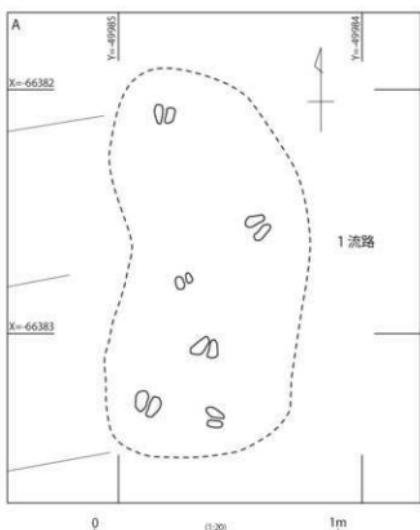
西 60.00m
A

試掘トレンチ土削断面：倉吉市教育委員会提供

第158図 A 1・P 4区周辺地形図と試掘トレンチ



第159図 A 1区平面図



第160図 A 1区 2偶蹄目足跡検出状況

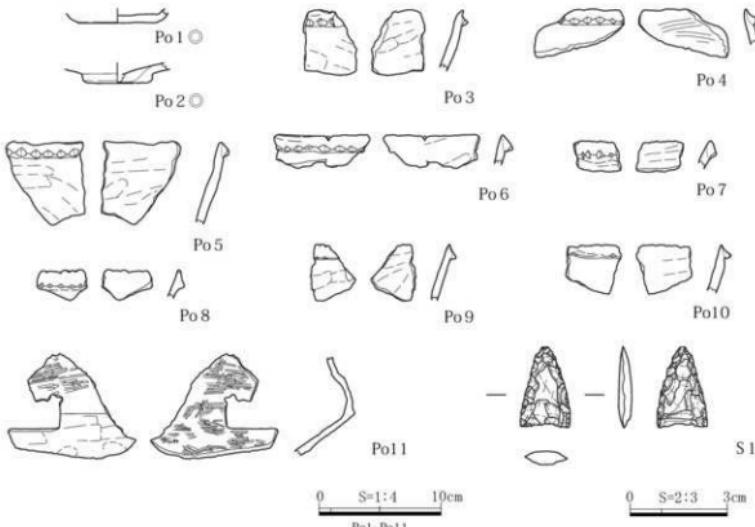
れどおり、人間の活動が及びにくかったものと推定される。

第2項 検出した遺構と遺物

1流路 (第159図、図版83・84・89)

縄文時代晩期後半の土壤層である6層より新しい段階の自然流路を1流路として認識した。本流路の堆積は、調査区西側を除く広い範囲に認められ、黒色シルトである8層を基盤としながら、流心に近い東側に向かって落ち込む。16T9トレンチ(第158図)で確認された粘質黒色土(13層)を基盤とする西側への落ち込みは、位置と方向、基盤層の類似性からみて本流路の東肩と考えられる。

遺物は石鏸SIのほか、土器片が僅かにみられた程度で、時期を判断できるものはないが、6層を被覆しているため、当流路は縄文時代晩期後半より新しい自然流路とみられる。



第161図 A 1区出土遺物

2 偶蹄目足跡(第160図、図版84)

7J-3J-9Jグリッド、1流路の東側への落ち込み付近で、長軸1.6m、短軸0.7m程度の範囲で偶蹄目の足跡を検出した。足跡は大きいもので長さ9cm、幅12cm程度であり、ウシのものと考えられる。

足跡は細～中砂混じりシルトで充填されており、1流路堆積後に上からの踏込みによって8層上に形成されたものとみられる。明瞭な足跡のみを第160図に示したが、それらの方向は一定ではなく、ウシが耕作に使役されたことを示すものとは思われない。自然流路縁辺の湿地をウシが歩いた痕跡とみるべきであろう。

足跡の時期については、ウシの普及時期を鑑みれば古代以降のものと考えられる。

出土遺物(第161図、図版89)

A 1区より出土した遺物を第161図に掲げた。Po 1は表土から出土した回転糸切りの土師器皿である。

Po 2は2層から出土した回転糸切りの土師器皿であり、高台状の底部をもつ。11世紀後葉～12世紀中葉に属する資料である。

Po 3～11は繩文時代晩期後半の土器でPo 3～10は深鉢、Po 11は浅鉢である。これらは、トレンチ掘削で出土したPo 7を除き、すべて6層から出土した。Po 3・4は口縁端部から下がった位置の突帯に、深い刻目が施される。Po 3は砲弾型、Po 4は胴部が膨らむ器形とみられる。Po 6～10は突帯が口縁に接してめぐるもので、いずれも砲弾型の器形とみられる。突帯に施される刻目はPo 5～7ではやや深く、Po 8～10では浅い。また、Po 8・9の口縁端部には浅い刻目が施されている。Po 11の浅鉢は、段をもつ口縁部が外反する器形とみられ、内外面ともにミガキで調整されている。

S 1は1流路(4層)から出土した安山岩製の石鏃である。

第3節 P 4区の調査

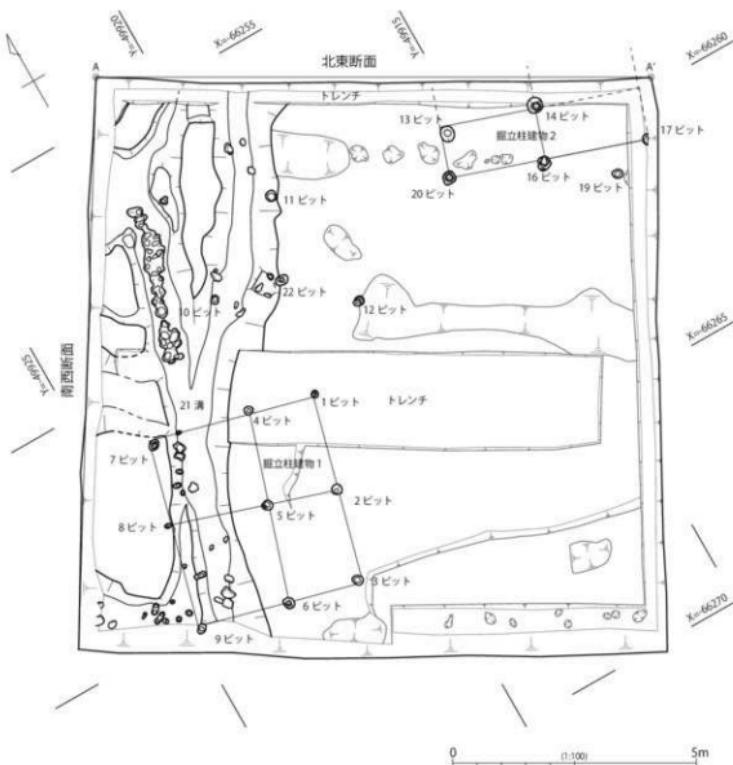
第1項 概要と基本層序

P 4区は、先述のA 1区から約160m北北西に位置し、天神野台地の崖下線からの距離は約80m、台地上からの標高差約20mを測る(第158図)。調査前の現況は水田である。東に向けて緩やかに下がる本来の地形は、圃場整備によって大きく削平を受け、調査区北西側ではそれがソフトロームまで及んでいた。したがって、基本層序の認識は、調査区北東壁をもって行うこととし、以下のI~III層の基本層序(第163図、図版87・88)を設定した。

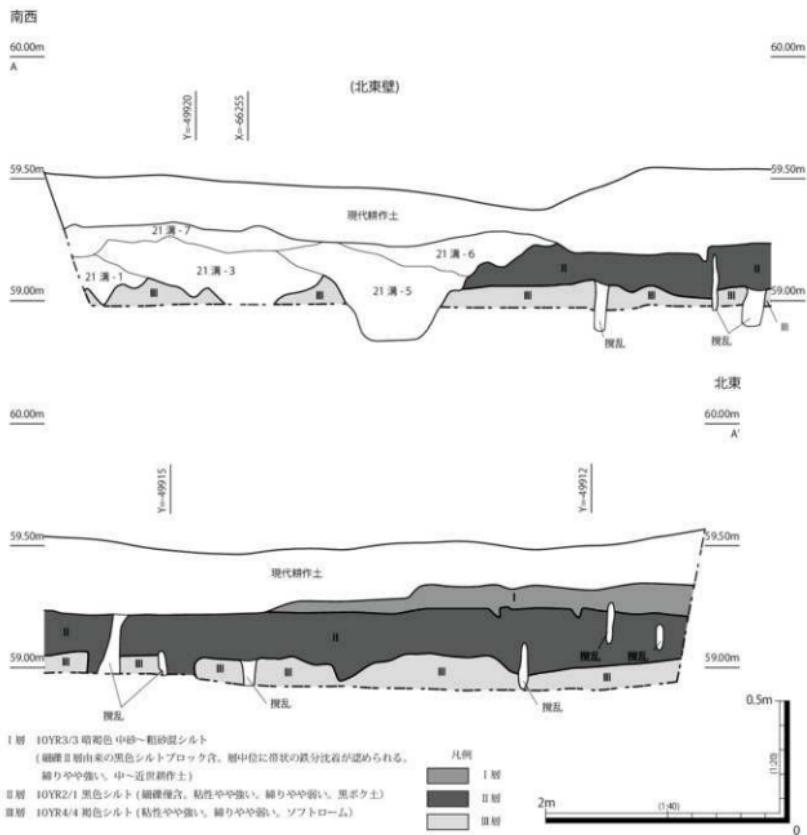
I層 中～近世耕作土とみられ、調査区東側にのみ堆積が確認された。

II層 無遺物の黒ボク層であり、調査区南西側を除いて堆積が確認された。

III層 ソフトローム層である。



第162図 P 4区平面図



第163図 P4区北東壁土層断面図

現代耕作土を重機で、I層を人力で掘削し、II・III層上で、古墳時代前期中葉前後の区画溝、平安時代末から鎌倉時代前期の掘立柱建物2棟を検出した(第162図、図版85・88)。その後、試掘トレンチ16T4(第158図)底面の精査と、南西壁を除く調査区壁面際に設定したトレンチの掘削によって、II層以下に遺構が検出されないことを確認し、調査を終了した。

第2項 検出した遺構と遺物

21溝(第164・165図、図版87・89)

調査区南西側の広い範囲で、複雑な形状をもって検出された。調査区を貫く南西～北東方向と、北西～南東方向の溝が確認できるが、北西～南東方向の溝は、南西～北東方向の溝の東側には延びない

ことから、両方向の溝は一連のものであると判断できる。以下、断面から確認できる切り合い関係、埋土の特徴、底面の形状および標高等から推定される溝の変遷(第165図)について、古い段階から順に述べることとする。

21溝-1 A断面・D断面共通の20層に対応する段階であり、調査区北西隅に認められる北西方への落ち込みと合わせ、南西-北東方向に走向する溝が想定される。

21溝-2 粗砂-極粗砂を主体とする、B断面の3・4層、C断面の7・8層、D断面の19層に対応する段階で、調査区をほぼ南北方向に走向する。底面の標高は58.9m程度と低く、北半部を中心複雑な落ち込みが形成される。

21溝-3 シルトあるいは細砂を主体とするA断面12~14層及びD断面17・18層に対応する段階であり、調査区北西隅に認められる南東方向への落ち込みと合わせ、調査区南西壁からL字状に屈曲し北東壁に抜けるものと想定される。

21溝-4 D断面15・16層と調査区南西壁際、中央やや北よりの北東方向の2段階の落ち込に対応する段階であるが、走向の詳細は不明である。

21溝-5 シルトを主体とするA断面10・11層、B断面1・2層、C断面1~6層に対応する段階であり、調査区南西隅にL字状に屈曲し、調査区北東壁に抜ける。底面の標高は58.8m程度と低い。

21溝-6 A断面8・9層、D断面3~5層に対応し、調査区南西壁のほぼ中央部で検出された北西-南東方向の溝が北東方向に延びるものと想定される。底面の標高が59.1m程度と高いため、B断面では確認できなかったものと思われる。

21溝-7 A断面、D断面に共通する6・7層に対応する段階で、調査区南東隅を南西-北東方向に走向するものと考えられる。

以上のような各段階の検討から、21溝は調査区北西側をL字状に屈曲して走向する溝が重複したものとして捉えることができ、同様の機能をもった溝が位置を変えながら保持されたものと推定される。溝の走向に加え、滯水下とは考えづらい埋土の様相から、21溝は何らかの区画溝であったと考えられる。

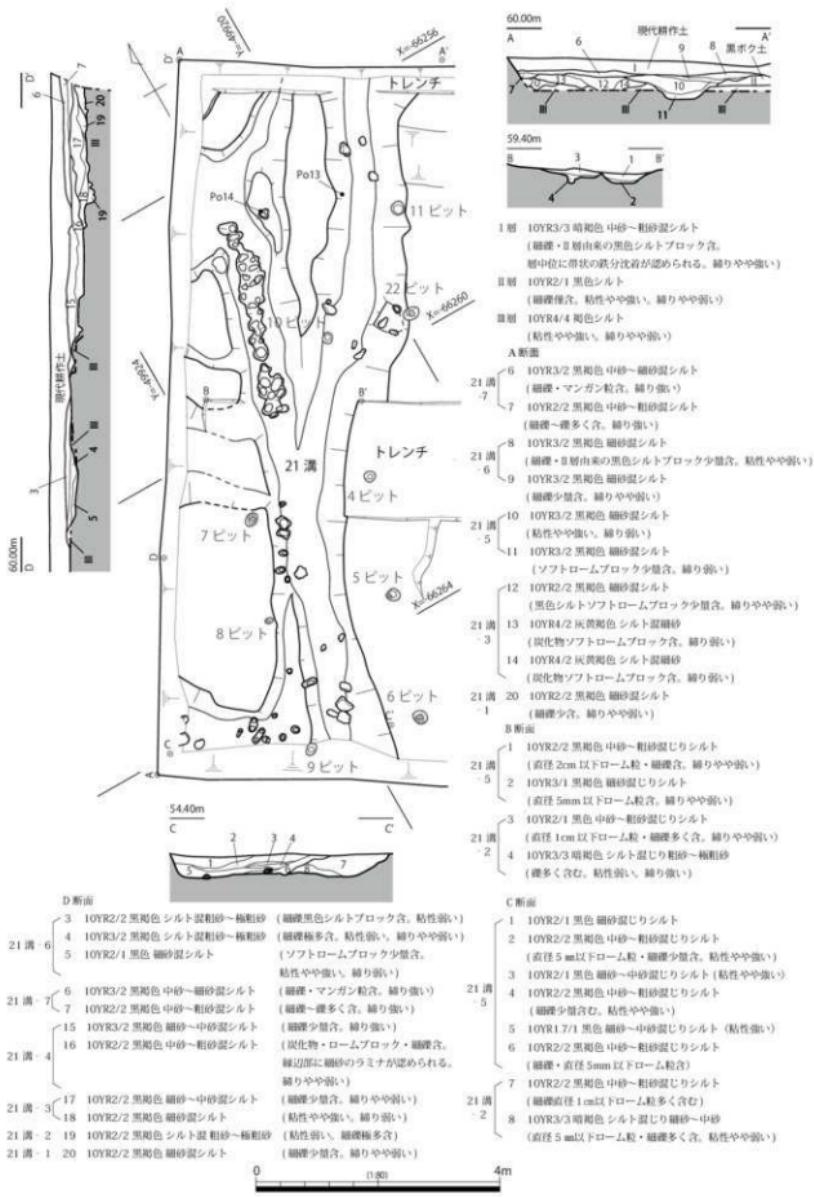
当遺構の時期は、21溝-2段階から出土した土師器直口壺Po14から、古墳時代前期前葉前後と考えられる。

掘立柱建物1(第166図、図版85)

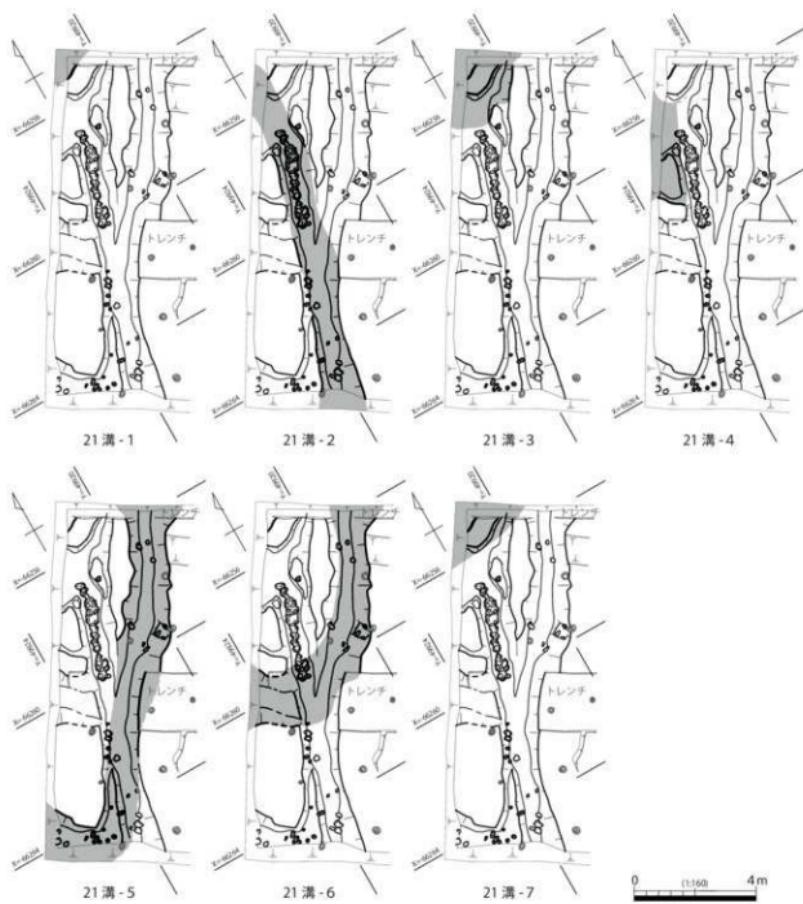
調査区南西部、7j-3J-7cグリッドに位置し、検出面の標高はおよそ59.0~59.2mである。

N-15°-Eを主軸とする桁行2間(3.9m)、梁行2間(3.4m)の総柱建物であり、床面面積は13.3m²と推定される。柱間距離が桁行で1.7~2.2m、梁行で1.4~2.1mを測る、やや歪な柱穴配置である一方、柱穴底面標高は59.0m前後とほぼ一定である。不整円形の平面形を呈す柱穴は、長軸で14~25cmと小規模であるため、調査区外に広がる大型の建物であるとは思われない。埋土は黒褐色から暗褐色シルトを主体とし、地山由来の黄褐色系のブロックを含む。

遺物の出土はなく、時期の推定は困難であるが、後述する掘立柱建物2との関連を考慮すれば、12世紀後葉から13世紀中葉に帰属する可能性が考えられる。



第164図 P 4区21溝



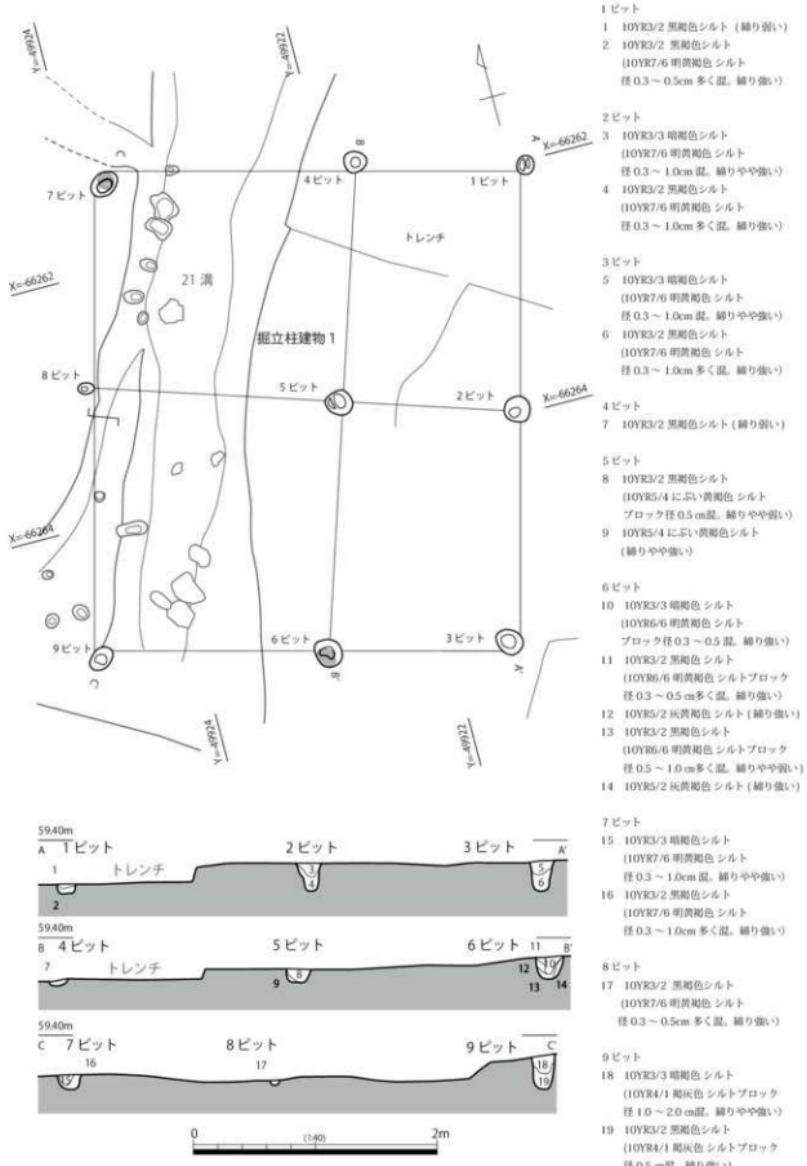
第165図 P 4 区21溝変遷模式図

据立柱建物2(第167図・168図、図版86・89)

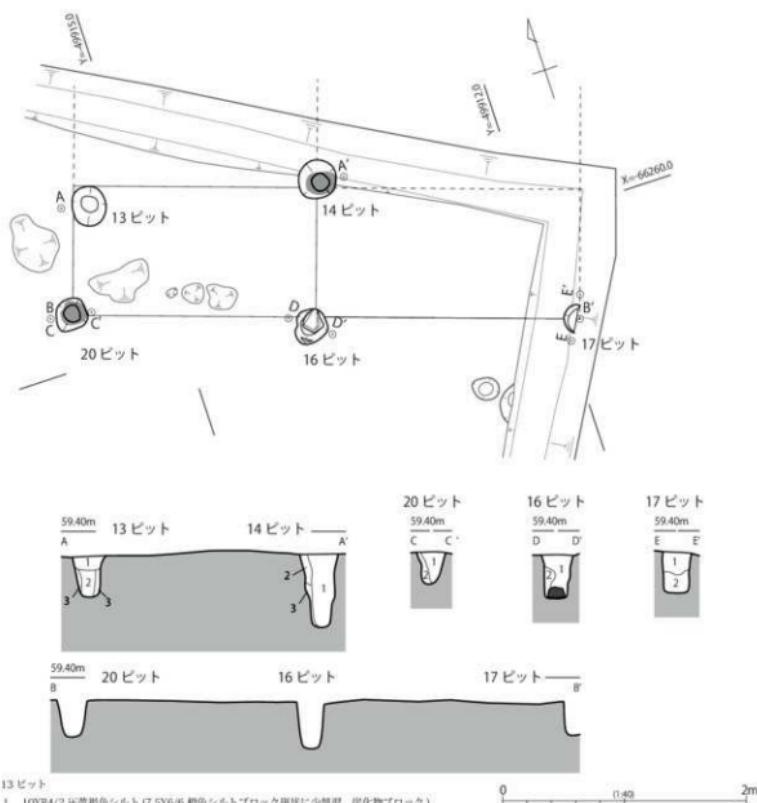
調査区北東隅、7j-3J-6b・7bグリッドに位置し、検出面の標高は59.2m前後である。

北東側が調査区外にあるため、全体の規模等は不明である。14-16ピット間を主軸と捉えれば、N-19°-Eとなる。柱間距離は東西間が1.9~2.1m、南北間が0.9m~1.2mを測る。柱穴の配置から桁行、梁行ともに2間以上の総柱建物とも考えられるが、このような柱間距離の差から、南面に庇を持つ建物の可能性も考慮すべきであろう。

不整円形の平面形を呈す柱穴は、全体が検出されていない17ピットを除くと長軸で30~33cmを測る。また、柱穴底面の標高は、最も深い14ピットが58.6mであるほかは、およそ58.8~58.9mではほぼ一定



第166図 掘立柱建物1



13 ピット

- 1 10YR4/2 暗褐色シルト (7.5Y6/6 棕色シルトブロック径 0.5 cm少混。紺り強い。柱抜き取り痕)
- 2 10YR2/3 暗褐色シルト (10YR7/6 微細な暗褐色シルト径 0.3 ~ 1.5 cm多く混。紺り弱い。柱抜き取り痕)
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト (10YR5/4 にぶい黄褐色ブロック径 0.3 ~ 0.5 cm少混。紺り強い)

14 ピット

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト (細砂混じり 10YR2/2 黑褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.5 cm混。紺り強い。柱抜き取り痕)
- 2 10YR4/2 暗褐色シルト (10YR7/6 明黄褐色シルト径 0.3 ~ 1.5 cm多く混。紺り強い)
- 3 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR5/4 にぶい黄褐色ブロック径 0.3 ~ 0.5 cm少混。紺り強い)

16 ピット

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト (細砂混じり 10YR2/2 黑褐色シルトブロック径 0.3 ~ 1.5 cm混。紺り強い。柱抜き取り痕)
- 2 10YR3/2 暗褐色シルト (10YR2/2 黑褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5 cm多混。紺り強い)

17 ピット

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト (細砂少混。紺り強い)
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト (10YR2/2 黑褐色シルトブロック径 0.3 ~ 0.5 cm混。紺り強い)

20 ピット

- 1 10YR3/3 にぶい黄褐色シルト (細砂少混灰化物ブロック径 0.3 ~ 0.5 cm少混。紺り強い。柱抜き取り痕)
- 2 10YR2/2 黑褐色シルト (10YR2/2 黑褐色シルトブロック径 0.5 ~ 2.0 cm多混。紺り強い)

第167図 挖立柱建物2

である。埋土は暗褐色シルトを主体としており、17ピット以外の柱穴では、柱抜き取り痕が確認できた。また、16ピット底面からは、礎板石の可能性がある自然礎が検出された。

13ピットの柱抜き取り痕からは、受け口状口縁の土師器鍋Po15が出土しているため、当遺構の廃絶時期は12世紀後葉から13世紀中葉と考えられる。

その他の遺構

その他の遺構には10~12・22ピットがあるが、構造物を構成する配置は認められず、その性格は不明である。

出土遺物(第168図、図版89)

P 4区から出土した遺物を第168図に掲げた。

Po12~14は21溝から出土した。Po12は弥生土器壺であり、弥生時代後期後葉に比定される。

Po13は弥生土器壺もしくは壺の底部である。Po14は土師器直口壺であり、古墳時代前期前葉に比定される。

Po15は掘立柱建物2 13ピットから出土した受け口状口縁の土師器鍋であり、12世紀後葉から13世紀中葉に属す資料である。

Po16は表土出土の土師器鍋である。11世紀後葉~12世紀中葉に属す資料である。

S2は21溝から出土した凹基式の石鎚であり、黒曜石製である。

この他、図化はしなかったが21溝からは不明鉄製品F1が出土している。

第42表 掘立柱建物計測表

建物名	建物区分	地区 T45-1号	規格		剖面	主軸方位	参考
			前行	後行			
掘立柱建物1	柱直建物	T45-7c	2間(3m)	2間(3m)	13.3m	N=15° E	
			建物全体		建物全体		
掘立柱建物2	柱直建物	T45-6-7b	2間(4m)	1間以上(西側:0.9m) (東側:1.2m)	4.9m(13.1)	N=19° E	南西面に塗あり、北東側は済美区外のため未調査
			身寄の△	身寄	身寄		
			2間(4m)	—	4.9m		

第43表 掘立柱建物1 遺構計測表

ピット	柱間寸法(前行後行)					柱間寸法(前行後行)					柱間寸法(前行後行)					
	No.	規格(cm)		柱高の標高(m)	柱前脚距離(m)	柱のあたり(cm)	No.	規格(cm)		柱高の標高(m)	柱前脚距離(m)	柱のあたり(cm)	No.	規格(cm)		
		直幅	斜幅					柱間寸法(cm)	柱高の標高(m)					柱間寸法(cm)	柱高の標高(m)	
1	16	15	8	58.96	—	—	1-3	39	—	7-1	34	—	7-4	20	—	
2	22	22	23	58.96	—	—	4-6	40	—	8-2	35	—	8-5	20	—	
3	23	19	25	58.96	—	—	7-9	39	—	9-3	34	—	9-6	19	—	
4	38	17	4	59.01	—	—	柱間寸法(前行後行)					柱間寸法(前行後行)				
5	21	21	11	59.03	—	—	1-2	20	—	7-1	34	—	7-4	14	—	
6	25	22	18	59.06	5	—	2-3	19	—	8-2	35	—	8-5	20	—	
7	24	18	12	58.96	—	—	4-5	20	—	9-2	15	—	9-5	17	—	
8	14	9	4	58.99	—	—	5-6	20	—	9-6	19	—	9-8	15	—	
9	22	16	27	58.96	—	—	7-8	17	—	9-9	22	—	9-10	15	—	

第4章 平ノ前遺跡の調査成果

第44表 据立柱建物2遺構計測表

No.	長幅 (cm)	短幅 (cm)	深さ (m)	底面の標高 (m)	柱直径表記 (cm)	柱のあたり (cm)	備考
13	33	28	33	58.86	—	—	
14	33	31	60	58.61	12	—	

No.	長幅 (cm)	短幅 (cm)	深さ (m)	底面の標高 (m)	柱直径表記 (cm)	柱のあたり (cm)	備考
16	30	27	28	58.85	—	—	
17	25	30.53.1	33	58.89	—	—	礫石
20	30	26	26	58.97	10	—	

第45表 P4区遺構計測表

No.	地区	施設	長幅 (cm)	短幅 (cm)	深さ (m)	底面の標高 (m)	柱直径表記 (cm)	柱のあたり (cm)	備考
10	37-6x	18	16	6	6	58.76	—	—	
11	37-6b	23	22	23	—	—	—	—	
12	37-7b	23	19	18	—	—	—	—	
22	31-6b	36	20	30	—	—	—	—	鉄棒出

第4節 遺物観察表

第46表 土器観察表

遺物 番号	調査 番号	測定 番号	測定 地区 名	地区 名	合計遺物 個別登録番 号	層位	被覆	直徑 (cm)			容積 (調整等)	出土 状況	土器 名	備考	
								高さ	口径	底径					
Po1	161	89-1	2	47-9c	A1区	表土	土器陶 器	△ 12	—	—	※ 66 内面：凹斜面、底面平坦な切欠き 内面：凹斜面	良好	内面とも褐色		
Po2	161	89-1	31	47-9e	A1区	2層	土器陶 器	△ 17	—	—	※ 52 内面：凹斜面、底部凹凸不規則 内面：凹斜面	良好	外側：にぶい黃褐色～褐色 内側：にぶい黃褐色		
Po3	161	89-1	34	47-9c	A1区	6層	美術文土器 漆器	△ 5.1	—	—	外側：口縁部突起、底部ナット 内面：凹斜面	良好	内側：にぶい褐色～淡褐色		
Po4	161	89-1	27	47-9c	A1区	6層	美術文土器 漆器	△ 39	—	—	外側：底面深く突起、底部強いナ ット 内面：底板	良好	外側：にぶい黃褐色～黃褐色 内側：にぶい黃褐色		
Po5	161	89-1	26	47-9c	A1区	6層	美術文土器 漆器	△ 67	—	—	外側：口縁部突起、底部強いナ ット 内面：底板	良好	外側：にぶい黃褐色～淡褐色 内側：にぶい黃褐色		
Po6	161	89-1	15	47-9c	A1区	6層	美術文土器 漆器	△ 27	—	—	外側：口縁部突起、底部ナット 内面：底板	良好	外側：淡褐色～褐色 内側：にぶい黃褐色		
Po7	161	89-1	13	47-9c	A1区	1~6	美術文土器 漆器	△ 25	—	—	外側：口縁部突起、底部強いナ ット 内面：底板	良好	外側：淡褐色～にぶい黃褐色 内側：にぶい黃褐色		
Po8	161	89-1	18	47-9c	A1区	6層	美術文土器 漆器	△ 25	—	—	外側：口縁部突起、底部強いナ ット 内面：底板	中や良好	外側：底板褐色～頂部褐色 内側：にぶい黃褐色		
Po9	161	89-1	18	47-9c	A1区	6層	美術文土器 漆器	△ 46	—	—	外側：口縁部突起、底部強いナ ット 内面：底板	良好	外側：二つ以上の段階～灰褐色 内側：にぶい黃褐色		
Po10	161	89-1	17	47-9c	A1区	6層	美術文土器 漆器	△ 40	—	—	外側：口縁部突起、底部強いナ ット 内面：底板	良好	外側：底板褐色～にぶい黃褐色 内側：底板褐色		
Po11	161	89-1	18	47-9c	A1区	6層	破片	△ 56	—	—	外側：へらしがき、強いナット 内面：底板	やや良好	外側：にぶい黃褐色～灰褐色 内側：にぶい黄褐色		
Po12	168	89-2	15	32-7c	P4区	21層	土器	先土器 漆器	△ 56	—	—	外側：口縁部強化、底部強化、底 部ナット、底面ハサミナット、強 いナット 内面：底板	良好	外側：底板褐色～にぶい黃褐色 内側：底板褐色	
Po13	168	89-2	20	32-7c	P4区	21層	土器	先土器 漆器	△ 28	—	※ 106	外側：ハサミナット、底面ナット 内面：ハサミナット、へらしがき	良好	外側：褐色 内側：にぶい褐色	
Po14	168	89-2	23	32-7c	P4区	21層	土器	土器陶 器	△ 75	—	※ 115	外側：口縁部強化、底部強化、底 部ナット、底面ハサミナット、強 いナット 内面：底面ハサミナット、底部ナットサ ム、ハサミナット	やや良好	外側：底板褐色～にぶい黃褐色 内側：底板褐色	
Po15	168	89-2	9	32-7b	P4区	既定柱建物2 13.12.1	土器	土器陶 器	△ 34	—	—	外側：口縁部強化ナット、底部ナ ット、底面ハサミナット 内面：底面強化ナット、底部ナットサ ム、ハサミナット	良好	外側：底板褐色～にぶい黃褐色 内側：にぶい黃褐色	
Po16	168	89-2	1	P4区		土器	土器陶 器	△ 61	—	—	外側：口縁部強化ナット、底部ナ ット、底面ハサミナット 内面：口縁部強化ナット、底部ハサミ ナット	良好	外側：底板褐色～褐色 内側：にぶい褐色～灰褐色		

第47表 石器観察表

遺物 番号	調査 番号	周囲 番号	周囲 名	測定 番号	測定 地区 名	合計遺物 個別登録番 号	層位	被覆	直徑 (cm) : g/cm ²			付属 名	備考
									最大 大歯 歯	最小 大歯 歯	最大 厚		
SI	161	89-2	20	32-7c	A1区	1.0cm	4層	石器	2.0	1.0	0.4	1.4	良好
SI2	168	89-2	12	32-6b	P4区	21層	土器	石器	2.1	1.0	0.5	0.5	良好

第48表 鉄器観察表

遺物 番号	調査 番号	周囲 番号	周囲 名	測定 番号	測定 地区 名	合計遺物 個別登録番 号	層位	被覆	直徑 (cm) : g/cm ²			付属 名	備考	
									最大 大歯 歯	最小 大歯 歯	最大 厚			
P1	—	89-4	11	32-7c	P4区	21層	土器	石器	不明品	3.1	2.4	1.5		